FUJITSU

Fujitsu Software Systemwalker Centric Manager/ Systemwalker Software Delivery

トラブルシューティングガイド 資源配付編

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-2910-16Z0(00)
2024年4月

まえがき

本書の目的

本書は、以下のバージョンで資源配付機能使用時に発生したトラブルの対処方法について説明しています。

- SystemWalker/CentricMGR 5.0 以降のSystemwalker Centric Manager
- Systemwalker Software Delivery V5.0L20 以降

なお、本文中は、すべてSystemwalker Centric Managerで表記しています。旧バージョンレベルの名称（Systemwalker CentricMGRまたはSystemWalker/CentricMGR、Systemwalker SoftDelivery）の製品を使用している場合は、それぞれお読み替えください。
同様に、関連製品についても、すべて最新バージョンレベルの名称にて表記しています。旧バージョンレベルの名称の製品を使用している場合は、それぞれお読み替えください。
また、本書は、Systemwalker Software Deliveryを使用している場合にもご利用できます。Systemwalker Centric ManagerとSystemwalker Software Deliveryにおける異なる点について、以下に示します。

サーバ	インストールディレクトリ
Centric Manager	[Windows版] Systemwalkerインストールディレクトリ ¥Mpwalker.DM¥mpdrmssv [UNIX版] /opt/FJSVmpsdl/
Software Delivery	[Windows版] Systemwalkerインストールディレクトリ ¥drmssv [UNIX版] /opt/FJSVmpsdl/

クライアント	インストールディレクトリ
Centric Manager	[Windows版] Systemwalkerインストールディレクトリ ¥Mpwalker.DM¥mpdrmscl
Software Delivery	[Windows版] Systemwalkerインストールディレクトリ

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの基本的な操作、機能を理解し、Systemwalker Centric Managerを使用して、システムを運用管理する方を対象にしています。

注意事項

エディションについて

Systemwalker Centric Manager V11.0L10/11.0以降のエディションでは、Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”およびGlobal Enterprise Editionを“GEE”と省略していますので、各エディションをお読み替えください。

本書の表記について

固有記事の表記、使用している記号、および略称表記については、“本書の表記について”を参照してください。

登録商標について

登録商標については、“登録商標について”を参照してください。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

修正履歴
2004年 6月 初 版
2005年 12月 2版
2006年 8月 3版
2007年 3月 4版
2008年 3月 5版
2009年 3月 6版
2013年 10月 7版
2014年 10月 8版
2017年 2月 9版
2017年 12月 9.1版
2018年 6月 9.2版
2019年 4月 9.3版
2019年 12月 10版
2020年 7月 11版
2021年 2月 12版
2021年 12月 13版
2022年 5月 14版
2022年 8月 15版
2023年 9月 16版
2024年 4月 17版

Copyright 1995-2024 Fujitsu Limited

Copyright PFU Limited 1995-2024

目　次

第1章 全般 1
1.1 処理に失敗した場合の異常事象の調べ方が分からない 1

第2章 製品インストールに関するトラブルシューティング 2
2.1 既に統合製品(Systemwalker Centric Manager)がインストールされている環境に、単品製品(Systemwalker Software Delivery、DRMSplusまたはDRMS)をインストールしようとするとインストール処理が失敗する 2
2.2 応急修正または緊急修正を適用させようとしたが、復帰コード2で失敗する 2
2.3 簡易資源配付機能をインストール選択していないのに、簡易資源配付用のフォルダが作成され、共有化される場合がある 3
2.4 SystemWalker/CentricMGRをインストールしようとすると、エラーメッセージが出力されてインストール処理が失敗する 4
2.5 資源配付のサーバ機能のインストールに失敗することがある 4
2.6 Solaris版 SystemWalker/CentricMGR 5.xのインストールを行うと、FJSVsapagパッケージのインストールが失敗する 5
2.7 SystemWalker/SoftDeliveryのクライアント機能をインストールしようとすると、エラーメッセージが表示されてインストールできない 5
2.8 運用管理クライアントをインストールすると、資源配付コンポーネントのインストールに失敗する 6
2.9 クライアント機能の新しいバージョンをインストールして失敗した後に、古いバージョンをインストールするとセットアップ情報を入力できない 7
2.10 クライアント機能をインストールすると、インストーラから長時間にわたって応答が返ってこないことがある 7
2.11 クライアント機能をアンインストールした後で、再インストールを行うと、「インストール済みです」とポップアップメッセージが出力される 7
2.12 緊急修正を適用しようとしたら、エラーが発生し適用できない 8
2.13 応急修正の適用処理中にFile I/Oエラーが発生し、適用が失敗する 9

第3章 定義/登録に関するトラブルシューティング 10
3.1 新規業務を作成して、資源登録後にメンテナンス版数へ登録を行うと、エラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する 10
3.2 資源登録時にエラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する 10
3.3 メンテナンス版数へ登録を行なうと、エラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する 11
3.4 資源のアップロード時に、ディスクの空き領域が不足していて、エラーメッセージダイアログボックスが出力された 11
3.5 drmsaddコマンドで資源登録に失敗する 12
3.6 資源配付で文字コード"SJIS"上で作成した日本語を含むファイル(コードSJIS)を"EUC"のSolarisサーバで資源登録したが、正常に資源登録ができなかった 13
3.7 drmsaddコマンドでワイルドカード指定すると資源が登録されないことがある 13
3.8 メンテナンス版数を登録すると、過去のメンテナンス版数に登録済の資源グループの世代も含めて登録されてしまう 14
3.9 メンテナンス版数を登録すると、長時間にわたって応答が返ってこない 15
3.10 メンテナンス版数の登録で、[メンテナンス作業の追加]を設定して[OK]ボタンを押すと、エラーメッセージが表示される 16
3.11 ポリシー資源を作成すると、「サーバ(サーバ名)は既に別のポリシーが関連付けられています。ポリシーを置き換えますか?」とポップアップメッセージが出力される 16
3.12 個別メンテナンス版数の作成時に、特定の業務が登録範囲に追加できない 17
3.13 クライアントへのポリシー設定を行うとき、1つのポリシーにて2回同じ業務名の定義をすると、2回目の設定しか有効になりません 18

第4章 配付に関するトラブルシューティング 19
4.1 サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル 19
4.1.1 送信中に通信エラーが発生して、資源の送信処理に失敗する 19
4.1.2 送信中に世代不整合となって、資源の配付処理に失敗する 20
4.1.3 誤った資源または世代を配付してしまった 22
4.1.4 受信または適用済の世代を戻す方法が分からない 23
4.1.5 適用予定日時の異なる複数のメンテナンス版数をまとめてダウンロードする場合に、適用予定日時がダウンロード対象の最新版数と同じになる 23
4.1.6 LAN二重化環境において、送信中に通信エラーが発生し、資源の送信処理に失敗する 23
4.1.7 複数のサーバに対して同時に資源のダウンロードを行うと、DRMSプロセスのアプリケーションエラーが発生することがある 24

4.1.8 運用管理サーバ配下に複数の部門管理/業務サーバが接続されている状況で、特定の部門管理/業務サーバに配付した資源に誤りがあり、このサーバに対してだけ再配付を行いたい....24
4.1.9 共通メンテナンス版数運用で、複数のサーバに配付する資源を分けたいが、すべてのサーバに同じ資源が配付されてしまう....27
4.1.10 配下サーバへの資源配付は正常だが、送信コマンドを発行するタイミングで、必ずエラーメッセージがイベントログに記録される....28
4.1.11 部門管理/業務サーバへ資源配付や状況検索を行うと、エラーが発生して正常に処理されない....29
4.1.12 過去の資源配付で“適用異常”が発生した後、適用異常の世代以降の資源配付が適用されない....29
4.1.13 NIC冗長化された部門管理/業務サーバへのポリシー配付で、正常に定義ファイルが更新されない....30
4.1.14 配付先サーバ上でリソース不足等のエラーが発生した後、資源配付ができない....30
4.1.15 運用管理サーバから業務サーバに共通メンテナンス版数の配付を実施すると、業務サーバ上でf3cqcdts.exeのアプリケーションエラーが発生する....31
4.1.16 最新世代まで正常に適用されているにも関わらず、適用先のファイルが最新とならなかった....32
4.1.17 資源の受信時にsyslogに[00500]のメッセージが出力され資源送信に失敗する....32
4.2 サーバ-サーバ間の中継に関するトラブル....33
4.2.1 中継処理が実施されず、配下サーバに資源が送信されない....33
4.2.2 中継サーバから下位サーバで資源を受信時に、中継サーバ・下位サーバ間で通信の瞬断影響で即時適用処理が止まり、通信復旧後も適用処理が動作しない....34
4.3 サーバ-クライアント間の送信に関するトラブル....34
4.3.1 エラーメッセージ等が特に出力されていないが、資源が受信されない（定義ミスに起因するもの）....34
4.3.2 受信処理が失敗する....35
4.3.3 ダウンロード処理中にシステムがフリーズ状態となる....35
4.3.4 誤った資源または世代を配付してしまった....36
4.3.5 適用済の世代を戻す方法が分からない....36
4.3.6 個別メンテナンス版数がダウンロードされない....36
4.3.7 ダウンロード中に世代不整合となり、ダウンロード処理が失敗する....37
4.3.8 業務を追加定義しても、資源がダウンロードされない....38
4.3.9 クライアントのダウンロード（資源の受信中）にエラーメッセージが出力されるが、次回のダウンロード時には正常に適用完了する....39
4.3.10 syscheckオプションで“YES,AUTO”を指定した場合、名前解決ができない状況でもクライアントから正常にダウンロードされてしまう....39
4.3.11 クライアントからダウンロードを行うとダウンロードは成功するが、サーバ側にクライアントのシステム定義が自動生成されない....40
4.3.12 [資源配付クライアント セットアップ機能]の[ダウンロード実行環境設定]で、[メッセージボックス表示]を[なし]に設定してもダウンロード時にウィンドウが表示される....40
4.3.13 クライアント用資源を含むメンテナンス版数を運用管理サーバから部門管理/業務サーバへ配付後、クライアントからダウンロードをすると、対象の資源がダウンロードされない(メンテナンス版数は適用されている)....41
4.3.14 dwldrms.exeの復帰コードが255「初期化処理での異常」で復帰することがある....41
4.3.15 クライアントからダウンロードを行うと、ダウンロード処理が失敗し、サーバ側でエラーメッセージが出力される....42
4.3.16 クライアントで適用済の資源グループを何度もダウンロードしてしまう....43
4.3.17 drmsinf.exeコマンドがプログラムエラー(復帰コード4)で復帰する....43
4.3.18 資源配付ＧＵＩからクライアントの「システム定義」を事前に設定し、その後、資源配付クライアントからダウンロードしたところ、該当のクライアントがホスト名で表示され、システム定義で設定したクライアント名とは異なっていた....43
4.3.19 メンテナンス版数の削除をサーバとクライアントで実行したが、クライアントでダウンロードを実行すると削除したはずのメンテナンス版数がダウンロードされてしまう....44
4.3.20 資源グループ名やVL名に「COM1」で始まる名前を使うと受信失敗する....45
4.3.21 資源配付の初期化処理で時間を要してしまう....45
4.3.22 クライアントからの資源ダウンロード処理でオンライン配付の資格がないため、資源の配付に失敗する....45
4.3.23 Systemwalkerコンソール上のノード一覧からクライアントのIPアドレスを変更したが、しばらくすると元のIPアドレスに戻る....46
4.3.24 クライアントに対して事前配付にて資源を配付後、クライアントで適用コマンド(apldrms)を実行し適用が完了したが、運用管理サーバでのステータスが「受信完了」のままで「適用完了」とならない....46
4.3.25 資源登録時にエラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する....47
4.3.26 クライアントに対して個別資源の[資源の配付]を実行すると、「配付宛先としてのサーバの指定がありません。」が出力され配付できない....47

4.4 サーバでの適用に関するトラブル 48
4.4.1 メンテナンス版数の配付時で、エラーメッセージは出力されないが、ファイルが更新されない 48
4.4.2 バッチファイルで指定したコマンドが実施されない 48
4.4.3 バッチファイルを含む資源の適用が完了しない 49
4.4.4 ファイルのアクセスエラー（エラーコードはEEXISTやEACCES）が発生する 49
4.4.5 バッチファイルは正常に実行されているが適用異常となる 50
4.4.6 IPL適用時にシステムが再起動される 51
4.4.7 後刻適用やIPL適用の資源が適用されない 52
4.4.8 サーバポリシーを適用したが、ポリシーで設定した内容が反映されない 52
4.4.9 共有ディスクに資源を配付したとき、資源配付の配付ステータスのエラーメッセージが出力されないが、適用先に資源が更新されない 53
4.4.10 自動生成される適用先ディレクトリの属性情報に差異がある 54
4.4.11 drmsapyコマンドが復帰してこない 54
4.4.12 クラスタ構成のサーバに対してポリシーを適用したがポリシーが反映されない 55
4.4.13 メンテナンス版数の適用種別がIPL適用にもかかわらず、コンピュータを再起動しても自サーバに適用されない 55
4.4.14 即時適用指定で配付したにもかかわらず、適用が完了にならない 55
4.4.15 属性情報を、部門管理サーバ側でdrmsmdfyコマンドによって設定しているにもかかわらず、資源の適用が行われると設定値が変更されてしまう 56
4.4.16 [イベントID:403または220]のメッセージが出力され、適用エラーが発生することがある 57
4.4.17 後刻適用またはIPL適用で個別メンテナンス版数を適用する場合、DRMS管理ファイル内に“DRMS管理ファイル¥rms¥RMSLEVEL¥v_個別メンテナンス版数名”のフォルダがあると、個別メンテナンス版数の適用ができない 57
4.4.18 過去に配付済みのはずの資源が、最初からダウンロードされて適用される 58
4.4.19 バッチファイル付きで資源を配付したところ、初回配付時にはバッチファイルのエラーが発生し適用失敗となったが、同じ資源を再度配付すると、正常に適用完了になった 58
4.4.20 サーバへのポリシー設定で、サーバポリシー資源が適用できない 58
4.4.21 バックアップからリストアしたサーバに、上位運用管理サーバからダウンロードした資源が適用されない 59
4.4.22 Linuxの運用管理サーバで登録したソフトウェア辞書資源をWindowsの業務サーバで適用しようとすると、適用処理が異常終了となる 60
4.4.23 適用予定日時未超過の資源の後に、適用予定日時超過の資源がある場合、適用予定日時未超過の資源までも適用される 60
4.4.24 資源配付サービスの再起動を行うと、意図しない資源が適用される 61
4.4.25 サーバポリシーが適用済みステータスとなっているにもかかわらず、設定が反映されない 61
4.4.26 圧縮したLinux資源の適用に失敗する 62
4.4.27 複数世代を連続して適用しようとすると、適用に失敗する 63
4.5 クライアントでの適用に関するトラブル 64
4.5.1 ファイルのアクセスエラーが発生する 64
4.5.2 バッチファイルが実行されない 64
4.5.3 バッチファイルで指定したファイルが認識されない 65
4.5.4 バッチファイル実行時にシステムがフリーズする 65
4.5.5 バッチファイルは正常に実行されているが適用異常となる 65
4.5.6 バッチファイルの適用処理が、Windows 9x系のクライアントだけ異常となる 66
4.5.7 ポリシー配付で、クライアントには正常に適用されたが、ポリシーの設定内容が反映されない 67
4.5.8 ダウンロード実行環境で資源適用後の動作を[シャットダウン]に設定しているのにもかかわらず電源が切断されない 67
4.5.9 バッチファイルで指定したコマンドが実施されない 67
4.5.10 バッチファイルを含む資源の適用が完了しない 67
4.5.11 ダウンロード実行環境で、処理形態を[一括]にしているにもかかわらず、ダウンロードしても資源の受信だけとなっている 68
4.5.12 クライアントポリシーを配付すると、ユーザ情報000014で適用エラーが発生する 68
4.5.13 Interstage Charset Managerと連携して文字パターンファイルを配付した場合、適用処理中に資源配付の後処理バッチで無応答状態になる 69
4.5.14 ポリシー配付時にクライアント側で適用エラーとなる 69
4.5.15 共通メンテナンス版数および個別メンテナンス版数で運用しているシステムにおいて、個別メンテナンス版数だけを利用したクライアントの共通メンテナンス版数が世代アップされない 70
4.5.16 ファイルが使用中の場合、置き換えができない 70

4.5.17 資源配付クライアントに、適用種別が後刻適用の個別メンテナンス版数を配付すると、エラーメッセージが出力されて適用が失敗する ... 71
4.5.18 [資源配付]ウィンドウを使わずにクライアントポリシーを生成した場合、クライアントにポリシーを正常に配付できないことがある ... 71
4.5.19 個別メンテナンス版数をクライアントにダウンロードすると、適用されるはずの一部のファイルが置き換わらないことがある ... 73
4.5.20 前処理バッチ/後処理バッチを実行すると、適用処理でエラーが発生する場合がある ... 73
4.5.21 資源配付をすると、サーバ上では資源配付実施済のクライアントは「適用完了」になっているが、資源が実際に適用先ディレクトリへ適用されていなかった ... 74
4.5.22 クライアントにポリシーを配付して業務定義を行うと、業務定義と同時に資源の配付まで実施される ... 74
4.5.23 クライアントのmainte.logに“警告:資源グループ(資源グループ名/)に受信対象世代がありません”というメッセージが出力され、ダウンロードに失敗する ... 75
4.5.24 クライアントの接続先サーバに、「[00850] クライアント側で異常が発生したので，適用できませんでした。 ～ 詳細情報（DRM0APY(RSC) I/O ～」のエラーメッセージが出力される ... 75
4.5.25 複数世代のダウンロードを行うと、適用に失敗する ... 76
4.6 クライアントでの適用結果通知に関するトラブル ... 77
4.6.1 回線が切断されている ... 77
4.6.2 listfileの処理に異常がある ... 77
4.6.3 資源配付クライアントから適用結果通知（適用失敗）を受信すると、サーバ側の資源配付の操作に時間を要することがある。また、資源配付クライアント側の適用結果通知処理に時間がかかる。適用成功の適用結果通知を受信した場合、本現象は発生しない ... 78
4.6.4 [メッセージボックス表示]を[あり]と設定しているが、ダウンロード処理でエラーが発生したにもかかわらず、メッセージボックスが表示されない場合がある ... 78
4.6.5 クライアントの受信結果・適用結果が、部門管理サーバ/業務サーバ経由で運用管理サーバに通知されない ... 79

第5章 結果確認に関するトラブルシューティング ... 80
5.1 オンライン検索に関するトラブル ... 80
5.1.1 オンライン検索中に通信エラーが発生して、オンライン検索処理に失敗する ... 80
5.1.2 オンライン検索中に世代不整合となって、オンライン検索処理に失敗する ... 80
5.2 スケジュール結果通知に関するトラブル ... 80
5.2.1 スケジュール結果通知で運用しているが、適用結果または送信結果が通知されない（クライアントの資源グループ情報が通知されない） ... 80
5.2.2 運用管理サーバへのスケジュール結果通知が失敗する ... 81
5.2.3 部門管理/業務サーバのスケジュール情報ファイルを変更したところ、運用管理サーバにて資源配付のエラーが多発するようになった ... 81
5.3 確認した内容に関するトラブル ... 82
5.3.1 運用管理サーバと部門管理/業務サーバで送受信結果/適用結果を確認すると、それぞれで表示される日時が異なっている ... 82
5.3.2 クライアントに対する送受信結果/適用結果を確認すると、送信日時が設定されず適用日時だけが設定されている 83
5.3.3 127.0.0.1のシステムが結果通知受信側のサーバ（運用管理サーバ）に定義されることがある ... 83
5.3.4 部門管理サーバ(クラスタ構成で、各ノードは独立しており、資源配付は両系で動作)からの適用結果通知を上げると、代表IPの情報が運用管理サーバにできてしまい、両系それぞれの情報が正確に通知されない状況が発生した（1つのCSVファイルに各ノードの情報が混在） ... 83
5.3.5 部門管理サーバで、配下クライアントへの配付状況を検索(drmslst)したところ、古い世代の配付状況が出力されないクライアントがある ... 84
5.3.6 配付した資源ファイルの情報をlsコマンドで表示すると、ファイルの所有者が資源登録時と異なるユーザ名、または数字で表示される ... 84
5.3.7 配付した資源ファイルのタイムスタンプが、元の資源ファイルより1時間加算した日時になっている ... 85

第6章 リモートインストールに関するトラブルシューティング ... 87
6.1 適用に関するトラブル ... 87
6.1.1 リモートインストールにより適用したパッケージのファイルが更新されない ... 87
6.1.2 リモートインストールにより適用したパッケージのファイルが古いファイルへ置き換わらない ... 87
6.1.3 リモートインストールにより適用したパッケージのiniファイルが更新されない ... 88
6.1.4 リモートインストールで資源配付クライアントのwsagent.iniファイルの書き換えを実施しようとしたが失敗した 88
6.1.5 資源を適用すると、適用先にレコーディングしていないはずの8.3形式のファイルが生成されることがある ... 89

6.1.6 インストール時に複数ドライブに分けて資材が格納される製品をレコーディングし、パッケージ(pc#pkg)として配付したが、複数ドライブに適用されず、ある1ドライブに全資材が適用された....89
6.1.7 資源種別pc#pkgの資源を資源配付サーバで複数世代適用したが、すべての世代が適用されない....90
6.1.8 Windows 2000の環境にNetscape 4.78を適用したが、Administrator以外のユーザでNetscape 4.78が起動しない....90
6.1.9 Windows 2000の環境にリモートインストールを行ったところ、あるタイミングでインストールディスクを要求される....90
6.1.10 Microsoft Officeをリモートインストールし、適用先の環境でMicrosoft Officeを使おうとするとエラーが出力される....91
6.1.11 Microsoft Office 2000をリモートインストールすると、ヘルプがインストールできない現象やアプリケーションを実行して終了するとエラーになる現象が発生する....91
6.2 レコーディングに関するトラブル....92
6.2.1 クライアントでレコーダ（DRMSNPR.EXE）を起動すると、「レコーディング中」となってしまう....92
6.2.2 エラーメッセージが出力され、レコーダが起動できない....92
6.2.3 レコーディング時にシステムの再起動を含めて実施しているにもかかわらず、クライアントでパッケージを適用しても再起動されない....93
6.2.4 レコーダで差分情報を保存中に、警告メッセージボックスが表示され保存処理が完了しないことがある....93
6.2.5 レコーディングのファイル更新は、ファイル名の大文字/小文字を意識しますか....93
6.2.6 レコーディングのファイル更新で、変更の基準はタイムスタンプですか、バージョン情報ですか....94
6.2.7 レコーディング機能で、同じファイルの置き換えにもかかわらず、リストされたレコード情報では違いがある94
6.2.8 レコーディング時に、レコーディング保存を継続するかしないかの確認メッセージが出力される....94
6.3 資源登録処理およびパッケージエディタに関するトラブル....95
6.3.1 Windows(R)のサービスパックなどの様にファイル数の多いパッケージを作成し、[資源配付]ウィンドウで資源グループ登録時に「完了」ボタンをクリックすると、長時間応答が返ってこない....95
6.3.2 レコーディング後に、pc#pkg資源登録処理において、パッケージエディタでエラーメッセージが出力される 95

第7章 [資源配付]ウィンドウに関するトラブルシューティング....97
7.1 サーバに関するトラブル....97
7.1.1 メンテナンス作業を操作すると、エラーメッセージが出力される....97
7.1.2 エラーメッセージが出力されて、[資源配付]ウィンドウが起動できない....97
7.1.3 [資源配付]ウィンドウで、操作するとエラーメッセージが出力される....98
7.1.4 メンテナンス版数の状況が「運用準備中」と表示される....98
7.1.5 [資源配付]ウィンドウの起動時間が延びたり、[資源配付]ウィンドウでの操作性能が低下している....98
7.1.6 システムグループを作ってサーバポリシー設定すると、エラーメッセージダイアログボックスが表示される....99
7.1.7 個別メンテナンス版数を資源配付したところ、[メンテナンス]サブウィンドウの[状況]が、[運用可能]が[運用準備中]に状態遷移した....99
7.1.8 [適用種別]が[即時]になっているにもかかわらず、drmssndコマンドで配付すると適用種別が[後刻]になる....100
7.1.9 [メンテナンス]サブウィンドウの[状況]が、[運用可能]または[運用準備中]の表示から空白に変わる....100
7.1.10 DRMS編集ファイルのパラメタ値変更操作中にdrmsset.exeがVCランタイムエラーで異常終了する....101
7.1.11 [資源配付]ウィンドウで、[システム構成の読み込み]を実行しても業務監視のシステム構成が反映されない....101
7.1.12 [システム構成]サブウィンドウのアイコンに、小さい×印がついている....102
7.1.13 [資源配付]ウィンドウでサーバポリシーを登録して配付したが、すべてのサーバにポリシーが反映されない....103
7.1.14 部門管理サーバ配下のクライアントの定義があるにもかかわらず、[資源配付]ウィンドウでメンテナンス版数の確認したときにクライアントの状況が表示されない....104
7.1.15 個別メンテナンス版数のある世代をあるサーバに配付したところ、[資源配付]ウィンドウのステータスが“適用中”となったままで、適用処理が正常に行われない....104
7.1.16 [資源配付]ウィンドウのシステム構成ウィンドウで、システム定義のプロパティを開こうとすると、エラー「サーバ'xxxxxxxx'は存在しません」が発生する....105
7.1.17 [資源配付]ウィンドウを起動すると、起動中にポップアップメッセージが表示される....106
7.1.18 資源配付から状況検索するとメッセージボックスが表示される....106
7.1.19 ポリシー設定後に表示された「設定情報登録」ダイアログで「OK」ボタンをクリックした後、ポリシー設定した情報を共通メンテナンス版数に登録するため「メンテナンス作業（メンテナンス版数）の追加」ウィンドウで「共通」、業務欄の「INITJOB」を選択して「OK」ボタンをクリックすると、エラーメッセージボックスが表示される....106
7.1.20 運用管理サーバの保有世代の増加により、メンテナンス版数および版数内資源グループの過去の世代を削除したが、運用管理サーバの対象システム画面のクライアントプロパティの個別資源タブに、削除されたはずの版数内資源グループが表示されている....107

7.1.21 ある基準ディレクトリから資源登録操作を行ったにもかかわらず、適用先に展開された際に、ドライブ直下からディレクトリが展開されて適用されることがある 107
7.1.22 [資源配付]ウィンドウを起動するとエラーメッセージが表示され、画面表示がハングする 108
7.1.23 [資源配付]ウィンドウの内側にあるサブウィンドウが表示されない 109
7.1.24 [資源配付]ウィンドウで、クライアントのプロパティを表示しようとすると、かなりの時間を要する 109
7.1.25 [資源配付]ウィンドウのメンテナンス作業ウィンドウからメンテナンス作業のプロパティを開こうとすると、エラーメッセージが表示されて参照できない 110
7.1.26 [資源配付]ウィンドウのメンテナンス作業サブウィンドウ内の[状況]欄が空白表示されているものがある 110
7.1.27 複数のクライアントに同じ資源を配付しているにもかかわらず、クライアントのプロパティを見ると配付した資源の世代表示が異なっている 112
7.1.28 [対象システム-全体状況を確認]画面で、OWN配下に一部表示されないシステム名がある 112
7.1.29 サーバ上でOWNのノードのプロパティが表示されるまでに時間がかかる 113
7.1.30 サーバ上で[資源配付]ウィンドウを2つ以上起動すると、エラーメッセージが出力される 113
7.1.31 部門管理/業務サーバでインベントリ検索またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、エラーメッセージが出力される 114
7.1.32 部門管理/業務サーバ上で[資源配付]ウィンドウを起動すると、メンテナンス作業ウィンドウにメンテナンス版数の状況が表示されない 114
7.1.33 MpWalker/DMからSystemWalker/CentricMGR V5以降にバージョンアップすると、メンテナンス作業が削除できない 115
7.1.34 資源配付GUIで資源の登録を行った後、個別メンテナンス版数の追加を行うと、登録範囲欄に設定されているはずの業務が表示されない 115
7.1.35 新しい資源を登録してからメンテナンス版数の配付をするとき、[サーバ]タブの配付画面上に配付先サーバの一覧が表示されない 116
7.1.36 運用管理サーバから配下サーバへクライアント資源を配付すると、その資源が『適用中』ステータスとなり、当該配下サーバ配下のクライアントでは全て『適用済み』ステータスとなっている 116
7.1.37 ドメインユーザの場合、エラーメッセージが表示され、 [資源配付]ウィンドウが起動できない 116
7.1.38 ターミナルサービスを経由して、サーバの[資源配付]ウィンドウを起動、または資源配付コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される 117
7.1.39 [資源配付]ウィンドウの共通メンテナンス版数を配付する画面上で、運用管理サーバアイコンのみ表示されない 118
7.1.40 クライアントのIPアドレスを変更し、運用管理サーバ上でSystemwalkerコンソール上のノード一覧からクライアントのIPアドレスを変更したが、しばらくするとノード一覧のIPアドレスが元に戻ってしまう 118
7.2 運用管理クライアントに関するトラブル 119
7.2.1 運用管理クライアントがサーバに繋がらない 119
7.2.2 運用管理クライアントを起動すると、エラーメッセージが出力され、簡易ウィザードが起動しない 120
7.2.3 運用管理クライアントで、ログイン処理を実行すると、資源配付のエラーメッセージが出力される 120
7.2.4 運用管理クライアントから、UNIX版の資源配付サーバに対して、システム名を変更しようとしたら、エラーメッセージが出力された 121
7.2.5 運用管理クライアントでログインした後、エラーメッセージが出力される 122
7.2.6 [アクション]-[メンテナンス作業の追加]-[メンテナンス版数]選択時に、エラーメッセージが表示され、新規にメンテナンス作業を作成できない 122
7.2.7 運用管理クライアントを接続しているSolarisの運用管理サーバ側で、drmswsプロセスのcoreが出力されていた 123
7.2.8 運用管理クライアント（V4.0L20）から運用管理サーバ（V10.0L20）に接続するとエラーが発生する。サーバ側ではdrmswc.exeプロセスが、c0000005:(ACCESS_VIOLATION)でアプリケーションエラーになっている 123
7.2.9 運用管理クライアントの[資源配付]ウィンドウのログイン画面からログインを行ったが、画面がグレイになり、ログイン画面が無応答状態になってしまう 124
7.2.10 運用管理クライアントを起動してサーバに接続、またはF5キーを押すと、エラーメッセージが表示される 124
7.2.11 運用管理クライアントからサーバに接続してインベントリ検索またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、エラーメッセージが出力される 125
7.2.12 運用管理クライアントから運用管理サーバに接続すると、エラーメッセージが出力されて[資源配付]ウィンドウが起動できない 125
7.2.13 運用管理クライアントの操作で「接続先の作業ファイルでI/Oエラーが発生しました。」のメッセージが出力される 126
7.3 Systemwalker Web連携に関するトラブル 126
7.3.1 Systemwalker Web連携で資源配付の画面にログインした後、操作をするとエラーメッセージが表示される 126
7.3.2 Systemwalker Web連携で資源配付のパスワード入力後にエラーメッセージが表示される 127
7.3.3 Systemwalker Web連携において、資源配付にログインし、システム一覧、異常システム一覧、システムグループ一覧を選択すると、左下の一覧表示部分に「初期化できませんでした。」と表示される 127

7.3.4 サーバ資源配付オプションのWebコンソールを起動すると、ブラウザ左下に「java.lang.NullPointerException」と表示され、起動に失敗する....128

第8章 インベントリ情報に関するトラブルシューティング....134
8.1 インベントリ情報の表示異常に関するトラブル....134
8.1.1 部門管理/業務サーバから通知されたインベントリ情報が表示できない....134
8.1.2 クライアントから通知したインベントリ情報に、同一の情報が存在する....135
8.1.3 インベントリ情報画面で表示される情報が更新されない....135
8.1.4 収集されたインベントリ情報を表示させると、ネットワークの情報が正しく収集されていない場合がある....136
8.1.5 Systemwalkerコンソールからインベントリ情報を表示すると、意図しないインベントリ情報が表示される....137
8.1.6 インベントリ情報の表示や検索に失敗することがある....137
8.1.7 “実行可能ファイル名”が異なる場合、同じ“製品名”であっても別の製品として情報収集される....138
8.1.8 クライアントのコンピュータにおいて、一般ユーザでログオンし、インベントリ情報表示で更新ボタンを押すと、インベントリ情報の表示に失敗する....139
8.1.9 インベントリ情報表示画面で表示される製品名が、途中で切れてしまう場合がある....140
8.1.10 インベントリ情報表示画面で表示される製品名が重複している場合がある。または[アプリケーションの追加と削除]に表示されているソフトウェア名がインベントリ情報表示画面に表示されない場合がある....141
8.1.11 インベントリ情報の表示や検索ができない....142
8.1.12 [ソフトウェア辞書エディタ]画面で応答なしとなる....142
8.1.13 インベントリ管理機能の画面でアプリケーションエラーが発生する....143
8.1.14 運用管理サーバのインベントリ情報が表示されない....143
8.1.15 インベントリ情報の表示を行うと、数値項目の値が-1となる場合がある....144
8.2 収集できないインベントリ項目に関するトラブル....145
8.2.1 システム構成のクライアントプロパティで、[適用対象の資源]ページが、表示されるクライアントと表示されないクライアントがある....145
8.3 インベントリ情報の収集/通知に関するトラブル....146
8.3.1 クライアントからインベントリ情報が通知されない....146
8.3.2 部門管理/業務サーバから、運用管理サーバへインベントリ情報が通知されない....147
8.3.3 Solarisのインベントリ情報が収集されない....147
8.3.4 インベントリ情報収集をすると、代表インタフェースが変更される....148
8.3.5 運用管理サーバで、CPU使用率が高い状態が続く....149
8.3.6 資源配付クライアントで、プロセス（schdrms.exe）のCPU使用率が100%になる....150
8.3.7 クライアントのインベントリ収集時間になっても、インベントリ情報が通知されない、または遅れて通知される150
8.3.8 運用管理サーバにあるハード情報収集ファイル（hard_base.csv）に、同一日付/同一時間で同じクライアントの情報がある....151
8.3.9 新しい通知先のサーバで、インベントリ情報の確認をすることができない....152
8.3.10 インベントリ収集すると、CMINFOUT.invファイルが異常に増加する....153
8.3.11 インベントリ情報収集をすると、フレームワークのデータベースに情報が登録されない....153
8.3.12 クライアントからのインベントリ情報を受信すると、サーバでエラーメッセージが出力されてインベントリ情報が反映されない....154
8.3.13 リモートデスクトップ接続のコンソールセッションに接続したユーザがいると、アプリケーション検出機能やインベントリ収集機能が使用できない....155
8.3.14 サーバからポリシー資源で、クライアントのインベントリ収集時間の設定／変更するポリシー資源を配付すると、資源配付クライアントのスケジュール機能がエラーメッセージを出力して異常終了する....155
8.3.15 インベントリ情報収集をすると、インベントリデータベースに情報が登録されない....156
8.3.16 インベントリデータベースに、インベントリ情報を登録できない....157
8.3.17 運用管理サーバのシステムが電源断等で不当に停止した場合、クライアントでWindowsにログオンしたときにエラーメッセージボックスが出力される場合がある....158
8.3.18 インベントリ情報収集が長時間にわたって応答が返ってこない。または、「応答なし」の状態になる....158
8.3.19 drmspullコマンドによるインベントリ情報収集において運用管理サーバでのCPU負荷が高くなる....159
8.3.20 インベントリ収集中に運用管理サーバでのCPU負荷が高い....159
8.3.21 中継サーバ配下のクライアントを別の中継サーバ配下に移動し、元の中継サーバ配下から削除したが、次のインベントリ情報収集時に削除したはずのクライアントが表示されてしまう....160
8.3.22 cmcnfreg.exe、またはcmprdinv.exeのプロセスが常駐し続けている....160
8.3.23 Windowsにログオンしたときにエラーメッセージが出力される....161
8.3.24 インベントリ情報の登録時にイベントログが出力される....161
8.3.25 インベントリ情報の収集時にイベントログが出力される....162

8.3.26 簡易インベントリ収集に失敗する....162
8.3.27 インベントリ情報の通知先サーバのシステムログに、エラーコードがERROR 0の[00202]エラーメッセージが出力される....163
8.3.28 オンデマンドのインベントリ情報収集に失敗する....163
8.3.29 Systemwalkerコンソールから監視ポリシーの配付を行うと、資源配付のあて先サーバとして自動定義されてしまう。または、資源配付の[00202]エラーメッセージがシステムログに出力される....164
8.4 インベントリ情報の出力に関するトラブル....166
8.4.1 ソフトウェア情報出力を実行しようとしても、ソフトウェア情報出力の結果を得ることができない....166
8.4.2 [検索結果一覧]画面にてレジストリ値収集情報出力を行うと、その出力に失敗する場合がある....167
8.4.3 [検索結果一覧]画面にてソフトウェア情報出力を行うと、その出力に失敗する場合がある....167
8.5 インベントリ情報のデータベース作成・格納に関するトラブル....168
8.5.1 インベントリ情報をCSVファイル化したところ、[システム名]フィールドに不要なスペースが入っている....168
8.5.2 [インベントリ管理環境]ダイアログボックスで、[データベース初期化]ボタンをクリックしたら、エラーメッセージが表示された....168
8.5.3 運用環境保守ウィザードで、インベントリデータベースの作成が失敗する....169
8.5.4 インベントリ管理データベースの作成や拡張ができない....169
8.5.5 インベントリデータベースの退避ができない....171
8.5.6 インベントリデータベースの作成が失敗する....171
8.5.7 インベントリデータベースの作成時にスクリプトエラーが発生する....172
8.6 インベントリ管理の印刷に関するトラブル....172
8.6.1 [インベントリ情報]画面の内容を印刷すると、行の終わりで文字列が折り返されずに文字列が切れて印刷される場合がある....172

第9章 簡易資源配付機能に関するトラブルシューティング....174
9.1 簡易資源配付機能で、ファイル共有を使用して配付指示が発行されているクライアントにおいて、システム起動後、すぐにログインを実施した場合、ネットワークドライブの割り当てでエラーが発生し、簡易資源配付に失敗する場合がある....174
9.2 マイコンピュータ上に不要なネットワークドライブ（¥¥接続サーバ¥Mpcminst）が存在する....174
9.3 簡易資源配付ウィザード、および[配付資源の操作]画面で資源を登録できない....175
9.4 [ソフトウェア辞書エディタ]画面または[デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定]画面で応答なしとなる....175
9.5 簡易資源配付機能の画面でアプリケーションエラーが発生する....176

第10章 そのほかのサーバに関するトラブルシューティング....177
10.1 サービス起動時のトラブル....177
10.1.1 資源配付の起動時にイベントログに[イベントID：3]のメッセージが出力され、資源配付サービスの起動に失敗する....177
10.1.2 資源配付の起動時に、[イベントID:702、803]のエラーメッセージが出力され、資源配付の起動に失敗する....177
10.1.3 [資源配付]ウィンドウを起動して、すぐに停止すると、エラーメッセージが出力される....178
10.1.4 DRMS編集ファイルの定義パラメタを変更後、[資源配付]ウィンドウを再起動すると、[資源配付]ウィンドウが停止する....178
10.1.5 資源配付サービスは起動するが、SCM（Service Control Manager）のエラーが出力される....179
10.1.6 資源配付の起動後にエラーメッセージを出力し、資源配付サービスが停止する....180
10.1.7 サービスが正常に起動しない、または起動に時間がかかる。[イベントID:00001]の後に、[イベントID:700]、[イベントID:800]のメッセージが出力されない、または出力されるまでに時間がかかる....181
10.1.8 Service Control Managerがエラーメッセージを出力し、資源配付サービスが起動失敗する....181
10.1.9 サーバポリシー適用後、資源配付サービスが再起動しない....181
10.1.10 部門管理/業務サーバで、“Systemwalker MpDTPReceiver”および“Systemwalker MpDTPServer”のサービスを開始すると、不当なメッセージが出力される....182
10.1.11 システムが電源断等で不当に停止した場合に、システム再起動後に、インベントリ管理サーバが起動できない場合がある....183
10.1.12 資源配付サービスを起動しようとするとService Control Managerエラーが発生する....183
10.2 CPU使用率が100％になるトラブル....184
10.2.1 drmsn.exeがアプリケーションエラーを発生し、資源配付サービスが停止される....184
10.2.2 「drmsdfn -a sys」、「drmsdlt -a sys」を繰り返し実行すると、ディスクビジーになる....185
10.3 CSV検索用サンプルプロシジャが動作しないトラブル....185
10.3.1 drmscsv.xlsが正しく動作しない....185
10.4 強制配付機能に関するトラブル....186

10.4.1 Windows 9x系のクライアントに強制配付を実行したところ、エラーメッセージが出力され、強制配付操作が失敗する....186
10.4.2 Systemwalker Operation Managerから強制配付コマンドを実行すると、エラーが出力される....187
10.4.3 強制配付で資源配付を実施したところ、エラーログファイルに「Server OWN クライアント数超過」が表示される....188
10.4.4 部門管理/業務サーバに強制配付に関するデータが流れてしまう....188
10.4.5 強制配付画面でクライアントの選択ができない....188
10.4.6 [資源配付]ウィンドウの「強制配付」-「システム構成」の画面で「最新の情報に更新」を実行すると、「正常:XX」「異常:XX」のカウントをしている途中で、「強制配付」の画面が消えてしまう....189
10.4.7 drmsfsdcコマンドで強制配付を実行しようとすると、アプリケーションエラーが発生した....190
10.4.8 クライアントに対して強制配付を行ったところ、通常配付に比べて配付時間が大幅に長くなる....190
10.4.9 強制配付のウィンドウでグループ作成時に、エラーメッセージが出力される....190
10.4.10 強制配付によって資源を配付できない....191
10.4.11 強制配付の対象となっているクライアントにおいて、処理結果画面が表示されない、操作(ダウンロード、アップロード、環境設定など）が行えないことがある....191
10.5 変更したDRMS編集ファイルの内容が有効にならないトラブル....192
10.5.1 変更したDRMS編集ファイルの内容が有効にならない....192
10.5.2 接続先システムの認証チェックの設定(connect.ini)機能が動作しない....192
10.5.3 運用管理サーバの資源保有世代のオプションを変更したが、過去資産が削除されない....193
10.6 バックアップ/リストアに関するトラブル....193
10.6.1 運用管理サーバ自身の資源が復元されない....193
10.6.2 MPBKCコマンドで環境退避を実施したところ、DRMS資源のバックアップ中にエラーメッセージが出力された194
10.7 資源配付ユーティリティコマンド全般に関するトラブル....194
10.7.1 資源配付用のコマンドを実行すると、エラーメッセージが出力され、失敗する....194
10.7.2 資源配付用のコマンドが時間が経過しても復帰してこない....195
10.7.3 DOSプロンプトで、ネットワークドライブをカレントにして、資源配付用のコマンドを実行すると失敗する196
10.7.4 シェルスクリプトで資源配付のコマンドのオプションに#付きの引数を指定すると、コマンドがエラーとなる場合がある....196
10.8 そのほかのトラブル....197
10.8.1 SolarisのSystemwalker Centric ManagerとGSのDRMS間の定義がよくわからない....197
10.8.2 KERNEL32.DLL、COMCTL32.DLL、USER32.DLLなどの初期化エラーが発生する....200
10.8.3 [イベントID:500]のエラーメッセージが出力され、資源配付ができない....201
10.8.4 DRMSデーモン起動中、エラーコードENOSPCのエラーが発生し、DRMSデーモンが停止してしまうことがある203
10.8.5 ポートスキャンを実行すると、再起動が必要である旨のシスログ(イベントログ)が出力される....204
10.8.6 サーバ側の資源配付インストールディレクトリのディスクパーティションが空き容量不足になる....205
10.8.7 運用管理サーバ上でメンテナンス版数/個別資源を削除すると、世代不整合エラーが発生するようになった..205
10.8.8 資源配付がhttp通信およびhttps通信で使用するポート番号が他のアプリケーションと重複する....205
10.8.9 Linux版の資源配付デーモンの起動抑止方法がわからない....206
10.8.10 システム再起動時に資源配付（drmsdemon）が起動されない....207
10.8.11 時間の経過とともに運用管理サーバの資源配付の操作で遅延が発生するようになるが、資源配付を再起動することで解消する....210
10.8.12 メンテナンス版数を削除した場合に「SYSLEVEL」資源グループが残る....212
10.8.13 クラスタ環境で保守情報を収集しようとすると、エラーメッセージが出力される....213

第11章 そのほかのクライアントに関するトラブルシューティング....214
11.1 サービス起動に関するトラブル....214
11.1.1 ダウンロード機能をサービスから実施しようとした場合に、ダウンロード処理は終了しているのに、サービスが停止しない....214
11.1.2 アイコンクリックによるダウンロードは正常終了するのに、サービスからのダウンロード処理を実行すると適用エラーが発生する....214
11.1.3 ログインするアカウントに対してセキュリティをかけている場合に、サービス起動を設定し、ログインした後エラーメッセージが出力される....214
11.1.4 サーバ側で「TCPセション切れ」、クライアントで同一時刻に「受信中断」エラーが発生した....215
11.1.5 Windows XPの制限付きアカウントでログインした場合、資源配付ダウンロード機能が使えない....215
11.1.6 ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップを行ったところ、ダウンロード、適用および適用結果通知は正常終了しているにもかかわらず、必ずastart.batが実行される....216

11.1.7 資源配付クライアントのダウンロードの設定で、[システム起動時のダウンロード]にチェックしたが、サービス起動によるダウンロードが実行されない....216
11.1.8 Windows 2000の環境で、クライアントのダウンロード中にCtrlキー、AltキーおよびDelキーを同時に押すと、ログインもシャットダウンもできなくなることがある....217
11.1.9 「Systemwalker MpDTPDmiClient」サービスのスタートアップの種類が「自動」であるにも関わらずサービスが起動していない....217
11.2 スタートアップ拡張機能に関するトラブル....218
11.2.1 スタートアップ拡張に登録したバッチファイルが二重起動される....218
11.2.2 「不正な処理を行っている」というポップアップメッセージが出力される....218
11.2.3 ダウンロードを実行すると警告メッセージボックスが表示される....219
11.2.4 システム起動時のダウンロードを行っているが、スタートアップ拡張からダウンロード処理が実行されなくなってしまった....219
11.2.5 Systemwalkerの資源配付クライアント機能をインストールすると、スタートメニューに「DRMS正常スタートアップ」と「DRMS異常スタートアップ」が登録されているが、他の同バージョンの資源配付クライアントでは「資源配付正常スタートアップ」と「資源配付異常スタートアップ」の表現になっている場合がある....219
11.2.6 ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップを行ったところ、ダウンロード、適用および適用結果通知は正常終了しているにもかかわらず、必ず異常スタートアップが起動される....220
11.2.7 「APEX.EXEを終了します。」というポップアップメッセージが出力される....221
11.3 強制配付機能のトラブル....221
11.3.1 アイコンクリックによるダウンロードは正常終了するのに、サービスからのダウンロード処理を実行すると適用エラーが発生する....221
11.3.2 MpdrmsclFsdサービスが起動しない....221
11.3.3 サーバ配下のクライアントに対する強制配付に失敗しました....222
11.4 そのほかのトラブル....222
11.4.1 一般ユーザが資源配付クライアントを操作すると時間がかかる....222
11.4.2 Windows 98クライアントに資源配付をインストールすると、システムのシャットダウンができなくなる....223
11.4.3 クライアント動作時にエラーメッセージ「KZBY905」が表示される....223
11.4.4 クライアントのmainte.logファイルに「シャットダウン関数を実行します」と出力される....224
11.4.5 サーバ側のサービスのスタートアップアカウントを変更したが、クライアントのセション開設設定のパスワードを変更していないにもかかわらず、ダウンロードが正常終了する....225
11.4.6 セットアップ機能を初回に起動すると、[実行環境設定]画面しか表示されない....225
11.4.7 システム構成によって「資源グループに受信対象世代がありません」の出力方法が異なる....227
11.4.8 「移入対象資源が存在しません」というエラーメッセージが出力される....227
11.4.9 オフライン配付で移出した資源を、部門管理サーバに移入したが、配下クライアントに対してダウンロードできない....228
11.4.10 クライアントのIPアドレス変更後、強制配付に失敗する....228
11.4.11 [資源配付クライアント設定]を起動するとエラーメッセージ「KZBY152」が表示される....228

第12章 調査資料の採取方法....230
12.1 資源配付のトラブル調査資料の採取について....230
12.2 資源配付サーバのトレース情報の採取方法....235
12.3 資源配付クライアントのトレース情報の採取方法....235
12.4 リモートインストールでトラブルが発生した場合の調査資料の採取方法....236

付録A 本書の表記、登録商標について....239
A.1 本書の表記について....239
A.2 登録商標について....246

第1章 全般

1.1 処理に失敗した場合の異常事象の調べ方が分からない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処

確認ポイント

資源配付のイベントやメッセージを確認しましたか。

対処方法

- 【Windows版】
  - サーバの場合

    イベントビューアのアプリケーションログのソース[drms]のイベントを確認し、配付に失敗した原因をオンラインマニュアルから調査します。
  - クライアントの場合

    メンテナンスログのエラー情報を確認し、配付に失敗した原因をオンラインヘルプから調査します。
- 【UNIX版】

  コンソールメッセージから[drms]のメッセージを確認し、配付に失敗した原因をオンラインヘルプから調査します。

上記を確認してもわからない場合は、まず保守情報収集ツールで、採取可能な必要情報を採取してください。

次に“調査資料の採取方法”を参照の上、更に必要な情報を採取してください。

以上の情報採取完了後、システムのサポート契約先に連絡してください。

第2章 製品インストールに関するトラブルシューティング

2.1 既に統合製品(Systemwalker Centric Manager)がインストールされている環境に、単品製品(Systemwalker Software Delivery、DRMSplusまたはDRMS)をインストールしようとするとインストール処理が失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

製品仕様です。統合製品は単品機能を包含しているため、同一コンピュータにインストールできないよう考慮されています。なお、単品製品がインストールされている環境に統合製品をインストールすることは可能ですが、その場合でも上書きイメージで同一コンピュータ上で複数資源配付機能が動作することはありません。

対処方法

統合製品の資源配付機能を使用するようにしてください。

統合製品と単品製品とのシステム構成上の混在運用については、V5.0L30以前では不可です。

なお、V10.0以降からは、上位がSystemwalker Centric Manager/下位がSystemwalker Software Deliveryについてだけ可としています。

2.2 応急修正または緊急修正を適用させようとしたが、復帰コード2で失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

例

TP04709を適用しようとして以下のパッチエラーログが出力され復帰コード2で失敗した。

エラーメッセージ

```
ERROR: The file copy went wrong to from
[c:¥temp¥sw_update¥drms2003011054769¥master¥drmscd.exe]
to [C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmscl¥drmscd.exe]. (3.32)
```

確認ポイント

資源配付クライアントの常駐プロセスがすべて終了していますか。

上記の例の場合は、MpDrmsclサービス（drmscd.exe）が終了していません。

注意

上記の他、以下の常駐プロセスの停止が必要です。

- サービスタスクトレイの双眼鏡アイコン（schdrms.exe）
- 強制配付のMpDrmsclFsdサービス（Windows NT、Windows 2000およびWindows XPのクライアントの場合：drmsfcln.exe、Windows 95、Windows 98およびWindows Meのクライアントの場合：drmsfcl9.exe）。

対処方法

Windows NT、Windows 2000およびWindows XPのクライアントの場合：タスクマネージャで、Windows 95、Windows 98およびWindows Meのクライアントの場合：Ctrl+Alt+Deleteキーを押して、“drms”という文字列を含むexeが実行中でないか確認し、実行中の場合は停止させてください。

資源配付クライアントの常駐プロセスがすべて停止していることを確認した後、応急修正または緊急修正の適用を再実行してください。

2.3 簡易資源配付機能をインストール選択していないのに、簡易資源配付用のフォルダが作成され、共有化される場合がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V11.0L10

原因

インストール時、資源配付機能を選択した場合に、簡易資源配付機能だけで使用する共有フォルダ(MPCMINST)を設定したためです。

確認ポイント

以下の共有設定について、確認してください。

- 簡易資源配付機能の導入確認

  スタートメニュー[環境設定]-[デスクトップ管理クライアント設定]があれば、簡易資源配付機能は導入済みです。存在しなければ導入されていません。

- 共有設定の確認

  以下のどちらかの方法で共有設定を確認してください。

  - エクスプローラによる確認

    Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.dm¥Mpcompsv¥Mpcminstに共有設定が行なわれていることを確認します。

  - コマンドによる確認

    コマンドプロンプトから、“net share”コマンドを起動し、その結果に共有フォルダ(共有名:MPCMINST)の存在を確認します。

対処方法

簡易資源配付機能が未導入の場合に共有フォルダ(MPCMINST)を設定している場合は、共有を解除してください。セキュリティの脆弱性も低くなります。

- 共有解除の方法

  以下のどちらかの方法で共有を解除してください。

  - エクスプローラからの解除

    Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.dm¥Mpcompsv¥Mpcminstに設定された共有設定を解除します。

－ コマンドからの解除

コマンドプロンプトから、“net share 共有名（MPCMINST） /delete”コマンドを起動し、その結果、共有フォルダ(共有名:MPCMINST)の存在が無いことを確認します。

補足

簡易資源配付機能だけで必要な共有設定のため、設定自体を手動で解除することに問題はありません。また、設定をそのままの状態にしても、運用管理サーバ上のファイルが更新、削除される等の問題は発生しません。

2.4 SystemWalker/CentricMGRをインストールしようとすると、エラーメッセージが出力されてインストール処理が失敗する

エラーメッセージ

セットアップ初期化エラー：105

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V5.0L30

確認ポイント

Microsoft(R)のhotfix(KB840987)がインストール済みではありませんか。

インストール済みの環境である場合、本現象が発生する場合があります。

対処方法

hotfix(KB840987)をアンインストール後に、SystemWalker/CentricMGRのインストールを、以下の手順で実施してください。

1. hotfix(KB840987)をアンインストールします。
2. SystemWalker/CentricMGR をインストールします。
3. hotfix(KB840987)をインストールします。

2.5 資源配付のサーバ機能のインストールに失敗することがある

資源配付のサーバ機能をインストールすると、以下のメッセージが表示されてインストールに失敗することがあります。

エラーメッセージ

25145アンインストールを実行後再度インストールして下さい

本ポップアップメッセージが連続で出力されます。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

環境変数“drmsroot”が異常になっていませんか。

インストーラがアップデートインストールと判断し、インストールされている資源配付のサーバ種別を取得しようとしましたが、該当する情報が存在しなかったため異常終了している可能性があります。

通常、アップデートインストールの場合は以下の情報が存在しますが、環境異常などにより、サーバ種別の情報が存在しない場合に本現象が発生します。

- “drmsroot”環境変数

・ 資源配付のサーバ種別情報

対処方法

環境変数“drmsroot”が存在するか確認してください。

環境変数“drmsroot”が存在する場合は、以下の対処を実施してください。

1. 環境変数“drmsroot”を削除します。
2. 環境変数“path”に“%drmsroot%¥bin”の値(注)がエントリされている場合は、該当値だけを削除します。

   注) 例えば“C:¥win32app¥drms¥bin”といった値
3. システムを再起動します。
4. 資源配付をインストールします。

2.6 Solaris版 SystemWalker/CentricMGR 5.xのインストールを行うと、FJSVsapagパッケージのインストールが失敗する

Solaris版 SystemWalker/CentricMGR 5.xのインストールを行うと、FJSVsapagパッケージ(アプリケーション管理のパッケージ)のインストールが失敗することがあります。

【発生手順】

1. Solaris版 Systemwalker CentricMGR 10.0以降をインストールする。
2. “1.”の製品をアンインストールする。
3. Solaris版 Systemwalker CentricMGR 5.xをインストールする。

対象バージョンレベル

・ Solaris版 5.0以降

確認ポイント

/etc/servicesファイルにポート番号2510がすでに定義されていませんか。

本事象では、/etc/servicesファイルにポート番号2510がすでに定義されているため、FJSVsapagパッケージのポート番号定義チェック処理でエラーとなり、インストール処理が失敗しています。

対処方法

以下の手順で/etc/servicesファイルのポート番号2510が定義されている行を削除したあとで、再インストールを行ってください。

1. Solaris版 Systemwalker CentricMGR 10.0以降をアンインストールします。
2. /etc/servicesファイルのポート番号2510が定義されている行を削除します。
3. Solaris版 Systemwalker CentricMGR 5.xをインストールします。

2.7 SystemWalker/SoftDeliveryのクライアント機能をインストールしようとすると、エラーメッセージが表示されてインストールできない

SystemWalker/SoftDeliveryのクライアント機能をインストールしようとすると、以下のエラーメッセージが表示されてインストールができないことがあります。

エラーメッセージ

```
インストーラの起動に失敗しました。161
```

対象バージョンレベル

- SoftDelivery
  - V5.0L30以前

原因

エラーメッセージの可変情報“161”は、“指定されたパスが無効”を意味しています。

インストーラ起動時にパスが無効な原因として、以下が考えられます。

- ローカルなデバイスからインストールしていない。
- ネットワークデバイスからインストールを実行している場合に、ネットワーク接続(ドライブの割り当て)が完了していない。
- インストール実行アカウントにインストーラフォルダ内の実行モジュールに実行権限がない。

注意事項はソフトウェア説明書に記載しています。

確認ポイント

インストール媒体の設置場所をネットワークドライブに割り当てていますか。

対処方法

インストール媒体の設置場所にネットワークドライブを割り当ててください。

備考

SystemWalker/SoftDelivery V10.0以降では、ネットワークドライブを割り当てていないと、インストールできない旨のメッセージを出力して処理中断するようプログラム改修されています。

2.8 運用管理クライアントをインストールすると、資源配付コンポーネントのインストールに失敗する

運用管理クライアントをインストールすると、資源配付コンポーネントのインストールが以下のエラーで失敗することがあります。

エラーメッセージ

【メッセージ出力例】

```
9-20-2003 17:16:56 Start CallComponentInstall=mpdrmsop
9-20-2003 17:16:56 Start Installer=F:¥WIN32¥mpdrmsop¥DISK1¥SETUP.INX
                   /IC:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmsop /g
9-20-2003 17:17:13 Error !! CallComponentInstall=
                   F:¥WIN32¥mpdrmsop¥DISK1¥SETUP.INX
                   /IC:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmsop
                   /g nRc:-2147024891(30282000)
```

エラーメッセージは、“Windowsインストールディレクトリ¥mpinstd.log”に出力されます。

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降

原因

OSの障害(パッチ番号：MS02-071/Q328310)およびInstallShield 6の不具合が原因の可能性があります。

対処方法

コンピュータの環境を確認の上、以下の対処を行ってください。

- Microsoftのパッチ(パッチ番号：Q814995)の適用
- 運用管理クライアントの再インストール

2.9 クライアント機能の新しいバージョンをインストールして失敗した後に、古いバージョンをインストールするとセットアップ情報を入力できない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

- クライアント機能の新しいバージョンをインストールしたときにアプリケーションエラーが発生していませんか。
- DRMS管理ファイルを初期化しないで再使用しようとしていませんか。

対処方法

クライアント機能の複数のバージョンについて、古いバージョンを再インストールする場合は、別のディレクトリを指定してください。また、DRMS管理ファイルも初期化してください。

2.10 クライアント機能をインストールすると、インストーラから長時間にわたって応答が返ってこないことがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

クライアントのコンピュータにFEPソフト(カナ漢字変換ソフト)として、OAKまたはJapanistをインストールしていませんか。

OAKまたはJapanistがインストールされているコンピュータに資源配付クライアント機能をインストールすると、長時間にわたって応答が返ってこない可能性があります。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. OAKまたはJapanistをアンインストールします。
2. 資源配付クライアント機能をインストールします。
3. OAKまたはJapanistをインストールします。

2.11 クライアント機能をアンインストールした後で、再インストールを行うと、「インストール済みです」とポップアップメッセージが出力される

クライアント機能をアンインストールした後で、再インストールを行うと、以下のポップアップメッセージが出力されることがあります。

エラーメッセージ

インストール済みです

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

アンインストールする前の環境が残っている可能性があります。

対処方法

クライアント機能をアンインストールしてコンピュータの再起動を行った後に、以下の情報が残っていないか確認してください。
情報が残っている場合は削除してください。

- インストールディレクトリ
- 環境変数DRMSC
- 環境変数PATH内のインストールディレクトリ
- レジストリ

  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥DRMSCL

  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥MpdrmsclFsd
- プログラムグループ

  資源配付正常スタートアップ

  資源配付異常スタートアップ
- スタートアップ内のアイコン

  資源配付クライアント スタートアップ拡張

2.12　緊急修正を適用しようとしたら、エラーが発生し適用できない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

コマンド実行カレントは、修正格納ディレクトリに移動していますか。

対処方法

カレントディレクトリを修正格納ディレクトリに移動してから実行してください。

対処2

確認ポイント

ほかのアプリケーションが動作していませんか。

対処方法

ほかのアプリケーションを停止させてから、緊急修正を適用してください。

2.13 応急修正の適用処理中にFile I/Oエラーが発生し、適用が失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

事例

インストール処理中の[コマンド プロンプト]ウィンドウのログ

```
f3cqnpe.exe
: |##########################----+----+----+----+----|
File I/O error
TP04824,2,20030331,00:01
```

確認ポイント

応急修正のファイル自身が壊れている可能性があります。修正物の入手手順に誤りまたは問題が発生していませんか。

対処方法

再度、応急修正を入手して適用してください。

第3章 定義/登録に関するトラブルシューティング

3.1 新規業務を作成して、資源登録後にメンテナンス版数へ登録を行うと、エラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する

エラーメッセージ

エラー：01003：RMSLEVEL.“版数名”には登録対象となる資源がありませんでした

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

新規作成した業務に登録した資源グループが、メンテナンス版数の登録対象資源として認識されていません。新規に作成した業務がメンテナンス版数に定義されていないと考えられます。

対処方法

コマンドによりメンテナンス版数に、新しい業務を追加する場合、メンテナンス版数の定義情報を削除した後に、追加する業務を含めたすべての業務を再定義する必要があります。以下の手順で新規業務をメンテナンス版数に追加してください。

1. 追加する業務構成の定義

   以下のコマンドを実行します。

   ```
   drmsdfn -a job -j 業務名 -g 資源グループ名
   ```

2. メンテナンス版数の定義情報の削除

   以下のコマンドを実行します。

   ```
   drmsdlt -a rms -d dfn
   ```

   -d dfnオプションを省略した場合、メンテナンス版数に登録した資源、配付状況を含むすべてのメンテナンス版数情報が削除されます。

3. メンテナンス版数情報を再定義

   以下のコマンドを実行します。業務名1、2には、追加する業務名、既存業務名を指定します

   ```
   drmsdfn -a rms -j “業務名1,業務名2,・・・”
   ```

   -jオプションを省略した場合は、サーバで定義されている業務情報すべてが反映されます。

   「drmsdfn -a rms -j “業務名1,業務名2,・・”」のコマンドラインが253文字を超える場合は、-Mオプションにより、定義する業務名を格納したファイル名を指定します。

3.2 資源登録時にエラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する

エラーメッセージ

エラー：00220：コマンド実行中にエラーが発生しました.エラーコード（ENOTSUPPORT），詳細情報（compress.exe “圧縮元作業ファイル名”“圧縮先作業ファイル名”）

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

圧縮コマンドの実行に失敗しています。compress.exeが資源配付で使用できないレベルです。

対処

資源登録時に資源を圧縮する場合、資源配付はソフトウェア開発キット（SDK）に含まれるcompress.exeコマンドを使用します。

8.3形式に準拠していない長いファイル名で作成されたファイルを圧縮して資源登録する場合には、対応するcompress.exeを使用してください。

3.3 メンテナンス版数へ登録を行なうと、エラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する

エラーメッセージ

```
エラー：00220：コマンド実行中にエラーが発生しました。エラーコード（EINVAL）,
詳細情報（RMSLEVEL cannot be add,Because already received.）.
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

メンテナンス版数の定義/登録したサーバ（通常は運用管理サーバ）以外で、メンテナンス版数を登録しようとしていませんか。

対処方法

メンテナンス版数の定義/登録したサーバで、登録処理を実施してください。

3.4 資源のアップロード時に、ディスクの空き領域が不足していて、エラーメッセージダイアログボックスが出力された

エラーメッセージ（ダイアログボックス）

```
空き領域が不足しています。ゴミ箱の中身を削除していいですか
```

上記エラーメッセージダイアログボックスが出力されたまま、アップロード処理が正常終了します。しかし、この資源を配付後、クライアントでダウンロードすると、KZBY152の適用エラーとなります。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

資源配付クライアント側で使用するハードディスクの容量が不足していませんか。

対処方法

アップロード時に、本エラーが出力された場合は、資源配付クライアント側のディスクの空き容量を確保し、アップロード処理を再実行してください。

また、すでに配付してしまった場合は、以下の手順で対処してください。なお、項番“1.”および“2.”はアップロード先サーバ上での操作となります。

1. [資源配付]ウィンドウの[ソフトウェア構成]サブウィンドウで、一度配付した資源を選択します。
2. [アクション]-[資源の削除]を選択し、[資源の削除]ダイアログボックスから、選択した資源を削除します。
3. アップロード端末で容量不足を解消します。
4. 資源のアップロードを実施します。

対処2

確認ポイント

アップロード時に資源の圧縮機能を使用していませんか。

対処方法

圧縮したファイルを開いたときに、ディスクの空き容量が不足しています。“対処1”の対処方法を参照し、対処してください。

3.5　drmsaddコマンドで資源登録に失敗する

エラーメッセージ

エラー：00223：‘登録済情報’はDRMS管理ファイルに既に登録されています.
エラー：00225：‘登録情報’は最新世代識別名，または修正レベルではありません.
エラー：00227：‘適用情報’は既に適用されています.

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

以下の資源登録処理を実行した場合、二重登録のエラーとなります。

- 複数世代の最新世代以外に対する資源登録
- 適用済み資源に対する資源登録

対処方法

同じ資源グループで再度登録（置き換え登録）できるのは、未適用の最新世代だけです。-eオプションで指定した世代名を見直してください。

備考

-eオプション

登録するユーザ資源の所属する資源グループの世代識別名を指定します。世代識別名は、ASCII(8文字以内)の英数字で指定します。

3.6 資源配付で文字コード"SJIS"上で作成した日本語を含むファイル(コードSJIS)を"EUC"のSolarisサーバで資源登録したが、正常に資源登録ができなかった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

マルチバイト文字（2バイト以上のデータで表現される文字）が含まれるファイル名を、システムのコード系と食い違ったコードのまま資源登録していませんか。

対処方法

マルチバイト文字が含まれるファイル名をシステムのコード系と食い違ったコードのまま資源登録すると、正常にファイル名を処理できません。以下の対応を実施してください。

- ファイル名をコード変換してEUCで正常に扱える名前とする。
- 資源配付のシステム構成上(UNIX系もPC系に合わせる)すべてSJISモードで動作させる。

3.7 drmsaddコマンドでワイルドカード指定すると資源が登録されないことがある

対象バージョンレベル

- 5.0以降

原因

シェルスクリプトで引数にワイルドカード文字を指定した場合、引数がダブルクォーテーション("")で囲まれていないことが考えられます。

drmsaddコマンドでは、-fオプションに指定された文字列にワイルドカード文字(“*”または“?”)が存在した場合、条件と一致するファイルを抽出し、資源として登録します。この場合、drmsaddコマンドに“*”(または“?”)が文字として渡される必要があります。

確認ポイント

サーバ上で、以下の条件で資源の登録を行っていませんか。

- シェルスクリプトでdrmsaddコマンドを実行する。かつ
- -fオプションの引数としてワイルドカード文字“*”を指定する。

対処方法

drmsaddコマンドの-fオプションにワイルドカード文字を指定する場合は、必ず設定値をダブルクォーテーション("")で囲んでください。

- コマンド実行例

```
# drmsadd -a rsc -d bnry -g shsvikkatsu -e RMS00010 -b,/hosyu/
RZ_SH_DELIVER.sh -f "/export/home/homu01/shigenn/*" -l shsv -r
souce1 -K quick
```

3.8　メンテナンス版数を登録すると、過去のメンテナンス版数に登録済の資源グループの世代も含めて登録されてしまう

確認ポイント

```
＜drmslst -a rmsの表示例＞　●：問題個所を示す
RMSLEVEL
RMS00043   200701010000 * * * 1 10,000
JOB1 43 0 0
RSG * GEN00043 pc#bin TMP comm
RSG * GEN00041 pc#bin TMP comm
RSG * GEN00040 pc#bin TMP comm
RSG * GEN00039 pc#bin TMP comm
RSG * GEN00038 pc#bin TMP comm
        :
        :
RSG * GEN00002 pc#bin TMP comm
RSG * GEN00001 pc#bin TMP comm

RMS00042   * 1
JOB1 1 0 0
RSG * GEN00042 pc#bin TMP comm●

RMS00041   * 1
JOB1 1 0 0
RSG * GEN00041 pc#bin TMP comm
        :
        :
RMS00001   * 1
JOB1 1 0 0
RSG * GEN00001 pc#bin TMP comm
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

資源配付機能では、メンテナンス版数が存在する場合、メンテナンス版数自体に、資源グループ内の最新世代は現在どの世代かという情報を記憶しています。
メンテナンス版数内の資源グループの最新世代が削除されてしまうと、現状存在する世代情報が正確ではないと判断するため、過去のメンテナンス版数に登録済みの資源グループ内の全世代情報も含めて登録してしまいます。

例：資源グループＡの最新世代をGEN00042（メンテナンス版数の世代RMS00042に登録済）とした場合

- 世代GEN00042もRMS00042もそのままある状態で、次のGEN00043を登録しRMS00043に登録した場合
- → RMS00043には、GEN00043だけが登録される。（正常）
- 世代GEN00042を消去してRMS00042も削除して、次のGEN00043を登録しRMS00043に登録した場合
- → RMS00043には、GEN00043だけが登録される。（正常）
- 世代GEN00042を消去してRMS00042を削除しないで、次のGEN00043を登録しRMS00043に登録した場合
- → RMS00043には、GEN00001(最古の世代)～GEN00041とGEN00043が登録されてしまう。（本事例パターン）

確認ポイント

削除対象の資源グループの該当世代は、既にメンテナンス版数のある世代に登録済の状態であるが、メンテナンス版数の該当世代を削除せずに、資源グループの該当世代だけを過去に削除したことはないですか。

対処方法

以下の方法でメンテナンス版数を再度登録し直してください。

1. 過去の資源グループ世代が登録されたメンテナンス版数の世代を削除する。
2. 削除してしまった資源グループ内の世代を再登録する。
3. 次世代の版数内資源を登録する。
4. 登録しようとしていたメンテナンス版数を再度登録する。

3.9 メンテナンス版数を登録すると、長時間にわたって応答が返ってこない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

大量の世代数の資源グループを登録しようとしていませんか。

対処方法

登録する資源グループ数が多いので、時間がかかっているだけです。処理が終了するまでしばらくお待ちください。

対処2

原因

すべての過去の世代を含めて最新世代まで、現在登録しようとしているメンテナンス版数の最新世代に再登録するために時間がかかっています。

確認ポイント

メンテナンス版数の最新世代を削除せずに残した状態で、最新世代に含まれる資源グループの世代情報を削除していませんか。

また、その状態でメンテナンス版数を新たに追加登録しようとしていませんか。

対処方法

以下の方法でメンテナンス版数を再度登録し直してください。

1. 過去の資源グループ世代が登録されたメンテナンス版数の世代を削除する。
2. 削除してしまった資源グループ内の世代を再登録する。
3. 次世代の版数内資源を登録する。
4. 登録しようとしていたメンテナンス版数を再度登録する。

3.10 メンテナンス版数の登録で、[メンテナンス作業の追加]を設定して[OK]ボタンを押すと、エラーメッセージが表示される

エラーメッセージ

bin 1 適用先IDが指定されていません

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

メンテナンス版数に登録する資源グループの適用システム種別は正しいですか。

サーバ用の資源、サーバ・クライアント共通資源の場合は、適用先IDを定義する必要があります。
クライアント用の資源の場合は、適用先IDを定義する必要はありません。

対処方法

メンテナンス版数に登録する資源グループについて、以下のどちらかの方法によって、定義を変更してください。

- サーバ用の資源、サーバ・クライアント共通資源の場合は、適用先IDを定義してください。
- クライアント用の資源の場合は、適用先IDを定義する必要はありません。

3.11 ポリシー資源を作成すると、「サーバ(サーバ名)は既に別のポリシーが関連付けられています。ポリシーを置き換えますか?」とポップアップメッセージが出力される

上書き確認画面のエラーメッセージ

サーバ(サーバ名)は既に別のポリシーが関連付けられています。ポリシーを置き換えますか?

原因

同一のシステム定義が、複数のシステムグループに所属しています。

対処

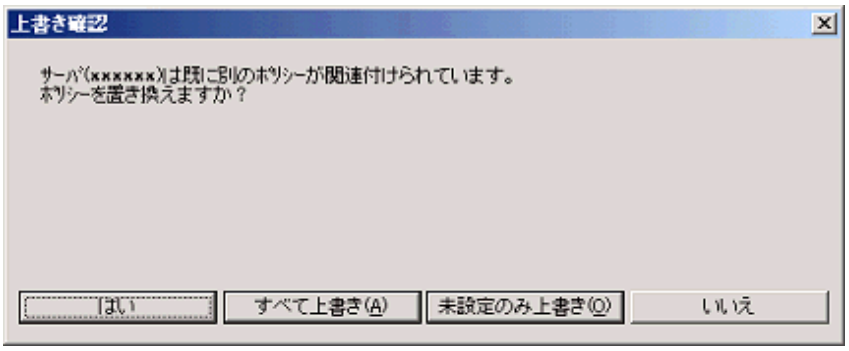
確認ポイント

同一システム定義が、複数のシステムグループに所属する関係にありませんか。

対処方法

ボタン設定内容を理解した上で、適切なボタンを選択してください。

各ボタンの設定内容



- 『はい』を選択した場合

  システムのポリシー情報を上書きします。

- 『すべて上書き』を選択した場合

  「はい」の選択と動作は同様です。違いは、上書き確認のダイアログによる問い合わせなく、「はい」の動作を一括して行います。

- 『未設定のみ上書き』を選択した場合

  ポリシー情報が既に設定されているシステム定義が存在し、且つ、他にポリシー情報がないシステム定義（またはシステムグループ）が存在するときだけ有効となります。
  (設定しようとするポリシー情報がどちらにも存在しないとき、つまり新しいポリシー情報時は、ベースとするポリシー情報が存在しないため、「対象サーバが指定されていない」といったメッセージが出力され、ポリシー設定は行われません。)

- 『いいえ』を選択した場合

  ポリシー情報の上書きを行わず、処理を中断します。

3.12 個別メンテナンス版数の作成時に、特定の業務が登録範囲に追加できない

原因

対象の業務が、他のメンテナンス版数に登録されています。
既に他のメンテナンス版数に登録されている業務を、別のメンテナンス版数の登録範囲に指定することはできません。

対処方法

メンテナンス版数と業務の関係定義を、以下の手順で再設定後、本来定義したいメンテナンス版数の定義を実施してください。

1. メンテナンス版数と業務の関連付けを解除する

   ```
   drmsdlt -a rms -d dfn -v [登録したい業務が誤って所属しているメンテナンス版数名]
   ```

   ※メンテナンス版数に定義されている各業務の所属定義が削除されます。

2. メンテナンス版数の登録対象の業務を定義する

   ```
   drmsdfn -a rms -v [1.で指定したメンテナンス版数名] -j [メンテナンス版数に所属すべき業務名]
   ```

   ※メンテナンス版数と業務の所属定義が復元されます。所属すべき業務が複数ある場合は、カンマ(,)で区切って指定してください。

3.13 クライアントへのポリシー設定を行うとき、1つのポリシーにて2回同じ業務名の定義をすると、2回目の設定しか有効になりません

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

クライアントへのポリシー設定を行うとき、1つのポリシーで2回同じ業務名の定義を行なっていませんか。

原因

クライアントポリシーの設定で、１つのポリシー内で同じ業務に対して2回設定を行うと、1回目の設定に上書きされて2回目の設定だけが有効になるためです。

対処方法

配付対象のクライアントごとにポリシーを分けるなどで、１つのポリシーで同じ業務名の定義を行なわないようにしてください。

第4章 配付に関するトラブルシューティング

4.1 サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル

4.1.1 送信中に通信エラーが発生して、資源の送信処理に失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

あて先システムのコンピュータは起動していますか。

対処方法

あて先システムのコンピュータの起動状態を確認し、停止している場合は、あて先システムを起動してください。

対処2

確認ポイント

あて先システムの資源配付サービス/デーモンが停止されていませんか

対処方法

あて先システム（配付先）の資源配付サービスの開始、またはデーモンの起動状態をOSごとに以下のように対処してください。

- [Windows版の場合]

  [コントロールパネル]-[サービス]で、以下のサービスを確認し、停止している場合は、起動してください。

  ```
  Systemwalker MpDrms
  ```

- [UNIX版の場合]

  1. 以下のコマンドを実行し、資源配付デーモン/プロセスの起動状況を確認してください。

     ```
     ps -ef | grep drms
     ```

  2. 資源配付デーモンが起動されていない場合は、以下のコマンド実行します。

     ```
     drmsd -s
     ```

対処3

確認ポイント

ホスト名運用（DRMS編集ファイル上で、nametypeに“HOST”を指定）で、システムのhostsファイルに配付対象のホストのノード名が登録されていますか。

対処方法

システムのhostsファイルを確認し、配付対象のホストのノード名が登録されてない場合は、ホスト名を登録してください。

対処4

確認ポイント

ホスト名運用（DRMS編集ファイル上で、nametypeに“HOST”を指定）で、配付対象のホストのノード名が、別名として登録されていませんか

例）SOUMU_Serverが配付対象のホスト名の場合

```
111.222.333.444  EIGYOU_Server  SOUMU_Server
```

対処方法

システムのhostsファイルを確認し、以下のどちらかの方法で対処してください。

- 配付対象のホストのノード名が別名として登録されている場合は、本名をホストのノード名として使用してください。
- 配付対象のホストのノード名が本名となるように、hostsファイルを修正してください。

対処5

確認ポイント

システムのSERVICESファイルに資源配付のポート番号が登録されていますか。

対処方法

システムのSERVICESファイルに、以下の資源配付のポート番号を登録してください。

サーバ・サーバ間のTCP/IP通信： drmsserv　9324/tcp

サーバ・サーバ間のHTTP通信： drmshs　9394/tcp

サーバ・サーバ間のHTTPS通信： drmshss　9398/tcp

対処6

確認ポイント

ホスト名運用（DRMS編集ファイル上で、nametypeに“HOST”を指定）で、配付対象のホストのノード名の大文字小文字は、正しく定義されていますか。

対処方法

資源配付ではノード名の大文字小文字を区別して認識します。ノード名は大文字小文字を正しく定義してください。

対処7

確認ポイント

資源配付インストールディレクトリのetcディレクトリ配下に、connect.iniファイル（接続可能ノード一覧）を設定していませんか。

対処方法

connect.iniファイルは、接続サーバを限定する定義をしています。

接続可能サーバ名を定義しているが、該当サーバの定義がないために、接続拒否されています。接続サーバを限定している場合は、connect.iniファイルに該当サーバの定義を追加してください。接続サーバを限定していない場合は、connect.iniファイルを削除してください。

4.1.2　送信中に世代不整合となって、資源の配付処理に失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

世代不整合が発生したサーバ（中継サーバまたは部門管理サーバ）のDRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）を復元した、または資源配付後に最新世代の削除を行っていませんか。

対処方法

世代不整合が発生したサーバ（中継サーバまたは部門管理サーバ）に対して、運用管理サーバから最新世代を配付して、不足している世代を復旧してください。

最新世代の配付方法を以下に示します。

- [資源配付]ウィンドウから配付する場合
  1. [資源配付]ウィンドウから、[アクション]-[資源の配付]を選択します。

     →[資源の配付]ダイアログボックスが表示されます。
  2. [ダウンロード先]の[最新世代の再送]チェックボックスをチェックし、資源を配付します。
- drmssndコマンドで配付する場合

  drmssndを使用する場合は、下記のように-eオプションを指定せずに送付します。

```
drmssnd -a rms -s 配付先サーバ
```

対処2

確認ポイント

配付先サーバで適用済世代の資源を削除した後、運用管理サーバから該当サーバに対してオンライン検索を実行していませんか。

対処方法

運用管理サーバの送信履歴情報を以下のコマンドを使用して、配付先の部門管理/業務サーバの情報と一致させてください。

```
drmsdlt -a sys -k serv -s  配付先サーバ -d rsc -g RMSLEVEL
```

対処3

確認ポイント

a. 配付元サーバの管理ファイルを復元した、または、資源配付後に最新世代の削除を行っていませんか。

b. 配付元サーバの世代圧縮(DRMS編集:save_gennum)により、古い世代が削除されていませんか(省略値:50)。

対処方法

a)の場合

1. 配付元サーバに対して、管理サーバから最新世代を配付して、不足している世代を復旧してください。
2. 他の正常なクライアントから管理ファイルを退避し、その管理ファイルを該当クライアントに復元してください。 管理ファイルの復元後、以下のファイルを管理ファイル配下から削除してください。
   - nodechk.inf
   - dnschk.inf

- インベントリ情報を収集している場合は、以下のファイルも削除してください。
  - pkg¥hard.txt
  - pkg¥soft.txt
  - pkg¥hard.old

- pkg¥soft.old

b)の場合

他の正常なサーバ(同一インストール種別)から退避したDRMS管理ファイルを用いて配付先サーバのDRMS管理ファイルを復元し、復旧してください。
復旧手順を以下に示します。

1. 資源配付サービスを停止します。
   - コマンドで資源配付サービスを停止する場合

     【Solarisの場合】drmsd -f
     【Windowsの場合】drms -p
2. 元々使用していたDRMS管理ファイル(DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリを含む配下)をバックアップします。
3. 元々使用していたDRMS管理ファイルを削除します。
4. 他の正常なサーバから退避したDRMS管理ファイルをコピーします。
5. 資源配付サービスを起動します。
   - コマンドで資源配付サービスを起動する場合

     【Solarisの場合】drmsd -s
     【Windowsの場合】drms -s
6. 必要に応じて以下の操作を行ってください。
   1. 他の正常なサーバからコピーしたDRMS管理ファイルに、配下サーバ/クライアントの定義がある場合はdrmsdlt -a sys コマンドですべて削除してください。
   2. 自システムの定義情報(ノード名)を変更する必要がある場合は、drmsmdfy -a sys -k ownコマンドで定義を変更してください。
   3. 配下サーバの定義が必要な場合は、drmsdfn -a sys -k servコマンドで再定義してください。
7. 資源配付を実行します。

4.1.3 誤った資源または世代を配付してしまった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

リモート削除機能を使用して、該当の資源/世代を削除することで対処します。リモート削除機能の使用方法を以下に示します。

1. 配付元サーバ（資源登録を行ったサーバ上）で、[資源配付]ウィンドウから、該当する資源または世代を選択します。
2. [アクション]-[資源の削除]を選択します。

   →[資源の削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [対象システム]の[全てのサーバとクライアントの資源を削除]または[指定サーバと配下クライアントの資源を削除]を選択し、資源の削除を実施します。

配下サーバ（部門管理/業務サーバ）に対しては、削除指示が自動的に通知され資源または世代が削除されます。

また、配下サーバに接続されるクライアントは、次回のダウンロード時に接続サーバから削除指示を同時にダウンロードすることで該当の資源または世代が削除されます。

なお、リモート削除機能により削除を行った該当の資源/世代で、すでに配付されているファイルについては、ファイル自体の削除までは行われません。

4.1.4 受信または適用済の世代を戻す方法が分からない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル”-“誤った資源または世代を配付してしまった”の対処方法を参照してください。

4.1.5 適用予定日時の異なる複数のメンテナンス版数をまとめてダウンロードする場合に、適用予定日時がダウンロード対象の最新版数と同じになる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

登録時の適用予定日時をそれぞれの複数世代の値としたい場合は、一括でなく世代ごとに配信してください。

補足

資源登録時の適用種別の情報は、送信時の省略値となります。

資源の送信を行う場合には、すべての宛先へ一括で配付するとは限らず、宛先サーバごとに異なる場合もあります。また、資源登録時には、登録種別は未定として、送信時に適用種別を指定することもあるため、送信時に指定した適用種別（最新世代の情報）が優先されます。

このことから、新しく送信される世代については、最新世代の適用種別に従って処理しています。

また、複数の世代の資源の送信を行う場合、データ量や作業内容の関係から通常は、同一適用種別のものを一度の操作で送付します。

4.1.6 LAN二重化環境において、送信中に通信エラーが発生し、資源の送信処理に失敗する

エラーメッセージ

```
エラー：[00202] 受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（ENOENT），詳細情報（qjics100:qjiuschn ERR）．
```

対象バージョンレベル

- 5.0～V13.2.0

確認ポイント

SafeLINKを使用したLAN二重化環境下のSolarisサーバーサーバ間において、DRMS編集ファイルのautonotify=YESを指定して運用中、適用結果通知を受信するサーバ側でエラーが発生していませんか。

対処方法

資源配付のサーバ動作環境定義において、ノード名にはSafeLINKの論理ノード名を指定しなければなりませんが、指定していなかった為、本エラーが発生しました。

対処としてSafeLINKによるLAN二重化を行っているサーバにおいて、以下を実施します。

1. 資源配付を停止します。
2. 以下のコマンドにて資源配付に論理IPアドレスの情報を設定します。

   # /opt/FJSVmpsdl/bin/drmsstup -a 論理IPアドレス
3. 資源配付を起動します。

4.1.7 複数のサーバに対して同時に資源のダウンロードを行うと、DRMSプロセスのアプリケーションエラーが発生することがある

エラーメッセージ

アプリケーションを正しく初期化できませんでした。(0xc0000142)

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

送信側のサーバでシステムのデスクトップヒープ不足が発生しており、そのためにプログラムが起動できなくなっています。

対処方法

本事象が発生するコンピュータにおいて、以下の対処を実施し、システムを再起動してください。

1. レジストリエディタ(Regedt32.exe)を実行します。
2. HKEY_LOCAL_MACHINEサブツリーから、次のキーに移動します。

   ¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems
3. Windows(R)の第3パラメタを削除します。第4パラメタがある場合は、第4パラメタも一緒に削除してください。

   例 SharedSection=1024,3072,512
   ↓
   SharedSection=1024,3072

備考

第3パラメタは、「1024」「2048」と段階的に設定する方法もあります。第3パラメタを削除した場合、第2パラメタの値がデフォルトで第3パラメタにも適用されます。第3パラメタを大きくし過ぎた場合、OSや他製品でデスクトップヒープ不足を引き起こす可能性がありますので本番環境に適用する前に十分なテストを実施してください。

デスクトップヒープの詳細なチューニング方法については、OSのサポートに確認してください。

Windows Server 2003以降の場合、OS起動後、最初のデスクトップヒープ不足発生時点で、イベントログに「警告 243 Win32k デスクトップ ヒープの割り当てに失敗しました。」が出力されている場合があります。

4.1.8 運用管理サーバ配下に複数の部門管理/業務サーバが接続されている状況で、特定の部門管理/業務サーバに配付した資源に誤りがあり、このサーバに対してだけ再配付を行いたい

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

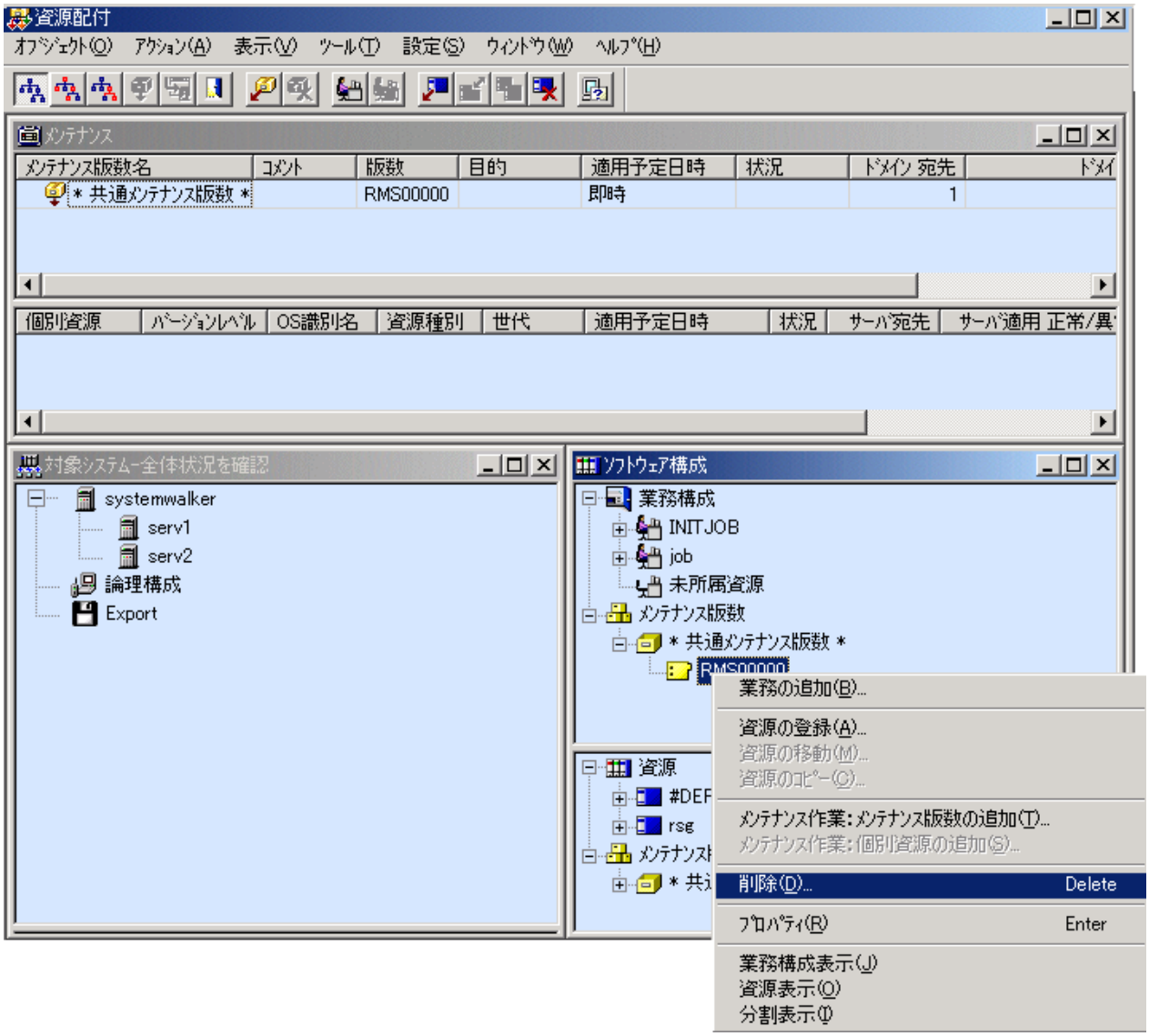
該当の部門管理/業務サーバにおいて配付済の資源グループ(およびメンテナンス版数)を削除した後、再度配付する資源グループ(およびメンテナンス版数)を登録し、再度配付する必要があります。

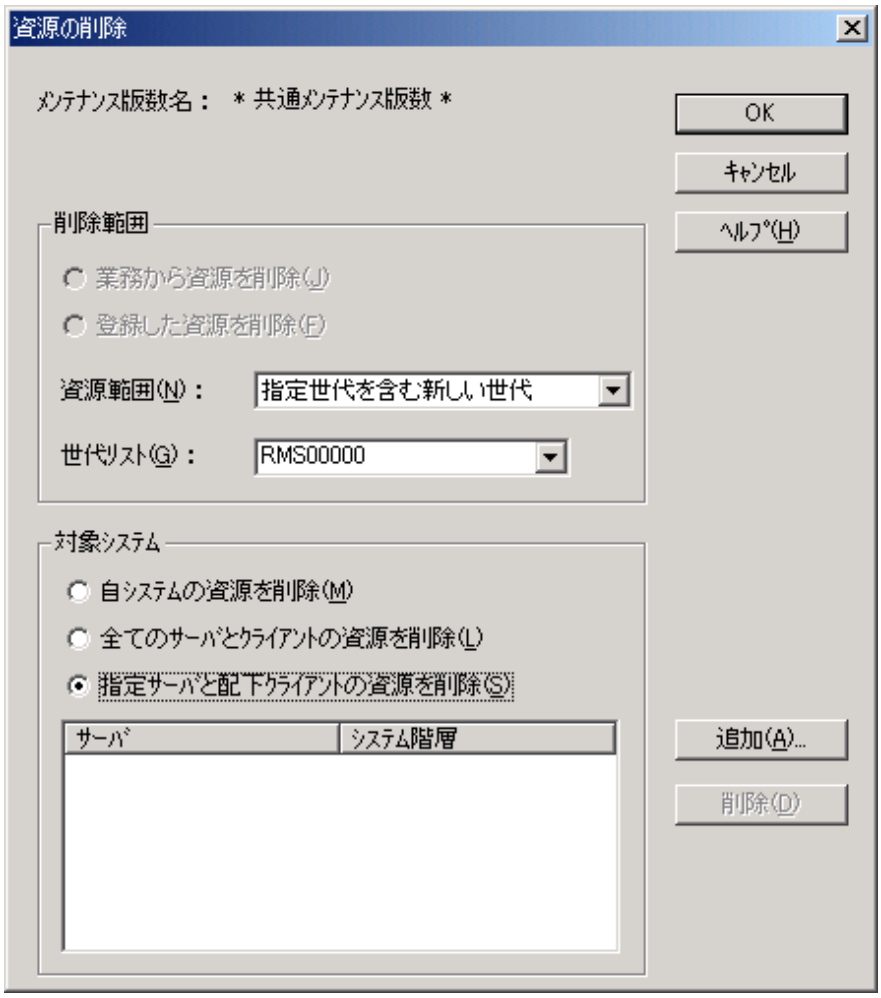
対処方法

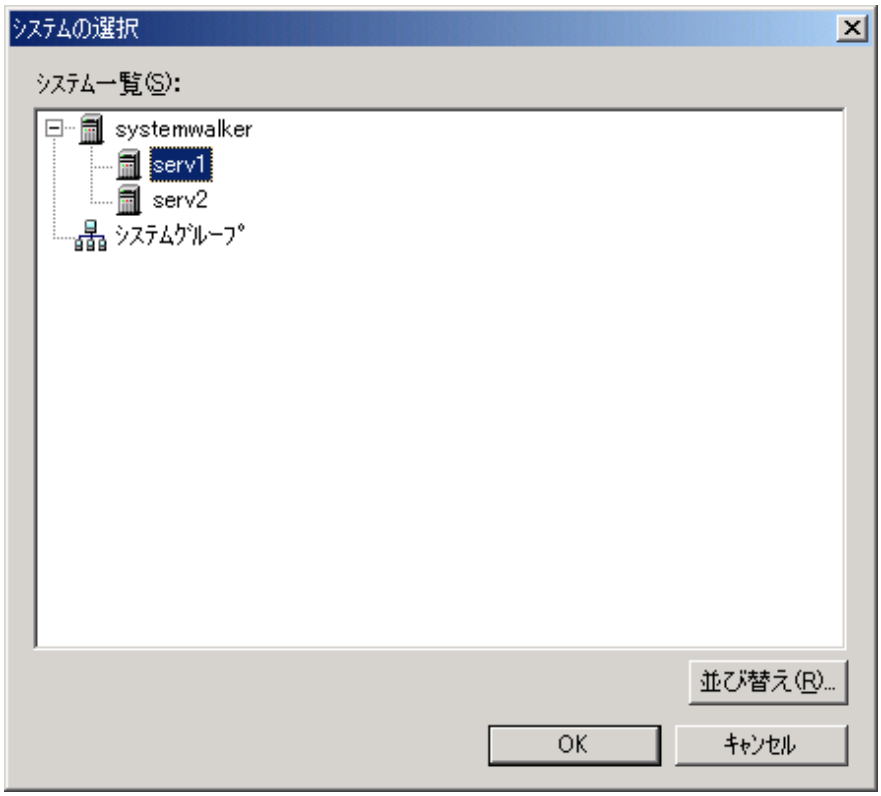
復旧手順の一例を、以下に示します。

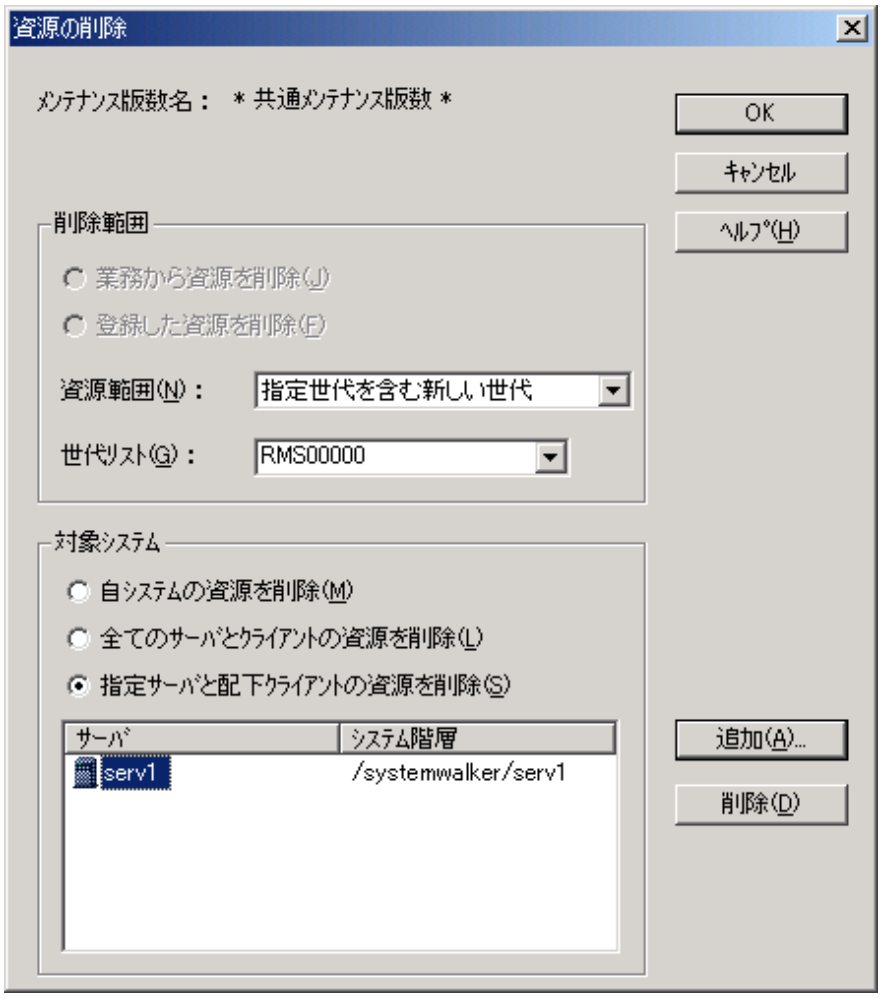
1. [ソフトウェア構成]ウィンドウで削除したいメンテナンス版数を選択し、削除する世代の範囲とサーバを選択後、削除します。

   画面操作の例を以下に示します。




資源の削除
ﾒﾝﾃﾅﾝｽ版数名： ＊共通ﾒﾝﾃﾅﾝｽ版数＊
OK
ｷｬﾝｾﾙ
ﾍﾙﾌﾟ(H)
削除範囲
業務から資源を削除(J)
登録した資源を削除(F)
資源範囲(N)：
指定世代を含む新しい世代
世代ﾘｽﾄ(G)：
RMS00000
対象ｼｽﾃﾑ
自ｼｽﾃﾑの資源を削除(M)
全てのｻｰﾊﾞとｸﾗｲｱﾝﾄの資源を削除(L)
指定ｻｰﾊﾞと配下ｸﾗｲｱﾝﾄの資源を削除(S)
ｻｰﾊﾞ
ｼｽﾃﾑ階層
追加(A)...
削除(D)


ｼｽﾃﾑの選択
ｼｽﾃﾑ一覧(S):
systemwalker
serv1
serv2
ｼｽﾃﾑｸﾞﾙｰﾌﾟ
並び替え(R)...
OK
ｷｬﾝｾﾙ



2. [ソフトウェア構成]ウィンドウで削除したい資源グループを選択し、削除する世代の範囲とサーバを選択後、削除します。
3. 再配付する資源グループを作成します。
4. 再配付するメンテナンス版数を作成します。
5. “4.”で作成したメンテナンス版数について配付先のサーバに配付します。

4.1.9 共通メンテナンス版数運用で、複数のサーバに配付する資源を分けたいが、すべてのサーバに同じ資源が配付されてしまう

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

製品の仕様です。共通メンテナンス版数では、すべての配下サーバおよびクライアントが配付対象となります。

対処方法

資源ごとに配付するサーバ、クライアントを分けたい場合は、個別メンテナンス版数または個別資源を利用して、業務別に資源を登録する運用を行ってください。

4.1.10 配下サーバへの資源配付は正常だが、送信コマンドを発行するタイミングで、必ずエラーメッセージがイベントログに記録される

エラーメッセージ

イベントID：705 メッセージ：ＩＰアドレスの読み込みに失敗しました．エラーコード(ENOENT)，詳細情報(gethostbyname(own)).
イベントID：201 メッセージ：送信処理でエラーが発生しました．相手先システム名(own)，エラーコード(EDTS)，詳細情報(20,4).

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバの配下サーバとして、システム名に“own”が登録されていませんか。通常、運用管理サーバ自身のシステム名を登録していない場合、デフォルトで表示されるシステム名が“own”（自分自身）となります。配下サーバにも、運用管理サーバのデフォルトシステム名“own”と同じシステム名を定義していることで、同じ運用環境に2つの同システム名が存在してしまう環境になってませんか。

かつ、配下サーバであるownのノード名からIPアドレスが求められない環境ではありませんか。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- システム名ownの定義が必要な場合は、ノード名ownからIPアドレスが求められる環境にしてください。

  例）

  【drmslstコマンドの出力例】

```
drmslst -a sys -l sys
3
WINXPSV   own     *       *       *     2005/12/19 13:35:33 *
OWN     serv    own     tcp/ip  keep    2005/12/19 13:34:53 *
SERV1   serv    serv1   tcp/ip  keep    2005/12/19 13:36:43 *
```

  【hostsファイルの記述例】→705エラーが発生する

```
1.1.1.2 serv1
```

  【hostsファイルの修正例】→705エラーが発生しない

```
1.1.1.1 own
1.1.1.2 serv1
```

- システム名ownの定義が不要な場合は、drmsdlt -a sys -k serv -s OWNコマンドでシステム定義ownを削除してください。

4.1.11 部門管理/業務サーバへ資源配付や状況検索を行うと、エラーが発生して正常に処理されない

エラーメッセージ

drms エラー なし 201 N/A 送信処理でエラーが発生しました．相手先システム名(xxxx)，エラーコード(EDTS)，詳細情報(20,4).
drms エラー なし 706 N/A 相手サーバとのコネクション接続に失敗しました．ノード名(ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx)，エラーコード(ECONNREFUSED)，詳細情報(connect).

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

対処1

確認ポイント

部門管理/業務サーバ側の資源配付サービスが未起動ではありませんか。

(部門管理/業務サーバ上で、メッセージ番号800と700が表示されていません。“drms: 情報: [00800] クライアントからのサービス要求受付を開始しました”および“drms: 情報: [00700] 相手サーバからのサービス要求受付を開始しました.”のメッセージは、資源配付サービスが起動するタイミングで表示されます。)

対処方法

資源配付を行う部門管理/業務サーバ側の資源配付サービスを起動してください。

【Solarisの場合】drmsd -s
【Windowsの場合】drms -s

対処2

確認ポイント

通常、資源配付サービス起動時のイベントIDは、以下のような順番で出力されます。

```
drms: 情報: [00001] drmsが起動されました.
drms: 情報: [00800] クライアントからのサービス要求受付を開始しました.
drms: 情報: [00700] 相手サーバからのサービス要求受付を開始しました.
```

本事象では、バッチファイルを添付したIPL適用または後刻適用の資源を配付した部門管理/業務サーバ上で、[00001]のイベントメッセージだけが出力されている状態になっていませんか。

対処方法

添付したバッチファイルが実行中のままと考えられますので、資源配付サービスを停止してください。“drmslst -a sys -k own”で適用エラーを起こしている資源を検索し、資源配付サービスを再起動して適用エラーを起こしている資源を削除してください。その後、正しく修正したバッチファイルを添付した資源を、再度登録・配付してください。

4.1.12 過去の資源配付で“適用異常”が発生した後、適用異常の世代以降の資源配付が適用されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

製品仕様です。適用エラーの世代がある場合、以降の世代は適用されません。

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル”-“誤った資源または世代を配付してしまった”の世代削除の対処方法を参照して、登録サーバ上で再度資源を登録した後に、再度ダウンロード処理を実施してください。

4.1.13 NIC冗長化された部門管理/業務サーバへのポリシー配付で、正常に定義ファイルが更新されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

ポリシー作成時に指定したシステム名のノード名が、ポリシー適用先のサーバ側で名前解決した場合に、求まったノード名と一致していますか。

対処方法

運用管理サーバ側で指定しているノード名が、ポリシー適用先のサーバのコンピュータ名と一致するように運用管理サーバ側のノード名を変更してください。

[資源配付]ウィンドウ上で、該当サーバを選択し、プロパティ画面から設定内容を確認してください。ノード名が定義されていない場合は、その画面上からノード名の定義を実施してください。(drmsmdfyコマンドでもノード名定義はできます。)

なお、ポリシー適用先のサーバで、“own”のノード名に運用管理サーバ側で指定している“serv”のノード名と一致させることでも対応が可能です。

備考

運用管理サーバから部門管理/業務サーバへの送信時には、部門管理/業務サーバの論理IPアドレスを使用して通信を行いますが、部門管理/業務サーバから運用管理サーバへの応答は、運用管理サーバの運用系の物理IPアドレスが使用されます。

また、スケジュール情報ファイルによる、適用結果通知やインベントリ情報通知など、部門管理/業務サーバから運用管理サーバに送信を行う場合、部門管理/業務サーバから運用管理サーバへの送信時は運用管理サーバの論理IPアドレスを使用しますが、運用管理サーバから部門管理/業務サーバへの応答時は部門管理/業務サーバの物理IPアドレスが使用されます。(上記とは逆方向の動作になります。)

4.1.14 配付先サーバ上でリソース不足等のエラーが発生した後、資源配付ができない

エラーメッセージ

202 受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（EDTS），詳細情報 10,0(WaitForMultipleObjects,1)．
740 相手サーバからの受信処理でエラーが発生しました．ノード名（*.*.*.*），エラーコード（ENOBUFS），詳細情報（recv data）．

原因

配下サーバへの資源配付中に配付先サーバ上でエラーが発生した場合は、サーバに設定しているstimerオプション値が有効となります。
stimerオプション値（分単位）の時間、配付先サーバからの配付応答の待ち状態になるため、その間、資源を配付できない状態となります。

確認ポイント

サーバのstimerオプション値に、大きい値が設定されていませんか。

対処方法

配付先サーバで発生したエラー（リソース不足等）を対応後、サーバに設定している stimerオプション値に指定した時間を経過した後に再度ダウンロードを実施してください。

4.1.15 運用管理サーバから業務サーバに共通メンテナンス版数の配付を実施すると、業務サーバ上でf3cqcdts.exeのアプリケーションエラーが発生する

エラーメッセージ

アプリケーションを正しく初期化できませんでした。(0xc0000142)

原因

(0xc0000142)より、システムのデスクトップヒープ不足が発生しているため、プログラムの起動ができなくなっています。

対処方法

本事象が発生するマシンにおいて、以下の対処を実施し、システムを再起動してください。

1. レジストリ エディタ (Regedt32.exe) を実行します。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE サブツリーから、次のキーに移動します。

   ¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems
3. [Windows] の値を選択します。
4. [編集] メニューで [文字列] を選択します。
5. SharedSectionの第3パラメタを削除します。第4パラメタがある場合は、第4パラメタも一緒に削除してください。

   例 SharedSection=1024,3072,512
   ↓
   SharedSection=1024,3072

注意

IISで以下の機能を使用している場合は、レジストリの変更を行わないでください。

- CGIアプリケーション
- ISAPIアプリケーション
- COMオブジェクト

第3パラメタは、「1024」「2048」と段階的に設定する方法もあります。第3パラメタを削除した場合、第2パラメタの値がデフォルトで第3パラメタにも適用されます。第3パラメタを大きくし過ぎた場合、OSや他製品でデスクトップヒープ不足を引き起こす可能性がありますので、本番環境に適用する前に十分なテストを実施してください。デスクトップヒープの詳細なチューニング方法については、OSのサポートに確認してください。

レジストリの変更ができない場合は、servmaxオプション値を少なく見積もるようにしてください。

備考

レジストリを修正して、デスクトップヒープのサイズを調整する方法については、「マイクロソフト サポート技術情報 - 126962」を参照してください。また、デスクトップヒープについては「マイクロソフト サポート技術情報 - 184802」を参照してください。

レジストリはWindowsで非常に重要なファイルです。レジストリの編集を誤ると、Windowsが起動しなくなる等、再セットアップをしなければいけない事態が発生する恐れがあります。このため、事前にシステムのバックアップをする、サイズの増減は少しずつ実施するなど、十分に注意して変更してください。

補足

レジストリの値を修正しても同様の事象が発生する場合、システムで処理可能なプロセス数を超えていることが考えられます。同時に資源のダウンロードを行う宛て先数を減らし、前に行ったダウンロード処理が完了してから次のダウンロードを行ってください。

4.1.16 最新世代まで正常に適用されているにも関わらず、適用先のファイルが最新とならなかった

原因

適用実行順ではなく、適用予定日時が早い順番で、適用処理が実行されたため、一部の資源の版数が最新にならなかったと考えられます。
後刻適用の資源の適用順序は、以下の通りです。

1. 適用可能な最新世代の適用予定日時が早い順
2. 適用予定日時が同一の場合は受信日時が早い順

確認ポイント

複数の資源グループで、共通のファイルを適用していませんか。

対処方法

最新に置き換えたい資源を次世代に登録し、配付し直してください。

備考

配付した最新世代の適用予定日時に依存せずに適用する方法は、以下の通りです。

- "drmsapy -a rms"コマンド(適用コマンド)、または資源配付GUI操作で、適用したい順番で手動適用します。

4.1.17 資源の受信時にsyslogに[00500]のメッセージが出力され資源送信に失敗する

エラーメッセージ

```
[00500] A system failure occurred. Failure code (7), significance level(2), status code(9010004),
detailed information(No such file or directory).
```

対象バージョンレベル

- Solaris版: 5.0～V13.3.0
- Linux版: V10.0L20～V13.3.0

対処

確認ポイント

資源を受信するサーバにおいて、資源配付を起動したカレントディレクトリを削除していませんか。

原因

資源配付を起動したカレントディレクトリが削除されていることが原因です。

対処方法

/tmp等、削除されることのないディレクトリをカレントディレクトリにして、資源配付を起動してください。

4.2　サーバ-サーバ間の中継に関するトラブル

4.2.1　中継処理が実施されず、配下サーバに資源が送信されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.2.0
- 5.0～V13.2.0

対処1

確認ポイント

中継するサーバ上で、あて先システムに配下サーバを定義していますか。

対処方法

中継するサーバ上で、あて先システムに配下サーバを定義してください。

対処2

確認ポイント

中継するサーバの適用資源の世代圧縮（DRMS編集ファイル上のapply_gennumで指定）が0になっている場合に、配付資源を即時適用で配付していませんか。

対処方法

中継するサーバの適用資源の世代圧縮の指定値を確認し、同時送付世代数を考慮した値に設定し直してください。または、即時適用以外の適用種別を指定して、送信してください。
同一世代を再送付する場合は、あらかじめ運用管理サーバからdrmsdltコマンドで中継サーバの資源を削除してから、再送付してください。

対処3

確認ポイント

以前の配付時に配付エラーが発生していませんか。

対処方法

中継するサーバで配付エラーが発生した場合、1時間以内は中継配付ができません。1時間以上経過してから送信を行ってください。

備考

中継サーバ上のイベントログまたはシスログに、配付エラーのメッセージが出力されていますので、それをエラー発生時間としてください。

対処4

確認ポイント

ホスト名運用の場合、運用管理サーバと中継サーバでIPアドレスから名前解決されるホスト名が異なっていませんか。

対処方法

運用管理サーバと中継サーバでIPアドレスから名前解決されるホスト名が、同じホスト名になるようにしてください。

4.2.2 中継サーバから下位サーバで資源を受信時に、中継サーバ・下位サーバ間で通信の瞬断影響で即時適用処理が止まり、通信復旧後も適用処理が動作しない

エラーメッセージ

中継サーバで出力されるエラーメッセージ

[00201] A send error has occurred. Remote system name (下位サーバ名), error code (ETIMEDOUT), detailed information (stimer).

受信側サーバで出力されるエラーメッセージ

[00706] 相手サーバとのコネクション接続に失敗しました. ノード名（中継サーバ名），エラーコード（ETIMEDOUT），詳細情報（connect）.
[00706] 相手サーバとのコネクション接続に失敗しました. ノード名（中継サーバ名），エラーコード（ENETUNREACH），詳細情報（connect）.

原因

下位サーバから発行された受信完了通知が、通信の瞬断により中継サーバに送信できなかったため、以降の処理が動作しませんでした。

対処方法

受信側サーバのステータス情報（世代）を削除して、上位サーバから再度配付を実施してください。

- 資源グループ配付の場合

  drmsdlt -a rsc -g [資源グループ名] -v [バージョンレベル名] -e [世代識別名] -n

- メンテナンス版数配付の場合

  drmsdlt -a rms -v [メンテナンス版数名] -e [世代識別名] -n

4.3 サーバ-クライアント間の送信に関するトラブル

4.3.1 エラーメッセージ等が特に出力されていないが、資源が受信されない（定義ミスに起因するもの）

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

クライアントで、業務名が定義されていますか。

対処方法

クライアントで、ダウンロード対象とする資源グループが属している業務名を定義して、再度ダウンロードしてください。

対処2

確認ポイント

サーバで定義された業務名と、クライアントの業務名は同一ですか。

対処方法

サーバ側の業務名とクライアントの業務名は、大文字/小文字の違いでも別業務名とみなされます。業務名を確認して、クライアント側で同一の業務名となるように修正してください。

対処3

確認ポイント

サーバのDRMS編集ファイルに設定したapply_gennumオプションの指定値が0になっていませんか。

対処方法

apply_gennumオプションが0の場合は、サーバでの適用後に資源を削除し、資源が全く無い状態になります。

本オプションには、1以上の値（複数世代のダウンロードを行う場合はその世代数以上の値）を設定してください。

4.3.2 受信処理が失敗する

エラーメッセージ（ダイアログボックス）

オンライン配付を受ける資格がありません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

サーバ側のシステムのhostsファイルにダウンロード対象のクライアントが登録されていますか。

対処方法

サーバ側のシステムのhostsファイルを確認し、ダウンロード対象のクライアントが登録されていない場合は登録してください。

対処2

確認ポイント

サーバがドメインコントローラになっていませんか。

対処方法

サーバがドメインコントローラである場合、ローカルの認証は行えません。

サーバ側のDRMS編集ファイルにwindomain_nameオプションを指定してください。

4.3.3 ダウンロード処理中にシステムがフリーズ状態となる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

通信カードの設定や通信カードに異常が発生したことが考えられます。

確認ポイント

通信カードの設定や状態を確認してください。

対処方法

確認の結果、通信カードに異常が無い場合は、システムのメモリダンプを採取の上、システムのサポート契約先に連絡してください。

対処2

原因

クライアント側の無通信監視時間が長すぎるため、クライアント側がサーバ側からのデータ受信処理中に、応答待ちに入っていると考えられます。

確認ポイント

ネットワークの問題の可能性があるので、資源配付クライアントが使用するポート番号(9231/tcp)の状態を確認してください。

対処方法

クライアント側の無通信監視時間を短くしてください。
［資源配付クライアント設定］画面の［セション開設］タブをクリックし、［無通信監視時間］の値を変更します。

4.3.4 誤った資源または世代を配付してしまった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル”-“誤った資源または世代を配付してしまった”の対処方法を参照し、サーバ側で該当資源または世代を削除した後に、再度ダウンロード処理を実施してください。

4.3.5 適用済の世代を戻す方法が分からない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバ-サーバ間の送信に関するトラブル”-“誤った資源または世代を配付してしまった”の対処方法を参照し、サーバ側で該当資源または世代を削除した後に、再度ダウンロード処理を実施してください。

4.3.6 個別メンテナンス版数がダウンロードされない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

- 5.0以降

確認ポイント

資源配付クライアントセットアップの[メンテナンス版数]タブで、ダウンロードしようとしている個別メンテナンス版数が設定されていますか。

対処方法

資源配付クライアントセットアップの[メンテナンス版数]タブで、ダウンロードしようとしている個別メンテナンス版数を設定してください。

なお、個別メンテナンス版数の場合、個別メンテナンス版数配下のすべての業務がダウンロード対象となるため、業務名の設定は必要ありません。この場合、業務単位の適用先ドライブ名は、個別メンテナンス版数名の登録時に設定した適用先ドライブ名になります。業務単位で、個別に適用先ドライブ名を設定したい場合には、個別メンテナンス版数単位に、業務名の設定を実施してください。

4.3.7 ダウンロード中に世代不整合となり、ダウンロード処理が失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

配付元サーバのDRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）を復元した、または資源配付後に最新世代の削除を行っていませんか。

対処方法

配付元サーバに対して、運用管理サーバから最新世代を配付して、不足している世代を復旧してください。

最新世代を配付する方法を以下に示します。

- [資源配付]ウィンドウから配付する場合
  1. [資源配付]ウィンドウから、[アクション]-[資源の配付]を選択します。

     →[資源の配付]ダイアログボックスが表示されます。
  2. [ダウンロード先]の[最新世代の再送]チェックボックスをチェックし、資源を配付します。
- drmssndコマンドで配付する場合

  drmssndを使用する場合は、-eオプションを指定しないで送付します。

備考

drmssndコマンド

ユーザ資源データの送信を指示します。本コマンドは、運用管理サーバから部門管理/業務サーバにユーザ資源を単体でダウンロードするとき、部門管理/業務サーバから部門管理/業務サーバにユーザ資源を単体でダウンロードするとき、または開発システムから運用管理サーバにユーザ資源を単体でアップロードするときに使用します。

-eオプション

どの世代まで転送するかを世代識別名で指定します。世代識別名は、ASCII(8文字以内)の先頭が英字で始まる英数字で指定します。

対処2

確認ポイント

配付元サーバの世代圧縮（DRMS編集ファイル上のsave_gennumで指定）により、古い世代が削除されていませんか（省略値:50）

対処方法

ほかの正常なクライアントからDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）をコピーし、そのDRMS管理ファイルを該当クライアントに上書きしてください。

DRMS管理ファイルの上書き後、以下のファイルをDRMS管理ファイル配下から削除してください。

- nodechk.inf
- dnschk.inf
- pkg¥hard.old
- pkg¥soft.old

備考

gencheckオプションは、資源配付時に世代チェックを行うかどうかを設定するサーバ側のオプション（デフォルトでは“gencheck=YES”）です。世代不整合エラーが発生しているクライアント台数が多い場合は、サーバ側のgencheckオプションを一時的に変更することでも問題回避が可能です。

```
gencheck = NO
```

“gencheck=NO”の場合は世代チェックを行わず、世代・レベルが一致しない場合は、サーバに保有されたユーザ資源の全世代、全レベルを配付します。

4.3.8 業務を追加定義しても、資源がダウンロードされない

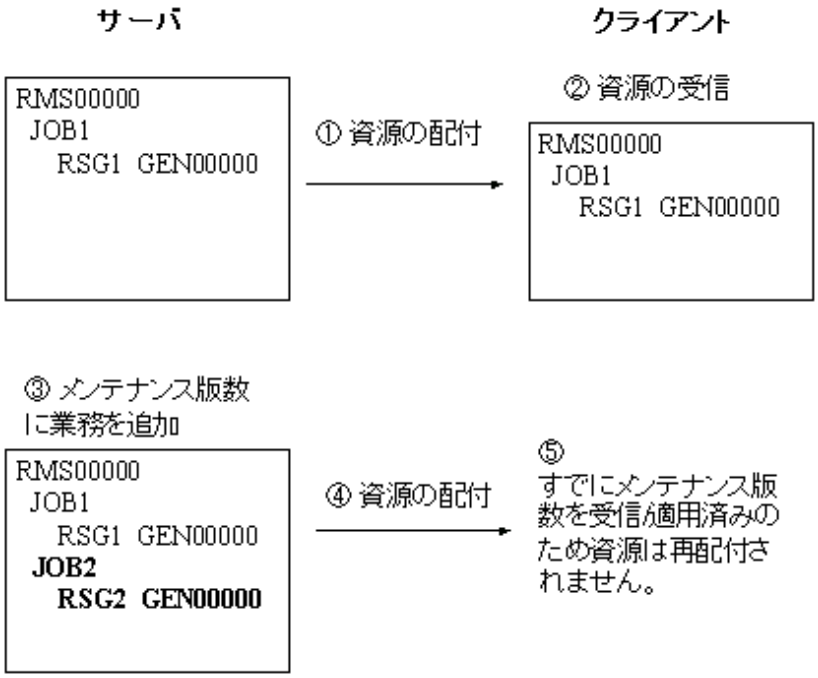
対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

該当資源がすでに受信しているメンテナンス版数に含まれていませんか。
“drmslst -a rms [-v メンテナンス版数名] [-e メンテナンス版数の世代] -l add”でメンテナンス版数内に登録されている資源を確認してください。

以下の例では、クライアントがすでにメンテナンス版数“RMS00000”を受信しているため、業務を追加しても再ダウンロードされません。



対処方法

すでに受信しているメンテナンス版数に含まれる資源は、業務を追加してもダウンロードされません。次のメンテナンス版数の更新後にまとめてダウンロードされます。

4.3.9 クライアントのダウンロード（資源の受信中）にエラーメッセージが出力されるが、次回のダウンロード時には正常に適用完了する

エラーメッセージ

KZBY515 f3bskl32.exeの呼び出しができません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

一時的な問題によるエラーです。しばらく待ってから、ダウンロード処理のリトライにより回避してください。または、次回ログイン時のダウンロードにより、回避してください。

4.3.10 syscheckオプションで“YES,AUTO”を指定した場合、名前解決ができない状況でもクライアントから正常にダウンロードされてしまう

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.2.0

対処方法

Windows版で、接続クライアントを絞り込みたい場合は、syscheck=YES,DFNで運用してください。

備考

Windows版では、システムに依頼した「クライアント名からのIPアドレス変換処理」でWINSサーバ・DNSサーバ・hostsファイルを使用した変換が失敗したときにシステムのBroadCast機能により、クライアントへの問合せを行い、一定時間内にクライアントから応答を受けた場合には変換処理が実施されます。

4.3.11 クライアントからダウンロードを行うとダウンロードは成功するが、サーバ側にクライアントのシステム定義が自動生成されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付クライアントセットアップで、[サーバ側の管理方法]を[管理しない]に設定していませんか。

対処方法

[サーバ側の管理方法設定]を[管理する]にしないとサーバ側にシステム定義で、配付ステータスは管理されません。（初期値は、[管理する]）
また[管理しない]の場合でも、サーバ側では通常表示されませんが、クライアント定義が行われています。

以下の対処を実施してください。

- クライアント

  ［サーバ側の管理方法設定］を［管理する］に変更してください。

  1. ［資源配付クライアント設定］画面の実行環境タブで、［ダウンロード実行環境設定］をクリックします。
  2. ［ダウンロード実行環境設定］画面の［詳細］ボタンをクリックします。
  3. ［ダウンロード実行環境詳細設定］画面の［サーバ側の管理方法設定］をクリックします。
  4. ［サーバ側の管理方法設定］画面で、“管理する”にチェックします。

- サーバ

  以下のコマンドを実行し、サーバでクライアントの定義情報を削除してください。

  1. クライアント定義があることを確認します。

     ```
     drmslst -a sys -k cl -l sys -Y nomng
     ```

  2. 1）で出力されたクライアントの定義を削除します。

     ```
     drmsdlt -a sys -k cl -s クライアントのシステム名
     ```

4.3.12 [資源配付クライアント セットアップ機能]の[ダウンロード実行環境設定]で、[メッセージボックス表示]を[なし]に設定してもダウンロード時にウィンドウが表示される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

[ダウンロード処理]ウィンドウを表示しないようにすることはできません。実現するためには、アプリケーション（dwldrms.exeを画面表示させないモードでCreateProcessする）を作成する必要があります。

なお、メッセージボックス表示というのは、[ダウンロード処理]ウィンドウとは別です。ダウンロード処理が終了したときに画面上にインフォメーション的にメッセージを表示するボックス画面で、通常エラーが発生したときなどにKZBYxxxエラーなどが表示されます。

4.3.13 クライアント用資源を含むメンテナンス版数を運用管理サーバから部門管理/業務サーバへ配付後、クライアントからダウンロードをすると、対象の資源がダウンロードされない(メンテナンス版数は適用されている)

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

クライアントで採取されるmainte.log(管理ファイルのディレクトリ内にあるファイル)に記録されているメッセージ“警告:資源グループ(資源グループ名/)に受信対象世代がありません”の意味は、“該当資源グループの世代が、部門管理/業務サーバとクライアント間で一致しているため、新しいダウンロードは行われなかった”です。
運用管理サーバおよび部門管理/業務サーバで、メンテナンス版数の登録状況を確認してください。

```
drmslst -a rms -l add
```

考えられる原因を以下に示します。

a. 運用管理サーバに登録したメンテナンス版数に対象の資源グループが登録されていない。

b. 対象の資源グループの種別が“comm”(サーバ、クライアント共通資源)であり、部門管理/業務サーバで適用された後に削除されています。これは、運用管理サーバではメンテナンス版数に対象の資源グループが登録されているが、部門管理/業務サーバでのメンテナンス版数登録には対象の資源グループが存在しないことから判断できます。

対処方法

以下の対処を行った後、再度ダウンロードしてください。

a. 運用管理サーバに対象の資源グループを登録してください。

b. 部門管理/業務サーバのDRMS編集ファイルに設定されたapply_gennumオプションが省略または0が指定されています。本オプションは、資源適用後に保持する世代数を指定するオプションであり、本オプションを省略または0を指定すると、部門管理/業務サーバで適用後に資源を削除します。サーバ/クライアント共通資源(注)を扱う場合は、本オプションには、1以上の値(複数世代のダウンロードを行う場合はその世代数)を設定してください。

注意

業務構成情報の定義(業務名と業務に対応する資源グループの定義)で-tオプションを省略した場合、サーバ/クライアント共通資源として定義されます。

```
drmsdfn -a job -j業務名 -g 資源グループ名 [-t serv｜cl]
```

4.3.14 dwldrms.exeの復帰コードが255「初期化処理での異常」で復帰することがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

ダウンロード実行開始から通信開始までの初期処理で異常が発生しています。
想定されるエラー原因は以下のものがあります。

- 環境変数（DRMSC,TMP）獲得エラー
- 複数起動エラー
- %drmsc%¥DRMSPARMファイルへのアクセスエラー
- メンテナンスLOGアクセスエラー

対処方法

想定されるエラー原因を解消して、ダウンロード処理をリトライしてください。

備考

以下の復帰コードの場合について説明します。

- 32“受信時のその他の異常”

  モデムと接続している場合、またはモデムとの通信が確立できなかった場合に、32の復帰コードが出力されます。

- 75“リブートが必要な資源あり(適用結果通知時のその他の異常)”

  適用時に動作中モジュールの置換えが発生したか、または、適用結果通知時に通信異常以外の異常が発生した場合に、75の復帰コードが出力されます。
  原因は、以下の通りです。

  - ファイルI/Oエラー
  - 容量不足
  - 管理ファイル異常/不整合

4.3.15 クライアントからダウンロードを行うと、ダウンロード処理が失敗し、サーバ側でエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
[00500] システム障害が発生しました．障害タイプコード（7），重要度（2），状態
コード（6750102），詳細情報（xxxxxxxx）．
```

対象バージョンレベル

- 5.0～5.2

確認ポイント

コンピュータ名運用を採用されていませんか。

かつ、クライアント側でコンピュータ名の先頭に空白が入っているものがありませんか。

対処方法

クライアント側で、以下の対処を実施してください。

クライアントのコンピュータ名を変更してください(コンピュータ名の先頭の空白を削除してください)。

備考

影響範囲は、UNIX版の5.x（5.0, 5.0.1, 5.1, 5.2）の場合だけです。10.0以降では先頭空白の定義はできないようガード処理が追加されています。

4.3.16 クライアントで適用済の資源グループを何度もダウンロードしてしまう

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

クライアント側に定義されている資源グループ名と、サーバ側に定義されている資源グループ名との大文字小文字が一致していますか。

対処方法

クライアント側の[資源配付クライアント設定]で、適用先ディレクトリに指定している資源グループ名を、サーバ側に定義されている資源グループ名と一致させてください。

4.3.17 drmsinf.exeコマンドがプログラムエラー(復帰コード4)で復帰する

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降

確認ポイント

ダウンロード機能(dwldrms.exe)など、他のクライアント機能を同時に実行していませんか。
クライアントで他の機能を同時に実行すると、drmsinf.exeコマンドがプログラムエラーになることがあります。

対処方法

drmsinf.exeコマンドを実行する場合は、他のクライアント機能を同時に実行しないでください。

4.3.18 資源配付ＧＵＩからクライアントの「システム定義」を事前に設定し、その後、資源配付クライアントからダウンロードしたところ、該当のクライアントがホスト名で表示され、システム定義で設定したクライアント名とは異なっていた

対象バージョンレベル

- V13.2.0以前

原因

以下の設定の場合、名前解決できたホスト名とサーバ上のクライアント定義のノード名が一致しないと、自動的にサーバ上に『ホスト名』でシステム定義され、本事象が発生します。

- サーバ上でシステム名（クライアント名）とノード名は任意の名称で設定
- "syscheck=AUTO"の指定

クライアントがサーバにダウンロード依頼を行ったとき、クライアントの名前解決できるホスト名（コンピュータ名運用にチェックしていない）でサーバに接続します。そのとき、サーバに定義しているクライアントのシステム定義の『ノード名』と比較して、クライアントから受けた『ホスト名』の情報と一致するかどうかをチェックします。

本来、『ノード名』と『ホスト名』が一致しない場合は、自動的にシステム名を追加する運用（syscheck=AUTO）であれば、ホスト名でシステム名が追加されます。

対処方法

hostsファイルへ登録しているホスト名と、サーバに定義されているクライアント名のノード名を一致させて定義してください。

発生事例

クライアントからサーバへ接続されたとき、サーバ上のノード名情報『クライアント１』とホスト名『client1』情報を比較しましたが、サーバ上に『client1』といったクライアントの定義がないため、『client1』のシステム定義がされます。

【サーバの環境】
＜DRMS編集ファイル＞

- syscheck = YES,AUTO

＜クライアント定義＞

- クライアント名： クライアント１
- ノード名　　：（サーバ名と同じ）

＜hostsファイル／DNSの設定＞

10.10.10.10　client1

※コンピュータ名運用の場合、クライアントは『client1』でサーバに接続します。

※コンピュータ名運用ではない場合、クライアントは『10.10.10.10』でサーバに接続します。

4.3.19 メンテナンス版数の削除をサーバとクライアントで実行したが、クライアントでダウンロードを実行すると削除したはずのメンテナンス版数がダウンロードされてしまう

原因

クライアント適用資源のメンテナンス版数の削除時に、削除する資源の範囲で「全世代」を指定すると、クライアント用のメンテナンス版数資源であるSYSLEVELに登録された資源が削除されません。
また、SYSLEVELの表示および操作は、資源配付のコマンドでサポートしており、資源配付GUIでは未サポートです。そのため、メンテナンス版数はサーバ上から削除されているように見えますが、実際はSYSLEVELの資源が登録されたままの状態になっており、クライアントでダウンロードが実行されてしまいます。

確認ポイント

ダウンロード先のサーバに、クライアント用メンテナンス版数であるSYSLEVEL資源グループが登録されていますか。

確認方法：サーバ上で"drmslst -a sys -k own"コマンドを実行してください。
出力されたリスト情報に、SYSLEVELの資源グループが存在しているでしょうか。

資源配付GUIからのメンテナンス版数の削除で、削除する資源の範囲で「全世代」と指定しましたか。

対処方法

本現象が発生した場合は、SYSLEVELの登録情報は資源配付GUIから削除できないため、サーバのコマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。コマンドを実行すると、サーバのSYSLEVELに登録されている登録情報が削除されます。

```
"drmsdlt -arsc -gSYSLEVEL -v[バージョン・レベル名]"
```

なお、上記コマンドにより復旧させた後は、資源配付GUIでクライアント適用資源のメンテナンス版数を削除する際は、削除する資源の範囲で「全世代」を指定せずに、以下を指定するようにしてください。

- 資源範囲で“指定世代を含む新しい世代”を選択し、世代リストで最古世代を選択する。または、
- 資源範囲で“指定世代を含む古い世代”を選択し、世代リストで最新世代を選択する。

4.3.20　資源グループ名やVL名に「COM1」で始まる名前を使うと受信失敗する

エラーメッセージ

KZBY152 RCVDIRの処理で異常が発生しました。

原因

MS-DOSの予約デバイス名"COM1"で始まる名前がＶＬ名に指定されていたため、クライアント側でDRMS管理ファイル生成できず受信エラーとなってしまいます。

対処方法

資源グループ名やVL名には、「COM1」含め、その他予約デバイス名｛AUX,CON,PRN,COM1,LPT1,等｝は使用できません。

そのため、他の名前をご利用してください。

参考

MS-DOSの予約デバイス名に関する記事は、以下のURLを参照してください。
http://msdn2.microsoft.com/ja-jp/library/ms163853.aspx

4.3.21　資源配付の初期化処理で時間を要してしまう

原因

以下のファイルのオープン処理で失敗しています。

C:¥WINNT¥SystemWalker¥mpslfmnt¥norepair¥mpdrms.txt

資源配付クライアントの各機能が動作した際、上記ファイルの有無をチェックして、ファイルが存在する場合は最新情報への更新を行っています。そのため、本ファイルがない場合、または資源配付で使用するディレクトリへ一般ユーザに対してのアクセス権がない場合は、処理を中止せずに継続するため資源配付の初期化処理で時間を要してしまいます。

確認ポイント

初期化処理で時間を要するのみで、後の処理に問題はないですか。
資源配付が使用するディレクトリのアクセス権は、フルコントロールに設定されてますか。

対処方法

以下のディレクトリへ一般ユーザに対してのアクセス権をフルコントールに設定してください。

C:¥WINNT¥SystemWalker¥mpslfmnt¥norepair

4.3.22　クライアントからの資源ダウンロード処理でオンライン配付の資格がないため、資源の配付に失敗する

エラーメッセージ

KZBY241 オンライン配付を受ける資格がありません。

対象バージョンレベル

- V13.2.0以前

対象OS

- Windows

原因

サーバ環境が"syscheck=YES"（DRMS編集ファイルに設定されているsyscheckオプション）、且つ、クライアントの名前がDNS、WINS、hostsファイルから解決できない環境では、クライアントから資源ダウンロード時にNetBIOSNameServiceが使用するUDP:137の通信で名前解決がされるようになっています。
資源配付による通信時、ファイアウォールの設定により、UDP:137のポートが許可されませんでした。

確認ポイント

ファイアウォールを設定していませんか。
サーバ上でクライアントが、名前解決できる状況にありますか。

対処方法

ファイアウォールの設定から、UDP:137(NetBIOSNameService)ポートを開放してください。

4.3.23 Systemwalkerコンソール上のノード一覧からクライアントのIPアドレスを変更したが、しばらくすると元のIPアドレスに戻る

対象バージョンレベル

- Windows版：V5.0L10以降
- Solaris版：5.0以降
- Linux版：V10.L20以降

原因

資源配付機能が保持する古いインベントリ情報で更新されていることが原因と考えられます

対処方法

運用管理サーバに残っている古い情報を以下の手順で削除してください。

1. クライアント情報の削除

   drmsdlt -a sys -s <クライアント名> -k cl

2. (存在していたら)クライアントのインベントリ情報の削除

   DRMS管理ファイルディレクトリ¥invsts¥s_<クライアント名>

   DRMS管理ファイルディレクトリ¥status¥ws¥s_<クライアント名>

3. 対象のクライアント上でインベントリ情報を収集し直し、クライアント→運用管理サーバにインベントリ情報を通知してください。

4.3.24 クライアントに対して事前配付にて資源を配付後、クライアントで適用コマンド(apldrms)を実行し適用が完了したが、運用管理サーバでのステータスが「受信完了」のままで「適用完了」とならない

エラーメッセージ

```
KZBY228 ソケットエラー rc=100xx
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.L20以降

原因

クライアントでの資源適用時にネットワークが繋がっていなかったと考えられます。適用完了時にネットワークが繋がっていなかった場合、適用完了通知は運用管理サーバに届かない状態となります。

対処方法

次回のダウンロード時に、運用管理サーバに未通知の適用結果があれば自動的に通知されるため、対処は不要です。

4.3.25 資源登録時にエラーメッセージが出力されて登録処理に失敗する

エラーメッセージ

回線が切断されました。資源配付ウインドウを再起動してください

対象バージョンレベル

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

資源登録時の世代情報のコメントに、機種依存文字を入力していませんか。

原因

Windows(運用管理クライアント)→UNIX(運用管理サーバ)間の「機種依存文字」のコード変換の問題が原因で発生します。

対処方法

以下に示す「機種依存文字」についてはWindowsの範囲で保証されるため、他OSとの混在環境で使用しないでください。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどの「ローマ数字」
①、②、③などの「丸付き数字」
㊤、㊥、㊦などの「丸付き単語」
㏄、㎜、㎞、㎡などの「記号」

4.3.26 クライアントに対して個別資源の[資源の配付]を実行すると、「配付宛先としてのサーバの指定がありません。」が出力され配付できない

エラーメッセージ

配付宛先としてのサーバの指定がありません。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.L20以降

確認ポイント

運用管理サーバ － クライアントの２階層システムではありませんか。

原因

運用管理サーバに対して、個別資源の[資源の配付]操作を行ったためです。

対処方法

資源配付はクライアントからの要求でサーバから資源を送信します。運用管理サーバ － クライアントの２階層システムでクライアントに個別資源を配付する場合、運用管理サーバに対して[資源の配付]操作を行う必要はありません。

4.4 サーバでの適用に関するトラブル

4.4.1 メンテナンス版数の配付時で、エラーメッセージは出力されないが、ファイルが更新されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

適用対象のシステムで、メンテナンス版数に含まれる各資源グループの適用先IDが定義されていますか。

定義されていない場合、自システムに資源グループを適用することができません。

対処方法

以下の手順で、対処してください。

1. 以下のどちらかの方法で、資源グループの適用先IDを定義します。
   - [資源配付]ウィンドウの場合
     a. [資源配付]ウィンドウで、[設定]メニューの[環境]を選択します。
     →[資源配付 サーバ環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
     b. [適用先ID]タブを選択し、[適用先ID]と[適用先ディレクトリ]を定義してください。
   - コマンドの場合
     drmsdfnコマンドで、-a libを指定して実行してください。
2. 以下のどちらかの方法で、手動適用により適用してください。
   - [資源配付]ウィンドウの場合
     a. [対象システム]サブウィンドウでOWNを選択し、プロパティを開きます。
     b. [OWNのプロパティ]ウィンドウで[個別資源]タブをクリックし、該当資源グループを選択後、[適用]ボタンをクリックして適用します。
   - コマンドの場合
     drmsapyコマンドで、適用されなかった資源グループを指定して実行します。

4.4.2 バッチファイルで指定したコマンドが実施されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

画面対話のあるコマンド/プログラム、または終了操作を必要とするコマンド/プログラムをバッチファイルで実行しようとしていませんか。

対処方法

資源配付では、画面対話や終了操作の必要なコマンド/プログラムを含むバッチファイルは、実行することができません。

既に配付済みの誤った資源をリモート削除機能により、全てのシステムから資源を削除します。削除後、正しい資源で再度登録しなおします。
(メンテナンス版数で資源を配付している場合は、該当資源が定義づけられたメンテナンス版数についても、削除が必要となります。削除後、正しい資源を登録し、メンテナンス版数を定義しなおします。)

4.4.3 バッチファイルを含む資源の適用が完了しない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバでの適用に関するトラブル”-“バッチファイルで指定したコマンドが実施されない”を参照し、対処してください。

4.4.4 ファイルのアクセスエラー(エラーコードはEEXISTやEACCES)が発生する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

適用対象のファイルにほかのアプリケーションとの間で、アクセス競合が発生していませんか。

ウィルス対策ソフトウェアが動作している場合、アクセス競合が発生しやすくなります。

対処1

対処方法

ウィルス対策ソフトウェアの動作とほぼ重なっていた場合は、ウィルス対策ソフトウェアの動作が完了した後、以下の方法で手動適用を使用して適用処理を行ってください。

- [資源配付]ウィンドウ

  [資源の配付]ダイアログボックスで、[適用種別]を[手動適用]にして、配付します。

- コマンド

  drmssndコマンドで、-kオプションに“man”を指定して実行します。

なお、次回以降は、資源配付の適用処理を行う場合は、ウィルス対策ソフトウェアの動作スケジュールは避けるようにしてください。

備考

drmssndコマンド

ユーザ資源データの送信を指示します。本コマンドは、運用管理サーバから部門管理/業務サーバにユーザ資源を単体でダウンロードするとき、部門管理/業務サーバから部門管理/業務サーバにユーザ資源を単体でダウンロードするとき、または開発システムから運用管理サーバにユーザ資源を単体でアップロードするときに使用します。

-kオプション

送信する適用種別を指定します。manは、手動適用です。

対処2

対処方法

以下のどちらかの資源配付の機能を使用して対処してください。

- ウィルス対策ソフトウェアのサービスを自動起動ではなく、資源配付の適用結果に応じて起動されるバッチプログラム（astart.bat/ nstart.bat）により、ウィルス対策ソフトウェアのサービスを起動してください。
- 配付資源の前処理バッチでウィルス対策ソフトウェアの停止、後処理バッチでウィルス対策ソフトウェアの起動を行ってください。

対処3

対処方法

ウィルス対策ソフトウェアで、以下のディレクトリを監視対象外として運用します。

- DRMS編集ファイル中で指定するwork_dirのディレクトリ
- 資源配付実行時のカレントディレクトリ

4.4.5　バッチファイルは正常に実行されているが適用異常となる

対象バージョンレベル

- 対処1：V5.0L10～V13.0.0
- 対処2：V5.0L10以降

対処1

確認ポイント

バッチファイルにdrmscmpコマンドが設定されていますか。

対処方法

バッチファイルを終了する処理ルートにdrmscmp -a script -c 0 コマンドを追加してください。

備考

drmscmpコマンド

ユーザが実行した処理の結果を、資源配付に通知します。
資源配付クライアントでは、バッチの実行結果を反映するために実行結果通知コマンドをバッチファイル内に設定する必要があります。実行結果通知コマンドは、資源配付クライアントのインストール時に“drmscmp.exe”というファイル名でインストールされています。

-a script

本コマンドの機能を定義します。本オプションは“script”と指定します。

-c 結果コード

結果コードを0～255の数値で指定します。結果コードとして0が通知された場合は、資源配付はバッチプログラムの実行が正常に完了したものとして扱います。1～255については、すべて異常として扱います。

対処2

確認ポイント

バッチファイルに記述しているIF文に誤りはありませんか。

対処方法

バッチファイルの内容に誤りがないか確認してください。調査は、バッチファイル内の各処理動作に対してファイルに処理結果をリダイレクトして、途中の動作状況を確認する方法があります。

事例

バッチファイルのIF文で、ERRORLEVELの判定誤りについての事例を示します。

判定誤りによりエラールートが走行することがないか確認してください。

良い例

```
AAA.EXE
# 2以上の復帰コードの場合、ERR2へ飛ぶ
IF ERRORLEVEL 2 GOTO ERR2
# 1以上の復帰コードの場合、ERR1へ飛ぶ
#（ただし、2以上の復帰コードは前文で分岐しているので実質は1だけ）
IF ERRORLEVEL 1 GOTO ERR1

drmscmp -a script -c 0
:ERR2
drmscmp -a script -c 2
:ERR1
drmscmp -a script -c 1
```

悪い例

```
AAA.EXE
IF not ERRORLEVEL 0 GOTO ERR
drmscmp -a script -c 0
```

現象

上記バッチを実行するとAAA.EXEでエラーが発生しても、正常終了する。

原因

“IF ERRORLEVEL 0”だけの記載の場合、0以上の復帰コードが対象となります。
これにnotがついているため、0以上の復帰コードは対象になりません。

対処方法

“IF not ERRORLEVEL 0”を“IF ERRORLEVEL 1”に変更することで、1以上の復帰コードの場合は分岐し、正しく異常終了ルートが走行するようになります。

4.4.6 IPL適用時にシステムが再起動される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

対処方法

IPL適用では、動作中のファイルの置き換えを行います。動作中ファイル置き換えは、適用処理後システムを再起動することによって完了します。
システムを再起動したくない資源の適用時には、適用種別に「IPL適用」や「後刻適用」は使用できません。ほかの適用種別を使用してください。

4.4.7　後刻適用やIPL適用の資源が適用されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

システムの再起動を行いましたか。

対処方法

後刻適用は、日時が経過されている場合、資源配付の再起動時に適用処理が実施されます。
システムを再起動してください。

対処2

確認ポイント

適用エラーとなっている世代がありませんか。

対処方法

適用エラーとなっている世代を適用完了にさせるか、削除してください。

備考

ownステータスに1つでも適用異常があると、システム再起動時の適用を停止し、後刻適用やIPL適用の資源は適用されません。

適用異常の資源があった場合に、適用されないのは、以下の理由のためです。

- 再度適用処理を行っても、うまく適用できなければ、無限に適用処理を繰り返してしまう。
- 運用時の適用エラーとしては、前後バッチの問題や作成データの異常などの事象が多く、ディスクスペース不足などの運用設計ミスは、通常運用ではあまり発生するものではないため、自動的に再適用することでリカバリできる可能性は少ない。

対処3

確認ポイント

後刻適用を実施するサーバで過去にメンテナンス版数を登録していませんか。
メンテナンス版数を登録したサーバでは、後刻適用はできません。

対処方法

メンテナンス版数を登録したサーバ以外のサーバで、後刻適用を行ってください。

4.4.8　サーバポリシーを適用したが、ポリシーで設定した内容が反映されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

適用異常の場合は、資源配付インストールディレクトリのetcディレクトリ配下にあるerrcmd.datファイルを参照してください。

対処方法

errcmd.datファイルにエラー情報が出力されています。この情報からそれぞれの対処を行ってください。

対処2

確認ポイント

適用正常の場合は、hostsファイルの定義を確認してください。

対処方法

hostsファイルに、自サーバの名前解決ができるように定義してください。

対処3

確認ポイント

適用正常の場合は、該当サーバに対するポリシー設定が実施されたか確認してください。

対処方法

ポリシー設定されてない場合は、ポリシーの設定を行ってください。

対処4

確認ポイント

適用正常の場合は、ポリシー資源作成時に指定したサーバのノード名が、該当サーバのOWNのノード名と一致しているかどうか確認してください。

対処方法

ポリシー資源作成時に指定された該当サーバのノード名と、該当サーバのOWNに定義しているノード名が不一致となっています。

- 該当サーバのノード名が誤っている場合

  該当サーバ上で、以下のコマンドを実行してください。

  > drmsmdfy -a sys -k own -s [該当サーバ名] -n [ノード名]
  （※[該当サーバ名]が、“OWN”となっている場合が多いです。）

- 運用管理サーバに登録されている該当サーバのノード名が誤っている場合

  運用管理サーバ上で、以下のコマンドを実行してください。

  > drmsmdfy -a sys -k serv -s [該当サーバ名] -n [ノード名]

  drmsmdfyコマンドでシステム定義の登録内容を変更した後、再度ポリシー資源を登録し、ポリシー資源を配付してください。配付／適用後、ポリシーで設定した内容が反映されます。

備考

複数のIPアドレスを持っている場合、あて先に指定してあるIPアドレスが異なる場合があります。
DRMS編集ファイルのnametypeを“IP”で指定している場合、以下のコマンドを実行し、自身のIPアドレスを規定することができます。

```
drmsmdfy -a sys -k own -s [システム名] -n [IPアドレス]
```

4.4.9 共有ディスクに資源を配付したとき、資源配付の配付ステータスのエラーメッセージが出力されないが、適用先に資源が更新されない

対象バージョンレベル

- 5.0～10.0

原因

資源適用のタイミングで、共有ディスクが切り替わっていて、ディスクがマウントされていない状態だったことが考えられます。

対処方法

資源配付では、適用先ディレクトリが存在しない場合は、適用先ディレクトリを自動生成します。共有ディスクがマウントされていない状態でも、共有ディスクマウントポイント配下に、適用先ディレクトリを自動作成して資源を適用します。
共有ディスクを待機系に切り替えた状態で、適用先ディレクトリの状態を確認してください。（資源が残っていない可能性があります）

また、確実に共有ディスクがマウントされている状態で、資源の適用を行えるよう運用設計してください。

4.4.10 自動生成される適用先ディレクトリの属性情報に差異がある

対象バージョンレベル

- 5.0以降

原因

資源配付機能では、適用先ディレクトリが未定義の場合でもディレクトリを自動生成し、適用処理を行います。ディレクトリを自動生成する場合、umask設定されていればその値を、設定されていなければmode=0777でシステムコールmkdir(2)を使用して生成します。
なおumask設定は、DRMSの起動シェルスクリプトなどで変更していませんので、資源配付デーモン起動時のumask設定に依存します。

上記より、生成されるディレクトリは、システムのumask環境の違いによって、属性が変化します。

確認ポイント

システムのumaskの設定が違っていませんか

対処方法

それぞれのシステムで、umaskの設定が同一になるように定義してください。

または、適用先ディレクトリの属性の違いが気になる場合は、適用先IDに定義した適用先ディレクトリを、事前にシステム上に定義してください。

4.4.11 drmsapyコマンドが復帰してこない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付サービス起動処理中（以下のメッセージが出力する前）にdrmsapyコマンドを実行していませんか。

```
情報:[00700]相手サーバからのサービス要求受付を開始しました
```

対処方法

完全に資源配付が起動完了した後（drmsnプロセスが起動完了）、drmsapyコマンドを実行するようにスケジュールしてください。

4.4.12 クラスタ構成のサーバに対してポリシーを適用したがポリシーが反映されない

対象バージョンレベル

- 5.1以降

原因

ノード名引継ぎ機能で、ポリシーの適用ノードのチェックが不一致で適用されなかった（資源の適用自体はエラーにはしない）と考えられます。
資源配付機能では、クラスタシステム上で運用している場合も物理ノードを意識した処理を行う必要があります。

確認ポイント

該当サーバでSafeCLUSTERのノード名引継ぎ機能を使用しているか確認してください。

対処方法

ノード名引継ぎ機能を使っている場合は、システム定義の内容を変更するdrmsmdfyコマンドにより、運用系と待機系をそれぞれ意識させる必要があります。

以下のコマンドを、運用系、待機系の両方で実行してください。

```
/opt/FJSVmpsdl/bin/drmsmdfy -a sys -k own -s OWN -n 物理ノード名
```

-nオプションで指定する値は、上位サーバの/etc/hostsファイルに定義した物理ノード名と一致していなければなりません。
物理ノード名は、運用系では運用系の待機系では待機系の物理ノード名を指定してください。

4.4.13 メンテナンス版数の適用種別がIPL適用にもかかわらず、コンピュータを再起動しても自サーバに適用されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

自サーバで適用するメンテナンス版数が資源登録されていませんか。

対処方法

[資源配付]ウィンドウ、またはdrmsapyコマンドで、適用処理を実行してください。

備考

drmsapyコマンド

ユーザ資源の適用を自動化できない場合、手動で適用します。ユーザ資源を資源グループ単位で適用します。

備考

通常、メンテナンス版数は、運用管理サーバで登録されますが、メンテナンス版数の資源登録サーバでは、適用コマンドを実行しないと適用できません。
IPL適用など自動によるメンテナンス版数の適用操作は、オペレータ不在の配付先のサーバで有効です。

4.4.14 即時適用指定で配付したにもかかわらず、適用が完了にならない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

相手サーバから適用結果通知を受信する設定になっていますか。

対処方法

相手サーバ側のスケジュール情報ファイルで自サーバ宛に適用結果通知を通知する設定になっているか、またはautonotify=YESで結果通知を送る設定になっているか確認願います。適用結果通知を行うようになっていなければ通知されませんので、適用結果を通知する設定にしてください。
autonotifyオプションは、V13.3.0以降廃止されています。V13.3.0以降の省略値は「NO」です。

対処2

確認ポイント

送信元サーバ上で“drmslst -a sys -k serv -s システム名”コマンドの実行で出力されたサーバステータスのリスト結果を確認してください。配付した資源のステータス情報が20 11（送信失敗）になっていませんか。

対処方法

相手サーバ側で資源受信応答時に通信エラー等で失敗していませんか。受信処理で失敗しているため適用処理が続行不可です。エラーメッセージを確認してください。

対処3

確認ポイント

既に該当のサーバに資源を登録していて、そのサーバに対して即時適用指定で配付していませんか。
該当のサーバに既に資源が存在する場合は、即時適用を行うことはできません。

対処方法

該当のサーバで資源を適用するためには、サーバ上で直接適用コマンド(drmsapyコマンド)を実行するか、一旦該当資源を削除(drmsdltコマンド)した後、再度即時適用指定で配付してください。
または次の世代を登録し、即時適用指定で配付してください。

4.4.15 属性情報を、部門管理サーバ側でdrmsmdfyコマンドによって設定しているにもかかわらず、資源の適用が行われると設定値が変更されてしまう

対象バージョンレベル

- V4.0L20以降
- 5.0以降

確認ポイント

属性情報付きのメンテナンス版数を配付されていませんか。
後から設定された属性情報が有効になります。

対処方法

ローカルに属性を設定せず、配付資源に設定したい属性を付加して配付してください。

4.4.16 [イベントID:403または220]のメッセージが出力され、適用エラーが発生することがある

エラーメッセージ

```
エラーコード(ENOAPL),詳細情報(Rscgrp(～).Error code(EEXIST). detailed
information($WORK_DIR¥tmp¥drms_XXXX)).（注）
```

注）“XXXX”は、プロセス番号。再起動しない間は同じ番号になる。drms_XXXX は、work_dir配下である。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

過去にバッチファイル付資源を適用したことがあり、かつ該当のバッチファイルにおいて、別のバッチファイルをバックグラウンドで実行するような処理が組み込まれていませんか。かつ、適用処理以降、一度もコンピュータを再起動していないことはありませんか。

OS側の仕様に依存しますが、過去にバックグラウンドで実行したバッチファイルにおいて、資源配付が実行したcmd.exeが正常に終了しなかったために、該当work_dirのディレクトリの削除が完了できない状態に陥っています。

そのため、そのディレクトリ名が、後に実行した別のバッチファイルのwork_dirのディレクトリ名と一致した場合に、このようなエラー事象が発生します。XXXXはプロセス番号です。

対処方法

以下の対処により、問題が発生しなくなります。コンピュータの再起動をお勧めします。

- コンピュータの再起動
- work_dirオプションの設定場所の変更

注意

なお、バッチファイルからバッチファイルをバックグラウンドで実行するようなバッチファイルは、配付しないでください。

4.4.17 後刻適用またはIPL適用で個別メンテナンス版数を適用する場合、DRMS管理ファイル内に“DRMS管理ファイル¥rms¥RMSLEVEL¥v_個別メンテナンス版数名”のフォルダがあると、個別メンテナンス版数の適用ができない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

メンテナンス版数を登録したサーバで後刻適用またはIPL適用をしようとしていませんか。
メンテナンス版数を登録したサーバでは、後刻適用およびIPL適用はできません。

対処方法

メンテナンス版数を登録したサーバ以外のサーバで、後刻適用またはIPL適用を行ってください。

4.4.18 過去に配付済みのはずの資源が、最初からダウンロードされて適用される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

1. 過去にdrmsdltコマンドまたはGUIで資源を削除していませんか。
2. own_gennumオプションの設定により、過去に適用した資源が削除されていませんか。

対処方法

製品の仕様です。

また、再度資源が配付、適用されてしまった事象発生後、“確認ポイント”で示す操作を行っていない限り、再度配付、適用されることはありません。

4.4.19 バッチファイル付きで資源を配付したところ、初回配付時にはバッチファイルのエラーが発生し適用失敗となったが、同じ資源を再度配付すると、正常に適用完了になった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

配付されたバッチファイルに、システム環境に依存するような処理が記述されていませんか。
この場合、適用するタイミングや環境によって、適用正常になったり、適用異常になったりする可能性があります。

対処方法

適用正常になっているので、対処は不要です。

なお、システム環境に依存して適用異常が発生することがないように、適用先のシステム環境に依存せずに正常終了するバッチファイルを作成してください。

4.4.20 サーバへのポリシー設定で、サーバポリシー資源が適用できない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

hostsファイルのローカルホスト(127.0.0.1)に対してサーバ名が定義されていませんか。
自ホストに対するサーバ名(ノード名)がローカルホストのIPアドレスに定義してあると、ホスト名からIPアドレスを求める処理(名前解決)が失敗します。

対処方法

localhost(127.0.0.1)の個所からサーバ名を削除してください。

・ 誤っているhostsファイルの例(★行が誤り行)

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
★127.0.0.1 sv01 localhost.localdomain localhost
123.123.123.123 sv01 loghost
123.123.123.456 mc02
```

・ 正しいhostsファイル(修正後のファイル)の例(☆行が修正行)

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
☆127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
123.123.123.123 sv01 loghost
123.123.123.456 mc02
```

4.4.21 バックアップからリストアしたサーバに、上位運用管理サーバからダウンロードした資源が適用されない

原因

2つ以上のOWN情報（OWN種別の情報）が、DRMS管理ファイルに混在している場合、"drmslst -a sys"で先に出力されるシステムのOWN情報が有効となっています。
その有効となっているOWN情報の世代情報を基準に資源配付されます。

確認ポイント

既存環境へ、リストア作業を実施されていませんか。

バックアップした情報から、OWN情報のサーバ名を変名していませんか。

対処方法

古いOWN情報を削除してください。

発生事例

リストアする前の環境で既に資源配付を実施し、システム名OWNが作成されています。そのDRMS管理ファイルへリストアする環境（システム名PD301SPR001のOWN情報）を上書きしてしまい、その結果、OWN情報が2つ作成されてしまいました。
この場合、"drmslst -a sys"の出力結果順が早いシステム名OWNが有効となるので、そのOWNの世代情報（保持している最新の世代：G0403251）を元に、上位サーバから資源がダウンロードされます。

＜drms l st -a sys -k own＞

```
OWN own * * * 2003/12/15 15:05:40 * * 0 53 0
●G0511241 2 20 10 2005/12/11 07:20:03 2005/12/11 07:20:27 * * *
●G0507281 2 20 10 2005/12/11 07:17:35 2005/12/11 07:17:44 * * *
●G0505261 2 20 10 2005/12/11 07:16:34 2005/12/11 07:16:54 * * *
●G0409281 2 20 10 2005/12/11 07:11:41 2005/12/11 07:11:53 * * *
●G0408261 2 20 10 2005/12/11 07:10:55 2005/12/11 07:11:10 * * *
  G0403121 2 20 10 2005/12/11 07:07:40 2005/12/11 07:07:48 * * *
  G0402111 2 20 10 2005/12/11 07:05:09 2005/12/11 07:05:50 * * *
PD301SPR001 own 10.58.5.11 * * 2004/03/12 00:11:39 * * 0 20 0
  G0403121 2 20 10 2004/03/12 00:35:51 2004/03/12 00:36:00 * * *
  G0402111 2 20 10 2004/03/12 00:33:49 2004/03/12 00:34:20 * * *
```

※本来は、リストアした環境（PD301SPR001 own）を有効にさせたかったが、既にリストア先に作成されていた環境（OWN own）が有効となり、（OWN own）の環境で資源配付が実施された。
●印の世代が既に資源配付されている状態なので、上位サーバからはG0511241世代より以降の最新世代が資源配付されます。

4.4.22 Linuxの運用管理サーバで登録したソフトウェア辞書資源をWindowsの業務サーバで適用しようとすると、適用処理が異常終了となる

Linuxの運用管理サーバで登録したソフトウェア辞書資源（資源種別：pc#dic）をWindowsの業務サーバで適用しようとすると、適用処理がアプリケーションエラー（c0000005）で異常終了する。

エラーメッセージ

```
[00220] コマンド実行中にエラーが発生しました．エラーコード（ERROR 0），詳細情報（）．
```

原因

Linuxサーバのコンソールからコマンドラインで、ソフトウェア辞書資源（資源種別：pc#dic）を登録したため、異常終了しました。
Solaris/Linuxサーバの場合、ソフトウェア辞書資源（資源種別：pc#dic）、およびパッケージ資源（資源種別：pc#pkg）は、運用管理クライアントの資源配付コンソールから登録する必要があります。

確認ポイント

ソフトウェア辞書資源(資源種別：pc#dic）を運用管理サーバ上で登録していませんか。

対処方法

運用管理サーバがSolaris/Linuxの場合、ソフトウェア辞書資源（資源種別：pc#dic）、およびパッケージ資源（資源種別：pc#pkg）は、運用管理クライアントの資源配付コンソールから登録してください。

4.4.23 適用予定日時未超過の資源の後に、適用予定日時超過の資源がある場合、適用予定日時未超過の資源までも適用される

対象OS

- Windows

原因

最新世代の適用日時が到来したため、未適用の資源が適用されました。

確認ポイント

適用予定日時未超過の世代の後に、適用予定日時超過の世代がありますか。

対処方法

適用予定日時を意識した資源を配付する場合は、適用したい順番に世代の適用予定日時を登録してください。

備考

サーバ側の適用処理が、マシンOS（WindowsまたはUNIX）によって異なります。

- UNIX版

  IPL適用、後刻適用を用いて複数の世代の適用を行う場合、未適用の世代のうち最も古い世代から適用処理が行われます。このため、未適用の世代の中に適用条件を満たさない(適用予定日時未超過、適用予定日時未定、または手動適用等)世代が一つでも存在すると、それ以降の世代に対しては、たとえ適用条件を満たしていたとしても、適用処理が行われません。

  また、後刻適用の資源の後に即時適用の資源が配付されると、適用種別に関係なく受信済みの未適用世代も即時適用されます。

- Windows版

  IPL適用、後刻適用を用いて複数の世代の適用を行う場合、適用種別がIPL適用または後刻適用の適用予定日時が経過している世代までを、適用種別に関係なく適用します。
  また、後刻適用の資源の後に即時適用の資源が配付されると、適用種別に関係なく受信済みの未適用世代も即時適用されます。

4.4.24 資源配付サービスの再起動を行うと、意図しない資源が適用される

原因

適用先ID未定義のサーバで受信した資源に対して、受信後に適用先IDを定義して資源配付サービスの再起動を行ったためです。

適用先IDが未定義のサーバで受信された資源は、適用しません(他系サーバ資源の扱い)。受信後に適用先IDを定義すると、サーバの再起動時に(当該資源は自系サーバと判断し)適用を行います。

対処方法

適用先IDを設定することにより、対象資源(個別資源グループ)の全世代が適用されています。
適用された資源(モジュール)の状態を確認し、問題がある(モジュールのレベルダウンなど)場合、以下のいずれかの対処を行い、資源を最新にしてください。

- レベルダウンした資源を、手作業（ファイルコピー）で最新世代の資源に置き換える。
- 新しい世代で再度、最新世代の資源（モジュール）を配付する。

4.4.25 サーバポリシーが適用済みステータスとなっているにもかかわらず、設定が反映されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V13.6.0以降

確認ポイント

- ポリシー配付先サーバのあて先定義について、ノード名にIPアドレスを指定していますか。
- ポリシー配付先サーバで設定しているCentric ManagerのIPバージョンと、あて先定義で指定したIPアドレスのIPバージョンが一致していますか。

  IPバージョンの確認は、swsetuseipコマンドで行います。確認方法は以下のとおりです。

  ```
  # swsetuseip -o
  ```

  - コマンドの出力結果が"4"の場合はIPv4が設定されています。
  - コマンドの出力結果が"6"の場合はIPv6が設定されています。

原因

資源配付のあて先定義で指定したIPアドレスのIPバージョンと、ポリシー適用先サーバで設定されている、Centric ManagerのIPバージョンが異なることが原因です。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- 配付元サーバで、配付先サーバのあて先定義を変更する。

  手順は以下のとおりです。

1. 配付先サーバのあて先定義を変更します。
   - 配付先サーバのIPバージョンがIPv4の場合

```
# drmsmdfy -a sys -k serv -s 配付先サーバのあて先システム名 -n 配付先サーバのIPv4アドレス
```

   - 配付先サーバのIPバージョンがIPv6の場合

```
# drmsmdfy -a sys -k serv -s 配付先サーバのあて先システム名 -n 配付先サーバのIPv6アドレス
```

2. あて先定義が変更されているか確認します。

```
# drmslst -a sys -k serv -s 配付先サーバのあて先システム名 -l sys
```

   出力結果の3カラム目に、手順2で指定したIPアドレスが出力されていることを確認します。

- 配付先サーバで、Systemwalker Centric ManagerのIPバージョンを変更する。

  以下のコマンドを実行してください。

  - IPバージョンをIPv4に変更する場合

```
# swsetuseip -i 4
```

  - IPバージョンをIPv6に変更する場合

```
# swsetuseip -i 6
```

4.4.26 圧縮したLinux資源の適用に失敗する

エラーメッセージ

```
drmsd: ERROR: [00403] An error has occurred during 資源グループ名.世代識別名 registration.
Error code(ENOTSUPPORT), detailed information(Unknown error 255[Fork_Exec is error] ,
Apply File[ファイルパス]).
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - Linux版：全V/L
- Systemwalker Software Delivery
  - Linux版：全V/L

確認ポイント

- Linux資源の登録時に、配付資源を圧縮していませんか。

  以下の場合に、Linux環境で配付する資源を圧縮できます。

  - 資源登録サーバに圧縮/解凍ユーティリティ(ncompress)をインストールしている
  - [Systemwalker Centric Manager V17.0.0以前]
    資源登録時に、drmsaddコマンドで非圧縮オプション“-n”を指定していない
  - [Systemwalker Centric Manager V17.0.1以降]
    資源登録時に、drmsaddコマンドで圧縮オプション“-o”を指定している
- エラーが発生したLinuxサーバに、圧縮/解凍ユーティリティがインストールされていますか。

- 適用先に、0バイトファイルが作成されていませんか。

原因

配付先サーバに圧縮/解凍ユーティリティ（ncompressまたはgzip）がインストールされていないことが原因です。

対処方法

以下のいずれかの対処を行ってください。

- [Red Hat Enterprise Linux 8以前の場合]
  資源配付先のLinuxサーバすべてに、圧縮/解凍ユーティリティ（ncompress）をインストールする。
- [Red Hat Enterprise Linux 9以降の場合]
  資源配付先のサーバすべてに、圧縮/解凍ユーティリティ（gzip）をインストールする。
- [Systemwalker Centric Manager V17.0.0以前]
  資源登録時にdrmsaddコマンドで“-n”オプションを指定し、資源圧縮を行わないようにする。
- [Systemwalker Centric Manager V17.0.1以降]
  資源登録時にdrmsaddコマンドで“-o”オプションを指定せず、資源圧縮を行わないようにする。

4.4.27 複数世代を連続して適用しようとすると、適用に失敗する

エラーメッセージ

```
[00220] コマンド実行中にエラーが発生しました．エラーコード（EEXIST），詳細情報（MoveFile
error , Apply File[ファイルパス] , 5）.
[00220] コマンド実行中にエラーが発生しました．エラーコード（ENOAPL），詳細情報
（Rscgrp(資源グループ名.バージョン・レベル.世代識別名). Error code(ENOENT). detailed
information(MoveFile error, Apply File[ファイルパス], 5)）.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager：全V/L
- Systemwalker Software Delivery：全V/L

確認ポイント

- 連続する世代で、前バッチまたは後バッチに、同じファイル名のファイルを指定していませんか。
- 適用に失敗した世代の前世代の後バッチ内で、資源ファイルの削除を実施していませんか。

原因

Windowsファイルシステム（OS）の動作仕様が原因です。

ファイル削除時、ファイルシステムは削除を完了してから復帰するのでなく、ファイルに deletion のマークをつけ、[削除保留]状態（アクセス不可状態）にして復帰します。その後、すべてのファイルハンドルがクローズされた時点で[削除保留]状態が解除され、ファイルの削除が完了します。[削除保留]状態のタイミングでは、ファイルは存在していますがアクセスできない状態となっています。

資源配付の前バッチおよび後バッチは、適用先ディレクトリに展開して実行後、削除しています。そのため、連続した世代で同じファイル名の前バッチまたは後バッチが実行された場合、前世代で削除したはずの前バッチまたは後バッチのファイルが[削除保留]状態で残っていることがあり、前・後バッチが展開（置換）できないため、本現象が発生します。

また、前世代の後バッチ内で、適用先ディレクトリの資源ファイルの削除を行っている場合、同様に資源ファイルが[削除保留]状態で残っていることがあるため、適用（置換）がアクセス拒否により失敗するため、本現象となります。

対処方法

- 前バッチまたは後バッチのファイル名に世代識別名を含めるなど、世代ごとに異なるファイル名で指定してください。

- 資源配付は既存ファイルついて置き換えを行います。後バッチで適用先ディレクトリの資源ファイル削除は行わないようにしてください。どうしても後バッチで資源ファイルを削除する必要がある場合は、後バッチで資源ファイル削除後に、ファイル削除が完了するよう、待ち時間を設定してください。

ファイル削除が完了するのに必要な待ち時間については、ファイルサイズ、ファイルシステムの状態、ファイルにアクセスする他のアプリケーション（アンチウィルスソフト等）の有無・状態等に依存すると考えられ、固定ではありません。余裕を持った待ち時間の設定を行うようにしてください。

4.5 クライアントでの適用に関するトラブル

4.5.1 ファイルのアクセスエラーが発生する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

ウィルス対策ソフトウェアが動作中ではありませんか。

対処方法

ウィルス対策ソフトウェアは、資源配付の処理終了後に起動させる必要があります。資源配付クライアントのスタートアップ拡張機能を使用し、システム起動時の、資源配付クライアントとほかのアプリケーションの起動順序を設定してください。

対処2

確認ポイント

資源の適用先ディレクトリに、配付ファイル名と同名のディレクトリが既に存在していませんか。

対処方法

ディレクトリ名を変更するか、または削除してください。

4.5.2 バッチファイルが実行されない

対象バージョンレベル

- Windows版：V5.0L10以降
- Solaris版：5.0以降
- Linux版：V10.L20以降

対処1

確認ポイント

_default.pifファイルに対するアクセス権が設定されていますか。

対処方法

OSの機能で、ログインユーザに、_default.pifファイルに対する“読み取り”以上のアクセス権を設定してください。_default.pifファイルは、システムディレクトリ配下に存在します。

対処2

確認ポイント

資源配付の起動方法により、適用時に動作するバッチの動作権限は異なります。バッチから動作させるアプリケーション等に、特別な権限が必要であるか確認してください。

対処方法

資源配付の起動方法により、適用時に動作するバッチの動作権限は以下のようになります。

- 資源配付をサービス起動で起動する場合(強制配付を含む)

  バッチの動作権限は、SYSTEMグループとなります。

  権限の変更については、サービスのプロパティで必要な権限を持つアカウントを設定してください。

- 資源配付をスタートアップ拡張で起動する場合

  バッチの動作権限は、ログオンしたユーザの権限となります。

  権限の変更については、ログオンユーザのアカウントに必要な権限を設定してください。

4.5.3 バッチファイルで指定したファイルが認識されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

バッチファイルで指定しているファイルはフルパスで記述していますか。

対処方法

バッチファイルで指定するファイルは、フルパスで指定するか、cdコマンドでカレントディレクトリを移動して指定してください。

なお、サービス起動以外の方法でダウンロード機能を実行している場合、バッチファイル実行中はMS-DOSプロンプトが起動し、バッチファイルの実行状態が確認できます。バッチファイルの実行でエラーとなっている場合には、バッチファイル内にpauseコマンドを入れたり、ECHOコマンドでバッチファイル内コマンドの実行状況を表示して、エラー内容を確認してください。

4.5.4 バッチファイル実行時にシステムがフリーズする

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

使用しているコンピュータは、IBM社製ですか。

対処方法

IBM社製のコンピュータの場合、ディスプレイドライバの問題により、システムがフリーズすることがあります。IBM社ホームページからディスプレイドライバの修正版を入手して適用してください。

4.5.5 バッチファイルは正常に実行されているが適用異常となる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバでの適用に関するトラブル”-“バッチファイルは正常に実行されているが適用異常となる”を参照し、対処してください。

4.5.6 バッチファイルの適用処理が、Windows 9x系のクライアントだけ異常となる

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10
- 5.0～12.0

対処1

確認ポイント

バッチファイルの判定文がWindows 9x系の構文になっていますか。

対処方法

バッチファイルは、Windows NT系とWindows 9x系で互換性のないものがあります。資源配付で配付するバッチファイルには、Windows 9x系で動作する構文で記述したものを作成し、Windows NT系とWindows 9x系の両システムに対し、同一のバッチファイルを配付してください。

以下に間違えやすい非互換の例を示します。以下の場合には、Windows 95の判定文を利用するようにしてください。

- Windows NT4.0の場合

```
IF %ERRORLEVEL% EQU 0 goto CHK
```

- Windows 95の場合

```
IF ERRORLEVEL 0 goto CHK
```

対処2

確認ポイント

drmscmpコマンドの実行時に、start /Wを付加していますか。

対処方法

dwldrms.exeは、実行したバッチファイルが終了した段階で、バッチファイル中のdrmscmpの実行結果を参照します。同期を正しくとらない現象が発生することにより、drmscmpが実行中にdwldrms.exeがdrmscmpの実行結果を参照しようとすると、本事象が発生します。

以下の対処により本現象の発生を予防できます。

```
%drmsc%¥drmscmp -a script -c 0
        ↓
start /W %drmsc%¥drmscmp -a script -c 0
```

4.5.7 ポリシー配付で、クライアントには正常に適用されたが、ポリシーの設定内容が反映されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

ほかのクライアントからDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）を上書きした場合に、コピー元クライアントとして認識する情報が残存していませんか。

対処方法

DRMS管理ファイルを上書きしたクライアントのDRMS管理ファイルに以下のファイルが存在する場合は、以下のファイルを削除してください。

- nodechk.inf
- dnschk.inf

4.5.8 ダウンロード実行環境で資源適用後の動作を[シャットダウン]に設定しているのにもかかわらず電源が切断されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

本機能は、OSシステムのシャットダウンを行う機能であり、電源切断などの管理までを行う機能ではありません。 電源の切断は手動で行ってください。

4.5.9 バッチファイルで指定したコマンドが実施されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバでの適用に関するトラブル”-“バッチファイルで指定したコマンドが実施されない”を参照し、対処してください。

4.5.10 バッチファイルを含む資源の適用が完了しない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバでの適用に関するトラブル”-“バッチファイルで指定したコマンドが実施されない”を参照し、対処してください。

4.5.11 ダウンロード実行環境で、処理形態を[一括]にしているにもかかわらず、ダウンロードしても資源の受信だけとなっている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

Systemwalker SelfHealingがインストールされていませんか。
Systemwalker SelfHealingがインストールされていると、ダウンロードクリックなどでダウンロードしても、自動的に資源の受信だけとなり適用処理は行いません。

対処方法

Systemwalker SelfHealing導入環境で、強制的に資源配付の適用まで完了させたい場合、以下の手順を実施してください。

1. Systemwalker SelfHealingの定義ファイル名の変更

   以下の2つのファイル名を変更してください。

   - Windowsインストールディレクトリ¥slfmnt.ini
   - Systemwalker SelfHealingインストールディレクトリ¥slfmnt.ini

2. 資源の適用

   以下のコマンドを実行します。

```
apldrms
```

3. Systemwalker SelfHealingの定義ファイル名の変更

   1.で変更したファイル名を元に戻してください。

4.5.12 クライアントポリシーを配付すると、ユーザ情報000014で適用エラーが発生する

エラー例

クライアントのmainte.logファイルのエラー例（●印は問題箇所です。）

```
適用開始
業務名＝INITJOB
  資源グループ名＝#DEF#POLICY  V/L＝CLIENT
    世代識別名＝GEN00000
    異常:バッチ用資源でエラーが発生しました
      コマンド名＝c:¥CLDfnJob.Bat
      復帰情報＝1  ユーザ情報＝000014●
適用結果通知開始
業務名＝INITJOB
  資源グループ名＝#DEF#POLICY  V/L＝CLIENT
    世代識別名＝GEN00000  適用結果通知
KZBY530 バッチ用資源実行中に異常が発生しました。inf=1
セション切断
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

クライアントポリシーが適用されるクライアントのノード名に、クライアント自身のIPアドレスとホスト名が定義されていますか。

対処方法

クライアントへのポリシー実行バッチが、ノードチェック処理（自分自身に適用するか判定を行っています）で失敗しているためエラーが発生しています。
該当のクライアントで名前解決してください。

4.5.13 Interstage Charset Managerと連携して文字パターンファイルを配付した場合、適用処理中に資源配付の後処理バッチで無応答状態になる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

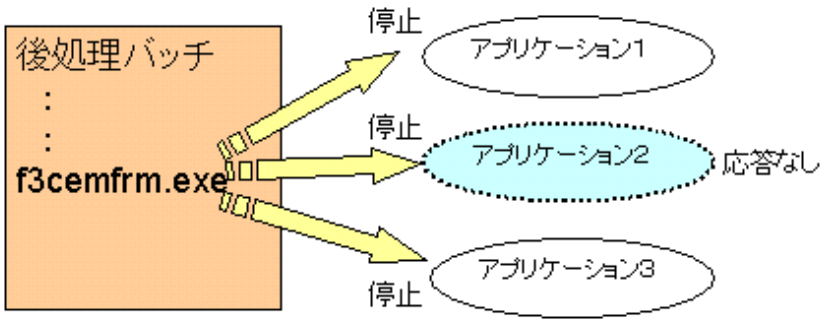
確認ポイント

後処理バッチの処理中のInterstage Charset Managerのフォント書換えのコマンド（f3cemfrm.exe）が実行中に停止していませんか。

タスクマネージャで、“応答なし”状態のアプリケーションが存在していませんか。

対処方法

後処理バッチによって実行されるフォント書換えのコマンド(f3cemfrm.exe）プロセスが、アプリケーションに動作停止のシグナルを送りますが、“応答なし”のプロセスが存在するためにCharsetMGRのアプリケーションが無応答状態になってしまいます。タスクマネージャーで“応答なし”となっているアプリケーションを停止させてください。



また、サービス起動によるダウンロード処理を実行しているようなケースの場合、“応答なし”となるアプリケーションは、資源配付の適用処理が完了後に起動するようにしてください。

4.5.14 ポリシー配付時にクライアント側で適用エラーとなる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

ポリシー配付用資源グループを、個別メンテナンス版数内の資源として配付していませんか。

対処方法

ポリシー配付用資源グループは、共通メンテナンス版数または個別資源で配付するようにしてください。

4.5.15 共通メンテナンス版数および個別メンテナンス版数で運用しているシステムにおいて、個別メンテナンス版数だけを利用したクライアントの共通メンテナンス版数が世代アップされない

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

原因

以下に示す、発生条件1～3の全条件に一致する場合に、適用機能を実行すると、本事象が発生します。

＜発生条件＞

1. ダウンロードの処理形態が「受信のみ」である。 かつ
2. メンテナンス版数の版数情報(SYSLEVEL)だけ受信済である。 かつ
3. クライアントの状態が以下の何れかの場合
   - 共通メンテナンス版数のとき
     クライアント側で業務が1件も定義されていない
   - 個別メンテナンス版数のとき
     クライアント側で版数内業務が1件も定義されていない

確認ポイント

- 共通メンテナンス版数にデフォルト設定されている業務定義INITJOBを削除していませんか。
- 共通メンテナンス版数に業務定義が一つも定義されていないのではないですか。

対処方法

資源配付クライアントセットアップで共通メンテナンス版数を選択して、業務情報を設定してください。

4.5.16 ファイルが使用中の場合、置き換えができない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

他アプリケーションなどが使用中のファイルを置き換えようとしていませんか。
この場合、ファイルに対して入出力を行うことができないため、ファイルを置き換えることはできません。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- ログオン時の自動ダウンロード運用の場合は、[スタートアップ]に登録されている該当アプリケーションを、［資源配付正常スタートアップ］および［資源配付異常スタートアップ］に移動し、資源配付のダウンロード完了後に該当アプリケーションを起動するように変更する。
- 配付資源に前・後バッチを利用して、アプリケーションの停止起動を行う考慮を入れる(ただし、資源種別がpc#pkgの場合を除きます)。

4.5.17 資源配付クライアントに、適用種別が後刻適用の個別メンテナンス版数を配付すると、エラーメッセージが出力されて適用が失敗する

エラーメッセージ

メンテナンス版数(個別メンテナンス版数名)の版数(世代識別名)は適用可能日時を経過していません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

個別メンテナンス版数の適用予定日時が未定になっていませんか。

または、メンテナンス版数内の資源グループについて、適用予定日時が未定になっているものがありませんか。

- 例）サーバ側のdrmslst -a sys -k ownの結果抜粋

```
SYSLEVEL xxxxxxxx 14
RMS00014 2 20 10 (*) 2004/02/12 19:17:42 * * *
RMS00013 2 20 10 (*) 2004/02/12 19:17:25 * * *
RMS00012 2 20 10 (*) 2004/02/12 19:17:08 * * *
```

※本出力例で、“()”で囲んだフィールド(適用予定日時)が“*”の場合、適用予定日時は未定であることを示します。

対処方法

クライアントの接続先サーバ上で、以下のコマンドを実行して該当する個別メンテナンス版数の適用予定日時を変更してください。

drmsmdfy -a rsc -g SYSLEVEL -v メンテナンス版数名 -k date -t 適用予定日時 -e メンテナンス版数の世代

例)

```
drmsmdfy -a rsc -g SYSLEVEL -v CONTENTS -k date -t 200402121900 -e RMS00014
```

また、メンテナンス版数内の資源グループについて、適用予定日時が未定になっている場合も同様の結果となりますので、各メンテナンス版数内の資源グループについて適用予定日時を確認し、適用予定日時が未定となっている場合は、以下のコマンドを実行して適用予定日時を変更してください。

drmsmdfy -a rsc -g 資源グループ名 -v バージョンレベル -k date -t 適用予定日時 -e 世代識別名

例)

```
drmsmdfy -a rsc -g BINDATA -v V12L10 -k date -t 200402121900 -e GEN00000
```

4.5.18 [資源配付]ウィンドウを使わずにクライアントポリシーを生成した場合、クライアントにポリシーを正常に配付できないことがある

以下の条件下で資源配付クライアントにクライアントポリシーを配付すると、クライアントに正常に適用されません。

【運用状態】

1. サーバ・クライアント共通で業務(INITJOB)を作成する。
   ※配付資源がサーバ・クライアント共通のため、業務を一本化。
2. 配下に資源グループ(#DEF#POLICY SERVER)を作成する。
3. 資源グループ配下に資源(GEN00000)を作成する。
4. ここで、メンテナンス版数(RMS00000)を作成し資源配付を実施する。
   ※サーバ・クライアントのポリシーを配付。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

“#DEF#POLICY SERVER”はサーバ用のポリシー資源です。このポリシー資源がサーバ・クライアント共通資源として定義されていると、サーバについてはメンテナンス版数を適用することができますが、クライアントについては受信だけが可能となります。

コマンドでポリシー資源を定義した場合、以下の操作をするとサーバ・クライアント共通資源として登録されます。

```
drmsdfn -a job -j INITJOB -g #DEF#POLICY -v SERVER
```

対処方法

“#DEF#POLICY SERVER”のポリシー資源をサーバ用資源として再定義し、メンテナンス版数の登録・配付を行ってください。

- 運用管理サーバ、部門管理/業務サーバの場合

  “#DEF#POLICY SERVER”の適用先システム種別を“serv”に変更してください。

  コマンドで変更する場合は以下のコマンドです。

```
drmsdlt -a job -j INITJOB -g #DEF#POLICY -v SERVER
```

```
drmsdfn -a job -j INITJOB -g #DEF#POLICY -v SERVER -t serv
```

- クライアント

  [資源配付クライアント 環境設定]画面の[業務情報]タブ内の[INITJOB]を選択して[資源グループ情報]ボタンをクリックしてください。[資源グループ情報設定]画面が表示されますので“#DEF#POLICY SERVER”を削除してください。

備考

本トラブル事例は、サーバ上で[資源配付]ウィンドウを使用している場合は発生しませんが、コマンドラインで独自にポリシーを作成している場合に発生する可能性があります。
ポリシー資源の業務定義をコマンドで行う場合は、サーバ用ポリシーおよびクライアント用ポリシーの定義は、それぞれ以下のコマンドで行ってください。

- サーバ用ポリシー

```
drmsdfn -a job -j INITJOB -g #DEF#POLICY -v SERVER -t serv
```

- クライアント用ポリシー

```
drmsdfn -a job -j INITJOB -g #DEF#POLICY -v CLIENT -t cl
```

4.5.19 個別メンテナンス版数をクライアントにダウンロードすると、適用されるはずの一部のファイルが置き換わらないことがある

個別メンテナンス版数をクライアントにダウンロードすると、適用されるはずのファイルの一部が置き換わらないことがあります。

【メンテナンス版数の資源構成例】

個別メンテナンス版数名： MAIN

メンテナンス版数の世代： RMSXXXXX

資源グループ名： MAIN

資源の世代： HXXXXXX(XXXXXXは年月日)

適用対象のファイル名： A.EXE、B.EXE、C.EXE

上記のうち、適用されていなかったファイル： B.EXE

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

- 適用先ディレクトリのファイルが最新のものに置き換わったあと、人為的に古いものと入れ替えていませんか
- 運用管理サーバ上での資源登録時に、適用ファイルを間違って古いものを登録していませんか
- クライアントに資源を配付した後、配付された資源を適用先にコピーするバッチファイルを後バッチで実行している場合に、コピーだけが失敗していませんか
- 複写すべきファイルがダウンロードのタイミングで他のアプリケーションで使用中になっていませんか

クライアントでは、資源を受信したあと、受信した資源が適用先ディレクトリに展開され、入出力エラーなどの異常が発生せずに展開が完了した時点で、資源が“適用完了”したと認識します。

対処方法

確認ポイントに示す項目に該当するものがないか確認してください。該当するものがある場合は、それぞれの誤り要因を取り除いた後、再度、資源配付の操作を行ってください。

4.5.20 前処理バッチ/後処理バッチを実行すると、適用処理でエラーが発生する場合がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

資源配付に対してレジストリ操作を実行する権限がないため、エラーが発生しています。

対処方法

サービス起動によるダウンロードの場合は、資源配付サービスアカウントでダウンロード/適用処理を実行します(資源配付クライアントサービスは、インストール直後、デフォルトでローカルシステムアカウント(system)となっています)。

また、スタートアップ拡張機能によるダウンロードの場合は、コンピュータへのログインユーザ権限でダウンロード/適用処理を実行します。
各ダウンロード方法で、前処理バッチ/後処理バッチの実行可能なアカウントを採用して、ダウンロードを実行してください。

備考

例1

Internet Explorerの信頼済みサイトを設定する後処理バッチを配付すると、適用時に以下のエラーメッセージが出力されます。

IE.regを取り込めません。データの一部をレジストリに書き込むことができませんでした。システムまたはその他のプロセスによって、開かれているキーがあります。

例2

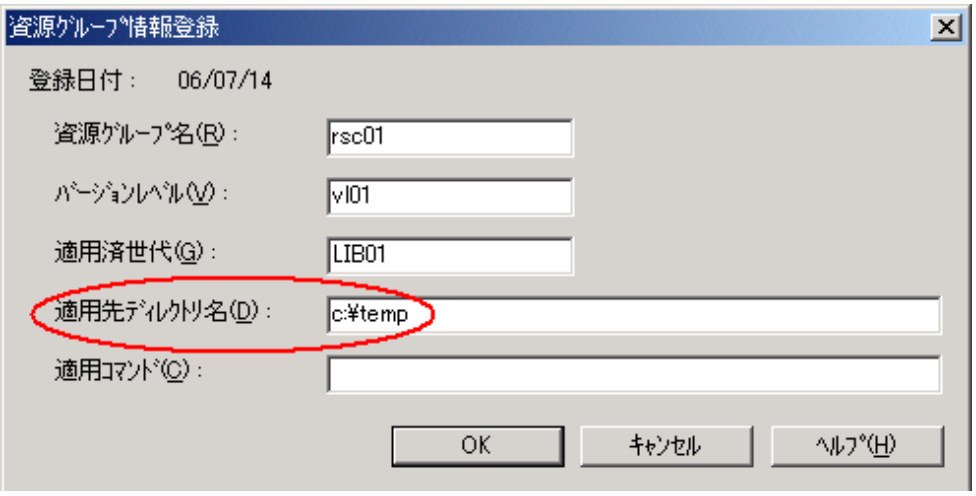
サービス起動によるダウンロードで、適用した資源をネットワークドライブ先のディレクトリにコピー(“net use”コマンド)する前処理バッチ/後処理バッチを配付します。
“net use”コマンドでネットワーク接続することが可能であるサービス起動によるダウンロードでは、デフォルトのローカルシステムアカウントになっていたため失敗しました。サービスアカウントを設定するか、またはスタートアップ拡張機能によるダウンロードを行う方法で正常に資源配付が可能となります。

4.5.21 資源配付をすると、サーバ上では資源配付実施済のクライアントは「適用完了」になっているが、資源が実際に適用先ディレクトリへ適用されていなかった

確認ポイント

クライアントのセットアップ画面で設定する適用先ディレクトリの設定に、誤りはありませんか。

[資源配付クライアント]-[業務情報]-[資源グループ情報設定]-[更新]ボタンで表示される[資源グループ情報登録]画面に指定されている適用先ディレクトリ名の設定内容が、正しいかどうか確認してください。



対処方法

正確な適用先ディレクトリを指定した上で資源の再登録を実施し、資源配付を行ってください。

4.5.22 クライアントにポリシーを配付して業務定義を行うと、業務定義と同時に資源の配付まで実施される

原因

クライアントにポリシーを配付して業務定義がされると、その業務に資源グループが登録されている場合、業務定義と同時に資源の配付まで実施されるのは、資源配付の仕様となっています。

対処方法

業務追加だけを行い、資源の配付を実施したくない場合は、事前にサーバ上から配付される資源を削除しておく必要があります。

4.5.23 クライアントのmainte.logに“警告:資源グループ(資源グループ名/)に受信対象世代がありません”というメッセージが出力され、ダウンロードに失敗する

エラーメッセージ

```
警告:資源グループ(資源グループ名/)に受信対象世代がありません
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

クライアントの接続先サーバに登録されている個別資源の適用種別が“後刻適用”（“2”）かつ"適用日時未定"となっていませんか。

原因

クライアントの接続先サーバで、個別資源の適用種別が“後刻適用”（“2”）かつ"適用日時未定"となっている場合、クライアントに資源はダウンロードされません。

[資源配付]ウィンドウのソフトウェア構成ウィンドウで資源登録を行った場合、デフォルトで適用種別は「後刻」（後刻適用）、適用予定日時は「日時未定」となります。

対処方法

1. クライアントの接続先サーバで以下のコマンドを実行し、適用種別を“後刻適用”から“即時適用”に変更し、再度クライアントからダウンロードを行ってください。

   ```
   drmsmdfy -a rsc -g 資源グループ名 -v バージョンレベル -e 世代識別名 -k quick
   ```

   メンテナンス版数資源の場合は、以下のコマンドも実行してください。

   - 共通メンテナンス版数資源の場合

     ```
     drmsmdfy -a rsc -g SYSLEVEL -e 世代識別名 -k quick
     ```

   - 個別メンテナンス版数資源の場合

     ```
     drmsmdfy -a rsc -g SYSLEVEL -v 個別メンテナンス版数名 -e 世代識別名 -k quick
     ```

2. [資源配付]ウィンドウのソフトウェア構成ウィンドウで資源登録を行った際、資源のプロパティの“予定日時”で適用種別および適用予定日時を変更してください。

4.5.24 クライアントの接続先サーバに、「[00850] クライアント側で異常が発生したので，適用できませんでした。 ～ 詳細情報（DRM0APY(RSC) I/O ～」のエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

- クライアントの接続先サーバ

```
[Windows：イベントログ（アプリケーション）に出力]
drms: エラー: [00850] クライアント側で異常が発生したので，適用できませんでした．システム名（クライアントシステム名），資源グループ名（資源グループ名），バージョン・レベル（バージョン・レベル），世代識別名（世代識別名），詳細情報（DRM0APY(RSC) I/O ファイルパス)）．

[UNIX：syslogに出力]
drmsd: エラー: [00850] WS側で異常が発生したので,適用できませんでした. システム名（クライアントシステム名），資源グループ名（資源グループ名），バージョン・レベル（バージョン・レベル），世代識別名（世代識別名），詳細情報（(DRM0APY(RSC) I/O ファイルパス）．
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager：全V/L

確認ポイント

- エラーが発生したクライアントのダウンロード実行結果（mainte.logファイル）に、以下のエラーメッセージが出力されていますか。

```
KZBY152 適用先ファイルの処理で異常が発生しました。
```

- エラーが発生したクライアントは、以下の方法のどれかでダウンロードを実行していませんか。
  - [資源配付クライアント ダウンロード]を実行
  - コマンドプロンプトまたは“ファイルを指定して実行”からダウンロード機能（dwldrms.exe）を実行
  - クライアント環境設定の[実行環境]ページの「システム起動時のダウンロード」で“起動する”を選択
  - システムのスタートアップにダウンロード機能（dwldrms.exe）のショートカットを登録
- エラー発生時のクライアントのログインユーザーは、“ファイルパス”へのアクセス（フルコントロール）が許可されていますか。

原因

クライアントのログインユーザーのアクセス権限不足が原因です。

ダウンロード機能を手動起動、またはユーザーログイン時に自動実行する場合、ダウンロード機能はログインユーザのアクセス権限で動作します。ログインユーザーに“ファイルパス”に対するアクセス（フルコントロール）が許可されていない場合、適用に失敗するため、本現象となります。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- “ファイルパス”へのアクセス（フルコントロール）が許可されているユーザーでログインし、ダウンロードを再実行させてください。
- Administrator権限のユーザーでログインし、ダウンロード時にログインするユーザーに、“ファイルパス”に対するアクセス許可：フルコントロールを与えてください。

4.5.25 複数世代のダウンロードを行うと、適用に失敗する

エラーメッセージ

```
KZBY155 適用ファイル適用ファイルはディレクトリとして既に存在しています。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager: 全V/L
- Systemwalker Software Delivery: 全V/L

確認ポイント

- 連続する世代で、前バッチまたは後バッチに、同じファイル名のファイルを指定していませんか。
- 適用に失敗した世代の前世代の後バッチ内で、資源ファイルの削除を実施していませんか。

原因

Windowsファイルシステム(OS)の動作仕様が原因です。

ファイル削除時、ファイルシステムは削除を完了してから復帰するのでなく、ファイルにdeletionのマークをつけ、[削除保留]状態(アクセス不可状態)にして復帰します。その後、すべてのファイルハンドルがクローズされた時点で[削除保留]状態が解除され、ファイルの削除が完了します。[削除保留]状態のタイミングでは、ファイルは存在していますがアクセスできない状態となっています。

資源配付の前バッチおよび後バッチは、適用先ディレクトリに展開して実行後、削除しています。そのため、連続した世代で同じファイル名の前バッチまたは後バッチが実行された場合、前世代で削除したはずの前バッチまたは後バッチのファイルが[削除保留]状態で残っていることがあり、前・後バッチが展開(置換)できないため、本現象が発生します。

また、前世代の後バッチ内で、適用先ディレクトリの資源ファイルの削除を行っている場合、同様に資源ファイルが[削除保留]状態で残っていることがあるため、適用(置換)がアクセス拒否により失敗するため、本現象となります。

対処方法

- 前バッチまたは後バッチのファイル名に世代識別名を含めるなど、世代ごとに異なるファイル名で指定してください。
- 資源配付は既存ファイルについて置き換えを行います。後バッチで適用先ディレクトリの資源ファイル削除は行わないようにしてください。どうしても後バッチで資源ファイルを削除する必要がある場合は、後バッチで資源ファイル削除後に、ファイル削除が完了するように、待ち時間を設定してください。

ファイル削除が完了するのに必要な待ち時間は、ファイルサイズ、ファイルシステムの状態、ファイルにアクセスする他のアプリケーション(アンチウィルスソフト等)の有無・状態等に依存すると考えられ、固定ではありません。余裕を持った待ち時間の設定を行うようにしてください。

4.6 クライアントでの適用結果通知に関するトラブル

4.6.1 回線が切断されている

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.2.0
- 5.0～V13.2.0

確認ポイント

サーバで設定している無通信監視時間より、適用処理時間が多くかかっていませんか。

対処方法

次回のダウンロード時に適用結果が通知されます。本現象が頻発する場合は、サーバ側で、無通信監視時間を長くしてください。
無通信監視時間は、DRMS編集ファイルのtimerオプションで設定します。

4.6.2 listfileの処理に異常がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

クライアント側で、[版数管理業務運用]を設定していませんか。

対処方法

版数管理業務を使用していない場合は、[版数管理業務運用]チェックボックスのチェックを外してください。

4.6.3 資源配付クライアントから適用結果通知（適用失敗）を受信すると、サーバ側の資源配付の操作に時間を要することがある。また、資源配付クライアント側の適用結果通知処理に時間がかかる。適用成功の適用結果通知を受信した場合、本現象は発生しない

対象バージョンレベル

- V4.0L20以降
- 5.0以降

原因

クライアントからの適用結果通知（適用失敗）受信時に、DRMS管理ファイル内へエラー情報ファイル作成処理を行いますが、この処理において保持世代のすべての情報の検索処理が入るため時間を要します。その間、DRMS管理ファイルアクセスは排他がかかるため、資源配付の他の処理が待たされることになります。

適用成功の適用結果通知を受信した場合は、エラー情報ファイルを作成しないため、適用結果通知受信時の処理は直ちに完了し、資源配付の他の処理が待たされることはありません。

確認ポイント

サーバ側の保持世代数が多くありませんか。

クライアントで適用エラーが発生していませんか。

対処方法

保有世代数が多いとDRMS管理ファイル内で管理されている世代を検索するのに時間を要するため、サーバ側の保持世代数を少なくしてください。

または、クライアントの資源の適用エラーを解消してください。

4.6.4 [メッセージボックス表示]を[あり]と設定しているが、ダウンロード処理でエラーが発生したにもかかわらず、メッセージボックスが表示されない場合がある

確認ポイント

ダウンロード処理は、[実行環境]-[ダウンロード実行環境設定]-[処理形態]に[一括]を設定しており、かつ、そのエラーは、適用結果通知処理フェーズで発生していませんか。
（エラーが発生しているフェーズは、資源配付クライアントの管理ファイル配下にあるmainte.logファイルを参照すると、確認することができます。）

対処方法

適用結果通知処理フェーズで失敗した場合は、次回ダウンロード処理を行った場合に、適用結果通知が再度通知されます。一時的なエラー要因の場合は、再度ダウンロード処理を実行してください。
上記以外の場合は、mainte.logファイルを参照し、KZBYで始まるエラーメッセージを確認し、必要な対処を実施した上で再度ダウンロード処理を実行してください。

備考

[メッセージボックス表示]を[あり]を選択した場合で、かつ、[処理形態]に[一括]を指定していた場合に、適用結果通知処理フェーズでエラーが発生した場合には、メッセージボックスは表示されません。

4.6.5 クライアントの受信結果・適用結果が、部門管理サーバ/業務サーバ経由で運用管理サーバに通知されない

運用管理サーバから部門管理サーバ/業務サーバ経由でクライアントに資源を配付したが、クライアントの受信結果・適用結果が運用管理サーバに通知されない。

原因

部門管理サーバ/業務サーバのschedule設定で、typeオプションに"quick"を指定している場合は、サーバ即時適用時にその資源グループだけの適用結果が通知され、クライアントの適用結果は通知されません。

確認ポイント

部門管理サーバ/業務サーバの schedule設定 で 、funcオプションに"complete(apply)"、typeオプションに"quick" が指定されていませんか。

対処方法

部門管理サーバ/業務サーバに設定されている通知スケジュール（schedule）のtype オプションを"time"に変更し、運用に合せた通知時間を設定してください。

第5章 結果確認に関するトラブルシューティング

5.1 オンライン検索に関するトラブル

5.1.1 オンライン検索中に通信エラーが発生して、オンライン検索処理に失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバーサーバ間の送信に関するトラブル”-“送信中に通信エラーが発生して、資源の送信処理に失敗する”を参照して対処してください。

5.1.2 オンライン検索中に世代不整合となって、オンライン検索処理に失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

“配付に関するトラブルシューティング”の“サーバーサーバ間の送信に関するトラブル”-“送信中に通信エラーが発生して、資源の送信処理に失敗する”を参照して対処してください。

5.2 スケジュール結果通知に関するトラブル

5.2.1 スケジュール結果通知で運用しているが、適用結果または送信結果が通知されない（クライアントの資源グループ情報が通知されない）

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

[通知スケジュール]-[通知契機]に、[即時]または[終了後、時差通知]を指定していませんか。

対処方法

クライアントのスケジュール結果を取得するには、[通知契機]を、[即時]（type=quick）、[終了後、時差通知]（type=after）以外に設定してください。

対処2

確認ポイント

結果通知側のサーバにおいて、世代圧縮オプションの設定値分の配付履歴を保持していて、かつ最古の世代情報にエラーステータスが存在しませんか。

対処方法

サーバの配付履歴の最古のエラーステータスを、drmsdlt -a sysコマンドを利用して削除してください。

対処3

確認ポイント

結果通知側サーバのコンピュータの時刻を先に進めた状態で結果通知を行い、結果通知完了後に、コンピュータの時刻を元に戻していませんか。

対処方法

時刻を元に戻した状態で結果通知を送るためには、結果通知側サーバで資源配付を停止させ、DRMS管理ファイルのcomp_stsディレクトリを手動削除し、資源配付を再起動させてください。

5.2.2 運用管理サーバへのスケジュール結果通知が失敗する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバへ同時に多くのコンピュータから、スケジュール結果が通知されるような設定になっていませんか。

対処方法

運用管理サーバ上で処理しきれない程の情報が同時に通知されています。通知時間が分散されるように、配下のサーバのスケジュール通知を変更してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバにスケジュール情報ファイルを定義していませんか。

対処方法

結果通知を受信して配付結果を確認するサーバ(運用管理サーバ)上では、スケジュール情報ファイルを定義する必要はありません。
DRMS編集ファイルのscheduleオプションの指定を削除して、資源配付サービスを再起動してください。

5.2.3 部門管理/業務サーバのスケジュール情報ファイルを変更したところ、運用管理サーバにて資源配付のエラーが多発するようになった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

資源配付の処理では、通常、配付結果の通知は差分通知されています。

しかし通知先のノード名を変更すると、別の新たな通知先と認識し、スケジュール情報ファイルの設定に従い、自サーバ側が持つ配付ステータスの全世代の情報を通知します。
そのため、運用管理サーバ側に負荷がかかり、エラーで失敗してしまうことがあります。

確認ポイント

スケジュール情報ファイルの通知先の変更を行っていませんか。

対処方法

運用管理サーバ側のノード名が移設等で変更になった場合には、以下の回避策にて差分通知を行うことができます。

DRMS管理ファイルディレクトリ/comp_sts/t_過去の通知先ノード名
↓
DRMS管理ファイルディレクトリ/comp_sts/t_変更後の通知先ノード名

なお、新たに通知先を追加した場合は、保持している配付ステータスをすべて運用管理サーバに通知してしまわないと、本事象はなくなりません。部門管理/業務サーバ側の保有している世代で不要な過去の世代を削除する等の対処を行うことにより、運用管理サーバの負荷が軽減され、エラー事象が解消します。

5.3 確認した内容に関するトラブル

5.3.1 運用管理サーバと部門管理/業務サーバで送受信結果/適用結果を確認すると、それぞれで表示される日時が異なっている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

運用管理サーバと部門管理/業務サーバのシステム時間がずれていませんか。

対処方法

運用管理サーバと部門管理/業務サーバのシステム時間を合わせてください。なお、表示される日時については、以下のシステムのシステム時間が設定されます。

- 運用管理サーバ上で表示される、部門管理/業務サーバの送信/適用日時
  - 部門管理サーバへの送信処理時には、送信完了時間を運用管理サーバのシステム時間より設定します。
  - autonotifyによる部門管理サーバの適用結果受信時には、適用結果通知を受信した時間を運用管理サーバのシステム時間より設定します。
  - スケジュール結果通知により部門管理サーバの結果通知受信時には、通知された情報（部門管理サーバのシステム時間の情報）で更新します。
  - 運用管理サーバからのオンライン検索実施時には、部門管理サーバの情報を取得し、日時情報が未設定の情報（部門管理サーバのシステム時間の情報）だけを更新します。
- 運用管理サーバ上で表示される、クライアントの送信/適用日時

  スケジュール結果通知またはオンライン検索により、部門管理/業務サーバ上のクライアント情報が設定されます。
- 部門管理/業務サーバ上で表示される、自サーバの受信日時/適用日時

  自サーバで受信完了/適用完了した時間を、部門管理/業務サーバのシステム時間より設定します。

- 部門管理/業務サーバ上で表示される、配下クライアントの送信/適用日時

  配下クライアントよりの送信完了/適用完了通知を受信した時間を、部門管理/業務サーバのシステム時間より設定します。

5.3.2 クライアントに対する送受信結果/適用結果を確認すると、送信日時が設定されず適用日時だけが設定されている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

以下のような原因が考えられます。

- ほかのグループの部門管理/業務サーバから移設したクライアント
- 部門管理/業務サーバ上で、クライアント情報を削除
- クライアントで、適用世代情報を更新

クライアントより版数チェック時などに通知された最新世代の情報が部門管理/業務サーバ側の配付結果に存在しなかった場合、部門管理/業務サーバでは、通知された版数はクライアントで適用済みとみなして、その世代の適用日時だけを設定します（送信日時は設定しません）。
このときに設定される日時情報は部門管理/業務サーバのシステム時間になり、部門管理/業務サーバには存在するが配付結果が存在しない世代すべての情報が設定されます。

対処方法

対処は不要です。

5.3.3 127.0.0.1のシステムが結果通知受信側のサーバ（運用管理サーバ）に定義されることがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

Windows 2000を使用している場合、ネットワーク異常（LANケーブル抜け・Hubの未起動）があると、自IPアドレスとして、127.0.0.1が割り当てられます。

確認ポイント

ネットワークに異常（LANケーブル抜け、ハブの未起動など）がありませんか。

対処方法

原因となるネットワークの異常を復旧してください。

5.3.4 部門管理サーバ(クラスタ構成で、各ノードは独立しており、資源配付は両系で動作)からの適用結果通知を上げると、代表IPの情報が運用管理サーバにできてしまい、両系それぞれの情報が正確に通知されない状況が発生した（1つのCSVファイルに各ノードの情報が混在）

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

対処方法

部門管理サーバ側がSolarisのSystemWalker V5.0以降であれば、own定義のノード名に両系それぞれの物理ノード名を定義することで、結果がそれぞれに通知されます。
Windowsの場合もown定義のノード名を変更する作業が必要ですが、通知元が特定できませんので、LANカードの設定に依存します。

5.3.5 部門管理サーバで、配下クライアントへの配付状況を検索(drmslst)したところ、古い世代の配付状況が出力されないクライアントがある

原因

配付状況が出力されない古い世代は、異なるサーバからダウロードを行っていたため、部門管理サーバ上に配付状況が記録されていません。

部門管理サーバにおいて、世代不整合のチェックを行う設定（DRMS編集ファイルのgencheckパラメタに"YES"を指定）をしている場合は、他の部門管理サーバから配付された古い世代情報についても当該部門管理サーバに配付済として記録されます。

確認ポイント

他の部門管理サーバからダウンロードを実施していませんか。

DRMS編集ファイルのgencheckパラメタに"NO"が指定されていませんか。

対処方法

対処は、ありません。

一旦、新しい部門管理サーバからクライアントへダウンロードを実施した場合、ダウンロード後にDRMS編集ファイルのgencheckパラメタを“YES”に変更して新たな世代を配付しても、記録されていない古い世代情報についての配付履歴は復元されません。

5.3.6 配付した資源ファイルの情報をlsコマンドで表示すると、ファイルの所有者が資源登録時と異なるユーザ名、または数字で表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - Linux版：全V/L
  - Solaris版：全V/L
- Systemwalker Software Delivery
  - Linux版：全V/L
  - Solaris版：全V/L

確認ポイント

配付資源の所有者のユーザIDが、65535より大きい数ではありませんか。

原因

資源配付が、ファイルの所有者のユーザIDが65535を超えるファイルに対応していないことが原因です。

ファイルの所有者のユーザIDが65535を超えている場合、ファイルは異なるユーザIDで適用されます。適用先システムにそのユーザIDが登録されている場合、lsコマンドでは対応するユーザ名が所有者として表示されます。登録されていない場合は、ユーザID(数値)が表示されます。

対処方法

必要であれば、以下のどちらかの対処を行ってください。

- 資源登録前に、ファイルの所有者を65535未満のユーザIDに変更する。
- 資源適用後に、ファイルの所有者を本来の所有者に変更する。

5.3.7 配付した資源ファイルのタイムスタンプが、元の資源ファイルより1時間加算した日時になっている

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - Windows版：全V/L
- Systemwalker Software Delivery
  - Windows版：全V/L

確認ポイント

資源登録を行ったシステム(アップロードクライアント、または運用管理サーバ)で、サマータイム(夏時間)が無効にもかかわらず、夏時間の時差(-1時間)が設定されていませんか。

夏時間の時差は、下記レジストリの設定値です。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥TimeZoneInformation
¥DaylightBias
```

一般に、デフォルトとして-60(dword:0xffffffc4)が設定されます。・0時から9時の間に、資源登録を行っていませんか（日本の場合）。

原因

資源配付の障害により、UTC時刻とローカル時刻の日付が異なるタイミングで資源登録時に行った場合、夏時間(サマータイム)が有効と判定してしまうことが原因です。

対処方法

現象が発生する資源(世代)について、配付・適用済みのあて先システムを含めて、削除してください。

その後、以下のどちらかの対処により、資源(世代)を再登録し、配付し直してください。

- 夏時間の時差情報を「0」に設定する

  資源登録を行うシステムで以下の手順を実施することで、夏時間の時差(レジストリDaylightBiasの設定値)に「0」が設定されるため、現象を回避できます。

  1. [コントロールパネル]から[日付と時刻]を選択します。
  2. [タイムゾーンの変更] タブをクリックします。
  3. デフォルトで選択されている [(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京] を、一時的に別のタイムゾーンに変更します。
  4. [OK] をクリックします。
  5. タイムゾーンを [(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京] に選択し直します。
  6. [OK] をクリックします。
  7. [OK] をクリックします。
  8. システムを再起動します。

  ※夏時間の時差が「0」に変更されたかどうかは、レジストリエディタで"DaylightBias"を検索して確認してください。

- 運用により対処する

  ローカル時刻が協定世界時と同じ日付になってから資源登録を行うことで、本障害を回避できます。

  例）日本の場合、「09:00～23:59」の間に資源登録を行う。

第6章 リモートインストールに関するトラブルシューティング

6.1 適用に関するトラブル

6.1.1 リモートインストールにより適用したパッケージのファイルが更新されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

確認ポイント

置き換えようとしているファイルのタイムスタンプ（更新日時）が、置き換えられるファイルよりも古くありませんか、またはファイルバージョンが古くないですか。

ファイル置き換えのパターンは、ファイルバージョン（VL）を先にチェックして、次にファイル更新日時（DATE）をチェックします。ファイルを置き換えるかどうかの判断を以下にまとめます。

ファイルバージョン（VL）	ファイル日付（DATE）	動作
旧 → 新	旧 → 新	置き換える
	新 → 旧	置き換える
	同じ	置き換える
同じ	旧 → 新	置き換える
	新 → 旧	置き換えない
	同じ	置き換えない
新 → 旧	旧 → 新	置き換えない
	新 → 旧	置き換えない
	同じ	置き換えない

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- パッケージの登録時に、ファイルサービスエディタを使用して、ファイルを強制置き換えするスクリプトを設定してください。
- クライアントで該当ファイルを削除した後、パッケージを配付/適用してください。

6.1.2 リモートインストールにより適用したパッケージのファイルが古いファイルへ置き換わらない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

“リモートインストールに関するトラブルシューティング”の“適用に関するトラブル”-“リモートインストールにより適用したパッケージのファイルが更新されない”を参照して対処してください。

6.1.3 リモートインストールにより適用したパッケージのiniファイルが更新されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

確認ポイント

iniファイルがWindows標準のiniファイル形式と異なっていませんか。

対処方法

リモートインストール機能では、iniファイルは、Windows標準のiniファイル形式とみなしてキーワードを基にした置き換えを行います。したがってiniファイルは、Windows標準のiniファイル形式として作成する必要があります。
iniファイルを別名に改名して置き換え、再度iniファイルに改名するスクリプトを作成してください。

6.1.4 リモートインストールで資源配付クライアントのwsagent.iniファイルの書き換えを実施しようとしたが失敗した

エラーメッセージ

KZBY538 適用スクリプトで異常が発生しました。
inf=WA02026E->オブジェクト （SystemEditorエディタ） が初期化できません。（errno=000c000c）

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処1

確認ポイント

OLE関連のファイルが削除されていませんか、またはレベルの不整合が発生していませんか。

対処方法

OLE関連のファイルが正しくsystemディレクトリ配下にあるかどうか正常なコンピュータと比較し、確認してください。
正しくない場合は、正常に動作しているコンピュータからコピーするか、再インストールによりクライアントの環境を再構築してください。

備考

OLE関連のファイルとは、Windowsのsystemディレクトリ配下の以下の9ファイルを示します。

- compobj.dll
- mfcoleui.dll
- ole2.dll
- ole2conv.dll
- ole2disp.dll
- ole2nls.dll

- ole2prox.dll
- stdole.tlb
- storage.dll

対処2

確認ポイント

レジストリが壊れている可能性があります。

対処方法

サーバ側で、レジストリの更新権限があるアカウントで、以下のコマンドを実行します。

```
f3cqmstr.reg
```

本コマンドを実行した結果、レジストリが元に戻ります。

対処3

確認ポイント

対処2で解決しない場合は、実行したアカウントにレジストリの更新権限がありますか。

対処方法

レジストリの更新権限があるアカウントで対処2を実施してください。

6.1.5 資源を適用すると、適用先にレコーディングしていないはずの8.3形式のファイルが生成されることがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

原因

Windows 95/Windows 98で、ロングファイル名のファイルをVerInstallFile関数（備考参照）を使用してバージョンチェックをすると、元のファイル名で結果を返してくれません。このため、正常に適用先のファイルの置換えができないことがあります。

対処方法

配付する資源について、ファイル名を8.3形式にするか、または8.3形式で配付し、ロングファイル名にリネームするなどで問題を回避してください。

備考

- VerInstallFile関数

  資源配付機能（リモートインストール機能）で使用しているファイルのインストールを実行するWin32関数

6.1.6 インストール時に複数ドライブに分けて資材が格納される製品をレコーディングし、パッケージ(pc#pkg)として配付したが、複数ドライブに適用されず、ある1ドライブに全資材が適用された

対象バージョンレベル

- V10.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 10.0～12.1

例

インストール時にc:¥ドライブおよびd:¥ドライブの複数ドライブに分けて資材が格納される製品をレコーディングし、パッケージ(pc#pkg)として配付したが、d:¥ドライブに格納されていた資材もc:¥ドライブに適用された。

確認ポイント

nodedirまたはbootdirのままで生成されているのではないでしょうか。

対処方法

パッケージエディタで、レコーディング情報からパッケージを生成する際、ディレクトリを指定するダイアログ画面が出ますので、その画面で適用先を分けて指定してください。

6.1.7 資源種別pc#pkgの資源を資源配付サーバで複数世代適用したが、すべての世代が適用されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11

確認ポイント

システムの再起動を伴う資源を配付していませんか。
資源配付において、再起動を伴う資源については複数世代の適用は行えません。

対処方法

1世代ずつ配付して適用してください。

6.1.8 Windows 2000の環境にNetscape 4.78を適用したが、Administrator以外のユーザでNetscape 4.78が起動しない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11

原因

Windows 2000におけるアプリケーション(Netscape 4.78)の制限によるものです。

対処方法

ユーザ権限を変更するか、Netscapeのバージョン・レベル変更するなど、運用で回避してください。

6.1.9 Windows 2000の環境にリモートインストールを行ったところ、あるタイミングでインストールディスクを要求される

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11

確認ポイント

モデルPCと適用先のコンピュータにおいて、Service Packのバージョン・レベル(WindowsInstallerのバージョン・レベル)に違いがありませんか。

対処方法

モデルPCと適用先のコンピュータにおいて、OSのバージョン・レベルだけでなくService Packのバージョン・レベルも合わせて、レコーディングから再度実施して資源配付してください。

備考

Windows 2000 Service Pack 3では、Microsoft Installerが2.0にバージョンアップされています。
そのため、モデルPCがService Pack 2以前の環境で、適用先のコンピュータがService Pack 3の環境場合に本現象が発生します。

6.1.10 Microsoft Officeをリモートインストールし、適用先の環境でMicrosoft Officeを使おうとするとエラーが出力される

Microsoft Officeをリモートインストールし、適用先の環境でMicrosoft Officeを使おうとすると以下のエラーが出力されることがあります。

エラーメッセージ

```
Microsoft Word
実行するには、アプリケーションをインストールする必要があります。
最初にこのアプリケーションをインストールした場所から、セットアップを実行してください。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10

原因

Windowsインストーラが関連しているため出力されるエラーです。
モデルPCにすでにWindowsインストーラがインストールされている場合は差分として収集されないため、本エラーが出力されます。

また、Windowsインストーラがインストールされていない場合でも、Microsoft Officeのインストールを行っただけでは、Windowsインストーラのコンポーネントはインストールされません。Microsoft Officeを起動するなどして、Windowsインストーラを起動させなければ、差分として収集されません。

※Microsoft Officeなどのマイクロソフト製品は、Windowsインストーラと呼ばれるインストール・プログラムを利用して、アプリケーションをハードディスクにインストールするようになっています。

対処方法

モデルPCでのレコーディング時にCDキーを入力する、かつ、Microsoft Officeの各アプリケーションを起動することで問題解決します。

6.1.11 Microsoft Office 2000をリモートインストールすると、ヘルプがインストールできない現象やアプリケーションを実行して終了するとエラーになる現象が発生する

Microsoft Office 2000をリモートインストールすると、以下の現象が発生することがあります。

- ヘルプがインストールできない。
- アプリケーションを実行して終了するとエラーになる。

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11

確認ポイント

Microsoft Office 2000をレコーディングするときに以下の手順が抜けていませんか。

- ヘルプの表示
- アプリケーションの起動

対処方法

Microsoft Office 2000をレコーディングするときは、以下の手順で行ってください。

1. 製品をインストールします。CDキーも入力してください。
2. アプリケーションを起動します。
3. ヘルプを表示します。

6.2　レコーディングに関するトラブル

6.2.1　クライアントでレコーダ（DRMSNPR.EXE）を起動すると、「レコーディング中」となってしまう

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

確認ポイント

レコーディングを[STOP]で停止しないで、強制終了していませんか。

対処方法

レコーディング処理中にレコーダを強制終了しても、再起動時にはレコーディング中として動作してしまいます。レコーディングを終了する場合は、必ずレコーダの停止ボタンを押してください。

解決しない場合、レコーダを停止し、Windowsディレクトリ配下のF3CQREC.iniファイルを削除してください。

6.2.2　エラーメッセージが出力され、レコーダが起動できない

エラーメッセージ

```
Can not find f3cqnr32.exe
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

確認ポイント

ネットワークドライブを割り当てずに、レコーダ（drmsnpr.exe）を起動していませんか。

対処方法

レコーダは、運用管理サーバのインストールディレクトリなどをドライブ割り当てして起動する必要があります。運用管理サーバの資源配付インストールディレクトリを共有し、モデルPCからは、該当ディレクトリのドライブを割り当てた後に、drmsnpr.exeを起動してください。

6.2.3 レコーディング時にシステムの再起動を含めて実施しているにもかかわらず、クライアントでパッケージを適用しても再起動されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

レコーダは、記録開始時と記録終了時の差分をとります。
システムの再起動を含めたからといって、再起動が記録されません。適用後に、再起動される条件になっていなければ、再起動されません。

6.2.4 レコーダで差分情報を保存中に、警告メッセージボックスが表示され保存処理が完了しないことがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

原因

差分情報を取得できなかったのが原因です。
iniファイルの保存処理は、通常のファイルとは異なり、適用先の条件に合わせて、iniファイルの内容をコピーし、差分情報として保存しています。保存処理時に、対象となるiniファイルが別のプログラムで使用している場合、ファイルオープンに失敗して、差分情報を取得することができません。

確認ポイント

差分情報を取得する場合に、不要なディレクトリを取得範囲に含めていませんか。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. エラーメッセージダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックします。

   →レコーダの画面に戻ります。

2. [STOP]ボタンをクリックし、レコーディングを終了します。
3. レコーダ画面で、どのフォルダに対するアクセスエラーか確認してください。
4. レコーディング対象として必要か確認してください。不要であれば、レコーディング取得範囲からはずしてください。差分として記録する必要がある場合は、レコーディング処理中に該当iniファイルへのファイル競合が発生しないようにしてください。

6.2.5 レコーディングのファイル更新は、ファイル名の大文字/小文字を意識しますか

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

レコーダは、ファイル名の大文字/小文字で違っていても、同一ファイルとして処理します。

6.2.6 レコーディングのファイル更新で、変更の基準はタイムスタンプですか、バージョン情報ですか

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

ファイルが置き換わったかどうかの判断は、タイムスタンプおよびファイルサイズです。ファイルバージョン情報は関係ありません。

6.2.7 レコーディング機能で、同じファイルの置き換えにもかかわらず、リストされたレコード情報では違いがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

原因

レコーディングブラウザが、ファイル名の大文字/小文字を考慮していないためであり、レコーディング情報上は、同じ差分情報です。
生成されるスクリプトも同じ処理が出力されます。

対処方法

対処は不要です。

6.2.8 レコーディング時に、レコーディング保存を継続するかしないかの確認メッセージが出力される

メッセージ

```
File open failure. Open of C:¥WINNT¥system32¥Perflib_Perfdata_***.dat
returned errno = 13: レコーディングの保存を継続しますか？
                    [はい]  [いいえ]
```

対象バージョンレベル

- V10.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 10.0～12.1

原因

排他で使用中のファイルのため、レコーディングできない旨のメッセージです。
通常、このダイアログが出力されるのは、インストール後アプリケーションが自動起動し、ファイルが使用中の場合に出力されます。

対処方法

上記の場合は、Perflibで特に問題ありませんので保存を継続して構いません。

また、他のファイルの場合でも、レコーディングデータに関係しそうな場合、中断して、ファイル使用中を解除(該当アプリケーションを停止させる)後、再度レコーディングしてください。

6.3 資源登録処理およびパッケージエディタに関するトラブル

6.3.1 Windows(R)のサービスパックなどの様にファイル数の多いパッケージを作成し、[資源配付]ウィンドウで資源グループ登録時に「完了」ボタンをクリックすると、長時間応答が返ってこない

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

資源登録時に「応答なし」になってしまいますが、drmsadd処理に時間がかかっているだけです。パッケージのデータ量/ファイル数にも依存します。登録処理が完了するまで暫くお待ちください。

6.3.2 レコーディング後に、pc#pkg資源登録処理において、パッケージエディタでエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
レコーディングが誤っています: このレコーディングの圧縮ファイルが参照できません。
```

対象バージョンレベル

- V10.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 10.0～12.1

確認ポイント

レコーディングした情報が、参照できない状況にあります。

以下の事柄が考えられます。

- レコーディング情報を移動した。
- %drmsroot%¥bin¥ARCHIVESファイルを削除した。
- ディレクトリの共有を解除した。または共有が見られない。

対処方法

確認ポイントで示した事柄を確認してください。

補足

V10.0L20のDLIB(修正パッチ等が適用されていない初版)では、本事象が発生する可能性がありますので、V10.0L20に対して提供されている修正パッチを適用する必要があります。

第7章 [資源配付]ウィンドウに関するトラブルシューティング

7.1 サーバに関するトラブル

7.1.1 メンテナンス作業を操作すると、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
メンテナンス作業は存在しません。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

メンテナンス作業が、288件以上となっていませんか。

対処方法

メンテナンス作業数の上限値は、288件です。上限値を超えての操作はできません。288件を超えている場合は、超えた件数分を削除してください。

対処2

確認ポイント

コマンドを使用してメンテナンス版数を削除していませんか。

対処方法

コマンドで削除したメンテナンス版数は、[資源配付]ウィンドウに表示されてしまいます。該当するメンテナンス作業は使用できないため、削除してください。必要なメンテナンス作業である場合は、一度削除した後に、再度登録してください。

7.1.2 エラーメッセージが出力されて、[資源配付]ウィンドウが起動できない

エラーメッセージ

```
メンテナンス作業は存在しません。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

drmsdltコマンドを使用してメンテナンス版数を削除していませんか。

対処方法

以下の方法で復旧してください。

1. drmsdltコマンドを使用して削除したメンテナンス版数を、drmsaddコマンドを使用して再度登録してください。

2. [資源配付]ウィンドウを起動して、削除対象のメンテナンス版数に該当するメンテナンス作業をすべて削除してください。

7.1.3 [資源配付]ウィンドウで、操作するとエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

f3cqgrmt.dllの初期化に失敗しました。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

DRMS編集ファイルのdrmspathオプションとwork_dirオプションに、同じディレクトリを設定していませんか。

対処方法

DRMS編集ファイルのdrmspathオプションとwork_dirオプションには、別々のディレクトリを設定するようにしてください。

7.1.4 メンテナンス版数の状況が「運用準備中」と表示される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

配下のサーバおよびすべてのクライアントでメンテナンス版数の適用が正常に完了していますか。

以下の場合に、メンテナンス版数が適用されない場合があります。

- 新規にサーバ、クライアントを増設した場合
- 適用対象のサーバ、クライアントを復旧した場合

対処方法

上記を考慮して、配下のサーバおよびすべてのクライアントでメンテナンス版数を適用し、最新の状態にしてください。

7.1.5 [資源配付]ウィンドウの起動時間が延びたり、[資源配付]ウィンドウでの操作性能が低下している

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

- メンテナンス作業の数が多くないですか。
- メンテナンス版数や個別資源など保有している世代が多くないですか。

不要となったメンテナンス作業や資源を削除することで、[資源配付]ウィンドウの処理速度を改善することができます。

対処方法

以下のどちらかの方法で、不要となったメンテナンス作業や資源を削除してください。

- [メンテナンス]サブウィンドウで、不要な作業を削除します。
- [ソフトウェア構成]サブウィンドウで資源の不要世代を削除します。

削除方法を以下に示します。

1. [メンテナンス]サブウィンドウまたは[ソフトウェア構成]サブウィンドウで、不要な作業または不要な世代を選択します。
2. [アクション]-[資源の削除]を選択します。
   →[資源の削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [削除範囲]の[資源範囲]で、[指定世代を含む古い世代]を選択して、削除を実行します。

注意

資源配付機能は、世代管理を行っているため、最新1世代の資源は残しておく必要があります。

備考

運用管理サーバは、配付資源の保管およびマスタをしているため、自動削除の機能はありません。
不要となった配付物や、メンテナンス作業は、運用管理者の判断により削除してください。

7.1.6 システムグループを作ってサーバポリシー設定すると、エラーメッセージダイアログボックスが表示される

エラーメッセージ（ダイアログボックス）

設定情報の読み込みで異常が発生しました。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

前回設定した情報を次回の[ポリシー設定]ダイアログボックスに表示させるため、サーバのDRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションでで指定したディレクトリ配下のファイル群）に前回のポリシー設定情報を記録しています。

本メッセージは、その前回の設定情報を表示しようとしたが、何らかの理由でエラーとなり、前回情報が表示できない場合に出力します。
このメッセージが出力された状態で、サーバポリシーを作成されても前回との差分情報がないため、設定情報すべてをポリシーとして作成することになりますが、動作上の問題はありません。

対処方法

対処は不要です。そのまま処理を続行してください。

7.1.7 個別メンテナンス版数を資源配付したところ、[メンテナンス]サブウィンドウの[状況]が、[運用可能]が[運用準備中]に状態遷移した

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

システム構成は、運用管理サーバ-中継サーバ（部門管理サーバまたは業務サーバ）-業務サーバの場合、以下の条件のいずれかに当てはまると、本事象が発生します。

- 個別メンテナンス版数で配付先に、業務サーバだけを選択し、途中の経路である中継サーバは、配付先として登録していない。
- 個別メンテナンス版数を、中継サーバ、業務サーバに適用する。
- 運用管理サーバに、状況検索操作またはスケジュール結果通知機能により、中継サーバと業務サーバの適用結果が認識される。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- 個別メンテナンス版数の配付先に、中継サーバも設定してください。
- 中継サーバの適用結果を運用管理サーバで、保持しないようにしてください。

7.1.8 [適用種別]が[即時]になっているにもかかわらず、drmssndコマンドで配付すると適用種別が[後刻]になる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

[ソフトウェア構成]サブウィンドウで、[適用種別]が[後刻]（資源登録時のデフォルト）になっていませんか

対処方法

[メンテナンス作業]サブウィンドウでの[適用種別]の設定は、[資源配付]ウィンドウから配付操作した場合に有効です。drmssndコマンドで実行した場合は、[ソフトウェア構成]サブウィンドウの[適用種別]が有効になります。

drmssndコマンドを使用して、[即時]で配付したい場合は、以下のどちらかを実施してください。

- [ソフトウェア構成]サブウィンドウで、[適用種別]を[即時]に変更した後に、drmssndを実行します。
- drmssndコマンドの実行時に、-kオプションに“quick”を指定します。

7.1.9 [メンテナンス]サブウィンドウの[状況]が、[運用可能]または[運用準備中]の表示から空白に変わる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

過去の配付ステータス情報がsave_gennumオプション値などで、DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）内から自動消去されていませんか。

【例】

- 運用管理サーバのDRMS管理ファイルの設定が以下の値（デフォルト）となっている。

```
save_gennum=50
```

- メンテナンス版数の対サーバ/クライアントへの配付ステータスは、50世代まで保有します。
- 50世代以前の世代に関するメンテナンス作業情報は、配付先の情報がなくなっているため、状況表示はできません。

対処方法

確認済のメンテナンス作業は定期的に削除することが必要です。

なお、配付済の資産は、いつまでも存在していると、ディスク圧迫にも繋がります。配付し終わった古いものは、削除していくようにしてください。

7.1.10 DRMS編集ファイルのパラメタ値変更操作中にdrmsset.exeがVCランタイムエラーで異常終了する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

以下のファイルが読み込み専用属性になっていませんか

```
資源配付インストールディレクトリ¥etc¥drms.dat
```

対処方法

以下のファイルを書き込み可能としてください。

```
資源配付インストールディレクトリ¥etc¥drms.dat
```

7.1.11 [資源配付]ウィンドウで、[システム構成の読み込み]を実行しても業務監視のシステム構成が反映されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

Systemwalker Centric ManagerのSystemwalkerコンソールのシステム構成はありますか。

対処方法

Systemwalker Centric Managerで、フレームワークデータベースを構築してください。

対処2

確認ポイント

DRMS編集ファイルのnametypeを“IP”で運用していますか。

対処方法

DRMS編集ファイルのnametypeを“IP”にしてください。

対処3（V10.0L21/10.1まで）

確認ポイント

アプリケーション配付機能は動作していますか

対処方法

アプリケーション配付機能のサービス（Systemwalker MpDpsvおよびSystemwalker MpDpmc）を起動してください。

対処4

確認ポイント

クライアント情報が反映されませんか。

対処方法

サーバのシステム構成を反映する機能です。クライアントの情報は反映できません。

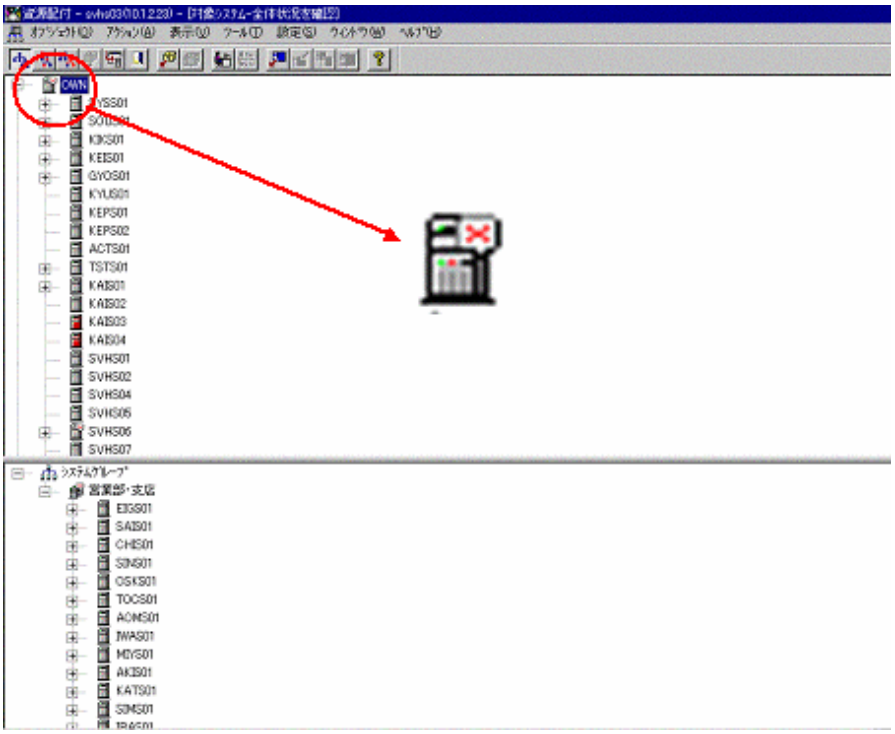
7.1.12 [システム構成]サブウィンドウのアイコンに、小さい×印がついている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

配下のサーバまたはクライアントで、適用エラーが発生した場合、アイコンに×印が表示されます。



対処方法

該当サーバまたはクライアントで、適用エラーを解消してください。

7.1.13 [資源配付]ウィンドウでサーバポリシーを登録して配付したが、すべてのサーバにポリシーが反映されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

ポリシーの作成方法に誤りがあります。
特定のサーバを選択した状態でポリシーを作成すると、そのサーバ向けのポリシーが作成され、そのサーバにだけ値を設定します。ほかのサーバでは、適用されても値は反映されません。

【例】

システムグループを使用せず、サーバポリシーを特定のサーバで設定し、それを全サーバへ配付した。

確認ポイント

すべてのサーバにポリシーが反映されるように[資源配付]ウィンドウ操作をしましたか。

対処方法

複数のサーバに対するポリシーを作成するには、システムグループを作成する必要があります。

1. [資源配付]ウィンドウの[対象システム]サブウィンドウの下半分にある[システムグループ]を右クリックし、[システムグループの追加]を選択します。
2. 任意のシステムグループ名を入力して、[追加]ボタンをクリックし、サーバを追加します。
3. 作成したシステムグループをクリックした後に、ポリシー作成を行います。

   →対象システムの選択画面が表示されます。
4. 作成したグループを選択してポリシーを作成してください。

対処2

原因

既存のポリシー情報は前回情報として画面に表示されても、本当に内容に変化がないと、配付すべきポリシーとして認識されません。（単に「更新」ボタンを押すだけでは、変更と認識されません。）

【例】

増設サーバへのポリシーは、既存のポリシーを送っても無効です。

確認ポイント

増設サーバがある場合、新たにその増設サーバを指定してポリシーを新規作成してください。

対処方法

サーバ増設時の作業手順の例を以下に示します。

1. まず、増設したコンピュータの環境設定値を、既存コンピュータのレベルに合わせます。
   1. 増設したコンピュータだけを含む、一時的なシステムグループを作成します。
   2. 1)のシステムグループを選択して、今までポリシーで設定した項目をすべて含むポリシーを作成します。

3. 1)のシステムグループを指定して、2)のポリシーを配付します。
   増設コンピュータがサーバ 1 台だけなら、システムグループを作成しないで、その増設サーバを指定してポリシーを作ってください。

2. 以降、既存コンピュータおよび増設コンピュータにポリシーを配る場合は、既存のシステムグループを選択して、ポリシーを作成・配付します。(既存のシステムグループへは、増設コンピュータを中継配下に追加した時点で自動追加されているはずです。)

7.1.14 部門管理サーバ配下のクライアントの定義があるにもかかわらず、[資源配付]ウィンドウでメンテナンス版数の確認したときにクライアントの状況が表示されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

メンテナンス版数の1世代目で、かつ、配下クライアントが1台も問合せに来ていない状況のため、配下クライアントの配付状況を「不明」として[資源配付]ウィンドウは扱っています。そのため、版数単位の状況表示画面には表示されません。

確認ポイント

メンテナンス版数の1世代目で、かつ、配下クライアントが1台も問合せに来ていない状況ではありませんか。

対処方法

部門管理サーバ配下のクライアントのダウンロードが1台でも行われた後に、運用管理サーバから全情報の状況検索を実施することで、版数単位の状況表示画面に、未受信クライアントも含めて配下クライアントが表示されるようになります。

7.1.15 個別メンテナンス版数のある世代をあるサーバに配付したところ、[資源配付]ウィンドウのステータスが“適用中”となったままで、適用処理が正常に行われない

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウ上から“適用中”と表示されるのは、以下の状態の場合です。

- 配付ステータスが事前配付等で“30 12”(適用中)の場合
- 配付ステータスが“30 10”(適用完了)だが、全クライアントが適用完了状態にない場合

対処方法

必要に応じて、drmslstコマンドで[資源配付]ウィンドウのステータスどおりか否か確認してください。

２階層構成の場合は、すべてのクライアントでダウンロードが完了しているか確認してから、次の個別メンテナンス版数を登録、適用してください。

補足

[資源配付]ウィンドウサーバプロパティでの版数のステータスの表示仕様について、以下の表に示します。

＜版数のステータス＞

drmslst -a rms -l stsの表示			[資源配付]ウィンドウの表示
SVステータス	CLn/n/n	エラー情報	サーバプロパティの「状況」の表示
10 10			通信異常
20 11			受信異常
20 12			受信中
20 10		RESV	オフライン配付中
20 10			受信完了
30 11			適用異常
30 12			適用中
30 12		STUP	適用待ち
30 10	0/1/3		適用異常
30 10	1/0/3		適用中
30 10	3/0/3	SKIP	適用完了(スキップあり)
30 10	3/0/3		適用完了

7.1.16 [資源配付]ウィンドウのシステム構成ウィンドウで、システム定義のプロパティを開こうとすると、エラー「サーバ'xxxxxxxx'は存在しません」が発生する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

DRMS管理ファイルの情報と、[資源配付]ウィンドウの表示情報にズレがあると、本エラーが表示される可能性があります。

対処方法

対象システムビューで[F5]キーを押し、画面ビューを最新情報に更新した後、再度同じ操作を行ってみてください。

それでもエラーが出る場合、何らかの理由により、[資源配付]ウィンドウが表示のために参照しているDRMS管理ファイル内のシステム階層定義でのサーバ名と、サーバのプロパティ情報でのサーバ名が異なった状態になって、DRMS管理ファイルの復旧をしないと、復旧しない状態になっている可能性があります。

その場合は、以下の手順で、システム階層定義のサーバ名をプロパティ情報でのサーバ名と一致させてください。

1. 運用管理サーバ上でコマンドプロンプトを開きます。
2. システム階層定義を取得します。
   drmslst -a conf > conf.txt
3. 取得したシステム階層定義をテキストエディタで開き、今変更しようとしているシステム定義がファイル内に正常に存在しているか確認します。
4. 該当のサーバ名を正しい名前に変更して、保存してください。
5. 保存したシステム階層定義を使用して、DRMS管理ファイルのシステム階層定義を更新します。
   drmsdfn -a conf -f conf.txt

上記対処を実施した後、再度[資源配付]ウィンドウのシステム構成ウィンドウで、システム定義のプロパティ情報を開いてみてください。

7.1.17 [資源配付]ウィンドウを起動すると、起動中にポップアップメッセージが表示される

エラーメッセージ

接続先のシステムグループの取得の処理で異常が発生しました。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

サーバの定義をコマンドで削除すると、システムグループ定義内に削除したサーバ情報が残ったままになり、解析異常が発生します。

確認ポイント

サーバの定義を、[資源配付]ウィンドウ操作でなく資源配付コマンド操作で削除していませんか。

対処方法

[資源配付]ウィンドウにて、削除されたサーバが含まれていたシステムグループのプロパティを表示し、グループに含まれるサーバを再定義してください。

7.1.18 資源配付から状況検索するとメッセージボックスが表示される

エラーメッセージ

検索先サーバ'xxxxxxxx'とステータス情報の不一致を検出しました。検索先サーバのステータス情報に合わせますか？

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

該当する検索先サーバの情報と、検索元のサーバの保持する情報との間に、サーバ-サーバ間の世代不整合を検知したため、出力しています。

対処方法

OKボタンをクリックしてください。世代不整合が矯正されます。

7.1.19 ポリシー設定後に表示された「設定情報登録」ダイアログで「OK」ボタンをクリックした後、ポリシー設定した情報を共通メンテナンス版数に登録するため「メンテナンス作業（メンテナンス版数）の追加」ウィンドウで「共通」、業務欄の「INITJOB」を選択して「OK」ボタンをクリックすると、エラーメッセージボックスが表示される

エラーメッセージ

一時的なエラーが発生しました

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

ソフトウェア構成ウィンドウにINITJOBの資源が登録されたことが認識されていないため、エラーが出力されています。

設定情報登録、[OK]ボタンをクリックしただけでは、ソフトウェア構成ウィンドウリフレッシュ処理がなく、管理情報とGUIが保持するメモリ展開情報と不一致が発生し、一時的なエラーとなっています。

対処方法

ポリシー作成（設定情報登録、[OK]ボタンクリック）後、ソフトウェア構成ウィンドウを一度リフレッシュ(F5)した後にINITJOBを選択し、メンテナンス版数作成を選んでください。

7.1.20 運用管理サーバの保有世代の増加により、メンテナンス版数および版数内資源グループの過去の世代を削除したが、運用管理サーバの対象システム画面のクライアントプロパティの個別資源タブに、削除されたはずの版数内資源グループが表示されている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

製品仕様です。
正常に業務配下の資源グループが削除されている場合も、運用管理サーバでは、この表示となります。

対処方法

運用管理サーバ側の[資源配付]ウィンドウを正常な表示とするためには、以下の操作を行ってください。

- [資源配付]ウィンドウの管理ファイルの保持形態が「一時ファイルに保持」の場合、「状況検索：全情報」を実行してください。
- [資源配付]ウィンドウの管理ファイルの保持形態が「管理ファイルに保持」の場合、以下のコマンドを使用してクライアントの資源グループステータスを削除するか、[資源配付]ウィンドウで削除してください。

＜コマンドの場合＞

```
drmsdlt -asys -kcl -sクライアント名 -Hown -D上位サーバ名
          -drsc -g資源グループ名 -vバージョン名
         [-N(最新世代削除の場合|-O(最古世代削除の場合)]
```

＜[資源配付]ウィンドウの場合＞

クライアントのプロパティで、削除したい配付ステータスを選択して削除ボタンをクリックしてください。

7.1.21 ある基準ディレクトリから資源登録操作を行ったにもかかわらず、適用先に展開された際に、ドライブ直下からディレクトリが展開されて適用されることがある

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降

- 10.0以降

原因

GUIオペレーションの違いにより、本事象が発生します。
資源登録ウィザードで「複数選択」のチェックボックスをチェックし、次に表示されるファイル選択画面において、「変更」ボタンを押して基準ディレクトリを決定するのですが、ここでサブフォルダまで選択していない場合に、基準ディレクトリがルートドライブのままとなります。
つまり、上記の例の場合、以下のとおりとなります。

- 「変更」ボタンでサブディレクトリまで選択しなかった場合の基準ディレクトリ

```
d:¥
```

- 「変更」ボタンでサブディレクトリまで選択した場合の基準ディレクトリ

```
d:¥資源配付¥2003年7月24日
```

例

登録対象ディレクトリは下記の“2003年7月24日”ディレクトリ。

```
d:¥資源配付¥2003年7月24日
```

適用先には、“資源配付”ディレクトリと“2003年7月24日”ディレクトリが作られる。

対処方法

ファイルを選択する画面において、必ず「変更」ボタンでサブディレクトリまで決定してください。

7.1.22 [資源配付]ウィンドウを起動するとエラーメッセージが表示され、画面表示がハングする

エラーメッセージ

```
空のドキュメントの作成に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

原因

本メッセージは、Microsoftのクラスライブラリが表示するメッセージです。

[資源配付]ウィンドウ起動時のウィンドウ作成時に、ウィンドウに対応するドキュメントクラスのOSへのクラス登録処理、または動的生成に失敗した場合に、表示されます。
エラーメッセージ自体はMFC内で発生しており、登録処理や動的生成については資源配付側の処理ではないため、現象発生の原因の特定はできていません。
可能性としては、システム負荷が高いなどの状況が考えられます。

対処方法

本現象が発生した場合は、コンピュータ再起動により問題を回避してください。
また、頻発する場合は、MFCライブラリがエラーメッセージを表示する原因を、システム側の観点で調査し、デバッキングを実施してください。

7.1.23 [資源配付]ウィンドウの内側にあるサブウィンドウが表示されない

[資源配付]ウィンドウ起動すると、[資源配付]ウィンドウの内側にあるメンテナンス作業サブウィンドウ、システム構成サブウィンドウ、資源構成サブウィンドウが表示されないことがあります。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウを前回終了したときに、各サブウィンドウの終了ボタン([×]ボタン)を押して終了していませんか。

対処方法

上記は仕様どおりの動作です。[資源配付]ウィンドウのメニューで[ウィンドウ]-[デフォルト表示]を選択すると、以下のサブウィンドウがすべて表示されます。

- メンテナンス作業サブウィンドウ
- システム構成サブウィンドウ
- 資源構成サブウィンドウ

なお、[資源配付]ウィンドウを終了するときは、内側のサブウィンドウを表示したままで終了するようにしてください。

7.1.24 [資源配付]ウィンドウで、クライアントのプロパティを表示しようとすると、かなりの時間を要する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

サーバ自身(own)のメンテナンス版数の情報で、古い世代を複数削除しましたか。

対処方法

サーバで保持しているメンテナンス版数の情報に合わせて、クライアントの古いメンテナンス版数の情報も削除してください。

実行手順を以下に示します。

1. 不要なステータスを洗い出します。

   サーバで、以下のコマンドを実行して、各クライアントのステータスを洗い出します。

   ```
   drmslst -a sys -k cl
   ```

2. 不要なステータスを削除します。

   洗い出せた各クライアントの不要なステータスを削除します。サーバで、以下のコマンドをステータスの数だけ、実行してください。
   以下のコマンドは、古いステータスを1世代削除する操作です。

   ```
   drmsdlt -a sys -k cl -s クライアント名 -d rsc -O -g SYSLEVEL
   ```

   指定例：

   ```
   drmsdlt -a sys -k cl -s L12211001 -d rsc -O -g SYSLEVEL
   ```

3. 正しく削除できているかを確認します。

   Drmslstコマンドで、サーバ自身(own)のメンテナンス版数の世代情報と、クライアントのSYSLEVELの世代情報が一致していることを確認します。

7.1.25 [資源配付]ウィンドウのメンテナンス作業ウィンドウからメンテナンス作業のプロパティを開こうとすると、エラーメッセージが表示されて参照できない

2階層での資源配付において、メンテナンス版数を配付適用したのちに、メンテナンス版数のプロパティを開こうとすると、以下のエラーメッセージが表示されて参照できないことがあります。

備考.

[状況]欄のステータスが“運用準備中”であれば、プロパティは参照できます。

エラーメッセージ

一時的なエラーが発生しました

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバのDRMS編集ファイルで、apply_gennumオプションに0(適用したら資源を削除する指定)を設定していませんか。

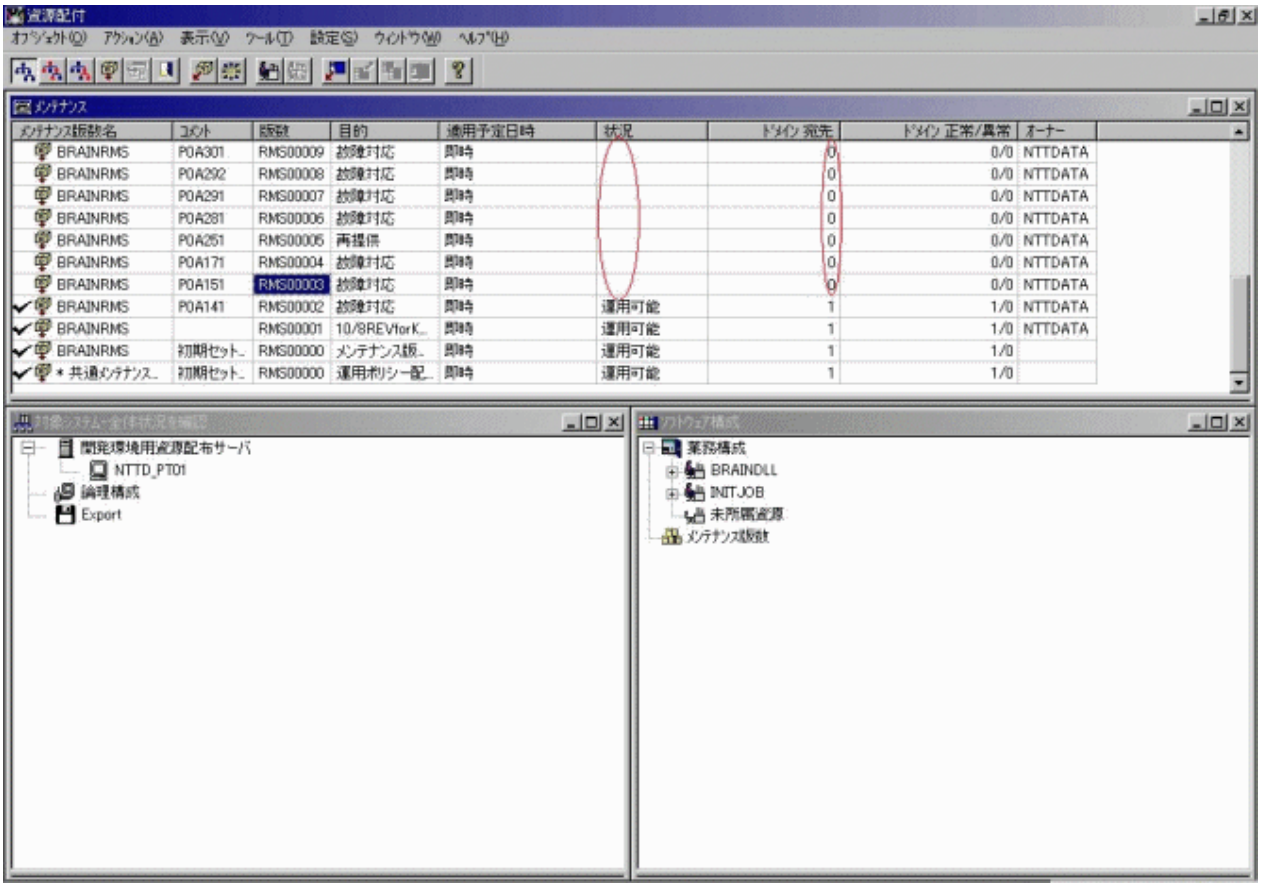
apply_gennumオプションは保存する適用ステータスではなく、資源自体の保存世代の設定パラメタですが、[資源配付]ウィンドウで適用ステータスを表示する場合には、資源と関連付けて処理をします。
そのため、“apply_gennum=0”が設定されて、資源がすべて削除された場合は適用ステータスが表示できなくなります。

対処方法

プロパティを表示させるためには、メンテナンス版数の登録資源情報を残しておく必要があります。apply_gennumオプションに0以外の値(運用上管理する世代数分)を設定しなおしてください。
なお、すでに削除されたメンテナンス版数の情報は参照することはできません。

7.1.26 [資源配付]ウィンドウのメンテナンス作業サブウィンドウ内の[状況]欄が空白表示されているものがある

[資源配付]ウィンドウのメンテナンス作業サブウィンドウ内の[状況]欄が、以下のように空白表示されている場合があります。



対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

ドメイン宛先が0となっている場合は、メンテナンス版数の適用時に[サーバ]タグに適用先のドメイン宛先を設定し忘れていませんか。

対処方法

[状況]欄を“運用可能”状態とするには、ドメイン宛先がないと表示できません。

メンテナンス版数のプロパティを開いて、[サーバ]タグにドメイン宛先を設定してください。

備考

事例

2階層で資源配付を運用。DRMS編集ファイルにapply_gennum=0を設定し、かつ、システム構成サブウィンドウのownのプロパティからメンテナンス版数を適用してしまい、ドメイン宛先が0のままになった。この場合、後からドメイン宛先を追加しようとしても、メンテナンス版数のプロパティが開かないため、リカバリできなかった。

参考

ドメイン宛先は、最古世代の[サーバ]タグの情報が[配付宛先の事前設定]のデフォルト設定になりますので、通常は毎回設定する必要はありません。
apply_gennum=0オプションで、メンテナンス版数の登録資源情報が削除されると[配付宛先の事前設定]の値も消滅しますので、毎回、適用前にメンテナンス版数のプロパティでドメイン宛先を設定する必要があります。

7.1.27 複数のクライアントに同じ資源を配付しているにもかかわらず、クライアントのプロパティを見ると配付した資源の世代表示が異なっている

複数のクライアントに同じ資源を配付しているにもかかわらず、[対象システム-全体状況確認]画面でそれぞれのクライアントのプロパティを見ると、メンテナンス版数や個別資源の世代表示が異なっている場合があります。

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.2.0

対処1

確認ポイント

クライアントからサーバに適用結果通知を行っていますか。

［資源配付クライアント設定］の［実行環境］タブの［ダウンロード実行環境設定］をクリックし、［ダウンロード実行環境設定］画面の“処理形態”が“受信のみ”に設定されていないか確認してください。

対処方法

資源配付クライアントから接続先サーバに適用結果を通知してください。

対処2

確認ポイント

クライアントの接続先サーバで、クライアントの適用結果を通知するためのスケジュール情報ファイル(DRMS編集ファイルのscheduleオプションで指定したファイル)の設定が誤っていませんか。

なお、スケジュール情報ファイルでクライアントの適用状況を通知するためには、以下の指定が必要です。

通知契機： type = time または ipl

対処方法

クライアントの接続先サーバのスケジュール情報ファイルを確認してください。そのうえで、運用管理サーバから接続先のサーバに対して状況検索を行ってください。

対処3

確認ポイント

3階層以上のサーバが接続されているシステムで、クライアントから複数の中継サーバを経由して適用結果を通知する場合、途中の中継サーバのスケジュール情報ファイル(DRMS編集ファイルのscheduleオプションで指定したファイル)の設定が誤っていませんか。

なお、スケジュール情報ファイルでクライアントの適用状況を通知するためには、以下の指定が必要です。

要求機能： func = complete(send)

通知契機： type = time または ipl

要求機能詳細： option = 通知先のノード名,notify(all)

対処方法

途中の中継サーバのスケジュール情報ファイルを確認してください。そのうえで、該当するサーバに対して運用管理サーバから状況検索を行ってください。

7.1.28 [対象システム-全体状況を確認]画面で、OWN配下に一部表示されないシステム名がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

サーバ側で drmslst -a sys -k serv -s "システム名"コマンドを実行して表示されるリストと、[対象システム-全体状況を確認]画面で表示されるツリーのリストが一致していますか。

対処方法

サーバ側で drmslst -a sys -k serv -s "システム名"コマンドを実行して表示されるリストと、[対象システム-全体状況確認]画面上で表示されるシステム名が一致していない場合は、システム名を削除し、再定義を行ってください。

1. システム名を削除します。

```
drmsdlt -a sys -k serv -s システム名
```

2. システム名を定義します。

```
drmsdfn -a sys -k serv -s システム名
```

7.1.29 サーバ上でOWNのノードのプロパティが表示されるまでに時間がかかる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

サーバ上で保持している資源の世代が多すぎませんか。
サーバ上で保持しているメンテナンス版数、資源グループなどの世代が多すぎると、資源配付の画面表示に時間がかかる可能性があります。

対処方法

OWNのノードで、不要なメンテナンス版数、資源グループを古い世代から削除してください。

- メンテナンス版数

```
drmsdlt -a rms -v メンテナンス版数名 -e 世代名 -o
```

- 資源グループ

```
drmsdlt -a rsc -g 資源グループ名 -e 世代名 -o
```

備考

Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降、運用管理サーバにadd_gennumオプションの機能が追加され、登録した資源数の管理ができるようになりました。これにより、対処方法に示した定期的な不要資源の削除操作は不要になります。
DRMS編集ファイルのadd_gennumオプションで登録資源数を設定し、[資源配付]ウィンドウの起動が遅くならないように調整してください。

7.1.30 サーバ上で[資源配付]ウィンドウを2つ以上起動すると、エラーメッセージが出力される

サーバ上で[資源配付]ウィンドウを2つ以上起動すると、以下のエラーメッセージが出力されることがあります。

エラーメッセージ

接続先のの削除の処理で異常が発生しました。

備考.

本事例のエラーメッセージは、“接続先の”と“の削除の処理”の間に可変文字列が入らずに続けて出力されます。

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウ上で資源を削除していませんか。
一方の[資源配付]ウィンドウで資源を削除した後、もう一方の[資源配付]ウィンドウでは画面を最新に更新せずに、すでに削除された資源を選択して削除しようとしている可能性があります。

対処方法

資源を削除する前に、画面を最新に更新(F5キーまたは[ローカル情報で更新]メニュー)してから、削除してください。

7.1.31 部門管理/業務サーバでインベントリ検索またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、エラーメッセージが出力される

部門管理/業務サーバでインベントリ検索またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、以下のメッセージが出力されることがあります。

エラーメッセージ

デスクトップ管理サーバでタイムアウトが発生したため処理できません

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

部門管理サーバまたは業務サーバ上で操作していませんか。
運用管理サーバ以外のサーバ(部門管理サーバまたは業務サーバ)上でインベントリ検索、またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、上記のメッセージが発生する可能性があります。

対処方法

インベントリ検索、ソフトウェア辞書エディタの起動は運用管理サーバ上で行ってください。

7.1.32 部門管理/業務サーバ上で[資源配付]ウィンドウを起動すると、メンテナンス作業ウィンドウにメンテナンス版数の状況が表示されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

製品の仕様です。

メンテナンス作業ウィンドウは、配付操作や結果確認をする目的のウィンドウであるため、メンテナンス版数の登録サーバ(運用管理サーバ)だけで生成されるものになります。
部門管理/業務サーバは、無人運用を想定しており、[資源配付]ウィンドウの操作は推奨していません。

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウを実行したサーバは運用管理サーバですか。

対処方法

[資源配付]ウィンドウで配付状況を確認する場合は、運用管理サーバで実施してください。
部門管理/業務サーバで配付状況を確認する場合は、drmslstコマンドにより確認してください。

備考

事例

ある業務サーバ配下のクライアントに最新のメンテナンス版数が配付適用されていない事象が発生した。そのため、業務サーバ上で[資源配付]ウィンドウを起動したが、運用管理サーバより受信したメンテナンス版数の状況が表示されなかった。

7.1.33 MpWalker/DMからSystemWalker/CentricMGR V5以降にバージョンアップすると、メンテナンス作業が削除できない

MpWalker/DM V2.0で使用していたメンテナンス作業を残したまま、SystemWalker/CentricMGR V5.0L30以降にバージョンアップすると、メンテナンス作業が削除できないことがあります。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

過去のメンテナンス作業(バージョンアップ前の作業)を、連続して削除する場合の手順が間違っている可能性があります。

対処方法

過去のメンテナンス作業を連続で削除する場合は、新しい方から古い方へ順にメンテナンス作業を削除していってください。すべてのメンテナンス作業を削除したら、[資源配付]ウィンドウを停止して、資源配付サービスを再起動します。[資源配付]ウィンドウを再起動すると、削除したメンテナンス作業はすべて表示されなくなります。

7.1.34 資源配付GUIで資源の登録を行った後、個別メンテナンス版数の追加を行うと、登録範囲欄に設定されているはずの業務が表示されない

原因

個別メンテナンス版数の登録範囲欄に表示されていない業務が、共通メンテナンス版数の業務として登録されています。資源配付GUIの『メンテナンス作業の追加』画面上の作業で、指定した共通メンテナンス版数における業務定義に操作ミスがあるようです。

確認ポイント

メンテナンス版数登録時に、[メンテナンス作業（メンテナンス版数）の追加]画面で、共通メンテナンス版数の業務として定義していませんか。

対処方法

共通メンテナンス版数の業務定義を削除し、新たに共通メンテナンス版数の業務定義を登録してください。

例）個別メンテナンス版数作業に"業務名D"を追加しようとしたが、共通メンテナンス版数に"業務名A, 業務名B, 業務名C, 業務名D"が定義されている場合

1. 共通メンテナンス版数の業務定義を削除します。

   共通メンテナンス版数の業務定義はGUIからは削除できませんので、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して削除してください。

   drmsdlt -arms -ddfn

2. 共通メンテナンス版数に定義する業務 "業務名A, 業務名B, 業務名C"を登録します。

   1)で削除した共通メンテナンス版数内の業務定義を再登録します。
   コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して登録してください。（共通メンテナンス版数内に登録する業務は、一括して登録します。）

   drmsdfn -a rms -j "業務名A, 業務名B, 業務名C"

3. 資源配付GUIを起動し、メンテナンス作業の追加画面を表示すると、"業務名D"が表示されますので、メンテナンス作業の追加を行ってください。

7.1.35 新しい資源を登録してからメンテナンス版数の配付をするとき、[サーバ]タブの配付画面上に配付先サーバの一覧が表示されない

確認ポイント

新しく配付先サーバを「配付宛先の事前設定」で追加しましたか。

対処方法

デフォルトで選択されている宛先システムは、該当メンテナンス版数の初期世代で選択されていたシステム名です。その宛先システム名は、サービスで自動的に配付宛先の事前設定情報として登録されます。
その後、途中世代でシステム宛先が増えた場合は、資源配付ウィンドの[設定]メニューにある「配付宛先の事前設定」を実行して、事前設定情報に追加して更新してください。

7.1.36 運用管理サーバから配下サーバへクライアント資源を配付すると、その資源が『適用中』ステータスとなり、当該配下サーバ配下のクライアントでは全て『適用済み』ステータスとなっている

確認ポイント

配下サーバおよびクライアント上で既に適用済みステータスの資源に対して、配下サーバ上で資源の削除のみを実施していませんか。

- drmsdlt -a rsc -g [資源グループ名] -e [世代名] -n -v [バージョンレベル名] -m [削除先サーバシステム名] または、
- drmsdlt -a rms -v [メンテナンス版数名] -e [世代名] -n -m [削除先サーバシステム名]

※-Eオプションが付く場合は、そのサーバ配下のクライアントの送信・適用ステータスまで削除されますが、-Eオプションが付いていない場合は、サーバ上のみのステータスが削除されるため本現象が発生していました。

対処方法

運用管理サーバから配下サーバに対して『適用中』ステータスの資源を再度送信（drmssndコマンド）し、配下サーバで適用を実施してください。

- drmssnd -a rsc -g [資源グループ名] -v [バージョンレベル名] -e [世代名] -k [quick|man|ipl|date]または、
- drmssnd -a rms -v [メンテナンス版数名] -e [メンテナンス版数の世代名] -k [quick|man|ipl|date]

次の適用結果通知時、またはオンライン状況検索（全情報）時に、正しい適用完了のクライアント数が通知され、資源配付GUIで表示できるようになります。

7.1.37 ドメインユーザの場合、エラーメッセージが表示され、 [資源配付]ウィンドウが起動できない

エラーメッセージ

資源配付を起動する権限がありません

対象バージョンレベル

- Centric Manager V5.0L20以降

対処1

原因

OSがドメインのメンバサーバの場合、"Systemwalker ACL Manager"サービスの権限不足により、発生することがあります。

対処方法

"Systemwalker ACL Manager"サービスのスタートアップアカウントに、以下のユーザを設定してください。

- スタートアップアカウントに必要な条件をすべて満たし、かつ、所属しているドメインに登録されているユーザ

  スタートアップアカウントに必要な条件については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“スタートアップアカウントを変更する【Windows】”を参照してください。

対処2

確認ポイント

ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されており、ユーザ ログオン名と表示名が異なる場合に、発生することがあります。

[Windows 2000の場合]
ドメイン操作モードが、"ネイティブ"の場合

[Windows Server 2003の場合]
ドメインの機能レベルが、"Windows 2000 ネイティブ"または、"Windows Server 2003"の場合

対処方法

ユーザが登録されているドメインコントローラで、ユーザの"ユーザ ログオン名 (Windows 2000 以前)" と "表示名"が一致していることを確認してください。

対処3

確認ポイント

ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されており、Usersオブジェクトとは異なるオブジェクト配下に登録されている場合、発生することがあります。

[Windows 2000の場合]
ドメイン操作モードが、"ネイティブ"の場合

[Windows Server 2003の場合]
ドメインの機能レベルが、"Windows 2000 ネイティブ"または、"Windows Server 2003"の場合

対処方法

ユーザが登録されているドメインコントローラで、ユーザが"Users"オブジェクト配下に登録されていることを確認してください。

7.1.38 ターミナルサービスを経由して、サーバの[資源配付]ウィンドウを起動、または資源配付コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される

エラーメッセージ

資源配付サービスが未起動です

対象バージョンレベル

- Centric Manager V13.0.0以前

確認ポイント

サーバのOSはWindows 2000ですか。

ターミナルサービス（リモートデスクトップ）を経由して、[資源配付]ウィンドウの起動、または資源配付コマンドを実行していませんか。ターミナルサービスを経由した[資源配付]ウィンドウの起動はサポートされておりません。

対処方法

- [資源配付]ウィンドウを実行したい場合

  リモート操作（LiveHelp）画面上で[資源配付]ウィンドウを起動するか、運用管理クライアントの[資源配付]ウィンドウを利用してください。

- 資源配付コマンドを実行したい場合

  リモート操作（LiveHelp）画面上のDOSプロンプト上で、コマンドを実行してください。

7.1.39 [資源配付]ウィンドウの共通メンテナンス版数を配付する画面上で、運用管理サーバアイコンのみ表示されない

資源配付GUIで共通メンテナンス版数を配付するウィンドウ上で表示される運用管理サーバ1台・配下サーバ数台のうち、運用管理サーバアイコンのみ表示されません。

原因

[メンテナンス作業]-[プロパティ]画面の[サーバ]タグを開いた状態で、[OWN]を選択し、[詳細]ボタンをクリックすると、OWNの[プロパティ]画面が表示されます。
その[プロパティ]画面上で[適用]ボタンをクリックし、適用処理を実行すると、運用管理サーバアイコン(OWN)が適用完了用のアイコンに更新されたため、アイコンが削除されてしまいました。

対処方法

[メンテナンス作業]-[プロパティ]画面の[サーバ]タグ上で、[再表示]ボタンをクリックするとサーバ(OWN)アイコンが表示できます。

7.1.40 クライアントのIPアドレスを変更し、運用管理サーバ上でSystemwalkerコンソール上のノード一覧からクライアントのIPアドレスを変更したが、しばらくするとノード一覧のIPアドレスが元に戻ってしまう

原因

運用管理サーバで保持している古いクライアントのインベントリ情報で更新されているためです。

対処方法

運用管理サーバに残っている古いクライアント情報を削除してください。

1. クライアント情報を削除します。

   “drmsdlt -a sys -s [クライアント名] -k cl”
   (非隣接のクライアントの場合は、“drmsdlt -a sys -s [クライアント名] -k cl -H other”のコマンドを実行します。)

2. 対象のクライアント上でインベントリ情報を収集し直し、クライアントから運用管理サーバにインベントリ情報を通知します。
   （インベントリ情報の通知処理に関しては、スケジュール通知のタイミングでも構いません。）

7.2　運用管理クライアントに関するトラブル

7.2.1　運用管理クライアントがサーバに繋がらない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付サーバで、資源配付インストールディレクトリのetcディレクトリ配下に、connect.iniファイル（接続可能ノード一覧）を設定していませんか。

対処方法

connect.iniファイルは、接続可能ノードを限定する定義をしています。
接続可能クライアント名を定義しているが、運用管理クライアントのIPアドレスの定義がないために、接続拒否されています。
接続可能ノードを限定している場合は、connect.iniファイルに運用管理クライアントの定義を追加してください。
接続可能ノードを限定していない場合は、connect.iniファイルを削除してください。

備考

接続可能一覧ファイルを作成する

接続可能一覧ファイルは、接続可能なノード名を記述したテキストファイルで、利用者が事前に作成しておく必要があります。本ファイルが存在しない場合は、システム認証は実施されません。

- ファイルを格納するサーバ

  相手先システムからの接続時に接続認証を実施したいサーバで設定します。サーバの種別により指定するノード名の指定内容が異なります。

  運用管理サーバ：

  全てのサーバおよび運用管理クライアントを指定します。

  中継サーバ：

  上位サーバと配下サーバを指定します。

  部門管理/業務サーバ：

  上位サーバおよび運用管理サーバを指定します。

- ファイル格納場所

  Windows版の場合：

  Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥etc¥connect.ini

  UNIX版の場合：

  /opt/FJSVmpsdl/etc/connect.rc

- ファイル形式

  テキスト形式で1行1ノード名として記述します。ノード名の後ろにカンマで区切ってシステム種別も指定する事が可能であり、省略した場合は全システム種別とみなされます。

```
ノード名,serv↓
ノード名,op↓
```

```
↓　：改行
serv：サーバ通信
op　：運用管理クライアント通信
```

7.2.2 運用管理クライアントを起動すると、エラーメッセージが出力され、簡易ウィザードが起動しない

エラーメッセージ

簡易Wizardで異常が発生しました。

対象バージョンレベル

- V5.0L30以降

確認ポイント

運用管理クライアントを実行したドメインと、接続相手の運用管理サーバのドメインが違っていませんか。

対処方法

運用管理クライアントは、接続相手の運用管理サーバと同一ドメインで起動してください。

7.2.3 運用管理クライアントで、ログイン処理を実行すると、資源配付のエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

接続に失敗しました。接続先サーバまたは接続先の資源配付が未起動、ポート番号の設定誤り等の原因が考えられます。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

ログイン時のパスワードを誤っていませんか。

対処方法

正しいパスワードを入力してください。

対処2

確認ポイント

WindowsへログインするユーザIDとパスワードが運用管理サーバで認証可能ですか。

対処方法

WindowsへログインするユーザIDとパスワードは運用管理サーバで認証可能なものにしてください。

備考

WindowsにログインしているユーザIDでの接続は、ドメインを意識した認証となります。資源配付サーバと運用管理クライアントが同一ドメインでない場合は、同じユーザIDでも認証に失敗します。
同じワークグループでは、ユーザID、パスワードが同じであれば接続できます。

7.2.4 運用管理クライアントから、UNIX版の資源配付サーバに対して、システム名を変更しようとしたら、エラーメッセージが出力された

エラーメッセージ

- 運用管理クライアント

```
Microsoft Visual C++ Runtime Library Runtime Error! Program D:¥win32app
¥mpwalker.dm¥drmsop¥bin¥drmsGUI.exe Abnormal program termination
```

- 運用管理サーバ

```
drmsd: ERROR:[00220] ユーティリティ実行中にエラーが発生しました.エラーコード
（E2BIG），詳細情報（$WORK_DIR/tmp/drms_xxxx/hard_base.csv）.
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

システム名にShift-JISの半角カタカナを使用していませんか。

対処方法

半角カタカナを使用してしまった場合は、drmsmdfyコマンドを使用してシステム名を変更してください。
また、インベントリ収集していた場合は、インベントリ情報が不整合を起こす可能性があります。以下の方法により対処してください。

1. エラーの回避

   運用管理サーバで、以下の手順を実施します。

   1. 資源配付サーバを停止します。

      ```
      drmsd -f
      ```

   2. 以下のディレクトリを削除します。

      ```
      DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）/invsts/s_サーバのシステム名
      ```

   3. 資源配付サーバを起動します。

      ```
      drmsd -s
      ```

   4. システム名を変更します。

      ```
      drmsmdfy -a sys -k own -s 変更したいサーバのシステム名 -m 変更後のサーバのシステム名
      ```

2. インベントリ情報の復旧

   部門管理サーバまたは業務サーバで、以下の手順を実施します。

   1. 資源配付サーバを停止します。

      ```
      drmsd -f
      ```

   2. 以下のディレクトリを削除します。

      ```
      DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）ディレクトリ配下のinvstsディレクトリ
      ```

   3. 資源配付サーバを起動します。

4. インベントリ通知時刻が経過すると、ベース情報が通知され、復旧されます。

備考

drmsmdfyコマンド

資源の送受信の状況等は残したまま、システム定義の登録内容を変更します。

7.2.5 運用管理クライアントでログインした後、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

パスワードが規定範囲外です。(日本語版)

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

ログイン時のパスワードに“,”が含まれてせんか。

対処方法

以下のどちらかの対応で回避してください。

- パスワードに“,”を含めないでください。
- 運用管理サーバ側に登録されているユーザID/パスワードで、運用管理クライアントにログインしてください。

7.2.6 [アクション]-[メンテナンス作業の追加]-[メンテナンス版数]選択時に、エラーメッセージが表示され、新規にメンテナンス作業を作成できない

エラーメッセージ

メンテナンス作業（メンテナンス版数）はほかのプロセスが使用中の為、メンテナンス作業の追加・コピーができません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウを強制終了していませんか。

対処方法

[資源配付]ウィンドウの接続先の資源配付サーバ機能を再起動してください。

事例

現象

[資源配付]ウィンドウから対象システムのウィンドウにて、ローカル情報で更新ボタン(Ｆ5キー)を押したところ、以下のエラーメッセージボックスが表示され、画面更新ができない。

「サーバは他のプロセス（TRCCSL01）が使用中の為、ローカル情報の更新が出来ません。」

原因

運用管理クライアントに対する排他制御情報がサーバ側のwork dirに残存しており、排他が解除されない状態になっていたため、本事象が発生しました。運用管理クライアント側を強制的に停止させた、または何らかの理由により、正常に運用管理クライアントとのパス切断がされず、中途半端にサーバ側に資源配付のプロセスも残存していました。

対処

運用管理サーバ側の資源配付の再起動により、排他情報がリセットされ、問題が解消しました。

対処2

確認ポイント

該当項目（メンテナンス版数など）に対して、操作中の[資源配付]ウィンドウがほかに存在していませんか

対処方法

ほかの[資源配付]ウィンドウで、配付操作やメンテナンス作業プロパティの表示などにより、メンテナンス作業が使用中のため、該当操作は許可されません。
ほかの[資源配付]ウィンドウが起動している場合は、[資源配付]ウィンドウを終了してください。

7.2.7 運用管理クライアントを接続しているSolarisの運用管理サーバ側で、drmswsプロセスのcoreが出力されていた

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

シスログに「swap不足」のメッセージが出力されていませんか。メモリ不足により異常終了している可能性があります。

対処方法

swap不足の解消を実施してください。
なお、swap不足によりdrmswsプロセスがcoreを出力している場合は、運用管理クライアント接続が失敗する可能性があります。この場合は、サーバ側のDRMSデーモンを再起動してください。

7.2.8 運用管理クライアント（V4.0L20）から運用管理サーバ（V10.0L20）に接続するとエラーが発生する。サーバ側ではdrmswc.exeプロセスが、c0000005:(ACCESS_VIOLATION)でアプリケーションエラーになっている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

運用管理クライアントと運用管理サーバの製品バージョンが異なっています。

対処方法

正しいバージョンレベルの組合せでお使いください。

備考

バージョンの相違による考慮は入っています。
運用管理クライアントがV5.0L10以降の場合、バージョンが異なると、運用管理クライアント側に以下のエラーが出力されます。

```
“接続先のバージョンとは接続できません。”
```

運用管理クライアントがMpWalker/DM V3.0L20からV4.0L20である場合、サーバから返却されるバージョン情報を認識できないため、drmswc.exeがアプリケーションエラーになります。

7.2.9 運用管理クライアントの[資源配付]ウィンドウのログイン画面からログインを行ったが、画面がグレイになり、ログイン画面が無応答状態になってしまう

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

サーバ側で以下のコマンドを投入し、MSGTQL値分のメッセージキューが溜まっていないか確認してください。Solaris側のIPCメッセージ資源枯渇の可能性があります。

```
# sysdef          ・・・システムのメッセージキューの設定を確認
# ipcs -aq        ・・・現在使われているメッセージキューの状況を
                        確認
```

対処方法

メッセージキューのチューニングを実施してください。
考え方は以下のとおりです。

```
DRMS編集ファイルのcntmax=で指定した値＋8
```

7.2.10 運用管理クライアントを起動してサーバに接続、またはF5キーを押すと、エラーメッセージが表示される

運用管理クライアントを起動してサーバに接続、またはF5キーを押すと、以下のメッセージが表示されることがあります。

エラーメッセージ

```
接続先のステータスの取得の処理で異常が発生しました。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

DRMS管理ファイル内の以下の情報に不整合が発生している可能性があります。

- DRMS管理ファイルディレクトリ/inf/confファイル
- DRMS管理ファイルディレクトリ/inf/sysws_listファイル

confファイルに存在しないクライアント名がsysws_listファイルに存在しています。

情報に不整合があると、運用管理クライアントにおいてステータス情報獲得時に情報不一致としてエラーが発生します。

対処方法

以下の手順でDRMS管理ファイル内の情報不整合を解消してください。

1. 資源配付停止後、以下のファイルを削除してください。

   DRMS管理ファイルディレクトリ/inf/sysws_listファイル

2. 削除後、資源配付を再起動してください。

7.2.11 運用管理クライアントからサーバに接続してインベントリ検索またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、エラーメッセージが出力される

運用管理クライアントからサーバに接続してインベントリ検索、またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、以下のメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

```
デスクトップ管理サーバでタイムアウトが発生したため処理できません
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

接続先のサーバは運用管理サーバですか。
運用管理クライアントから運用管理サーバ以外のサーバ(部門管理サーバまたは業務サーバ)に接続してインベントリ検索、またはソフトウェア辞書エディタの起動を行うと、上記のメッセージが発生する可能性があります。

対処方法

インベントリ検索、ソフトウェア辞書エディタの起動は、運用管理サーバに接続して行ってください。

7.2.12 運用管理クライアントから運用管理サーバに接続すると、エラーメッセージが出力されて[資源配付]ウィンドウが起動できない

運用管理クライアントから運用管理サーバに接続すると、以下のエラーメッセージが出力されて[資源配付]ウィンドウが起動できないことがあります。

エラーメッセージ

```
資源配付を起動する権限がありません
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

接続先のサーバはドメインコントローラではありませんか。
ドメイン認証を行う場合は、接続先のサーバでDRMS編集ファイルのwindomain_nameオプションを指定する必要があります。

対処方法

以下の対処を行ってください。

1. 接続先のサーバでDRMS編集ファイルのwindomain_nameオプションを指定します。
2. 資源配付サービスを再起動します。

3. 再度、運用管理クライアントから運用管理サーバに接続します。

発生事例

運用管理サーバのスタートアップアカウントに権限が設定されていなかったために、資源配付サービス起動時、『資源配付を起動する権限がありません』とメッセージが出力され、起動できませんでした。

以下の手順で、運用管理サーバの権限の変更を実施してください。

1. "Systemwalker ACL Manager"サービスを停止します。
2. "Systemwalker ACL Manager"サービスのログオンアカウントを以下の条件を満たすドメインユーザ（管理者）に変更します。
   - 運用管理サーバがインストールされたコンピュータ上のAdministratorsグループに所属する
   - ドメインの管理者権限をもつ
   - 運用管理サーバ上で、以下の特権をもつ
     - オペレーティングシステムの一部として動作
     - サービスとしてログオン
3. "Systemwalker ACL Manager"サービスを起動します。

7.2.13 運用管理クライアントの操作で「接続先の作業ファイルでI/Oエラーが発生しました。」のメッセージが出力される

エラーメッセージ

接続先の作業ファイルでI/Oエラーが発生しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager：全V/L
- Systemwalker Software Delivery：全V/L

確認ポイント

運用管理クライアントで、[資源配付]ウィンドウの操作中に発生していませんか。

原因

運用管理クライアントの接続先の運用管理サーバで、[資源配付]ウィンドウが使用する一時ファイルへのアクセスに失敗したことが原因です。

対処方法

- 現象が再発しない場合、一時的なエラーと考えられます。特に対処は必要ありません。
- 現象が頻発する場合、運用管理サーバの資源配付の作業ディレクトリのドライブに問題がある可能性があります。chkdskを実施して、ドライブに問題がないか、確認してください。

  作業ディレクトリはDRMS編集ファイルの“work_dir”オプションで指定します。別のドライブに変更する対処も有効です。

7.3 Systemwalker Web連携に関するトラブル

7.3.1 Systemwalker Web連携で資源配付の画面にログインした後、操作をするとエラーメッセージが表示される

エラーメッセージ

初期化できませんでした。

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.6.1
- 5.0～V13.6.1

確認ポイント

IIS（インターネットインフォメーションサービス）のディレクトリセキュリティ権限が足りない可能性があります。

対処方法

以下の手順に従って、IISの設定を行ってみてください。

1. [インターネットインフォメーションサービス]画面で、[MpScript]ディレクトリを選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択します。
2. [ディレクトリ セキュリティ]タブで、[匿名アクセスおよび認証コントロール]-[編集]ボタンをクリックします。

   →[認証方法]ダイアログボックスが表示されます。
3. [匿名アクセス]チェックボックスのチェックをはずします。

7.3.2 Systemwalker Web連携で資源配付のパスワード入力後にエラーメッセージが表示される

エラーメッセージ

資源配付を起動する権限がありません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

ユーザ名、またはパスワードを誤っていませんか。

対処方法

正しいユーザ名、またはパスワードを入力してください。

備考

Systemwalker Web連携の資源配付を使用する場合に指定するユーザ名は、資源配付の運用管理サーバで資源配付を使用できるユーザ名を入力してください。

7.3.3 Systemwalker Web連携において、資源配付にログインし、システム一覧、異常システム一覧、システムグループ一覧を選択すると、左下の一覧表示部分に「初期化できませんでした。」と表示される

エラーメッセージ

初期化できませんでした。

対象バージョンレベル

- Linux版： V11.0L10以降
- Solaris版：5.2以降

確認ポイント

/tmpディレクトリのパーミッションを確認してください。
Webサーバの実行プロセスが/tmpディレクトリに対し実行・参照・書き込み可能である設定となっていますか。

対処方法

/tmpディレクトリのパーミッションを、以下のとおり設定してください。

- Webサーバプロセスが実行・参照・書き込み可能となるパーミッションを設定する。

7.3.4 サーバ資源配付オプションのWebコンソールを起動すると、ブラウザ左下に「java.lang.NullPointerException」と表示され、起動に失敗する

原因

Windows2003のIIS 6.0のセキュリティ強化が原因で問題が発生しています。

確認ポイント

Windows2003のIIS 6.0を使用されていますか。

対処方法

Windows2003のIIS 6.0では、初期設定のCGIは、使用不可の状態になっているため使用可能な設定にしてください。ただし、全てのCGI拡張を許可してしまうと、セキュリティ上問題があると思われるためサーバ資源配付オプションで使用するCGIのみ使用可能な設定を行ってください。

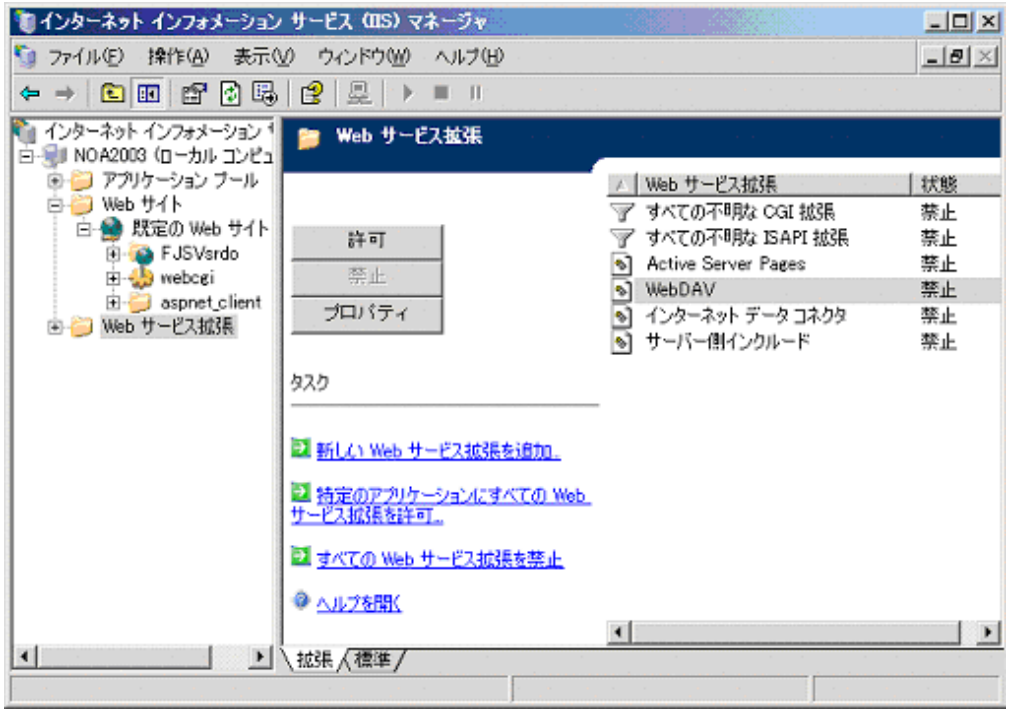
サーバ資源配付オプションのIIS6.0使用時の設定について

下記に、IIS6.0を使用する場合の必要な設定例を説明します。

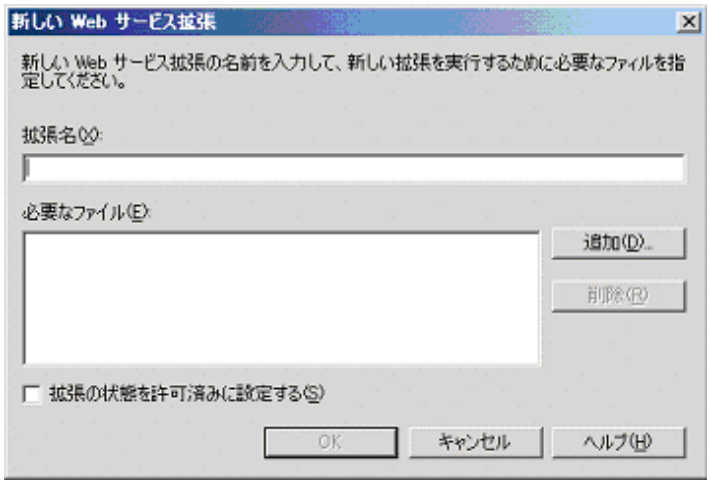
IIS6.0インストール時（OSのインストール完了時）は、デフォルトでCGIは使用できない状態となっています。Webサービスの拡張で、CGIを使用できるようにします。しかし、全ての不明なCGI拡張を許可するのは、セキュリティ上好ましく無いので、サーバ資源配付オプションのCGIのみを許可します。

Webサービスの拡張操作

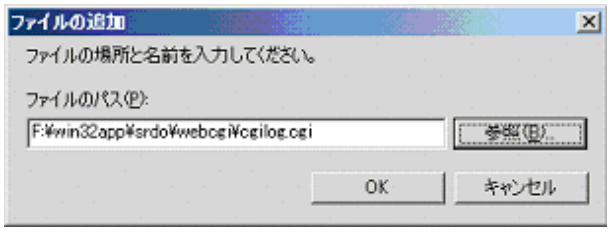
1. インターネットインフォメーションサービスマネジャーを起動し、“Webサービス拡張”を選択すると以下の画面が表示されます。



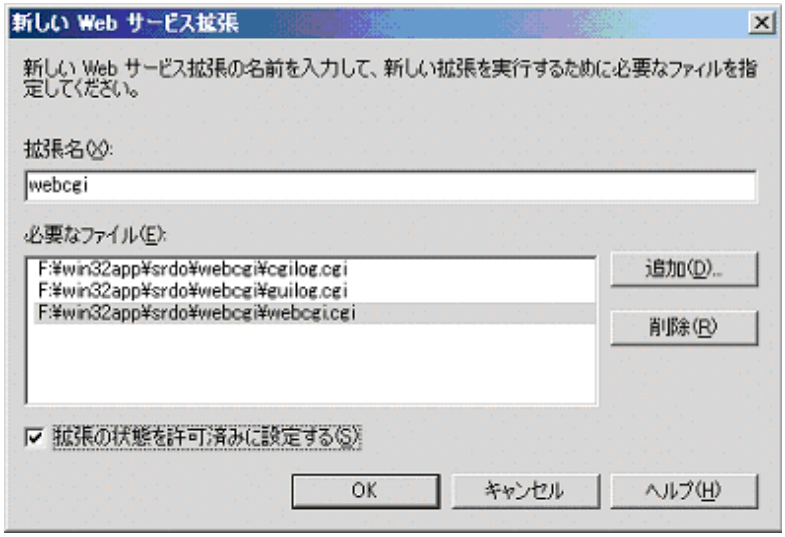
2. “新しいWebサービス拡張を追加”を選択すると以下の画面が表示されます。



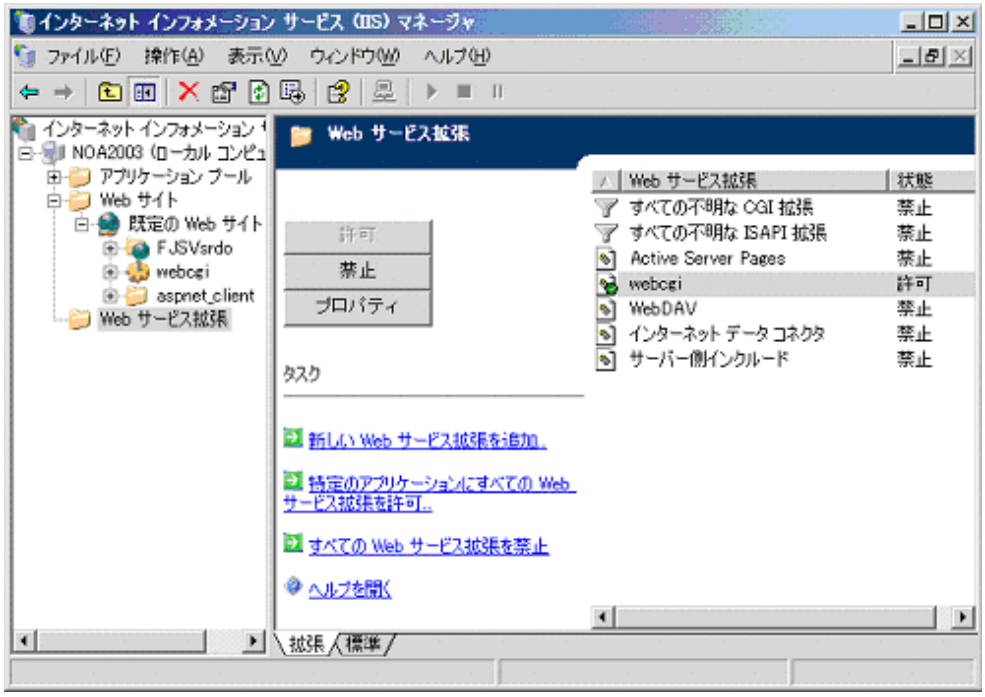
3. 拡張名にwebcgiを入力し、「追加」ボタンを押下すると、ファイル追加の以下の画面が表示されます。



4. 追加ファイルはcgilog.cgi/guilog.cgi/webcgi.cgiで、追加の画面は以下の通りです。
必要なファイルを追加し、[OK]ボタンをクリックしてください。



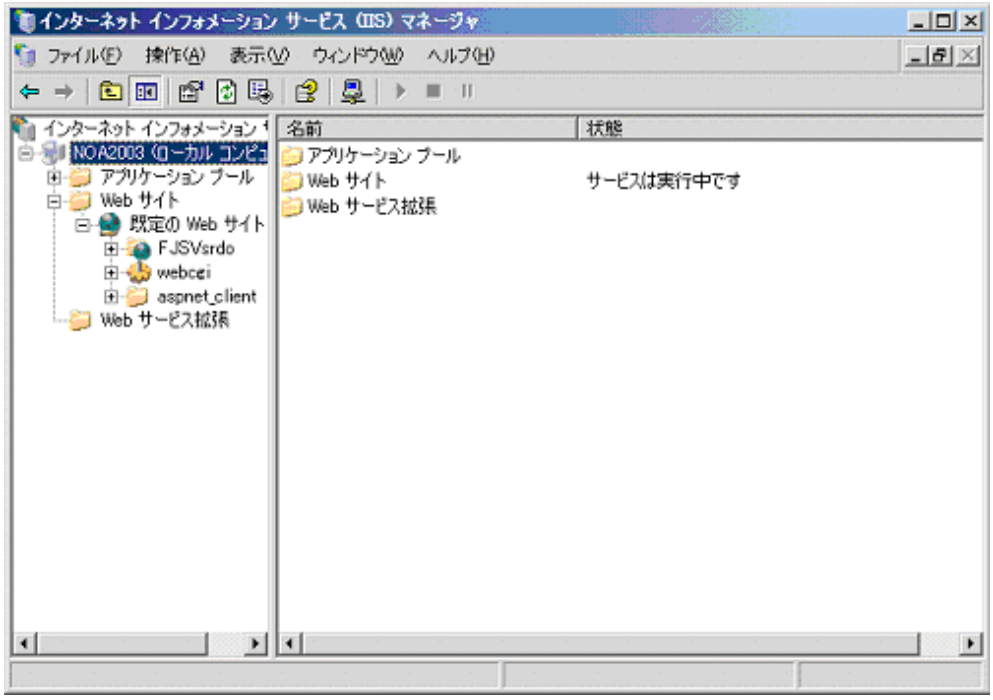
5. 以下の画面のように表示されることを確認してください。
これまでの操作により、CGIの使用が可能となります。



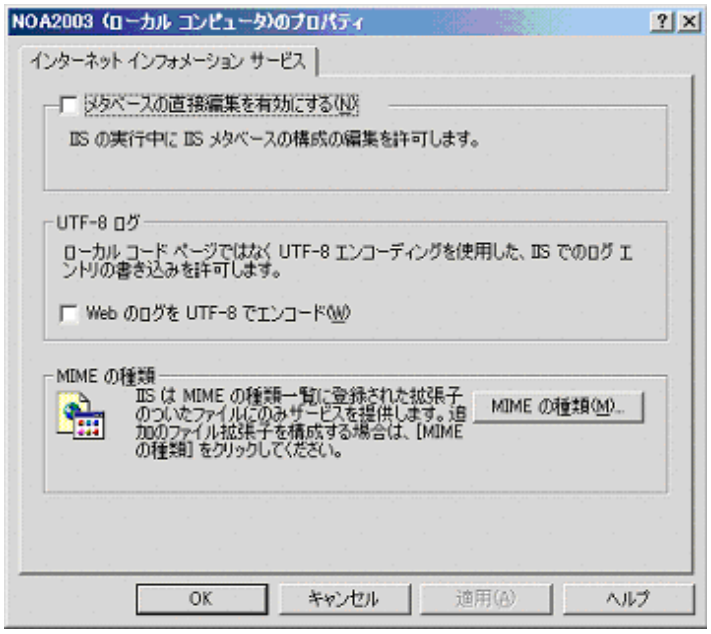
MIMEの種類の設定操作

WebGUI画面を表示するために、以下の定義ファイルが必要になります。IIS6.0では、ファイルの識別子をMIMEの種類で設定しないと読み込めないため、WebGUI画面を表示する際にエラーとなります。

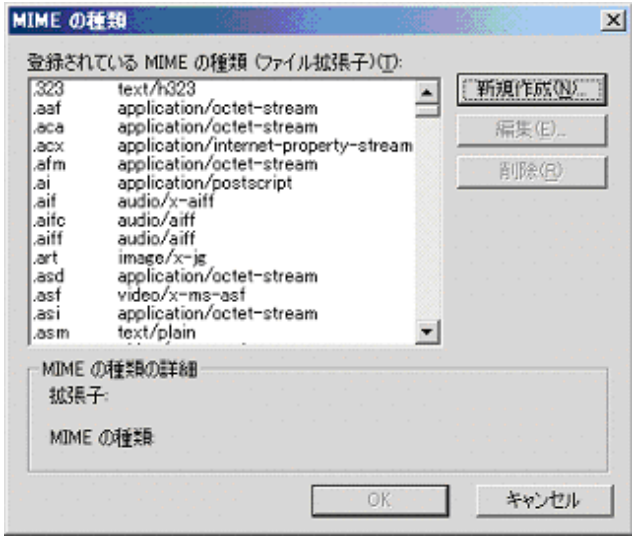
1. インターネットインフォメーションサービスマネジャーを起動します。



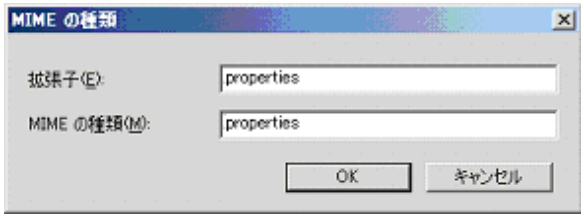
2. ローカルコンピュータのプロパティを表示し、[MIMEの種類]ボタンをクリックします。



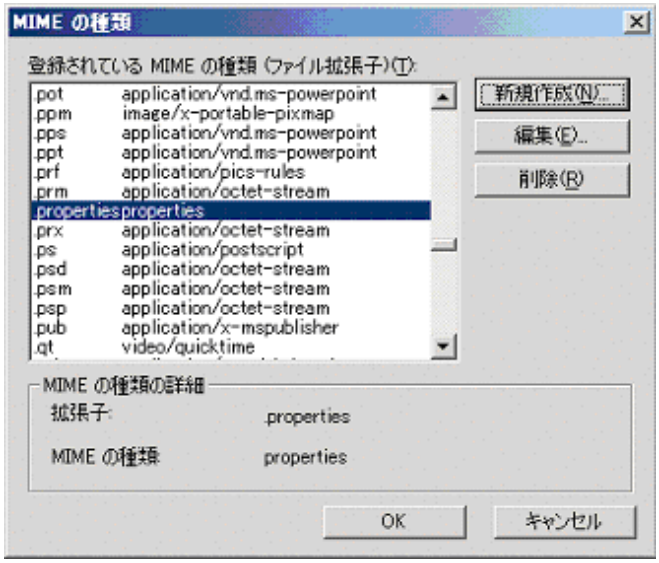
3. [新規作成]ボタンをクリックします。



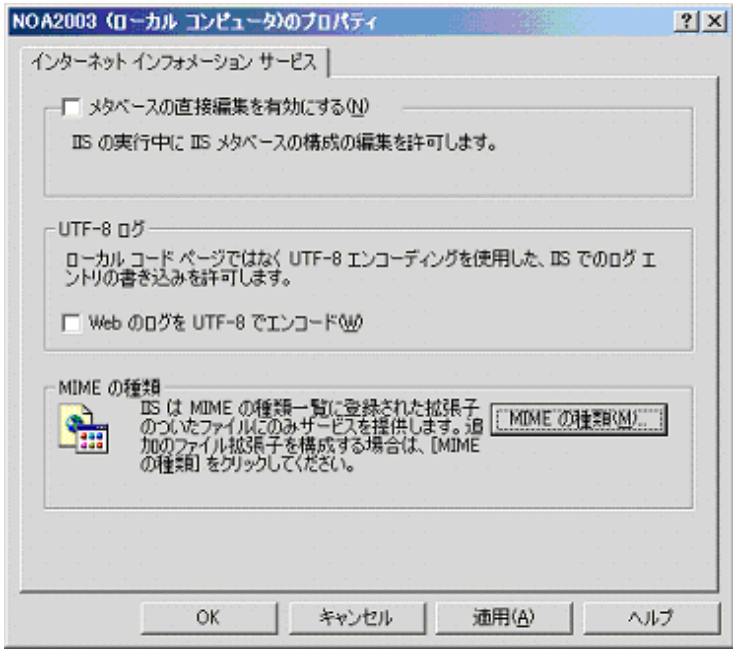
4. ファイル拡張子（properties）を登録します。



5. 登録されているMIMEの種類一覧に、“properties”の拡張子が追加されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックしてください。



6. 設定を適用するために[適用]ボタンをクリックします。
定義の追加をしていますので、IISの再起動をしてください。



第8章 インベントリ情報に関するトラブルシューティング

8.1 インベントリ情報の表示異常に関するトラブル

8.1.1 部門管理/業務サーバから通知されたインベントリ情報が表示できない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

例

部門管理/業務サーバから通知されたインベントリ情報が、運用管理サーバ上で表示できない。

対処1

確認ポイント

運用管理サーバに部門管理/業務サーバを定義していますか。
[資源配付]ウィンドウの左下画面で、該当部門管理/業務サーバが表示されているか確認してください。

対処方法

1. 以下のコマンドを投入して、該当部門管理/業務サーバのシステム定義を削除します。

   【Windowsの場合】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥bin
   ¥drmsdlt -a sys -s “配付先部門管理/業務サーバ名” -k serv -H other
   ```

   【UNIXの場合】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ/FJSVmpsdl/bin/drmsdlt -a sys -s “配
   付先部門管理/業務サーバ名” -k serv -H other
   ```

2. [資源配付]ウィンドウで、[オブジェクト]メニューの[新規作成]-[サーバ]を選択し、再度システム定義を行ってください。

対処2

確認ポイント

部門管理/業務サーバでLANカードが2枚以上装着されていませんか。

対処方法

以下のコマンドを実行して、部門管理/業務サーバのown定義のノード名に、運用管理サーバで定義している部門管理/業務サーバ定義のノード名を定義します。

【Windowsの場合】

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥bin¥drmsmdfy -a
sys -s “own名” -k own -n “部門管理/業務サーバ定義のノード名”
```

【UNIXの場合】

```
/opt/systemwalker/bin/drmsmdfy -a sys -s own -k “own名” -n “部門管理/業務サーバ
定義のノード名”
```

以下のdrmsstupコマンドを実行することにより、部門管理/業務サーバから運用管理サーバに対するインベントリ通知において、複数あるLANカードのうち使用するLANカードのIPアドレスを指定することができます。

```
/opt/FJSVmpsdl/bin/drmsstup -a “部門管理/業務サーバのIPアドレス”
```

drmsstupコマンドで設定したIPアドレスに誤りがあった場合は、以下のコマンドでIPアドレスの設定を削除し、再度上記のコマンドラインでIPアドレスを設定してください。

```
/opt/FJSVmpsdl/bin/drmsstup -u
```

なお、drmsstupコマンドによるIPアドレスの指定および解除は、資源配付を再起動することにより有効になります。資源配付を停止してからコマンドを実行した後、資源配付を再起動してください。

8.1.2 クライアントから通知したインベントリ情報に、同一の情報が存在する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

ほかのクライアントのDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）をコピーしたときにコピー元のインベントリ情報が残っていませんか。

対処方法

クライアントのDRMS管理ファイルのPKGディレクトリ配下に以下のファイルが存在する場合はファイルを削除してください。

- hard.old
- soft.old

8.1.3 インベントリ情報画面で表示される情報が更新されない

対処1

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

以下のどちらかの操作を実施していませんか。

- デスクトップ管理によるインベントリ収集（スタートアップから実行される収集）を行っているときに、インベントリ情報を収集しているクライアントのホスト名を変更（この場合、デスクトップ動作環境設定のクライアント名も変更）し、再度インベントリ情報収集を行った
- 資源配付経由によるインベントリ情報収集と、簡易インベントリ情報収集を併用運用し、[システム名]と[クライアント名]が一致していない。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- 運用管理サーバでインベントリデータベースを初期化します。

  ただし、簡易資源配付機能を使用している場合は、配付資源を含めて関連情報がすべて初期化（削除）されます。インベントリ管理だけ利用している場合は、クライアントから再度インベントリ情報が収集されるため、自動的に情報は復元

されます。
インベントリデータベースの初期化は、Systemwalkerコンソールの[ポリシー]-[インベントリ]-[インベントリ管理環境]-[データベース初期化]ボタンをクリックします。

- 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpcompcl¥Cmenvsup.exe
```

表示されるGUIで、変更前のクライアント名を選択して、[編集]-[削除]を実行します。

対処2

対象バージョンレベル

- Windows版 V13.3.0以降
- Solaris版 V13.3.0以降
- Linux版 V13.3.0以降

原因

インストールレス型エージェントのインベントリ収集を行っていた後、資源配付機能によるインベントリ情報収集を行ったためです。

対処方法

インストールレス型エージェントのインベントリ収集から資源配付機能によるインベントリ情報収集に切り替える場合は、事前に以下のコマンドでインベントリ情報を削除してください。

```
drmsdlt -a inv -s エージェント名
```

詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

8.1.4 収集されたインベントリ情報を表示させると、ネットワークの情報が正しく収集されていない場合がある

対象バージョンレベル

- 5.2～12.0
- V5.0L30～V12.0L10(Linux版)

原因

- 【Solaris版の場合】
  - 運用管理サーバ、部門管理/業務サーバで、複数のネットワークカードを使用している場合、代表インタフェース以外のネットワークカードの情報は収集されません。
- 【Linux版の場合】
  - 運用管理サーバ、部門管理/業務サーバで、複数のネットワークカードを使用している場合は、代表インタフェース以外のネットワークカードに関しては、設定されているホスト名の情報は収集されません。
  - 運用管理サーバ、部門管理/業務サーバで、DHCPで運用しているネットワークカードについては、ホスト名、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの情報は収集されません。
  - 運用管理サーバ、部門管理/業務サーバで、Linuxの機能であるボンディング機能を使用している場合は、ボンディング機能で管理しているネットワークカードについて、ホスト名、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの情報は収集されません。

対処方法

対処は不要です。

8.1.5 Systemwalkerコンソールからインベントリ情報を表示すると、意図しないインベントリ情報が表示される

対象バージョンレベル

- Windows版 V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版 V13.0.0～V13.2.0

原因

簡易インベントリ収集と資源配付機能によるインベントリ収集を併用する際、使用するクライアント名として、機能ごとに異なる設定をして運用すると、インベントリデータベースには、それぞれの機能で収集したインベントリ情報がそれぞれ登録されます。
しかし、Systemwalkerコンソールからは一方の情報しか参照できないため、意図しないインベントリ情報が表示されることがあります。

対処方法

以下の復旧手順を実施してください。

1. Systemwalkerコンソールのメニューコマンド“オブジェクト”の“インベントリ情報の検索”を実行して、インベントリ情報で検索を起動します。
2. 簡易インベントリ収集で指定したクライアント名(XXXX)と資源配付機能によるインベントリ収集で使用されるクライアント名(YYYY)が異なるクライアントに対して、検索条件“TCP/IP情報”の“IPアドレス”を使用してインベントリ検索を実施します。
3. [検索結果一覧]には、以下のとおり複数のクライアント名が表示されます。

   XXXX

   YYYY

   【“YYYY”を削除する場合】

   1. プログラムメニューの[Systemwalker Centric Manager]の[資源配付]を実行して、資源配付を起動します。
   2. 資源配付のノードツリーを“YYYY”から“XXXX”に変名します(※)。

   【“XXXX”を削除する場合】

   1. プログラムメニューの[Systemwalker Centric Manager]の[資源配付]を実行して、資源配付を起動します。
   2. 資源配付のノードツリーを“YYYY”から“XXXX”に変名します(※)。
   3. 資源配付のノードツリーを“XXXX”から“YYYY”に変名します(※)。
   4. プログラムメニューの[Systemwalker Centric Manager]の[環境設定]-[デスクトップ管理 クライアント設定]を実行して、[デスクトップ管理クライアント動作環境設定]を起動します。
   5. [デスクトップ管理クライアント動作環境設定]の[クライアント環境]タブにある[クライアント名]に“YYYY”を設定します。

   ※インベントリデータベースに情報が反映されるまでには、最大5分の時間間隔があります。

8.1.6 インベントリ情報の表示や検索に失敗することがある

エラーメッセージ（ダイアログボックス）

```
UX:FJSVsivmg: ERROR: 4002: インベントリ管理マネージャの処理中に異常が発生しました[ライブラリ]. ( nnn.nnn.nnn.nnn , sys=netdir_getbyaddr, errno=n2a: 不明なエラーです。#-x , detail=0004-01170000 )
```

対象バージョンレベル

- 5.2～10.1

原因

運用管理サーバで名前解決されていない運用管理クライアントを使って運用管理サーバに接続した場合、インベントリ情報の表示や検索に失敗する場合があります。

確認ポイント

運用管理サーバにおいて、接続する運用管理クライアントの名前解決ができますか。

対処方法

運用管理サーバにおいて、接続する運用管理クライアントの名前解決ができるように、DNSサーバの設定やhostsファイルの定義を行ってください。

8.1.7 “実行可能ファイル名”が異なる場合、同じ“製品名”であっても別の製品として情報収集される

“実行可能ファイル名”(実際はレジストリキー名)が異なる場合、同じ“製品名”であっても別の製品として情報収集されることがあります。

例

製品名が"McAfee VirusScan"が2つ存在し、実行可能ファイル名の以下の下線部分が異なっている。

```
”HKEY_LOCAL_MACHINE¥SoftWare¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥
Uninstall¥{3293F6DE-DFF8-42B2-AA75-A9B96F116142}”
          ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
```

```
”HKEY_LOCAL_MACHINE¥SoftWare¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥
Uninstall¥{CD2058CE-4C12-47AD-BC67-F02CA438FB52}”
          ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

レジストリ情報に何らかの理由で同一ソフト(DisplayName)に対し複数の“実行可能ファイル名”が存在していませんか。

対処方法

該当するクライアントのコンピュータで、[アプリケーションの追加と削除]を確認してください。

備考

Systemwalkerの仕様は以下の通りです。

1. クライアントのインベントリ通知時刻が経過すると資源配付機能からインベントリ機能へインベントリ収集を依頼します。
2. インベントリ機能側でインベントリ情報のソフトウェア情報を収集します。

   インベントリ情報のソフトウェア情報は、[アプリケーションの追加と削除]と同様に、以下のレジストリに登録された情報を参照して、情報を収集しています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SoftWare
    ¥Microsoft
      ¥Windows
        ¥CurrentVersion
          ¥Uninstall
```

“実行可能ファイル名”(実際はレジストリキー名)が異なる場合、同じ“製品名”であっても、別の製品と認識して情報収集する仕様です。

3. 資源配付側でインベントリ機能側から貰ったソフトウェア情報と、前回通知したソフトウェア情報があれば差分を採取して、差分レコードを生成します。
4. 差分レコードをソフトウェア情報として、接続先サーバへ通知します。

8.1.8 クライアントのコンピュータにおいて、一般ユーザでログオンし、インベントリ情報表示で更新ボタンを押すと、インベントリ情報の表示に失敗する

クライアントのコンピュータにおいて、一般ユーザでログオンし、インベントリ情報表示で更新ボタンを押すと、以下のメッセージダイアログが出力され、インベントリ情報の表示に失敗することがあります。

エラーメッセージ

```
インベントリ情報収集の実行中にエラーが発生しました。詳細コード3
資源配付機能が動作していない可能性があります。
資源配付機能の動作環境を確認後、再実行してください。
```

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降

確認ポイント

クライアントのコンピュータのOSがWindows XPではないですか。

Windows XPでは、Windows 2000以前のバージョンに比べてディレクトリ/ファイルに関するアクセス権限が強化・変更されています。そのため、Administratorとしてインストール時に設定を行った際に作成されるDRMS管理ファイルおよび設定ファイルのアクセス権が、一般ユーザでは書き込み禁止属性となります。
したがって、インベントリ情報更新により、インベントリ情報収集を実施する際に、DRMS管理ファイル内のファイルに書き込みアクセスに失敗し、異常終了となってしまいます。

対処方法

資源配付のDRMS管理ファイル、設定ファイルのアクセス権を、ログオンするユーザのアクセス権に変更することで回避可能です。

備考

Windows XPで一般ユーザでログオンした場合、資源配付を使用する場合に影響のある機能は以下の機能です。

- インベントリ情報表示
- 資源配付クライアントの各機能(環境設定、ダウンロード、アップロード、適用、適用結果通知、インベントリ通知)

すでに展開済の多数のWindows XPのコンピュータに対して、DRMS管理ファイルおよび設定ファイルの権限変更を、以下の手順でリモートで実施することが可能です。権限を変更するバッチファイルを配付しログオン時に実行するようタスク登録する手順を示します。

1. pc#bin資源として以下の2つの資源および後バッチを登録します。

   pc#bin資源：“権限変更バッチ”、“入力ファイル”

後バッチ：“権限変更バッチをタスク登録するバッチ”

【権限変更バッチ例】

※c:¥drms : 資源配付クライアントのDRMS管理ファイルを示しています。

※C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmscl : 資源配付クライアントの資源配付のインストールディレクトリを示しています。

```
rem drmsmng Dacl chg
rem
rem 権限の変更
rem 対象ファイル：c:¥drms
rem 設定する権限：usersグループ     フルコントロール
rem               systemアカウント  フルコントロール
rem
cacls c:¥drms /t /g Users:f system:f < c:¥y.txt
rem 権限の変更
rem 対象ファイル：C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmscl
rem 設定する権限：usersグループ     フルコントロール
rem               systemアカウント  フルコントロール
rem
cacls C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmscl /t /g Users:f system:f < c:¥y.txt
```

【入力ファイル例:y.txt】

```
y
```

【権限変更バッチをタスク登録するバッチ例】

```
rem タスクの登録
rem タスク名：”drmsmng chg”
rem 実行ファイル名：c:¥drmsmng_chg
rem 実行契機：ログイン時
rem 実行時の権限：systemアカウント
rem
schtasks /create /tn ”drmsmng chg” /tr c:¥drmsmng_chg.bat /sc onlogon /ru ”system”
rem
rem 資源配付の結果通知
rem
drmscmp -a script -c 0
```

2. 強制配付機能を使用して“1.”で登録した資源をクライアントに配付します。
3. クライアントで資源が適用されると“権限変更バッチ”がログオン時のタスクとして登録されます。
4. クライアントにログオンを行うと資源配付のインストールディレクトリとDRMS管理ファイルの権限が変更されます。

8.1.9 インベントリ情報表示画面で表示される製品名が、途中で切れてしまう場合がある

[アプリケーションの追加と削除]（Windows XP以降は[プログラムの追加と削除]）に表示されるソフトウェアと、[インベントリ情報]の[レジストリ検索結果]に表示される製品名が一致しない場合があります。

対象バージョンレベル

- V4.0L10以降（Windows版）

  運用管理サーバ/運用管理クライアント/部門管理サーバ/業務サーバ/クライアント

- 5.2以降（Solaris版）

  運用管理クライアント/クライアント

- V11.0L10以降（Linux版）

  運用管理クライアント/クライアント

- V12.0L10以降（Linux for Itanium版）

  運用管理クライアント/クライアント

原因

インベントリ情報表示画面では製品名を最大64バイトまでしか表示できないためです。

確認ポイント

インベントリ情報表示画面で、[レジストリ検索結果]の[製品名]に、[アプリケーションの追加と削除]（Windows XP以降では[プログラムの追加と削除]）に表示されている製品名が登録されているか確認してください。

対処方法

製品名が正しく表示されていない製品をソフトウェア辞書に登録し、管理対象のコンピュータに配付した上で、インベントリ情報収集することで、規定した製品名を収集することができるようになります。
ソフトウェア辞書に登録する製品名は64バイト以下で登録してください。

8.1.10 インベントリ情報表示画面で表示される製品名が重複している場合がある。または[アプリケーションの追加と削除]に表示されているソフトウェア名がインベントリ情報表示画面に表示されない場合がある

[アプリケーションの追加と削除]（Windows XP以降は[プログラムの追加と削除]）に表示されるソフトウェアと[インベントリ情報]の[レジストリ検索結果]に表示される製品名が一致しない場合があります。

対象バージョンレベル

- V5.0L20以降（Windows版）

  運用管理サーバ/運用管理クライアント/部門管理サーバ/業務サーバ/クライアント

- 5.2以降（Solaris版）

  運用管理クライアント/クライアント

- V11.0L10以降（Linux版）

  運用管理クライアント/クライアント

- V12.0L10以降（Linux for Itanium版）

  運用管理クライアント/クライアント

原因

以下のレジストリキーのサブキー配下に“DisplayName”と“UninstallString”の値が存在した場合に、“DisplayName”を製品名として収集しています。
Windowsインストーラを使用した製品の場合、以下のレジストリキー以外のレジストリでインストール情報を管理しており、“DisplayName”または“UninstallString”を登録しない、または、同一製品で複数登録する場合があるため、製品名が表示されない、または、製品名が重複して表示されてしまうことがあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE
  ¥Microsoft
    ¥Windows
      ¥CurrentVersion
        ¥Uninstall
```

確認ポイント

インベントリ情報表示画面で、[レジストリ検索結果]の[製品名]に、[アプリケーションの追加と削除]（Windows XP以降では[プログラムの追加と削除]）に表示されている製品名が登録されているか確認してください。

対処方法

製品名が表示されていない製品をソフトウェア辞書に登録し、管理対象のコンピュータに配付した上で、インベントリ情報収集することで、規定した製品名を収集することができるようになります。
なお、同じ名前で重複して表示される製品名については、どちらか一方だけを表示させる方法はありません。

8.1.11 インベントリ情報の表示や検索ができない

エラーメッセージ

```
UX:FJSVsivmg: ERROR: 4002: インベントリ管理マネージャの処理中に異常が発生しました[ライブラリ].
( , sys=execute , errno=無効または不完全なマルチバイトまたはワイド文字です , detail=xxxxxxxx-xxxxxxxx )
```

対象バージョンレベル

- Linux版 Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降
- Linux for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V12.0L10以降

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウに表示されているサーバ名やクライアント名の文字列内に、アルファベットや数字、日本語文字以外の文字が含まれていませんか。

対処方法

アルファベットや数字、日本語文字以外の文字を含めないように、[資源配付]ウィンドウに表示されているサーバ名やクライアント名を変名してください。
変名した後、環境を復旧するために、運用管理サーバにおいてroot権限で以下を実行してください。

```
# /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FD
# rm -f /var/opt/FJSVsivmg/sivmg/RECV/*
# drmscsv -a dbimp
# /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

8.1.12 [ソフトウェア辞書エディタ]画面で応答なしとなる

対象バージョンレベル

- Windows版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Solaris版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Linux版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Linux for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降

原因

[ソフトウェア辞書エディタ]画面において、情報を編集し、保存する前にSystemwalker コンソールを終了すると、「応答なし」となる場合があります。

確認ポイント

[ソフトウェア辞書エディタ]画面において検索情報を編集中にSystemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

「応答なし」になった場合でも時間がたてば終了します。ただし、時間を要することが考えられますので、すぐに終了させたい場合は、タスクマネージャから該当のタスクを終了させてください。
なお、この問題を発生させないためには、Systemwalker コンソールを終了する場合、[ソフトウェア辞書エディタ]画面が動作中の際は画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

8.1.13 インベントリ管理機能の画面でアプリケーションエラーが発生する

対象バージョンレベル

- Windows版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Solaris版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Linux版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降
- Linux for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降

原因

Systemwalker コンソールを終了させると、Systemwalker コンソールの終了に合わせて、Systemwalker コンソールから起動されたインベントリ管理機能の画面も終了します。

インベントリ管理機能の画面において、処理の実施中にSystemwalker コンソールを終了すると、アプリケーションエラーが発生する場合があります。

確認ポイント

インベントリ管理機能の画面が動作中にSystemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

アプリケーションエラーが発生した場合、対処は必要ありませんので操作を続行してください。
なお、この問題を発生させないためには、Systemwalker コンソールを終了する場合、インベントリ管理機能の画面が動作中の際は画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

備考

「対処方法」にあるインベントリ管理機能の画面は、下記の画面を示します。

- インベントリ情報
- インベントリ情報で検索
- ソフトウェア辞書エディタ
  (Systemwalker コンソールの「操作」メニューから「資源配付」を起動し、その「ツール」メニューから起動時)

8.1.14 運用管理サーバのインベントリ情報が表示されない

エラーメッセージ

選択されたノードがインベントリデータベースに登録されていないため、インベントリ情報が表示できません。なお、運用管理サーバ自身に対してのオンデマンドによるインベントリ情報収集は対応していないため、インベントリ情報収集を実施後、再度実行してください。

対象バージョンレベル

- Windows版：V5.0L10以降
- Solaris版：5.0以降
- Linux版：10.0L20以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバのノード変数設定ファイル（wsagent.ini）で自身のインベントリ情報の収集を行う設定になっていますか。

原因

運用管理サーバはデフォルト状態ではインベントリ情報を収集しません。ノード変数設定ファイル（wsagent.ini）にInventoryUpdateScheduleオプションを追加指定する必要があります。

対処方法

ノード変数設定ファイル（wsagent.ini）にInventoryUpdateScheduleオプションを追加指定し、指定したスケジュールを経過するまでお待ちください。

または、サーバインベントリ情報の収集/通知コマンド（drmscmp -a inv）を実行し、インベントリDBに反映されるまでお待ちください。

備考

サーバインベントリ情報の収集/通知コマンド（drmscmp -a inv）が使用可能なV/Lは以下となります。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降

対処2

確認ポイント

DRMS編集ファイルにdbimportオプションを省略しているか、または、“dbimport = NO”を指定していませんか。

原因

DRMS編集ファイルに“dbimport = NO”を指定している場合、インベントリ情報はインベントリDBに出力されません。

対処方法

資源配付を停止し、DRMS編集ファイルの“dbimport = NO”を削除または“dbimport = YES”に変更後、資源配付サービスを再起動してください。

8.1.15 インベントリ情報の表示を行うと、数値項目の値が-1となる場合がある

対象バージョンレベル

- Centric Manager
  - Windows版: V5.0L10 以降
  - Windows for Itanium版: V13.2.0 以降
  - Windows(x64)版: V13.4.0 以降
  - Solaris版: 5.2 以降
  - Linux版: V11.0L10 以降
  - Linux for Itanium版: V12.0L10 以降
  - Linux(x64)版: V13.4.0 以降

確認ポイント

インベントリ情報の収集中、収集対象ノードが高負荷状態でしたか？

原因

収集対象ノードが高負荷状態の場合、インベントリ情報の収集処理に失敗する場合があります。

その場合、インベントリ情報の表示では、収集に失敗した数値項目の値が「-1」と表示されます。

数値項目のインベントリ情報は、以下を指します。

- 基本情報

  クロック数、CPU数、メモリサイズ、スワップファイルサイズ、マウスボタン数、一次キャッシュ、二次キャッシュ
- ディスプレイ情報

  ビデオメモリサイズ、画面リフレッシュレート
- ドライブ情報

  容量、空き容量
- ディスク情報

  ディスク容量
- メモリ情報

  サイズ
- ファイルシステム情報

  容量、空き容量

対処方法

インベントリ情報の収集対象ノードの負荷を下げてから、再度インベントリ情報の収集を実施してください。

8.2 収集できないインベントリ項目に関するトラブル

8.2.1 システム構成のクライアントプロパティで、[適用対象の資源]ページが、表示されるクライアントと表示されないクライアントがある

対象バージョンレベル

- V5.0L30以降

確認ポイント

表示されないクライアント側の設定をセットアップ機能で、インベントリ情報収集（「適用対象の資源情報の収集」の指定あり）となっていますか（デフォルトは、収集されない設定）。

対処方法

クライアントで[適用対象の資源情報の収集]を設定してください。設定方法を以下に示します。

- [資源配付]ウィンドウで設定する場合

  クライアントポリシーのダウンロード・適用設定で[適用対象の資源情報の収集]に[YES]を指定する
- [資源配付クライアント]ダイアログボックスで設定する場合

  1. [実行環境]タブを選択します。
  2. [その他 環境設定]ボタンをクリックします。

     →[その他 環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
  3. [適用対象の資源情報を収集する]チェックボックスを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

備考

機能

クライアントで[適用対象の資源情報の収集]を設定すると以下の情報がインベントリ情報として収集されます。

- 個別メンテナンス版数名定義
- 業務名定義

この情報をクライアントプロパティの[適用対象の資源]ページに表示します。

表示契機

クライアントで[適用対象の資源情報の収集]を設定し、インベントリ情報があがっていれば、クライアントプロパティの[適用対象の資源]ページに表示されます。

8.3 インベントリ情報の収集/通知に関するトラブル

8.3.1 クライアントからインベントリ情報が通知されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

インベントリ情報の収集は、ネットワーク負荷を押さえるために、常に差分情報を通知しています。インベントリの差分がない場合は、インベントリ情報がサーバに反映されません。

確認ポイント

以下の条件を満たす場合、クライアントからのインベントリ情報は通知されません。

- サーバで、該当クライアントのインベントリ定義を削除した
- クライアントは、過去にインベントリを収集したことがある

対処方法

以下のどちらかの方法を実施してください。

- クライアントのDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）のPKGディレクトリ配下のinvproc.rstファイルを削除してください。

  本対処で、ベース情報（インベントリ情報すべて）が通知されます。

- クライアントのDRMS管理ファイルのPKGディレクトリ配下のwsagent.iniファイルの[Variables]セクションに、以下の行を追加します。

  ```
  InventoryUpdateDisk=0
  ```

  本パラメタを常に指定すると、毎回ハード情報が通知されます。ネットワーク負荷が高いため、一時的な使用をおすすめします。

注意事項

InvProc.rstファイルを削除することで、インベントリ情報の差分通知ではなく、ベース情報通知処理が行われます。
この作業により運用管理サーバのインベントリ情報の中身をリフレッシュすることができますが、通常では、実施しないようにしてください。緊急時のリカバリ手段の一手法として提示しています。

対処2

確認ポイント

- 簡易インベントリ収集時
- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版:V13.2.0

原因

接続サーバが存在しないまたは無効なホスト名/IPアドレスが設定されている場合に発生します。

対処方法

クライアント上で、以下の手順で[接続サーバ]に正しい値を設定してください。

1. [スタート]ボタンから、[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]を選択します。

   →[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。

2. [サーバ環境]タブを選択します。
3. [接続サーバ]の[ホスト名またはIPアドレス]テキストボックスに、適切なホスト名またはIPアドレスを指定してください。

8.3.2 部門管理/業務サーバから、運用管理サーバへインベントリ情報が通知されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

インベントリ情報の収集は、ネットワーク負荷を押さえるために、常に差分情報を通知しています。インベントリの差分がない場合は、インベントリ情報がサーバに反映されません。

対処方法

インベントリ情報を再通知する必要がある場合は、以下のファイルを削除することで、部門管理/業務サーバ上にあるインベントリ情報のベース情報が新規に通知されます。

```
資源配付インストールディレクトリ¥etc¥InvProc.rst
```

注意事項

InvProc.rstファイルを削除すると、インベントリ情報が未通知状態になります。このため、次回のインベントリ情報収集時に初回の収集という位置付けとなり、すべてのインベントリ情報を通知します。

8.3.3 Solarisのインベントリ情報が収集されない

対象バージョンレベル

- 5.2以降

確認ポイント

/etc/hostsでホスト名およびIPアドレスの定義方法によっては、正しく取得できない場合があります。

インベントリ収集後、インベントリ情報表示画面に以下の情報が表示されていますか

- IPアドレス
- MACアドレス

対処方法

表示されない場合は、どちらかの対処を実施してください。

- 集約修正（10.0の場合：T0018S-01以降、10.1の場合：T0019S-01以降）を適用してください。
- 以下のコマンドを実行し、出力した結果が“Hostname: AAA”の場合/etc/hostsファイルを例のように編集してください。

```
showrev | grep hostname
```

例

ー [修正前]

```
aaa.bbb.ccc.ddd AAA.xxx.yyy.zzz AAA loghost
```

ー [修正後]

```
aaa.bbb.ccc.ddd AAA AAA.xxx.yyy.zzz loghost
```

```
aaa.bbb.ccc.ddd：IPアドレス名
AAA             ：ホスト名
AAA.xxx.yyy.zzz：DNS名
```

8.3.4 インベントリ情報収集をすると、代表インタフェースが変更される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

DNSサーバやhostsファイルなどで定義しているホスト名またはIPアドレスが重複している場合に発生します。

対処方法

以下のどれかに当てはまる場合は、ネットワーク環境を見直してください。

- ローカルのhostsファイルにIPアドレスと一致しないホスト名が設定されている。
- DNSサーバにIPアドレスと一致しないホスト名が登録されている。
- ローカルのDNS設定のホスト名に一致しないホスト名が登録されている。（Windows 2000以降除く）。
- システム監視エージェントAPIで獲得したホスト名が異なっている。
- コンピュータ名がホスト名と異なっている。

対処2

原因

複数のインタフェースを実装している場合、各インタフェースのIPアドレスがそれぞれ一意なホスト名で名前解決できるようになっていない場合に発生します。

対処方法

- 使用しない(非活性)インタフェースに対しては、必ず一度リンクUPさせて、IPアドレスやサブネットマスクなどの情報がないことを確認してから、無効化させてください。
- 複数のインタフェースを使用する場合(複数のIPアドレスを使用する場合)は、各IPアドレスに対して名前解決ができるように、hostsファイルを定義してください。

8.3.5 運用管理サーバで、CPU使用率が高い状態が続く

対象バージョンレベル

- Windows版 Systemwalker Centric Manager V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.2.0

対処1

確認ポイント

簡易インベントリ収集機能と資源配付を利用したインベントリ収集機能の両方を使用していませんか。
それぞれ以下の方法で使用しているか確認できます。

- 簡易インベントリ収集機能
  1. クライアント上で、[スタート]ボタンから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]を選択します。

     →[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
  2. [クライアント環境]タブを選択します。
  3. [機能の実行]の[簡易資源配付]チェックボックス、または[インベントリ情報収集]チェックボックスがチェック されている場合は、簡易インベントリ収集機能を使用しています。
- 資源配付を利用したインベントリ収集機能

  運用管理サーバで、DRMS編集ファイルのdbimportオプションが“yes”となってる場合は、資源配付を利用したインベントリ収集機能を使用しています。

対処方法

簡易インベントリ収集機能か資源配付を利用したインベントリ収集機能のどちらか一方の機能を使用しない設定をします。
それぞれの機能を使用停止する手順を以下に示します。

- 簡易インベントリ収集機能

  運用管理サーバで、以下の手順を実施します。
  1. Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[簡易資源配付]を選択します。

     →[デスクトップ管理 動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
  2. [クライアント動作環境の設定]ボタンをクリックします。

     →[クライアント動作環境の設定]ダイアログボックスが表示されます。
  3. [クライアント環境]タブを選択します。
  4. [機能の実行]の[簡易資源配付]チェックボックス、および[インベントリ情報収集]チェックボックスのチェックを外します。
  5. [OK]ボタンをクリックした後、ポリシーを配付してください。
- 資源配付を利用したインベントリ収集機能

  運用管理サーバで、DRMS編集ファイルのdbimportオプションを“no”に変更してください。

対処2

原因

各クライアントにおいて、簡易インベントリ収集機能を利用したインベントリ収集を実行する設定になっている場合、複数のクライアントが同時にログオンすると、運用管理サーバに対して同時にアクセスされてタイムアウトが発生する可能性があります。

対処方法

運用管理サーバおよびクライアントにおいて、以下の対処を実施してください。

- 運用管理サーバ
  1. [デスクトップ管理 サーバ動作環境設定]ダイアログボックスを起動します。
  2. [クライアント通信環境の設定]ボタンをクリックします。
  3. 以下の項目の値を設定します。

     [同時接続数] 5台
- クライアント
  1. [デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]ダイアログボックスを起動します。
  2. [クライアント環境]タブを選択し、以下の項目の値を設定します。

     [サーバ応答待ち時間] 300 秒
     [リトライ回数] 999 回
     [リトライ間隔] 10 秒

詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編”を参照してください。

8.3.6 資源配付クライアントで、プロセス（schdrms.exe）のCPU使用率が100%になる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付スタートアップ拡張機能から実行されるschdrms.exeが、資源配付クライアントのDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）へアクセスできますか。

対処方法

schdrms.exeがDRMS管理ファイルにアクセスできないと、正常動作しません。

スタートアップを実行するログインユーザのアカウントでDRMS管理ファイルにアクセスできることを確認してください。クライアントを操作するときに使用するアカウントに、DRMS管理ファイルにアクセスできる権限を与えてください。

8.3.7 クライアントのインベントリ収集時間になっても、インベントリ情報が通知されない、または遅れて通知される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

クライアントからインベントリ情報を通知するときは、複数クライアントからサーバへの集中通知によるネットワークの高負荷を軽減させるために、通知時間に幅をもたせています。デフォルト値は、30分です。

対処方法

インベントリ情報を通知する許容範囲の時間を以下の方法で変更してください。

1. ノード変数設定ファイルをエディタで開きます。
   - サーバの場合

     ```
     Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥etc¥wsagent.ini
     ```

   - クライアントの場合

     ```
     DRMS管理ファイル格納ディレクトリ¥schedul¥¥schedul.ini
     ```

2. 以下の値を変更します。

   "InventoryUpdateAllowance"の値は、分単位で1～180を指定します。

   ```
   %[InventoryUpdateAllowance]=値
   ```

対処2

原因

収集時刻にクライアント端末の電源がOFFされていると、そのクライアントのインベントリ情報は通知されません。

対処方法

収集時刻にクライアント端末の電源がONでlogonされている状態を確保してください。

8.3.8 運用管理サーバにあるハード情報収集ファイル（hard_base.csv）に、同一日付/同一時間で同じクライアントの情報がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

以下のすべての条件を満たす場合に発生します。

- 運用管理サーバにインベントリ情報を通知する
- 2回目以降のインベントリ収集である
- 前回との差分（追加だけ）を通知する
- 1回目の差分通知が無通信タイムアウトとなる
- リトライ処理が指定してある
- リトライ処理で正常終了する

運用管理サーバでインベントリ情報のマージ処理中に通知元がタイムアウトとなるため、部門管理/業務サーバ/クライアントは、インベントリ通知失敗と判断し、同一データをリトライ処理時に再度送信します。

しかし、運用管理サーバ側はマージ処理を継続しており、リトライ時点で反映完了している場合があります。このため、運用管理サーバは、部門管理/業務サーバ/クライアントから、リトライ処理で通知されるインベントリ情報を新しいデータとして処理します。

この結果、同一の差分レコードを2回処理したため、レコードの重複が発生します。

対処方法

部門管理/業務サーバから再度ベースのハード情報を上げる必要があります。

該当の部門管理/業務サーバで、以下のファイルを削除してください。

```
資源配付インストールディレクトリ¥etc¥InvProc.rst
```

なお、この現象が多発する場合、運用管理サーバのインベントリ通知の情報書き込み処理に時間がかかっている可能性があります。

部門管理/業務サーバのDRMS編集ファイルのnotify_allowanceオプションを変更して、運用管理サーバへの通知負荷軽減を実施してください。

8.3.9 新しい通知先のサーバで、インベントリ情報の確認をすることができない

エラーメッセージ（ダイアログボックス）

```
インベントリ情報がありません
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

インベントリの通知先サーバを変更する作業を実施しましたか。

対処方法

インベントリの通知先サーバを変更する作業を実施し、InvProc.rstファイルを削除してください。
インベントリの通知先サーバの変更方法については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編”のインベントリ情報の収集方法の説明を参照してください。

対処2

原因

インベントリ情報がまったく通知されていない状況か、通知されているが運用管理サーバ上で、予期していたシステム定義情報とは違ったノードに通知されている可能性があります。

確認ポイント

DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）のinvstsディレクトリ配下のCSVファイルが更新されていますか。

対処方法

インベントリ情報の受信側サーバで、以下の手順で対処してください。

1. CSVファイルが更新されている場合は、以下のコマンドを実行し、インベントリCSVファイルを外部ファイルに出力します。

```
drmscsv -a merge
```

2. 外部ファイルの内容をExcelなどで、確認してください。
   - インベントリ情報が存在していない場合は、通知元の定義ミスがないか確認してください。
   - インベントリ情報が存在している場合は、運用管理サーバ上のシステム定義に定義ミスがないか確認してください。
     - 正しい場合は、再度その定義情報についてインベントリを確認してください。
     - 正しくない場合は、システム定義を変更し、正しい名前にしてから、[資源配付]ウィンドウで参照してください。

8.3.10 インベントリ収集すると、CMINFOUT.invファイルが異常に増加する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降
- V11.0L10以降 (Linux版)

原因

CMINFOUT.invファイルは、インベントリ情報の収集結果を出力する資源配付とのインターフェースファイルです。
テキスト情報にCMINFOUT.invファイルを指定した場合、CMINFOUT.invファイルを読込み、その内容を再びCMINFOUT.invファイルに書込むことになります。
このように、読込みと書込みを際限なく繰り返すため、ファイルサイズが異常に増加します。

確認ポイント

資源配付において、インベントリ情報として収集するテキスト情報に CMINFOUT.inv を指定していませんか

対処方法

資源配付において、インベントリ情報として収集するテキスト情報から CMINFOUT.inv を削除してください。

8.3.11 インベントリ情報収集をすると、フレームワークのデータベースに情報が登録されない

エラーメッセージ

4008: フレームワークAPI でエラーが発生しました。 (function=MpFwcm_MpCm_AddNode(), ErrorNo=30009101, Message=同一のホスト名、またはIPアドレスのノードは既に登録されています。
4010:登録しようとした情報(HostName=xxxx, IPAddress=yyyy)と、フレームワークのデータベースに登録されている情報との間に矛盾があったため、登録しませんでした。

対象バージョンレベル

- 5.0以降
- V11.0L10以降 (Linux版)

原因

フレームワークのデータベースに登録されているホスト名およびIPアドレスと、インベントリ情報収集されたホスト名およびIPアドレスに矛盾がある場合、フレームワークのデータベースに情報が登録されません。例を以下に示します。

- 例

  a. フレームワークデータベースに登録されているノード情報のホスト名およびIPアドレス

     - <ノードA>

       ホスト名：AAA、IPアドレス：yyy.yyy.yyy.yyy

     - <ノードB>

       ホスト名：BBB、IPアドレス：xxx.xxx.xxx.xxx

  b. ノードAにてインベントリ情報収集されたホスト名およびIPアドレス

     ホスト名：AAA、IPアドレス：xxx.xxx.xxx.xxx

対処方法

以下の手順を実施します。

1. 以下のどれかに該当する場合は、ネットワーク環境を見直します。
   - ローカルのhostsファイルにIPアドレスと一致しないホスト名が設定されている。
   - DNSサーバにIPアドレスと一致しないホスト名が登録されている。
   - ローカルのDNS設定のホスト名に一致しないホスト名が登録されている。（Windows 2000以降を除く）。
   - システム監視エージェントAPIで獲得したホスト名が異なっている。
   - コンピュータ名がホスト名と異なっている。
2. Systemwalkerコンソールから矛盾のあるノードを削除し、再度インベントリ情報収集を実施します。

8.3.12 クライアントからのインベントリ情報を受信すると、サーバでエラーメッセージが出力されてインベントリ情報が反映されない

クライアントからのインベントリ情報を受信すると、以下のエラーメッセージが出力されてインベントリ情報が反映されないことがあります。

エラーメッセージ

```
イベントID:840
メッセージ:クライアントからの受信処理でエラーが発生しました．システム名(クライアント名)，エラーコード(EEXIST)，詳細情報１(),詳細情報２().
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

サーバ側でインベントリを処理するinvdrmsプロセスが正常に起動できない状態になっていることが考えられます。
アップデートパック(Uxxx)(または緊急修正・応急修正)の適用ミスにより、モジュール間の整合性が合っていない可能性があります。

対処方法

Systemwalkerを再インストールして、正しい環境にしてください。

備考

事例

SystemWalker/CentricMGR V5.0L20の環境でU002を適用した後、U004を適用すると本現象が発生した。原因はU002の適用後、U002で対処されているプログラム自身のモジュール日付が書き変わっており、U004を適用した際に、モジュール日付が新しいため、モジュールの置き換えが行われずに不整合が発生した。

8.3.13 リモートデスクトップ接続のコンソールセッションに接続したユーザがいると、アプリケーション検出機能やインベントリ収集機能が使用できない

Windows Server 2003およびWindows XP Professionalで提供されているリモートデスクトップ接続機能において、コンソールセッションに接続したユーザがいると、以下の機能が使用できません。

- アプリケーション管理機能のアプリケーション検出機能
- 資源配付機能によるインベントリ収集機能

対象バージョンレベル

アプリケーション管理機能のアプリケーション検出機能

- Windows版:V10.0L10～V12.0L11

  部門管理サーバ/業務サーバ/運用管理クライアント/クライアント

資源配付機能によるインベントリ収集機能

- Windows版:V10.0L10～V12.0L11

  部門管理サーバ/業務サーバ/運用管理クライアント/クライアント
- Solaris版:10.0～12.1

  運用管理クライアント/クライアント
- Linux版:V11.0L10～V12.0L10

  運用管理クライアント/クライアント
- Linux for Itanium版:V12.0L10

  運用管理クライアント/クライアント

原因

インベントリ情報収集機能において、コンソールからの起動であるにもかかわらず、ターミナルクライアントからの起動と判断して処理を抑止しているため、インベントリ情報収集機能を使用している各機能が使用できなくなります。

確認ポイント

収集対象のシステムにリモートデスクトップ接続でコンソールセッションに接続したユーザがいるかどうかを確認してください。
Windows Server 2003 では、[管理ツール]-[ターミナルサービスマネージャ]の[セッション]タブの[ID]が0の[セッション]が“Console”以外の場合にコンソールセッションに接続していると判断できます。

対処方法

アプリケーション検出は、リモートデスクトップ接続のコンソールセッションに接続しているユーザがいないことを確認した上で実施してください。
インベントリ収集は、次回のスケジュール時にリモートデスクトップ接続でコンソールセッションに接続しないようにしてください。

8.3.14 サーバからポリシー資源で、クライアントのインベントリ収集時間の設定／変更するポリシー資源を配付すると、資源配付クライアントのスケジュール機能がエラーメッセージを出力して異常終了する

エラーメッセージ

無題ファイルへのアクセス中に不明なエラーが発生しました

対象バージョンレベル

- V4.0L10 以降

原因

クライアントのスケジュール通知処理(schdrms)では、インベントリ収集／通知スケジュールの定義情報(schdule.ini)を1分間隔で監視しています。
また、ポリシー資源によるインベントリ収集時間の設定／変更処理で、drmsdfnコマンドを内部で実行していますが、このdrmsdfnコマンド実行タイミングとschedule.iniファイルの監視タイミングがバッティングした場合、スケジュール機能が異常終了します。

確認ポイント

タスクバーに、双眼鏡アイコンが存在していますか。

対処方法

資源配付クライアントをログオンし直してください。
または、スケジュール機能（[資源配付クライアントのインストールディレクトリ]¥schdrms.exe）をダブルクリックで再起動してください。

8.3.15 インベントリ情報収集をすると、インベントリデータベースに情報が登録されない

エラーメッセージ

```
UX:FJSVsivmg: ERROR: 5002: インベントリデータベースへのアクセス処理中に異常
が発生しました．xxxxxxxx , detail=xxxx-xxxxxxxx )
```

対象バージョンレベル

- Solaris版:5.2以降
- Linux版:V11.0L10～V12.0L10
- Linux for Itanium版:V12.0L10

原因

以下の操作を行う際は、コンソールの環境変数LANGと、システムロケール(LANG)は同一である必要があります。

- インベントリデータベースを構築する場合
- インベントリ管理機能(インベントリ収集、インベントリ情報表示、インベントリ検索)を使用する場合
- インベントリデータベースを削除する場合

インベントリデータベース構築時と、SystemWalker/CentricMGR(Systemwalker Centric Manager)動作時のLANGの値が異なる状態の場合、インベントリ管理デーモンがインベントリデータベースへのアクセスを行った契機でデータベースアクセスエラーを引き起こし動作を停止します。

インベントリ管理デーモンが停止すると、エラーメッセージ「SystemWalker/CentricMGRのプロセス(cmprdmn)が正常に動作しているか確認して下さい」が出力されます（Solaris版 10.1以降およびLinux版、Linux for Itanium版)。

確認ポイント

以下の観点で、LANGの内容が同一であるかを確認します。

1. インベントリデータベースを作成した際のコンソールのLANG環境変数

2. システムロケール (LANG)

コンソールのLANG環境変数は、以下のコマンドで確認できます。

- Solaris/Linux/Linux for Itanium の場合
  - # echo $LANG

システムロケールは、以下のファイル内容を参照し、「LANG」の項を参照することで確認できます。

- Solarisの場合：/etc/default/init
- Linuxの場合：/etc/sysconfig/i18n
- Linux for Itaniumの場合：/etc/sysconfig/i18n

対処方法

以下の操作を行う際は、コンソールのLANG環境変数とシステムロケールを同等に設定してください。

- インベントリデータベースを構築する場合
- インベントリ管理機能(インベントリ収集、インベントリ情報表示、インベントリ検索)を使用する場合
- インベントリデータベースを削除する場合

【LANG環境変数設定例】

- Solaris版の場合

```
# LANG=ja
# export LANG
```

- Linux版/Linux for Itanium版の場合

```
# LANG=ja_JP.eucJP
# export LANG
```

※）システムのロケールは以下のファイル内容を参照し、「LANG」の項を参照することで確認可能です。

- Solaris版の場合： /etc/default/init
- Linux版の場合： /etc/sysconfig/i18n
- Linux版/Linux for Itanium版の場合： /etc/sysconfig/i18n

8.3.16 インベントリデータベースに、インベントリ情報を登録できない

エラーメッセージ

運用管理サーバ側で出力されるメッセージ

```
qdg02869u:DSI'SW_INV_DB.xxxxx_DSI'の'DATA'に対する自動容量拡張に失敗しました
        割付け量='nnn'キロバイト（システム名=CENTRIC）
```

```
qdg02866u:DSI'xxxxx_DSI'の'DATA'に対する自動容量拡張において必要な空き領域を全く確保できませんでした
        割付け量='nnn'キロバイト（システム名=CENTRIC）
```

'xxxxx'：任意の英数字、'nnn'：任意の数字を示しています。

クライアント側で出力されるエラーメッセージ

```
データベースアクセスエラーが発生しました。詳細コード:46696
```

※簡易インベントリ収集を実行した場合のみ出力されるメッセージです。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.2以降
- Linux版:V11.0L10以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10以降

原因

インベントリデータベースの容量が不足しています。

対処方法

インベントリデータベースの容量を拡張してください。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

8.3.17 運用管理サーバのシステムが電源断等で不当に停止した場合、クライアントでWindowsにログオンしたときにエラーメッセージボックスが出力される場合がある

エラーメッセージ

サーバ側で接続がリセットされました。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版:V13.2.0

原因

運用管理サーバのインベントリデータベースの種別が"標準"の場合、電源断等で運用管理サーバが不当に停止すると、インベントリデータベースが破壊される可能性があります。
そのため、クライアントでWindowsにログオンしたときに実行される簡易インベントリ収集ができなくなります。

対処方法

運用管理サーバ上のインベントリデータベースを再作成してください。
再作成の手順は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

8.3.18 インベントリ情報収集が長時間にわたって応答が返ってこない。または、「応答なし」の状態になる

対象バージョンレベル

- Windows版:V4.0L10以降
- Windows for Itanium版:V12.0L11以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:5.2以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10以降

原因

クライアントに設定されている優先 DNS サーバーのアドレスが無効であるか、DNS サーバーに接続できない場合に発生する可能性があります。

確認ポイント

アクセスできないネットワークドライブが存在しませんか。

対処方法

インベントリ情報収集が完了するまでしばらくお待ちください。
その後、ネットワークドライブに正しくアクセスできるようにネットワーク環境を見直してください。または、アクセスできないネットワークドライブを切断してください。

8.3.19 drmspullコマンドによるインベントリ情報収集において運用管理サーバでのCPU負荷が高くなる

drmspullコマンドによるインベントリ情報収集において、drmspullコマンドを複数同時に実行していない場合でも、CMIMPDB.exe および drmsDB.exeが複数動作しておりCPU負荷が高くなる。

原因

複数の部門管理サーバ/業務サーバに対して drmspullコマンドによりインベントリ情報を収集する運用において、drmspullコマンドの実行を間隔を置かずに実施(ある部門管理サーバに対するdrmspullコマンドの実行が完了すると次の部門管理サーバに対してdrmspullコマンドを実行)した場合、CMIMPDB.exe および drmsDB.exe が複数動作する場合があります。

drmspullコマンドで収集されたインベントリ情報は、コマンド終了後にインベントリDBへの書き込みを行なうため、drmspullコマンドを連続して実行するとインベントリDBへの書き込み処理(cmimpdb.exe)が多重に実行される場合があります。

確認ポイント

drmspullコマンドの実行スケジュールが、間隔をおかずに実行されていませんか。

対処方法

drmspullコマンドを連続して実行する場合は、コマンド実行後のインベントリDBへの書き込み時間（通知レコード数がDRMS管理ファイルに反映される時間と通知先でのservnumで待たされる時間）を考慮して、drmspullコマンドの実行間隔を調整してください。

または、DRMS編集ファイルで"dbimport = NO"を指定することで、drmspullコマンド実行後のインベントリDBへの書き込み処理をスキップすることができます。この運用の場合、インベントリ情報を採取する必要があるとき、drmscsvコマンド実行により、インベントリDBへの情報登録を実施してください。

8.3.20 インベントリ収集中に運用管理サーバでのCPU負荷が高い

資源配付運用中に、CMIMPDB.exe および drmsDB.exeの動作により CPU負荷が高くなっており、資源配付の動作に時間を要する。また、CMIMPDB.exe は複数個動作している。

原因

CMIMPDB.exe はインベントリ管理の処理モジュールで、配下サーバからインベントリ情報が通知された際、drmsDB.exeから起動され、インベントリDBに情報を登録する処理を行います。

本現象では、複数の中継サーバからインベントリ情報が同時に通知されたため、インベントリ情報のDBへの登録処理でシステムに負荷がかかっており、そのタイミングで資源の配付操作を行ったために、処理が遅くなっています。

確認ポイント

各中継サーバのスケジュール情報ファイルで設定しているインベントリ情報の通知スケジュールが、集中していませんか。

対処方法

各中継サーバのスケジュール情報ファイルで設定している、インベントリ情報の通知スケジュールを調整することで、インベントリDBへの情報登録の処理（CMIMPDB.exeおよびdrmsDB.exe）を分散してください。

8.3.21 中継サーバ配下のクライアントを別の中継サーバ配下に移動し、元の中継サーバ配下から削除したが、次のインベントリ情報収集時に削除したはずのクライアントが表示されてしまう

原因

運用管理サーバ上に削除したクライアントのインベントリ情報が残っていたために、中継サーバからインベントリ情報を収集したタイミングで運用管理サーバ上にクライアントが再度表示されたと考えられます。

また、中継サーバ配下のクライアント削除後に、運用管理サーバへのクライアント削除情報の通知に失敗した場合も、運用管理サーバ上のクライアントインベントリ情報が残る場合があります。

対処方法

以下の手順で、運用管理サーバ上と中継サーバ上にあるインベントリ情報を削除してください。

1. 運用管理サーバで、DRMS管理ファイル内の以下のディレクトリを削除してください。

   【Winsows版】
   例）c:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmssv¥mng¥invsts¥s_中継サーバ

   【UNIX版】
   例）/opt/FJSVmpsdl/drmsmng/invsts/s_中継サーバ

2. 中継サーバで、DRMS管理ファイル内の以下のディレクトリを削除してください。

   【Windows版】
   例）c:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmssv¥mng¥invsts¥s_OWN

   【UNIX版】
   例）/ opt/FJSVmpsdl/drmsmng/invsts/s_OWN

3. 運用管理サーバ上の[資源配付ウィンドウ]-[対象システムサブウィンドウ]から、中継サーバ配下の不要なクライアントを選択し、削除してください。

備考

インベントリ情報の表示は、インベントリ情報削除後のスケジュール等によるインベントリ情報通知処理以降から可能となります。

8.3.22 cmcnfreg.exe、またはcmprdinv.exeのプロセスが常駐し続けている

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Windows for Itanium版:V13.0.0以降
- Solaris版:5.2以降
- Linux版:5.2以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

- 資源配付機能によるインベントリ収集を実行していませんか。
- 簡易インベントリ収集を実行していませんか。

対処方法

インベントリ情報を収集する際に実行されるプロセスで、インベントリ情報の収集が完了すれば終了しますので、対処は不要です。

8.3.23 Windowsにログオンしたときにエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

データベースアクセスエラーが発生しました。詳細コード：262145

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版:V13.0.0～V13.2.0

対処1

確認ポイント

接続サーバ(運用管理サーバ)のシステム負荷が高い状態ではありませんか。

原因

接続サーバ(運用管理サーバ)のシステム負荷が高いとき、一定時間以内にデータベースからのレスポンスがない場合があるためです。

対処方法

接続サーバ(運用管理サーバ)のシステム負荷を下げてから、再度実施してください。

備考

システムの起動中にも発生する場合があります。

対処2

確認ポイント

[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]ダイアログボックスで定義した接続サーバ名に誤りがありませんか。

原因

接続サーバ名が正しくないため、簡易インベントリ収集に失敗しています。

対処方法

[デスクトップ管理 クライアント動作環境設定]ダイアログボックスの接続サーバ名を正しく設定してください。

8.3.24 インベントリ情報の登録時にイベントログが出力される

エラーメッセージ

4008: フレームワークＡＰＩでエラーが発生しました。(*******:ユーザ名が設定されていません。)

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Windows for Itanium版:V13.0.0以降

原因

運用管理サーバにおいて、通知されてきたインベントリ情報の登録中に、OSのシャットダウン、またはログオフが行われると、発生する場合があります。

確認ポイント

OSのシャットダウン、またはログオフを行いませんでしたか。

対処方法

対処は不要です。
ただし、インベントリ情報が運用管理サーバに通知される時間帯には、運用管理サーバにてOSのシャットダウン、またはログオフを行わないようにしてください。

備考

OSのセキュリティポリシーにて、OSのシャットダウン、またはログオフ相当のポリシーが有効になっている場合も同様に発生します。

8.3.25 インベントリ情報の収集時にイベントログが出力される

エラーメッセージ

```
XXXXX.EXE - DLL 初期化の失敗 : ウィンドウ ステーションがシャットダウン中であるため、アプリケーションが初期化に失敗しました。
※XXXXX.EXEは、以下のプロセスを指す。
CMFLTDM.EXE、CMFLTPTL.EXE、CMPRDINV.EXE、CMDIFINF.EXE
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Windows for Itanium版:V13.0.0以降

原因

インベントリ情報の収集中に、OSのシャットダウン、またはログオフが行われると、発生する場合があります。

確認ポイント

OSのシャットダウン、またはログオフを行いませんでしたか。

対処方法

対処は不要です。
ただし、インベントリ情報を収集する時間帯には、OSのシャットダウン、またはログオフを行わないようにしてください。

備考

OSのセキュリティポリシーにて、OSのシャットダウン、またはログオフ相当のポリシーが有効になっている場合も同様に発生します。

8.3.26 簡易インベントリ収集に失敗する

エラーメッセージ

```
データベースアクセスエラーが発生しました。
詳細コード：262145
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版:V13.0.0～V13.2.0

確認ポイント

インベントリ情報収集側の[デスクトップ管理クライアント動作環境設定]画面で指定した接続サーバ名は、Windows OSの運用管理サーバのホスト名またはIPアドレスになっていますか？

原因

簡易インベントリ収集では、２階層（Windows OSの運用管理サーバ － Windows OSのクライアント）での運用しかできません。

対処方法

インベントリ情報収集側の[デスクトップ管理クライアント動作環境設定]画面で指定した接続サーバ名には、Windows OSの運用管理サーバのホスト名またはIPアドレスを指定してください。

8.3.27 インベントリ情報の通知先サーバのシステムログに、エラーコードがERROR 0の[00202]エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
drmsd: エラー: [00202] 受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（ERROR 0），詳細情報（）．
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V13.2.0以前
- Systemwalker Software Delivery
  - V13.2.0以前

確認ポイント

DRMS編集ファイルに“serv_syscheck = YES”を指定していませんか。

原因

インベントリ情報が通知されましたが、通知元サーバがあて先システムとして定義されていないか、誤ったノード名で定義されているため、未定義のサーバからの情報通知と認識されたことが原因です。

DRMS編集ファイルに“serv_syscheck = YES”を指定している場合、未定義のサーバから情報を受信しても自動定義を行わず、本エラーメッセージを出力します。また、通知元サーバが複数のLAN（IPアドレス）を実装しており、通知元サーバのあて先システム定義のノード名と異なるIPアドレスでインベントリ情報が通知された場合も、本現象が発生します。

対処方法

あて先システムとして定義されていないインベントリ情報の通知元サーバがある場合は、定義してください。あて先システムに漏れがない場合、あて先システム定義のノード名に誤ったホスト名またはIPアドレスを指定していないか、確認してください。

通知元サーバが複数のLAN（IPアドレス）を実装している場合、あて先システム定義のノード名と異なるホスト名またはIPアドレスで通信が行われている場合があります。“部門管理/業務サーバから通知されたインベントリ情報が表示できない”に記載の対処方法を実施して、正しいノード名でインベントリ情報の通知が行われるようにしてください。

8.3.28 オンデマンドのインベントリ情報収集に失敗する

エラーメッセージ

[資源配付]ウィンドウのポップアップ、またはdrmspullコマンドの応答で出力

```
インベントリ情報の収集に失敗しました。
[00220]コマンド実行中にエラーが発生しました。エラーコード(EERR),詳細情報(child process
drmsinv merge error(system name xxx.xxx.xxx.xxx)).
```

イベントログ（アプリケーション）に出力

```
drms: エラー: 202:受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（ENOENT），詳細情報
（Nodename is not defined(xxx.xxx.xxx.xxx)）．
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V13.3.0以降

確認ポイント

インベントリ情報の収集対象サーバで、自システム定義のノード名に、運用管理サーバのIPアドレス、または運用管理サーバで未定義のIPアドレスを設定していませんか。

原因

インベントリ情報の収集対象サーバで、自システム定義のノード名に、誤ったIPアドレス（運用管理サーバのIPアドレス、または運用管理サーバで未定義のIPアドレス）を設定していることが原因です。

資源配付は、上位サーバへの情報通知を行う際、自システム定義のノード名が指定されていれば、そのノード名を上位サーバへ通知します。上位サーバは、受信したノード名であて先システムの定義を検索、一致するあて先システムからの情報として処理します。

インベントリ情報の収集対象サーバで、自システム定義のノード名に誤ったIPアドレスが指定されていた場合、運用管理サーバに一致するあて先システムが定義されていないため、上記エラーを出力して通知されたインベントリ情報を破棄します。

対処方法

インベントリ情報の収集対象サーバで、自システム定義のノード名を正しいノード名に修正してください。その後、運用管理サーバから、再度インベントリ情報の収集を行ってください。

8.3.29 Systemwalkerコンソールから監視ポリシーの配付を行うと、資源配付のあて先サーバとして自動定義されてしまう。または、資源配付の[00202]エラーメッセージがシステムログに出力される

エラーメッセージ

```
drms: エラー: [00202] 受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（EERR），詳細情報
（4,invdrms）．
drms: エラー: [00202] 受信処理でエラーが発生しました．エラーコード（ENOENT），詳細情報
（Nodename is not defined(xxx.xxx.xxx.xxx)）．
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V13.3.0以降

対処1

エラーメッセージは出力されず、監視ポリシーの配付先サーバが、資源配付のあて先システムとして自動定義されてしまう場合の対処です。

確認ポイント

- 監視ポリシーの配付タイミングで自動定義されていますか。
- 当該サーバについて、Systemwalkerコンソール、および[資源配付]ウィンドウの操作で、インベントリ情報が表示できますか。

原因

V13.3.0より、Systemwalkerコンソールから監視ポリシーを配付したタイミングで、対象サーバに対して、インベントリ情報の自動収集を行う仕様になったことが原因です。

Systemwalkerコンソールはノード定義の代表IPに対して、内部でdrmspullコマンドを実行しており、対象サーバをあて先システムとして自動定義し、インベントリ情報を収集します。

対処方法

インベントリ情報の自動収集を行うための動作であり、対処は不要です。

備考

インベントリ情報の自動収集を行わないようにする場合は、以下の対処を実施してください。

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.6.0

  drmspullコマンドをリネームすることで対処します。

  - Windowsの場合

    変更前

    ```
    Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥bin
    ¥drmspull.exe
    ```

    変更後

    ```
    Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥bin
    ¥drmspull_bkp.exe
    ```

  - UNIX系の場合

    変更前

    ```
    /opt/systemwalker/bin/drmspull
    ```

    変更後

    ```
    /opt/systemwalker/bin/drmspull_bkp
    ```

  上記対処を実施した場合、drmspullコマンドは利用できなくなります。また、drmspullコマンドの修正を含む緊急修正の適用時は、事前に上記ファイルを元の名前に戻していただく必要があります。

  詳細は、緊急修正情報ファイル(README)の適用手順を参照してください。

- Systemwalker Centric Manager V13.6.1以降

  Systemwalkerコンソールサービスの定義ファイルに、以下のオプションを追加設定することで対処します。

  - 格納場所

    - Windowsの場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpbcmgui¥server
¥etc¥usr
```

- UNIX(Solaris/Linux)の場合

```
/etc/opt/FJSVfwgui/usr
```

ー ファイル名

```
MpBcmSvrConfig.ini
```

ー ファイル形式

```
[AlarmEventList]
・・・

[Policy]
AUTOGETINVENTRY=OFF
```

対処2

監視ポリシー配付時に、資源配付の[00202]エラーメッセージが、システムログ（Windows系：イベントログ（アプリケーション）、UNIX系：syslog）に出力されてしまう場合の対処です。

確認ポイント

- 監視ポリシーの配付タイミングで発生していますか。
- [00202]エラーメッセージに出力されているノード名(IPアドレスまたはホスト名)は、監視ポリシーを配付した対象サーバのものですか。

原因

V13.3.0より、Systemwalkerコンソールから監視ポリシーを配付したタイミングで、対象サーバに対して、インベントリ情報の自動収集を行う仕様になったことが原因です。

Systemwalkerコンソールのノード定義の代表IPに対して、内部でdrmspullコマンドを実行しますが、対象サーバが複数のLAN（IPアドレス）を実装している場合、代表IPと異なるIPアドレスでインベントリ情報が通知される場合があります。このとき、資源配付は定義されていないサーバからのインベントリ情報通知と判断し、[00202]エラーメッセージを出力して、通知されたインベントリ情報を破棄します。

対処方法

“部門管理/業務サーバから通知されたインベントリ情報が表示できない”に記載の対処方法を実施して、代表IPに指定したIPアドレスでインベントリ情報の通知が行われるようにしてください。

備考

インベントリ情報の自動収集を行わないようにする場合は、対処1の“備考”に記載の対処方法を実施してください。

8.4 インベントリ情報の出力に関するトラブル

8.4.1 ソフトウェア情報出力を実行しようとしても、ソフトウェア情報出力の結果を得ることができない

エラーメッセージ

サーバ側で接続がリセットされました。
WinSockでエラーが発生しました。詳細コード:0

対象バージョンレベル

- V10.0L20～V11.0L10
- 10.1～11.0
- V11.0L10(Linux版)

原因

“ソフトウェア情報出力”プロトコル返信時、バッファオーバーフローとなりサーバ側のプログラムが異常終了したためです。

対処方法

インベントリ検索時の検索条件を見直して検索結果ノード数を絞り込み、サーバ側プログラムがバッファオーバーフローで異常終了しないように調整することで回避可能です。

```
S × N × 512 > 2621436
```

S = ノードが保持する平均ソフトウェア情報数(インベントリ収集の結果収集されたソフトウェア数。レジストリ検索によるソフトウェア情報と、ソフトウェア辞書検索によるソフトウェア情報が挙げられます。)
N = 最大ノード数 (最大ノード数とは、[検索結果一覧]で表示されるノード情報のうち、同一のサーバ名を持つノードの個数をサーバ名ごとにリストアップし、その中で最大の個数のものを指します。)

8.4.2 [検索結果一覧]画面にてレジストリ値収集情報出力を行うと、その出力に失敗する場合がある

エラーメッセージ

```
レジストリ値収集情報の出力に失敗しました。環境を確認後、再度実行してください。
詳細コード: xx
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V13.1.0以降
- Solaris版:V13.1.0以降
- Linux版:V13.1.0以降
- Linux for Itanium版:V13.1.0以降

確認ポイント

[検索結果一覧]画面に表示されているサーバ/クライアントのリスト内に、レジストリ値収集情報を保持していないサーバ/クライアントがありませんか。

対処方法

インベントリ検索の検索条件を見直し、レジストリ値収集情報を保持しているサーバ/クライアントに対して再度実行してください。

8.4.3 [検索結果一覧]画面にてソフトウェア情報出力を行うと、その出力に失敗する場合がある

エラーメッセージ

```
ソフトウェア情報の出力に失敗しました。環境を確認後、再度実行してください。
詳細コード: xx
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V10.0L20以降
- Solaris版:10.1以降
- Linux版:V11.0L10以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

[検索結果一覧]画面に表示されているサーバ/クライアントのリスト内に、ソフトウェア収集情報を保持していないサーバ/クライアントがありませんか。

対処方法

インベントリ検索の検索条件を見直し、ソフトウェア情報を保持しているサーバ/クライアントに対して再度実行してください。

8.5 インベントリ情報のデータベース作成・格納に関するトラブル

8.5.1 インベントリ情報をCSVファイル化したところ、[システム名]フィールドに不要なスペースが入っている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

システム名は、128文字の固定長となっており、値が128文字未満の場合は、文字列の後ろに半角の空白が入ります。空白が不要であれば、出力ファイルで空白を削除してください。

8.5.2 [インベントリ管理環境]ダイアログボックスで、[データベース初期化]ボタンをクリックしたら、エラーメッセージが表示された

エラーメッセージ

```
DRMSCSVコマンドの処理で異常が発生しました。手動でDRMSCSVコマンドを実行してください。detail informaition=（00220）コマンド実行中にエラーが発生しました。エラーコード（EUNMATCH）,詳細情報（運用管理サーバ自身のシステム名）
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

インベントリ管理機能が実行するdrmscsv -a dbimpコマンドが失敗し、インベントリデータベース初期化処理に失敗しています。

確認ポイント

運用管理サーバに運用管理サーバ自身へ通知するためのスケジュール情報ファイルが設定されていませんか。

対処方法

運用管理サーバで、自分自身への通知スケジュール設定は不要です。
運用管理サーバで、以下の対処を行ってください。

1. 以下のコマンドを実行し、運用管理サーバ自身のサーバ定義が存在することを確認します。

```
drmslst -a sys -k serv -H other
```

2. 以下のコマンド実行し、確認したノードを削除します。

```
drmsdlt -a sys -k serv -s 運用管理サーバ自身のシステム名 -H other
```

3. 資源配付の設定を変更します。
   a. 資源配付サービスを停止します。

   ```
   drmsd -f
   ```

   b. 以下のファイルをエディタで開き、“schedule=”の行を削除します。

   ```
   資源配付インストールディレクトリ¥etc¥drms.dat
   ```

   c. 資源配付サービスを起動します。

   ```
   drmsd -s
   ```

4. 以下のどちらかの方法を実施してください。
   a. [データベース初期化]ボタンを、再度クリックします。
   b. 以下のコマンドを実行します。

   ```
   drmscsv -a dbimp
   ```

8.5.3 運用環境保守ウィザードで、インベントリデータベースの作成が失敗する

エラーメッセージ

> インベントリデータベース作成処理は異常終了しました。
>
> <#1>¥MPWALKER.DM¥mpcmtool¥log¥MpEnvSetDb.logのファイルサイズは０バイトです。

#1：Systemwalkerインストールディレクトリ

対象バージョンレベル

- V10.0L20～V12.0L10

原因

ローカルのAdministrators権限を持ったユーザ以外でインベントリデータベースを作成しようとした場合に発生します。

対処方法

ローカルのAdministrators権限を持ったユーザでログインし、再度実行してください。

8.5.4 インベントリ管理データベースの作成や拡張ができない

エラーメッセージ

- 運用環境保守ウィザードで作成/拡張に失敗した場合

インベントリ管理データベース作成処理は異常終了しました。

- デスクトップ管理サーバ動作環境設定で作成に失敗した場合

データベース定義コマンド(RDBDDLEX)の修理で異常が発生しました。 Systemwalkerのデータベース環境に異常がないか確認後、再度実行してください。
データベースの作成コマンドで異常が発生しました。異常の原因詳細をイベントログで確認してください。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V12.0L10(EE版のみ)
- Windows版:V13.0.0以降
- Windows for Itanium版:V13.2.0以降

対処1

原因

許容できない文字を含むユーザ名でログインした場合、インベントリデータベースの作成/拡張に失敗するためです。

対処方法

以下のいずれかの復旧手順を実施します。

[V10.0L20以降の場合]

- インベントリ管理データベースの新規作成時に失敗した場合

  記号(! $ % & ' ( ) ~ ^ - ` { } .)を含まないユーザ名(18文字以内の先頭が英字で始まる英数字)でログインして、[デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]または運用環境保守ウィザードから再度インベントリデータベースの作成を実施します。

- インベントリデータベースの削除後、再度作成時に失敗した場合

  インベントリデータベースを作成したときのユーザ名でログインし、[デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]でデータベース種別を“Systemwalker標準”に設定して、再度インベントリデータベースの作成を実施します。

- インベントリデータベースの拡張時に失敗した場合

  インベントリデータベースを作成したときのユーザ名でログインし、[デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]でデータベース種別を“Systemwalker標準”に設定して、拡張後のサイズでインベントリデータベースの作成を実施します。その後、運用環境保守ウィザードでデータベース拡張処理を継続します。

[V10.0L10以前の場合]

- インベントリ管理データベースの新規作成時に失敗した場合

  記号(! $ % & ' ( ) ~ ^ - ` { } .)を含まないユーザ名(18文字以内の先頭が英字で始まる英数字)でログインして、[デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]から再度インベントリデータベースの作成を実施します。

- インベントリデータベースの削除後、再度作成時に失敗した場合

  インベントリデータベースを作成したときのユーザ名でログインし、[デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]でデータベース種別を“Systemwalker標準”に設定して、再度インベントリデータベースの作成を実施します。

対処2

原因

スタートアップアカウントに許容できない文字が含まれる場合、インベントリデータベースの作成に失敗するためです。

対処方法

1. スタートアップアカウントを、18バイト以内の先頭が英字で始まる英数字に変更してください。

   スタートアップアカウントの変更手順は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

2. [デスクトップ管理サーバ動作環境設定]の[インベントリ管理環境画面]で、データベース種別を“Systemwalker標準”に設定して、再度、インベントリデータベースの作成を実施します。

8.5.5 インベントリデータベースの退避ができない

エラーメッセージ

```
qdg12293u:表'SW_INV_SCM.xxxxx_TBL'にSELECT権限がありません (システム名
=CENTRIC)
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

インベントリデータベースを作成したアカウント以外でログインしていませんか。

対処方法

インベントリデータベースを作成したアカウントでログインし、再度実行してください。

備考.
ログイン時のアカウントは、ローカルマシンのAdministrator権限を持っている必要があります。

8.5.6 インベントリデータベースの作成が失敗する

エラーメッセージ

```
■Windows/Windows for Itanium
インベントリデータベース作成処理は異常終了しました。
[詳細]
drmscsvコマンドの処理で異常が発生しました.
drmscsvコマンドが実行可能な環境が確認後、再度実行してください.
detail information=[00220]コマンド実行中にエラーが発生しました.
エラーコード(EINVAL),詳細情報(db_import is NO).

■Solaris/Linux/Linux for Itanium
UX:MpDTPSetup:drmscsvコマンドの処理で異常が発生しました。
drmscsvコマンドが実行可能な環境か確認後，再度実行してください。
UX:MpDTPSetup:インベントリ管理環境作成は異常終了しました。
```

対象バージョンレベル

Windows版:V10.0L20以降

Windows for Itanium版:V13.2.0以降

Solaris版:5.2以降

Linux版:V11.0L10以降

Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

DRMS編集ファイルに"dbimport=NO"が定義されていませんか。

対処方法

DRMS編集ファイルを"dbimport=YES"に設定した後、インベントリデータベースを作成してください。

備考

V13.1.0以降は、インベントリ管理機能を使用しない場合でも、インベントリデータベースが必ず作成されます。

8.5.7 インベントリデータベースの作成時にスクリプトエラーが発生する

エラーメッセージ

```
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_env: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_m_util: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_c_util: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_menu_utf8: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_menu_utf8: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_menu_utf8: line xxx: [: : integer expression expected
/opt/FJSVsivmg/bin/MpDTPsetup_menu_utf8: line xxx: [: : integer expression expected
```

xxx:任意の数字

備考:4行目以降のメッセージの出力行数は、4行固定です。

対象バージョンレベル

- Linux版:V13.2.0
- Linux for Itanium版:V13.2.0

確認ポイント

以下の条件をすべて満たしている場合は、対処が必要です。

- インベントリデータベースを[Systemwalker標準]で作成する際、インベントリ管理環境の作成場所に[DB用パーティション]を指定していませんか？
- 運用管理サーバがインストールされているマシンのOSが、Red Hat Enterprise Linux 5.1以降ではありませんか？

対処方法

インベントリデータベースを[Systemwalker標準]で作成する場合は、インベントリ管理環境の作成場所に[ファイルシステム上]を指定してください。

8.6 インベントリ管理の印刷に関するトラブル

8.6.1 [インベントリ情報]画面の内容を印刷すると、行の終わりで文字列が折り返されずに文字列が切れて印刷される場合がある

対象バージョンレベル

- Windows版:V4.0L10以降
- Solaris版:5.2以降
- Linux版:V110L10以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10以降

原因

半角英数字が連続した文字列の場合、行の終わりで文字列が折り返されずに文字列が切れて印刷される場合があります。

確認ポイント

文字列が切れて印刷された内容は、半角英数字が連続した値ではありませんか。

対処方法

[インベントリ情報]表示画面で直接内容を参照してください。
また、資源配付機能によりインベントリ収集を行っている場合は、[検索結果一覧]画面でファイル出力を行うことによっても内容を確認できます。

第9章 簡易資源配付機能に関するトラブルシューティング

9.1 簡易資源配付機能で、ファイル共有を使用して配付指示が発行されているクライアントにおいて、システム起動後、すぐにログインを実施した場合、ネットワークドライブの割り当てでエラーが発生し、簡易資源配付に失敗する場合がある

エラーメッセージ

```
ネットワークドライブの割り当てができません。
ドライブ名：X 詳細コード：1017-1203
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Windows for Itanium版:V13.0.0～V13.2.0

原因

システム起動後、ユーザがログインする時点で、Microsoft ネットワーククライアント環境の確立が間に合わないことが原因で、サーバの共有フォルダをネットワークドライブとして割り当てることができず、エラーが発生しています。

- 詳細コード：1203の意味

  「指定されたネットワークパスは、どのネットワークプロバイダによっても受け付けられませんでした。」

なお、ネットワークドライブの割り当ては、自クライアントに対して簡易資源配付機能のファイル共有を使用した配付指示が出ている場合にだけ実施します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。資源が配付されます。

- 再度ログインします。
- [スタートアップ]メニューの[Systemwalker Centric Manager 簡易資源配付]を起動します。

9.2 マイコンピュータ上に不要なネットワークドライブ（¥¥接続サーバ¥Mpcminst）が存在する

対象バージョンレベル

- Windows版:V13.1.0～V13.2.0

原因

Systemwalker コンソールを終了させると、Systemwalker コンソールの終了に合わせて簡易資源配付ウィザードや[配付資源の操作]画面も終了されます。資源の登録中にSystemwalker コンソールを終了すると、ファイル共有で割り当てられたネットワークドライブがそのままになる場合があります。

確認ポイント

簡易資源配付ウィザードまたは[配付資源の操作]画面において、ファイル共有の資源を登録中にSystemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

エクスプローラの「ツール」メニューの「ネットワーク ドライブの切断」により、ネットワークドライブを切断してください。

なお、この問題を発生させないためには、資源登録中の場合は登録の完了を待ち、簡易資源配付ウィザードまたは[配付資源の操作]画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

9.3 簡易資源配付ウィザード、および[配付資源の操作]画面で資源を登録できない

エラーメッセージ

```
指定された資源識別名は既に登録されています。
資源識別名を変更し再実行してください。
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V13.1.0～V13.2.0

原因

Systemwalker コンソールを終了させると、Systemwalker コンソールの終了に合わせて簡易資源配付ウィザードや[配付資源の操作]画面も終了されます。資源の登録中にSystemwalker コンソールを終了した場合、次回登録時に同じ資源識別名を指定すると、すでに登録済みであるメッセージが表示されることがあります。

確認ポイント

簡易資源配付ウィザードまたは[配付資源の操作]画面において、資源の登録中にSystemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

別の資源識別名を指定して、再度登録を実施するようにしてください。

なお、この問題を発生させないためには、資源登録中の場合は登録の完了を待ち、簡易資源配付ウィザードまたは[配付資源の操作]画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

9.4 [ソフトウェア辞書エディタ]画面または[デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定]画面で応答なしとなる

対象バージョンレベル

- Windows版:V13.1.0～V13.2.0

原因

[ソフトウェア辞書エディタ]画面または[デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定]画面において、情報を編集し、保存する前にSystemwalker コンソールを終了した場合、「応答なし」となる場合があります。

確認ポイント

[ソフトウェア辞書エディタ]画面または[デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定]画面において、情報を編集中にSystemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

「応答なし」になった場合でも時間がたてば終了します。ただし、時間を要することが考えられますので、すぐに終了させたい場合は、タスクマネージャから該当のタスクを終了させてください。

なお、この問題を発生させないためには、Systemwalker コンソールを終了する場合、[ソフトウェア辞書エディタ]画面または[デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定]画面が動作中の際は画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

9.5　簡易資源配付機能の画面でアプリケーションエラーが発生する

対象バージョンレベル

- Windows版:V13.1.0～V13.2.0

原因

Systemwalker コンソールを終了させると、Systemwalker コンソールの終了に合わせて簡易資源配付機能の画面も終了されます。

簡易資源配付機能の画面で処理の実施中にSystemwalker コンソールを終了すると、アプリケーションエラーが発生する場合があります。

確認ポイント

簡易資源配付機能の画面が動作中に、Systemwalker コンソールを終了していませんか。

対処方法

アプリケーションエラーが発生した場合、対処は必要ありませんので操作を続行してください。

なお、この問題を発生させないためには、Systemwalker コンソールを終了する場合に、簡易資源配付機能の画面が動作中の際は画面を終了させてから、Systemwalker コンソールを終了するようにしてください。

備考

「対処方法」にある簡易資源配付機能の画面は、下記の画面を示します。

- 簡易資源配付ウィザード
- 簡易資源配付管理
- 配付資源の操作
- デスクトップ管理 クライアント動作環境の設定
- ソフトウェア辞書エディタ
  （Systemwalker コンソールの「ポリシー」メニューの「簡易資源配付」から起動時）

第10章　そのほかのサーバに関するトラブルシューティング

10.1　サービス起動時のトラブル

10.1.1　資源配付の起動時にイベントログに[イベントID：3]のメッセージが出力され、資源配付サービスの起動に失敗する

エラーメッセージ

エラー：00003：drmsの初期化に失敗しました.エラーコード（xxxxx abort），詳細情報（,）.

対象バージョンレベル

- V5.0L10 ～ V13.2.0
- 5.0 ～ V13.2.0

確認ポイント

システム負荷が高い状態で起動していませんか。
システム負荷が高い状態で資源配付を起動しようとしたことにより、資源配付の内部プロセスが一定時間に起動できないため、起動処理を中止しました。

対処方法

システム負荷の原因を取り除いた後に、資源配付を再起動してください。
fdiskなど、システム負荷が高くなるプログラムが動作している場合、これらのプログラムの終了後に資源配付を再度起動してください。場合によっては、サービスの制御が不可能となり、システムの再起動が必要となることも考えられます。

また、資源配付の起動完了待ち時間の設定を変更することで、回避することができます。初期値は60秒(V13.3.0以降は無制限)です。上記エラーメッセージが頻繁に発生する場合は、設定値を60秒以上に変更してください。

資源配付の起動完了待ち時間の設定は、DRMS編集ファイルで、以下のオプションを設定します。

```
init_timer  =  60  ～  3600
```

各サーバで、資源配付の起動完了待ち時間を60～3600までの10進数で秒単位で指定します。本オプションが省略された場合、60(V13.3.0以降は無制限)が指定されたものとみなします。

10.1.2　資源配付の起動時に、[イベントID:702、803]のエラーメッセージが出力され、資源配付の起動に失敗する

エラーメッセージ

エラー：00702：ポート番号の読み込みに失敗しました.エラーコード（ENOENT），詳細情報（getservbyname）.
エラー：00803：クライアントからのサービス要求受付中にエラーが発生しました.エラーコード（ENOTSUPPORT），詳細情報（getservbyname）.

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付が使用するサービス・エントリの定義内容が誤っていませんか。
システムのservicesファイルに、資源配付が使用するサービス・エントリが定義されていない場合、または定義内容に誤りがある場合にこのエラーが表示されます。

対処方法

対処方法例として、システムのservicesファイルにインストール時に定義される資源配付のデフォルト値を以下に示します。

資源配付のサービス・エントリの定義内容

- サーバーサーバ間通信　　：drmsserv 9324/tcp
- サーバークライアント間通信：drms　 9231/tcp

10.1.3 [資源配付]ウィンドウを起動して、すぐに停止すると、エラーメッセージが出力される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

[コントロールパネル]からのサービス停止時、または“drms -s”コマンドによるサービスの起動処理は、サービスの起動処理と完全にリンクしていません。このため、サービス起動後にすぐにサービスを停止すると、起動中のサービスが強制的に終了させられることになり、予期しないエラーが発生することがあります。

対処方法

サービス停止を行う場合には、完全にサービスが起動していることを確認する必要があります。サービスが完全に起動していることは、イベントログ上に以下の3つのイベントが出力されていることで確認できます。

情報:[00001]drmsが起動されました。
情報:[00700]相手サーバからのサービス要求受付を開始しました。
情報:[00800]クライアントからのサービス要求受付を開始しました。

10.1.4 DRMS編集ファイルの定義パラメタを変更後、[資源配付]ウィンドウを再起動すると、[資源配付]ウィンドウが停止する

エラーメッセージ

```
drmsd: ERROR: 500 A system failure occurred. Failure code （7）, significance level（2）, status code（16000003）, detailed information（No such file or directory）.
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

DRMS編集ファイルのdrmspathオプションやwork_dirオプションを変更していませんか。

対処方法

Systemwalker Centric ManagerでDRMS編集ファイルのパラメタ変更を行った場合は、資源配付の再起動と合わせてアプリケーション配付の再起動が必要です。

以下の操作により、アプリケーション配付だけを再起動することが可能です。

- [UNIX版]の場合
  1. 停止

```
/opt/FJSVsdpsv/bin/sdpsv stop
/opt/FJSVsdpmc/bin/sdpmc stop
```

  2. 起動

```
/opt/FJSVsdpmc/bin/sdpmc start
/opt/FJSVsdpsv/bin/sdpsv start
```

- [Windows版]の場合
  1. [コントロールパネル]-[サービス]から以下のサービスを停止します。

```
Systemwalker MpDpMc
```

  2. [コントロールパネル]-[サービス]から以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker MpDpsv
```

備考

アプリケーション配付を使用しない場合（資源配付を使用して登録したアプリケーションを、アプリケーション管理の管理対象として自動定義する機能）を使用していない場合、自動起動をやめることもできます。

[Windows版]の場合

[コントロールパネル]の[サービス]で、以下のサービスの[スタートアップの種類]を[手動]に変更します。

- Systemwalker MpDpMc
- Systemwalker MpDpsv

[Solaris版]の場合

以下の操作で自動起動を抑止できます。

1. 以下のファイルを開きます。

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
```

2. 以下のようにファイルを編集します。
   - [変更前]

```
DAEMON05="/opt/FJSVsdpmc/bin/sdpmc start"
DAEMON06="/opt/FJSVsdpsv/bin/sdpsv start"
```

   - [変更後]

```
#DAEMON05="/opt/FJSVsdpmc/bin/sdpmc start"
#DAEMON06="/opt/FJSVsdpsv/bin/sdpsv start"
```

定義変更は、次回のSystemwalkerの起動時から有効になります。

10.1.5 資源配付サービスは起動するが、SCM（Service Control Manager）のエラーが出力される

エラーメッセージ

Service Control Manager：7022：説明:Systemwalker MpDrms サービスは開始時にハングしました。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

以下の理由から、対処は不要です。
システム起動時に負荷の高い処理が実行されていている場合に、資源配付サービス処理が、「Service Control Manager」からのイベントに応答遅延しているため、出力されています。資源配付サービスは、その後正常に動作します。

10.1.6 資源配付の起動後にエラーメッセージを出力し、資源配付サービスが停止する

エラーメッセージ

エラー：00500：システム障害が発生しました.障害タイプコード（7），重要度（2），状態コード（1600001b），詳細情報（Permission denied）.

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

ウィルス対策ソフトウェアのリアルタイムI/O監視を行っていませんか。

対処方法

SystemWalker/CentricMGR V10.0L10以前の場合は、資源配付のアクセスするディレクトリを、ウィルス対策ソフトウェアの監視対象から外してください。

※Systemwalker CentricMGR V10.0L20以降ではプログラム対処されています。

対処2

確認ポイント

LDSM（LANDesk Server Manager）が、ディレクトリを監視などで読み込んでいませんか。

対処方法

資源配付の運用中には、LDSMなどを動作しないでください。

対処3

確認ポイント

ハードディスクの不良がありませんか（何回もアクセスしているときにデフラグなどで不良セクタをアクセスし、エラーとなる）

対処方法

資源配付の作業ディレクトリ（DRMS編集ファイルのwork_dirオプションで指定している場所）を、別ディスクのドライブパスで使用するように定義変更してください。

10.1.7 サービスが正常に起動しない、または起動に時間がかかる。[イベントID:00001]の後に、[イベントID:700]、[イベントID:800]のメッセージが出力されない、または出力されるまでに時間がかかる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V5.0L10以降
- Systemwalker Software Delivery
  - V5.0L10以降

確認ポイント

資源配付インストールディレクトリ¥binディレクトリ配下に、以下のファイルがありませんか。

- nstart.bat
- astart.bat

また、nstart.bat、astart.batファイルに、制御が戻ってこない、または時間がかかるような処理を記述していませんか。

対処方法

nstart.bat、astart.batファイルが不要ならば削除してください。
必要ならば、nstart.bat、astart.batファイルの実行処理を見直し、バッチファイルに制御が戻るように処理を改善してください。また、実行している処理に時間がかかっている原因を調査し、対処してください。

10.1.8 Service Control Managerがエラーメッセージを出力し、資源配付サービスが起動失敗する

エラーメッセージ

```
Service Control Manager：7023：入力された環境オプションが見つかりませんでした。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

DRMS編集ファイルのdrmspathオプション、work_dirオプションで指定しているパス名のディスクが正常にアクセスできる状況ですか。

対処方法

drmspath、work_dirで指定しているパス名が正常にアクセスできる状態にしてください。

10.1.9 サーバポリシー適用後、資源配付サービスが再起動しない

エラーメッセージ

1067 プロセスが途中で終了しました
drmsd.exeのワトソンログ（アクセス違反）

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

資源配付インストールディレクトリ¥etc配下の以下のファイルに書き込み禁止属性が設定されていませんか。

- drms.bkp
- drms.dat
- drms.nxt

対処方法

資源配付起動時に、資源配付の動作上、予期しないファイル属性のため、アプリケーションエラーとなっています。

以下の3つのファイルの書き込み禁止属性（例：[読み取り専用]のチェックを外す）を外して、資源配付を再起動してください。

- drms.bkp
- drms.dat
- drms.nxt

10.1.10 部門管理/業務サーバで、“Systemwalker MpDTPReceiver”および“Systemwalker MpDTPServer”のサービスを開始すると、不当なメッセージが出力される

エラーメッセージ

CMMPDBST.EXE - DLL が見つかりません。 ダイナミック リンク ライブラリ ODSV.DLL が指定されたパス XXXX に見つかりません。

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V10.0L10

原因

部門管理/業務サーバにおいて、以下のサービスを開始したためです。

- Systemwalker MpDTPReceiver
- Systemwalker MpDTPServer

確認ポイント

部門管理/業務サーバにおいて、以下のサービスの状態を確認してください。

- Systemwalker MpDTPReceiver
- Systemwalker MpDTPServer

対処方法

部門管理/業務サーバにおいて、以下のサービスを開始しないでください。また、これらのサービスのスタートアップを自動にしないでください。

- Systemwalker MpDTPReceiver
- Systemwalker MpDTPServer

10.1.11 システムが電源断等で不当に停止した場合に、システム再起動後に、インベントリ管理サーバが起動できない場合がある

エラーメッセージ

システムログに以下のメッセージが表示されます。

```
UX:FJSVsivmg: ERROR: 4001: System call function error occurred. ( , sys=shmget ,
errno=No such file or directory , detail=10219-000027eb )
```

対象バージョンレベル

- Linux版:V11.0L10～V12.0L10

対処方法

運用管理サーバにおいて、以下の対処を実施してください。

1. スーパーユーザになります。
2. /opt/systemwalker/bin/pcentricmgrを実行して、Systemwalkerのデーモンを停止します。
3. 以下のとおり、ファイルの内容を書き換えます。
   a. /opt/FJSVsivmg/lib/ipc.conf

<変更前>	<変更後>
# # FJSVsivmg IPC Resource # RECEIVER AAA SHM_RECEIVER BBB	# # FJSVsivmg IPC Resource # RECEIVER SHM_RECEIVER

※ AAA, BBBは任意の数値

   b. /opt/FJSVsivmg/lib/ipcman.conf

<変更前>	<変更後>
# # FJSVsivmg IPC Resource # MANAGER XXX SHM_MANAGER YYY	# # FJSVsivmg IPC Resource # MANAGER SHM_MANAGER

※ XXX, YYYは任意の数値

4. /opt/systemwalker/bin/scentricmgrを実行して、Systemwalkerのデーモンを開始します。

10.1.12 資源配付サービスを起動しようとするとService Control Managerエラーが発生する

資源配付サービスを起動しようとすると以下のService Control Managerエラーが発生することがあります。

エラーメッセージ

【メッセージの例】

¥¥コンピュータ名でSystemwalker MpDrms サービスを開始できませんでした。 エラー 0001: 誤ったファンクションです。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

- イベントログ(アプリケーション)にdrmsの803番または703番のエラーメッセージが出力されていませんか。
- システムのservicesファイルに定義しているdrmsで使用するポートが、他のソフトウェアで使用されていませんか。

  drmsでデフォルトで使用するポートについては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“ポート番号”の記述を参照してください。
- システムのservicesファイルにdrmsのサービスエントリが登録されていますか。

対処方法

システムのservicesファイルに資源配付が使用するポート番号を定義してください。

10.2 CPU使用率が100％になるトラブル

10.2.1 drmsn.exeがアプリケーションエラーを発生し、資源配付サービスが停止される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付サービス起動中に、システムの日付、時刻を変更していませんか。

以下のようなメッセージがイベントログに出力されていませんか。

[イベントID:202]受信処理でエラーが発生しました.エラーコード（EACCES），詳細情報（cs300 ucomp error）.
[イベントID:501]システム内部の異常です.詳細情報（drmsn.exe was stopped）.
[イベントID:17]スケジュール情報の解析処理でエラーが発生しました.エラーコード（EACCES），詳細情報（qjimnmai qjizmsnd err）.
[イベントID:17]スケジュール情報の解析処理でエラーが発生しました。エラーコード（EACCES），詳細情報（qjimnexc qjizmsnd err）.

対処方法

資源配付サービスを停止し再起動してください。
システム時刻を変更する場合の注意事項を以下に示します。

- Systemwalker Centric Manager の動作中にシステム時刻を変更しないでください。
- システム時刻を変更する場合はSystemwalker Centric Manager を停止した状態で行ってください。

10.2.2 「drmsdfn -a sys」、「drmsdlt -a sys」を繰り返し実行すると、ディスクビジーになる

対象バージョンレベル

- 5.0以降

原因

システムデーモンfsflushが、ファイルキャッシュの情報を定期的にディスク書き込みしているところに、資源配付側の処理が重なって遅くなっています。
fsflushは、システムのファイルキャッシュを制御するデーモンであり、一定間隔ごとに、キャッシュに格納された情報をディスクに書き込みます。

対処方法

DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）がひとつのボリュームとして用意されている場合には、そのディスクをマウントするときに“/noatime”を指定してください。

/noatime：

マウントしたボリュームに対して、ファイルアクセス時間（ファイル更新時間とは別。参照しただけでかわる時間）の情報を、ディスクに書き込まない。DRMS管理ファイルとしては、アクセス時間は未使用。

10.3 CSV検索用サンプルプロシジャが動作しないトラブル

10.3.1 drmscsv.xlsが正しく動作しない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

原因

ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。本サンプルプロシジャは、Excelマクロおよび、ExcelなどのMicrosoft製品に付属しているデータアクセス機能を利用して検索処理を行っているため、以下のドライバをインストールする必要があります。

- Microsoft Excel for Windows 95 Version 7.0の場合

  コンバータ、フィルタ、データアクセス機能の“Textドライバ”が必要です。

- Microsoft Excel 97の場合

  データアクセスとして、データベースドライバの“テキストおよびHTMLドライバ”が必要です。

対処方法

不足しているドライバのインストールを行ってください。

注意

Excelを[標準セットアップ]でインストールした場合には、上記ドライバは、インストールされないため、[カスタムセットアップ]でインストールしてください。

対処2

原因

Excelとドライバのバージョンが一致していない可能性があります。Excelマクロは、各バージョンのExcelに添付されているデータアクセス機能との組み合わせだけで正常に動作します。

Excel 97をExcel for Windows 95 Version 7.0からアップグレードインストールしている場合、1つのシステム上に、DAO 3.0とDAO 3.5の両方がインストールされます。このような場合にExcelマクロは、Excelの古い方のバージョンで動作するように、標準で、DAO 3.0を使用するようになっています。

そのため、DAO 3.0とDAO 3.5の両方がインストールされているシステムでExcelマクロを利用すると、Excel97とDAO3.0の組み合わせとなり、正常に動作しません。
(DAO 3.0がインストールされていない場合には、DAO3.5を使用する用にExcelが自動的に切り換えてくれるため、正常に動作します。)

対処方法

Excelマクロが利用するデータアクセス機能のバージョンをDAO 3.5に変更することにより、利用可能となります。

変更方法を以下に示します。

1. Excelマクロを起動し、検索用の画面が表示されたら、[終了]ボタンで検索用画面を終了します。
2. drmscsv.xlsファイルが表示されている状態で、メニューから[ツール]-[マクロ]-[Visual Basic Editor]を選択します。

   →[Microsoft Visual Basic-drmscsv.xls]ウィンドウが表示されます。
3. メニューから[ツール]-[参照設定]を選択します。

   →[参照設定-drmscsv.xls]ダイアログボックスが表示されます。
4. 参照可能なライブラリファイルの一覧から、[Microsoft DAO 3.0 Object Library]のチェックをはずし、[Microsoft DAO 3.5 Object Library]にチェックをつけます。
5. [OK]ボタンをクリックし、[参照設定-drmscsv.xls]ダイアログボックスを終了します。
6. メニューから[ファイル]-[終了してMicrosoft Excelへ戻る]を選択します。
7. drmscsv.xlsファイルを保存します。変更した設定がファイルに保存され、正常に使用できるようになります。

対処3

原因

drmscsvで出力したCSVファイルのマージ結果ファイルを見ようとしてませんか。

drmscsvコマンドのマージ結果は、drmscsv.xlsの処理対象外です。

対処方法

drmscsvのマージ結果に対して、drmscsv.xlsを使用しないでください。

ポイント

drmscsv.xlsは、CSV検索用サンプルプロシジャです。製品としての動作は保証していません。

10.4 強制配付機能に関するトラブル

10.4.1 Windows 9x系のクライアントに強制配付を実行したところ、エラーメッセージが出力され、強制配付操作が失敗する

エラーメッセージ

```
FD_CONNECT Error ipaddr = IPアドレス sockid = 332 errno = 10061
pfSocketMessage2000 -2
Client クライアントのシステム名 通信異常
```

上記のエラーメッセージは、以下のファイルに出力されます。

```
資源配付インストールディレクトリ¥etc¥drmsfsd.log¥errcl.txt
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

クライアントのシステム名（IPアドレス）に対して、TCPコネクション接続エラーになっています。

WinSockのエラーコード10061（ECONNREFUSED）より、クライアント側の強制配付受信モジュールが未起動である可能性があります。

資源配付クライアントは、Windowsにログインしたときに、スタートアップから強制配付機能モジュールを実行します。Windowsにログインしていないか、クライアントで強制配付受付モジュール（drmsfcl9.exe）が実行されていない可能性が考えられます。

確認ポイント

- クライアントは、ログオンしていますか。
- ログオンしたユーザIDに関するスタートアップに資源配付クライアントの強制配付機能アイコンが設定されていますか。

対処方法

以下の対処方法を実施してください。

- クライアントにログインしていなければ、ログインしてください。
- スタートアップに強制配付機能が登録されていなければ、クライアントを再インストールしてください
- [Ctrl]+[Alt]+[Del]で、強制配付の常駐モジュール（drmsfcl9.exe）が起動していない場合、以下のコマンドを実行してください。

  ```
  資源配付インストールディレクトリ¥drmsfcl9.exe
  ```

10.4.2 Systemwalker Operation Managerから強制配付コマンドを実行すると、エラーが出力される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

環境変数（tmp）は参照可能ですか。
必要な環境変数（tmp）が登録されていない可能性があります。Systemwalker Operation Managerから実行したジョブ内で有効となる環境変数は、以下の2種類です。ユーザ環境変数は、Systemwalker Operation Managerサービスのログオンアカウントのものであっても参照できません。

- システム環境変数

  ただし、OSが起動した時点で登録されている内容しか参照できません。コンピュータが起動した後に、コントロールパネルなどからシステム環境変数に任意の環境変数を追加/変更/削除しても、その環境変数をジョブで参照するには、コンピュータの再起動が必要です。

- Systemwalker Operation Managerが設定する環境変数

  ジョブスケジューラ、およびジョブ実行制御がそれぞれ、ジョブに関する情報（プロジェクト名、ジョブネット名、ジョブ名、ジョブ番号）をジョブで参照できるようにいくつかの環境変数を設定します。

対処方法

ここでは、システム環境変数、Systemwalker Operation Managerが設定する環境変数のどちらからでも参照できるように、“システム環境変数”に（tmp）を登録してください。

10.4.3 強制配付で資源配付を実施したところ、エラーログファイルに「Server OWN クライアント数超過」が表示される

※エラーログファイル：

資源配付インストールディレクトリ¥etc¥errcl.txt

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

クライアント定義が200台以上ありませんか。

対処方法

強制配付機能は、クライアント200台の制限があります。

10.4.4 部門管理/業務サーバに強制配付に関するデータが流れてしまう

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

drmsfsdcコマンド実行時、-lオプションは指定されていますか。

-lオプションが指定されていない場合は、-lオプションのデフォルトnewが有効になり、drmsfsdcコマンドを実行するサーバに定義されている全サーバに対して、最新のクライアント定義情報収集の為の問合せをします。

対処方法

-lオプションを指定せずにコマンド実行した場合は、最新のクライアント定義情報の収集が終了するまでお待ちの上、-lオプションの“old”指定を追加してください。次回drmsfsdcコマンド実行時から、部門管理/業務サーバへの問合せは無くなります。

10.4.5 強制配付画面でクライアントの選択ができない

対象バージョンレベル

- Windows版:5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバで、クライアントのシステム名からIPアドレスへの変換ができていない可能性があります。
クライアントのシステム名を指定してpingコマンドを実行し、システム名からIPアドレスへの変換(名前解決)がされているか確認してください。

対処方法

名前解決がされていない場合は、運用管理サーバでDHCP、WINS、DNS、hostsファイルなどの設定を確認し、クライアントのシステム名からIPアドレスへの変換(名前解決)ができるように設定してください。

対処2

確認ポイント

強制配付システム構成情報ファイル(clsys.txt)の記述に誤りがある可能性があります。clsys.txtの内容が正しい書式で記述されているか確認してください。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編”を参照し、強制配付システム構成情報ファイル(clsys.txt)を正しい書式に修正してください。

対処3

確認ポイント

[強制配付]ウィンドウのシステム構成画面で、[OWN]をクリックしましたか。

対処方法

- [強制配付]ウィンドウのシステム構成画面で[OWN]をクリックすることにより、強制配付のシステム構成情報(clsys.txt)に定義されている配下サーバおよびクライアントが表示されます。
- メニューの[表示]から[最新の情報に更新]を実行することにより、強制配付のシステム情報(clsys.txt)が自動更新され、システム構成画面に表示されます。

10.4.6 [資源配付]ウィンドウの「強制配付」-「システム構成」の画面で「最新の情報に更新」を実行すると、「正常:XX」「異常:XX」のカウントをしている途中で、「強制配付」の画面が消えてしまう

対象バージョンレベル

- Windows版:V3.0L20以降

確認ポイント

運用管理サーバ配下の1台の部門管理サーバ配下に、201台以上のクライアント定義が存在していませんか。

対処方法

1台の部門管理サーバ配下200台以内のクライアント定義にすることによって、画面が消えてしまうことは回避できます。ただし、Windows版の強制配付機能には、トータルクライアント定義数200台以内の制限があります。

10.4.7 drmsfsdcコマンドで強制配付を実行しようとすると、アプリケーションエラーが発生した

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

確認ポイント

“command.com”を使って実行していませんか。

対処方法

“cmd.exe”から実行してください。
drmsfsdcコマンドに限らず、Windows NT系製品のコマンドは、“cmd.exe”から実行してください。

備考

“command.com”は、Windows 9x系のコマンドプロンプトであり、16ビットアプリケーションだけに対応しています。
“drmsfsdc.exe”は、32ビットアプリケーションのため、不具合が発生しています。

“command.com”での実行は、未サポートです。

10.4.8 クライアントに対して強制配付を行ったところ、通常配付に比べて配付時間が大幅に長くなる

原因

強制配付コマンドdrmsfsdcの"-l"オプションを省略した場合、"-l new"の扱いとなります。
"-l new"が指定されている場合、サーバ上の最新のクライアント定義情報を参照して、強制配付定義clsys.txtを更新した後でクライアント端末に強制配付を行うため、その処理に時間を要します。

確認ポイント

強制配付コマンドdrmsfsdcの-lオプションを省略、または -l new が指定されていますか。

対処方法

強制配付コマンドdrmsfsdcの-lオプションに"old"を指定することにより、クライアント定義情報を参照せず、既にある強制配付定義clsys.txtを利用してクライアント端末へ強制配付を行います。
そのため、処理が早くなります。

10.4.9 強制配付のウィンドウでグループ作成時に、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
drmsfsdg実行エラー"9"インデックスが有効範囲にありません
```

原因

%drmsroot%¥bin¥clsys.txtファイルが存在するにも関わらず、中身が０バイトであるためです。

例）

```
<< DRMS bin directory >>
 06/13/06 21:11:26 0 clsys.txt
```

対処方法

%drmsroot%¥bin¥clsys.txtファイルを削除してください。

10.4.10 強制配付によって資源を配付できない

原因

クライアントのホスト名変更により、該当クライアントが強制配付対象から外れていたため、強制配付に失敗しています。

確認ポイント

%drmsroot%¥bin¥clsys.txt（強制配付先ファイル）に、該当クライアントが設定されていますか。

対処方法

資源配付ウィンドウから、強制配付画面の[更新]メニューをクリックしてください。

10.4.11 強制配付の対象となっているクライアントにおいて、処理結果画面が表示されない、操作(ダウンロード、アップロード、環境設定など）が行えないことがある

エラーメッセージ

KZBY906 資源配付クライアントは複数起動できません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - V13.2.0以降
- Systemwalker Software Delivery
  - V13.2.0以降

確認ポイント

- Windows Vista以降ではありませんか。
- 以下のサービスが起動していますか。

  サービス名：Interactive Services Detection（対話型サービスの検出サービス）
- 上記サービスが起動している場合、「対話型サービスダイアログの検出」のダイアログ画面が表示されていますか。

原因

強制配付サービスより実行されたダウンロード機能が、セション0画面で応答待ちとなり、終了しない状態に陥っていることが原因です。

対処方法

「対話型サービスの検出サービス」の状態が「停止」となっている場合は、サービスを「開始」し、「対話型サービスダイアログの検出」のダイアログ画面が表示されるか、確認してください。

- 「対話型サービスダイアログの検出」ダイアログ画面が表示されている場合

  ダイアログ画面の“メッセージを表示する”を選択してセション0画面に移動し、ダウンロード機能の状態を確認、応答待ち状態を解除（応答して終了）させてください。

- 「対話型サービスダイアログの検出」ダイアログ画面が表示されていない場合

  タスクマネージャーを起動し、プロセス名“dwldrms.exe”を強制終了させてください。その後、手動によるダウンロードを実行し、正常にダウンロードが完了するか(応答待ち状態にならないか)、確認してください。

10.5　変更したDRMS編集ファイルの内容が有効にならないトラブル

10.5.1　変更したDRMS編集ファイルの内容が有効にならない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

サービスまたはデーモンの再起動は行いましたか。

対処方法

DRMS編集ファイルは、変更後、サービスまたはデーモンの再起動が必要です。

対処2

確認ポイント

オプション指定内容は、大文字/小文字の指定まで一致していますか。

対処方法

オプション指定内容は、大文字/小文字の指定まで一致させる必要があります。

対処3

確認ポイント

不当な文字コードが入っていたり、改行で終了していない行はありませんか。

対処方法

DRMS編集ファイルの各オプションは、任意の順序で記述することができます。ただし、一つのオプションは、必ず1行に記述するようにしてください。

対処4

確認ポイント

本当にその処理で有効になるオプションですか。
DRMS編集ファイル内のオプション指定に誤っていた場合でも、特にエラーメッセージは出力されません。この場合、オプション設定内容は、省略値を採用して動作します。

対処方法

オプションの有効範囲を“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“DRMS編集ファイル”の記述を参照し、再確認してください。

10.5.2　接続先システムの認証チェックの設定(connect.ini)機能が動作しない

原因

通信種別が「tcp/ip」の場合に、接続先システムの認証チェックの設定機能が有効になります。

確認ポイント

通信種別に「tcp/ip」以外を設定していませんか。

対処方法

本機能を使用する場合は、通信種別を「tcp/ip」に設定してご使用ください。

10.5.3 運用管理サーバの資源保有世代のオプションを変更したが、過去資産が削除されない

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

DRMS編集ファイルに保有世代のオプションを設定後、資源の登録または適用を実施しましたか。

原因

保有世代のオプションにより過去世代が削除されるタイミングは、オプション設定後、資源の登録または適用を実施したときです

保有世代のオプションを設定し資源配付を再起動しただけでは削除されません。

対処方法

資源の登録または適用を実施後、保有世代を確認してください。

備考

保有世代のオプションのうち、運用管理サーバで登録資源の世代圧縮を行うオプションadd_gennumは、以下のV/Lで使用可能です。

- Systemwalker Centric Manager V11.0L10/11.0以降

10.6 バックアップ/リストアに関するトラブル

10.6.1 運用管理サーバ自身の資源が復元されない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

運用管理サーバのシステム名を変更していませんか。

※システム名とは、運用管理サーバ上で“drmslst -a sys -k own”を実行した際、出力される情報の中の一番上の行で一番左のカラムに表示される名前（資源配付で使用しているシステム名）のことです。初期値は“OWN”となっています。

対処方法

システム名を変更していた場合は、運用管理サーバで以下の手順でリストアしてください。

1. 資源配付を停止します。
2. DRMS管理ファイル（DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定したディレクトリ配下のファイル群）を削除します。
3. リストアします。

10.6.2 MPBKCコマンドで環境退避を実施したところ、DRMS資源のバックアップ中にエラーメッセージが出力された

エラーメッセージ

```
バックアップに失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

確認ポイント

ネットワークドライブに対して、バックアップ処理を実施していませんか。

対処方法

資源配付のバックアップリストア機能は、ローカルディスク(またはデバイス)への処理だけをサポートしています。ローカルドライブに対して、バックアップを実施してください。

10.7 資源配付ユーティリティコマンド全般に関するトラブル

10.7.1 資源配付用のコマンドを実行すると、エラーメッセージが出力され、失敗する

エラーメッセージ

```
エラー：00220：コマンド実行中にエラーが発生しました。 エラーコード
（EACCES）,詳細情報（User Authority）。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

コマンド実行されるサーバ（自サーバ，相手サーバ）で、ACLマネージャが動作していますか。

対処方法

問題が発生しているサーバで、以下のサービスが起動しているか確認してください。

```
Systemwalker ACL Manager
```

ACLマネージャがコマンド実行時点で動作していない場合は、ACLマネージャのサービスを起動してください。
起動しても対処できない場合は、ACLマネージャのサービスを再起動してください。

10.7.2 資源配付用のコマンドが時間が経過しても復帰してこない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

コマンドで出力するデータ量が多くないですか。

対処方法

コマンドの応答を待ってください。(注)

注)

実行されたコマンドが、CPUを使って処理を継続している状態かどうか確認してください。処理が継続されている場合は、そのまましばらくお待ちください。処理が継続されていない場合は、アテンション割込みでコマンド処理を止め、資源配付サービスを再起動し、再度コマンドを実行してください。

対処2

確認ポイント

以下の要因は考えられませんか。

- 過去に資源配付用のコマンドを実行して、アテンション割込みによって停止させていませんか
- システムまたは資源配付プロセスに負荷がかかっていませんか
- 資源配付起動直後で、drmsmプロセス起動前に、コマンドを実行していませんか
- サーバポリシー適用時のサービス起動・停止中にコマンドを実行していませんか
- 実行カレントに、drmsXXXという同じファイル名が存在していませんか
- IPC資源の枯渇が発生していませんか

対処方法

資源配付サービスを再起動してください。

- [Windows版の場合]

  [コントロールパネル]-[サービス]で、以下のサービスを再起動してください。

  ```
  Systemwalker MpDrms
  ```

- [UNIX版の場合]

  以下の手順で再起動します。

  1. 以下のコマンドを実行し、資源配付デーモンを停止します。

     ```
     drmsd -f
     ```

  2. 以下のコマンドを実行し、資源配付デーモンを起動します。

     ```
     drmsd -s
     ```

10.7.3 DOSプロンプトで、ネットワークドライブをカレントにして、資源配付用のコマンドを実行すると失敗する

エラーメッセージ

```
エラー:00220：コマンド実行中にエラーが発生しました.エラーコード
(ENETWORKPATH),詳細情報(z:¥¥drms_3652).
```

詳細情報にはネットワークドライブのdrms_XXXXが出力されます。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

資源配付のコマンドは、ローカルドライブ上でしか実行できません。カレントをローカルドライブに移動してから再実行してください。

10.7.4 シェルスクリプトで資源配付のコマンドのオプションに#付きの引数を指定すると、コマンドがエラーとなる場合がある

シェルスクリプトで資源配付のコマンドのオプションに#付きの引数を指定すると、コマンドが以下のエラーとなる場合があります。

エラーメッセージ

【誤ったコマンド例】

```
# drmsdlt -a rsc -g #DEF#POLICY -v SERVER
```

【メッセージ】

```
drmsdlt: オプションには引数が必要です -- g
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

- UNIXシステムのシェルスクリプトで資源配付のコマンドを実行していませんか
- bourneシェル上でコマンドを実行していませんか

引数に指定する文字として#は指定できますが、UNIX上では#はシェルのコメント扱いの文字となります。そのため、引数を""(ダブルクォーテーション)で囲まないと、システムのgetopt関数がエラーを返す可能性があります。

対処方法

UNIXのシェルスクリプトで#を含んだ文字列を引数として指定する場合は、引数を""(ダブルクォーテーション)で囲んでください。

```
# drmsdlt -a rsc -g "#DEF#POLICY" -v SERVER
```

10.8 そのほかのトラブル

10.8.1 SolarisのSystemwalker Centric ManagerとGSのDRMS間の定義がよくわからない

対象バージョンレベル

- Solaris版(EE/SE):10.0～V13.2.0
- Solaris版(GEE):5.0～V13.2.0

対処方法

以下の説明に従い、定義の見直しを実施し問題ないか確認してください。

Solaris版の運用管理サーバでの動作環境設定

1. DTSの環境設定

   DTS編集ファイルに定義する以下の命令については、資源配付用として固有に定義する必要があります。

   DTS編集の詳細とDTSの動作に必要な関連製品の編集については、“FUJITSU DTS説明書”を参照してください。

   - node命令

     node命令のnameオペランドで指定するGS部門管理/業務サーバ名は、資源配付でシステム名の定義時に使用するdrmsdfnコマンドで指定するノード名（-nオプション）と、同一にしてください。

   - path命令

     path命令のapplオペランドには、以下の様に定義します。

     ```
     appl=drms
     ```

   - appl命令

     appl命令のnameオペランドには、以下の様に定義します。

     ```
     name=drms
     ```

     appl命令のapplpathオペランドで指定するパス名は、以下の様に定義します。

     ```
     /opt/FSUNdts/lib/drmsresp
     ```

   【設定例】

   以下にDTS編集ファイルの作成例を示します。

```
begin
comdef   msglvl= ....
node     name=FUJITSU
         path= .....
path     name= .....
         appl=drms
         req_path= .....
         ind_path= .....
         protocol= .....
appl     name=drms
         applpath=/opt/FSUNdts/lib/drmsresp
end
```

2. 資源配付の環境設定

   a. 共有ライブラリの設定

      資源配付がDTSと連携する場合、DTSは、資源配付の共有ライブラリを参照します。資源配付がDTSと連携する場合は、/opt/FSUNdrms/libのパス名で、/opt/FJSVmpsdl/libを参照する必要があります。

      そのため、資源配付がDTSと連携する場合は、以下の様にシンボリックリンクファイルを作成します。

```
# cd /opt <enter>
# ln -s /opt/FJSVmpsdl /opt/FSUNdrms <enter>
```

   b. DRMS編集ファイルの設定

      “nametype”に部門管理/業務サーバのあて先システム定義時にノード名を指定できるように“HOST”を指定します。

```
nametype=HOST
serverprotocol = DTS
```

   c. GS部門管理/業務サーバのシステム構成の追加

      “Systemwalker Centric Manager GEE 説明書”、“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition説明書”または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド”を参照してください。

GS部門管理/業務サーバの作業について

1. 必要製品をインストールします。

   - DRMS V22L20以降
   - DTS V20L10以降
   - IDCM V10L10 D91061以降

   詳細は、“OSIV DRMS V22L20ソフトウェア説明書”を参照してください。

2. VTAMおよびDTSなどの通信環境を定義します。

   a. VTAMの定義を行います

      DTS接続時に必要なVTAM定義については、“DTS運用手引書”を参照してください。

   b. DTSの定義を行います

      定義例を参考にSolarisとGSの定義を行います。詳細については、“DTS運用手引書”を参照してください。

      関連マニュアル：

      OSIV VTAM-G TISP説明書

      OSIV DTS解説書

      OSIV DTS運用手引書

      OSIV DTS使用手引書

      OSIV DTSメッセージ説明書

3. DRMSを準備します。

   a. DRMS管理ファイル環境を作成します

      詳細は、“DRMS運用手引書”の“DRMS管理ファイルの作成”の記述を参照してください。

   b. 作成したDRMS管理ファイル環境を初期化します

      詳細は、“DRMS使用手引書”の“管理ファイル初期化ユーティリティ”の記述を参照してください。

4. DRMSおよびDTSを起動します。

   以下の手順でDRMSとDTSを起動します。

a. DRMSを起動します。

“DRMS使用手引書”の“DRMSマネージャの操作方法”の記述を参照してください。

b. DTSを起動します。

“DTS使用手引書”を参照願います。

5. DRMSの自システム定義をします。

詳細は、“DRMS使用手引書”の“DFNSYS制御文”の記述を参照願してください。

定義例)

```
ＧＳ側のＤＲＭＳの定義例◁
        DFNSYS SYSNAME=SOLAR[S],PROT=],NODENM=SOL01

ＧＳ側のＤＴＳの定義例◁
        JVTGCBGN
        JVTGCOMM NODENM=KDTS],                                  C
              FUNC=BTS,                                         C
              BCOMNM=BFTP3,                                     C
              SCALE=100,                                        C
              BSCALE=100,                                       C
              BTSPROC=JVTJBX],                                  C
              MSG[NFI=(F[LE,DF[LE,[NT[D,PATH,ERDMSG),   ①       C
              MSG[NFR=(F[LE,DF[LE,[NT[D,PATH),                  C
              BRBF[L=]0000,                                     C
              BUFF=(256,200),                                   C
              BBUFF=(256,200),                                  C
              DUPMSG=]0,                                        C
              WBUFF=(256,200),                                  C
              DTS[D=DX
        JVTGCEND
        JVTGNBGN
        JVTGNODE NODENM=SOL01,USERNMG=RACF,DFTAUTH=SYS,         C
              PROT[ME=(],1),TRANRTY=(],])
        JVTGNPTH PATHNM=SOL,                                    C
              PARTNM=PLHST,                                     C
              [PADDR=(]72,25,16],176),②                         C
              SCOMBUF=4096,                                     C
              PROT=BFTP,                                        C
              APPLNO=244,                                       C
              DUPRSP=99,                                        C
              BPORT=9232,                                       C
              GRPNM=DRMS
        JVTGNEND
        JVTGABGN
        JVTGAPPL APPLNM=#DRMS,                                  C
              APLTYPE=(BTS,SYS),                                C
              USEGRP=DRMS,                                      C
              TBLNM=KZBLPPDT        ④
        JVTGAEND

Ｓｏｌａｒｉｓ側SERV[CESファイル
dts     9232/tcp

Ｓｏｌａｒｉｓ側HOSTSファイル                ③
MPCLOSE 10.124.2.9
                                  ⑤
Ｓｏｌａｒｉｓ側のＤＴＳの定義例です
begin
comdef  msglvl=i
node    name=MPCLOSE
        path=PATH_]
        port=9240
path    name=PATH_]
        appl=drms◁
        req_path=244
        ind_path=244            ⑥
        protocol=FTPM
        combuf=4096
appl    name=drms
        applpath=/opt/FSUNdts/lib/drmsresp
end

ＧＳ側ＶＴＡＭ定義
BFTP3   APPL    PORT=9240,FLOW=(127,450)
```

ＤＴＳ接続時の定義確認項目
①ノード名の確認
②ＩＰアドレスの確認
③業務番号の確認
④Solarisポート番号の確認
⑤ＨＯＳＴＳ定義の確認
⑥GS側ポート番号の確認

10.8.2 KERNEL32.DLL、COMCTL32.DLL、USER32.DLLなどの初期化エラーが発生する

エラーメッセージ

ダイナミック リンク ライブラリ C:¥WINNT¥system32¥KERNEL32.DLLの初期化に失敗しました。プロセスは異常終了します。
ダイナミック リンク ライブラリ C:¥WINNT¥system32¥COMCTL32.DLLの初期化に失敗しました。プロセスは異常終了します。
ダイナミック リンク ライブラリ C:¥WINNT¥system32¥USER32.DLLの初期化に失敗しました。プロセスは異常終了します。

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバに負荷がかかる以下のような運用を行っていませんか。

- 運用管理サーバ配下の多数のサーバに対して、同時にダウンロード操作を実施する運用
- 運用管理サーバに対して、多数の部門管理/業務サーバから、同時に適用結果通知処理やインベントリ通知を実施する運用

対処方法

資源配付側の運用を見直し、運用管理サーバに負荷のかからない運用を実施してください。

対処2

確認ポイント

プロセス（コンソールアプリケーション：GUI操作によるウィンドウを持たないプログラム、CUIで実行したプログラムなど）が多数起動されていないか、タスクマネージャから確認してください。

（Windows NTの場合は、Option PackでIISをインストールすると、コンソールアプリケーションを同時に起動できる数が減少するため、上記メッセージが発生しやすくなります。）

対処方法

アプリケーションが多数起動されている場合は、デスクトップヒープの枯渇が発生している可能性があります。その場合は、不要なアプリケーションを停止させてください。

また、IISで、以下の機能を使わない場合は、レジストリの変更を検討してください。

- CGI アプリケーション
- ISAPI アプリケーション
- COM オブジェクト

注意

レジストリは Windows NTシステムの非常に重要なファイルです。レジストリの編集を誤ると、Windows NTが起動しなくなるなど、再セットアップを余儀なくされるような事態が発生するおそれがありますので、システムのバックアップを行うなど十分に注意して変更してください。

レジストリの変更

ハイブ：HKEY_LOCAL_MACHINE

キー：System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems

値名：Windows

- パラメタ：修正前

```
SystemRoot%¥system32¥csrss.exe  ～
～  SharedSection=1024,3072,512
```

- パラメタ：修正後

```
SystemRoot%¥system32¥csrss.exe  ～
～  SharedSection=1024,3072
```

備考

第3パラメタは、「1024」「2048」と段階的に設定する方法もあります。第3パラメタを削除した場合、第2パラメタの値がデフォルトで第3パラメタにも適用されます。第3パラメタを大きくし過ぎた場合、OSや他製品でデスクトップヒープ不足を引き起こす可能性がありますので本番環境に適用する前に十分なテストを実施して下さい。
デスクトップヒープの詳細なチューニング方法については、OSのサポートに確認してください。

Windows Server 2003以降の場合、OS起動後、最初のデスクトップヒープ不足発生時点で、イベントログに「警告 243 Win32k デスクトップ ヒープの割り当てに失敗しました。」が出力されている場合があります。

対処3

確認ポイント

資源の配付またはインベントリ情報の収集で、配付多重度/受信多重度により、システムに負荷がかかっていませんか。

対処方法

資源の配付/インベントリ情報の収集について、運用形態/要件を配慮の上、以下に示す配付多重度または受信多重度のチューニング（絞り込み）による対処を実施してください。

- [配付多重度]（資源の配付）
  - 同時実行させるdrmssndコマンド数の削減と実行方式の変更（非同期型→同期型）
  - drmssndコマンドで指定する配付あて先数の削減
  - DRMS編集ファイルに指定するservmax オプション（同時接続サーバ数）の指定値削減
- [受信多重度]（配付結果の受信/インベントリ情報の受信）
  - 同時通知される配下サーバ台数の削減（スケジュール文における通知時間の指定を考慮し、通知の集中を回避）
  - DRMS編集ファイルに指定するservnum オプション（同時受信処理サーバ数）の指定値削減

10.8.3 [イベントID:500]のエラーメッセージが出力され、資源配付ができない

対処1

エラーメッセージ1

```
UX:drmsd: ERROR: [00500] A system failure occurred. Failure code (7),
significance level(2),status code(9020002), detailed information(Resource
temporarily unavailable).
エラー：00500：システム障害が発生しました.障害タイプコード（7），重要度（2），
状態コード（9020002），詳細情報（Resource temporarily unavailable）.
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

資源配付のメッセージキューのチューニングをしていますか。

対処方法

使用環境に沿ったメッセージキューのチューニングを実施してください。
チューニング方法は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理サーバの環境構築”の“システムパラメタのチューニング【Solaris版/Linux版】”、または“部門管理サーバ・業務サーバの環境構築”の“システムパラメタのチューニング【Solaris版/Linux版】”を参照してください。

対処2

エラーメッセージ2

```
UX:drmsd: ERROR: [00500] A system failure occurred. Failure code (7),
significance level(2),status code(5010002), detailed information(Too many
links).
エラー：00500：システム障害が発生しました.障害タイプコード（7），重要度（2），
状態コード（5010002），詳細情報（Too many links）.
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

原因

DRMS管理ファイル等の資源配付プログラムがアクセスする場所に、mkdirコマンドを実行したところ、システムからerrno=31 EMLINK(Too many links) 意味「リンクが多すぎます」、エラー理由「LINK_MAXで指定されている値を超える数のリンクを作成しようとしました。」で失敗。

UNIXシステムの場合、LINK_MAXはチューニング不可で32767がシステムの上限。

対処

確認ポイント

DRMS管理ファイルに大量に資源を登録していませんか

例1)メンテナンス版数の総数が32764を越える。

例2) 1 資源グループの保有世代数が32764世代を超過している。

例3)資源登録コマンド(drmsadd)の実行カレントに32764のディレクトリ/ファイルが既に存在する。

対処方法

DRMS管理ファイルに登録されている過去の不要な世代情報を削除してください。

対処3

エラーメッセージ3

```
[00500] システム障害が発生しました．障害タイプコード（7），重要度（2），状態コード
（7030001），詳細情報(Bad file descriptor)．
```

対象バージョンレベル

- Windows版：V5.0L10以降

- Solaris版：5.0以降
- Linux版：V10.0L20以降

確認ポイント

クライアントがダウンロード中に、システムの再起動を実施しませんでしたか。

原因

クライアントがダウンロード処理中にサーバが再起動されると、DRMS管理ファイルが破損し情報の不整合が発生することがあります。

対処方法

資源配付を再起動しても現象が再現する場合は、以下のいずれかの対処を実施してください。

- DRMS管理ファイルをバックアップしている場合は、バックアップから復旧してください。
- DRMS管理ファイルチェックコマンド（drmsmchk）でDRMS管理ファイルに異常箇所がないかチェックし、その結果を添えてサポート技術員にご連絡ください。
- サポート技術員にご相談ください。

備考

DRMS管理ファイルチェックコマンド（drmsmchk）は、以下のV/Lで使用可能です。

- Systemwalker CentricMGR V10.0L21/10.1以降

10.8.4 DRMSデーモン起動中、エラーコードENOSPCのエラーが発生し、DRMSデーモンが停止してしまうことがある

エラーメッセージ

以下のどれかの、エラーコードENOSPCのエラーメッセージが出力される。

```
UX:drmsd: ERROR: [00220] An error has occurred during execution of the
utility.
Error number(ENOSPC), detailed information
(/opt/FJSVmpsdl/drmswork/tmp/w_1054603795_2074_0).
```

```
UX:drmsd: ERROR: [00402] An error has occurred during RMSLEVEL V070045.
30603002 reception.
Error code(ENOSPC), detailed information
(/opt/FJSVmpsdl/drmswork/tmp/wrscdir_2074).
```

```
UX:drmsd: ERROR: [00500] A system failure occurred.
Failure code (0), significance level(0),
status code(c030031), detailed information(ENOSPC).
```

対象バージョンレベル

- 5.0以降

確認ポイント

DRMS管理ファイルまたはwork_dirの指定場所が、inode不足が発生しているufsかどうか、以下のコマンドで確認してください。

```
df -F ufs -o i
```

対処方法

inode不足の場合、DRMS管理ファイル内の古い配付済不要資源を削除してください。または、inodeを増加させてufsのパーティション再作成(DRMS管理ファイルバックアップ/リストア)を行ってください。

参考

DRMS管理ファイルのinode見積り式は、以下のとおりです。

【DRMS管理ファイルのinode数見積り式】

```
資源グループ数×（７＋（世代数×（６＋（登録ファイル数(注1)×２)))）＋（メンテナンス版数数×（７＋（世代数×（６＋（３×２)))
×２）＋サーバ数×（９＋（資源数(注2)×４））＋業務数＋適用先ＩＤ数＋
ＣＳＶファイルを受信するサーバ数×保持するCSVファイル数＋５００
```

注1）資源グループに登録されるファイル数。前・後パッチを含みます。

注2）資源グループ、メンテナンス版数、SYSLEVELの和。

10.8.5 ポートスキャンを実行すると、再起動が必要である旨のシスログ(イベントログ)が出力される

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降
- Linux for Itanium版:V12.0l10以降

原因

インベントリ管理が使用するポートに対してポートスキャン(nmap)を実行すると、以下のようなログが出力される場合があります。当現象が発生しても特に問題はありません。

- 【Solaris版、Linux版、Linux for Itanium版の場合】

  以下のようなログが、システムログに出力されます。

  UX:FJSVsivmg: [ID xxxxxx daemon.error] ERROR: 6001: システム異常が発生しました.

  ([ホスト名] , detail=1579-02010000)

- 【Windows版の場合】

  以下のようなログが、イベントログ(アプリケーション)に出力されます。

  - ソース: MpDTPServer
  - 種類: エラー
  - イベントID: 6001
  - 説明: システム異常が発生しました。([ホスト名], detail=1579-02010000)

対処方法

当現象が発生しても特に問題はなく、対処の必要はありません。

備考

ポートスキャンにより送信された異常なデータを誤って解析し、その解析結果から異常を検知してログを出力します。

ログ出力される理由自体が誤検出によるものであるため、問題はありません。

10.8.6 サーバ側の資源配付インストールディレクトリのディスクパーティションが空き容量不足になる

エクスプローラ(Windowsの場合)またはdf -kコマンド(Solarisの場合)で、サーバ側の資源配付インストールディレクトリが存在するドライブまたはファイルシステムの容量を確認すると、空き容量がわずかしかない場合がある。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

サーバ側のDRMS管理ファイルをインストールディレクトリ内に作成し、かつメンテナンス版数または資源グループを多数作成していませんか。
DRMS管理ファイルの容量が大きすぎる場合は、不要な資源を削除することでDRMS管理ファイルの容量を減らし、ディスクの空き容量を増やすことができます。

対処方法

drmsdltコマンドまたは[資源配付]ウィンドウを実行して不要な資源を削除してください。
またDRMS管理ファイルのディスク容量が多くなることが予想される場合は、インストールディレクトリ(デフォルト場所)以外の場所にDRMS管理ファイルの設置場所を変更することをおすすめします。
DRMS編集ファイルのdrmspathオプションで設置場所を変更できます。

10.8.7 運用管理サーバ上でメンテナンス版数/個別資源を削除すると、世代不整合エラーが発生するようになった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

メンテナンス版数/資源グループの新しい世代を運用管理サーバ上だけで削除し、配下の部門管理/業務サーバは削除対象のメンテナンス版数/資源グループを保持している場合に、本事象が発生します。

対処方法

配下サーバに残っている該当の世代を削除してください。
なお、メンテナンス版数/資源グループの新しい世代を運用管理サーバで削除する場合は、配下の部門管理/業務サーバが、削除対象のメンテナンス版数/資源グループの世代を保持していないかを確認してください。

保持している場合は、配下サーバ・クライアントも含めて削除を行ってください。

10.8.8 資源配付がhttp通信およびhttps通信で使用するポート番号が他のアプリケーションと重複する

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Solaris版:5.0～V13.2.0
- Linux版:V10.L20～V13.2.0

確認ポイント

DRMS編集ファイルに、「https_server = YES」「https_client = YES」のオプションが指定されているかを確認してください。

対処方法

DRMS編集ファイルに「https_server = YES」「https_client = YES」のオプションが指定されている場合、servicesファイルに定義されたポート番号（初期値は9398/tcp，9399/tcp）を資源配付で使用します。このポート番号が他のアプリケーションと重複する場合、servicesファイル内のポート番号定義（初期値はdrmshss 9398/tcp，drmshsc 9399/tcp）を変更し、ポート番号が重複しないようにしてください。

10.8.9 Linux版の資源配付デーモンの起動抑止方法がわからない

対象バージョンレベル

- Linux版:V10.0L20以降

対処方法

以下の対処をすべて実施してください。

- Linux版でインストールされる資源配付の起動スクリプトを以下に示します。
  - Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合/
    Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.2.0以前の場合
    - /etc/rc2.d/S99mpsdl
    - /etc/rc3.d/S99mpsdl
    - /etc/rc5.d/S99mpsdl

    起動を抑止するには、起動スクリプトのファイル名を変更し、先頭の 1 文字を小文字にする（“S” → “s”）などしてください。
  - Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.3.0以降の場合/
    Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合

    以下のコマンドを使用して、systemdからの自動起動を無効にします。

    ```
    systemctl disable mpsdl
    ```

    自動起動を有効にするには、以下のコマンドを実行します。

    ```
    systemctl enable mpsdl
    ```

注意

資源配付デーモンに対して実行できるsystemctlコマンドの運用操作は、以下のみとなります。

- systemctl disable
- systemctl enable
- systemctl is-enabled

上記以外の運用操作は、Systemwalker Centric Managerが提供しているコマンドを利用してください。

- 以下の設定変更により、資源配付をプロセス監視の監視対象から外してください。
  1. /etc/opt/FJSVftlc/pmon/mppmon.usrを以下のように修正して下さい。

     [FD] drmsd=2

     ↓

     [FD] drmsd=0
  2. 以下のコマンドを実行して、プロセス監視機能を再起動してください。

     /opt/FJSVftlc/pmon/bin/stpmppmon.sh

     /opt/FJSVftlc/pmon/bin/strmppmon.sh

- デーモン起動・停止制御ファイル上は、資源配付は運用停止の可否が“×”(停止できません)となっていますが、以下の変更例のようにコメントアウトすることでscentricmgrコマンドでの起動を抑止できます。

```
======
ファイル名：/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini （注）
======
@   機能名: 資源配付
@   運用停止の可否: 運用管理サーバ  ×
@                   部門管理サーバ  ×
@                   業務サーバ      ×
DAEMON30(C8)=”/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s”
======
```

変更例)

DAEMONXX="/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s"

↓

#DAEMONXX="/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s"

XXは、ご利用の版またはインストール種別により異なります。

注)

バージョンレベルによりファイル名が異なります。

V13.1.0以降の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini
```

V10.0L20からV13.0.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
```

10.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_drms.ini
```

10.8.10 システム再起動時に資源配付（drmsdemon）が起動されない

エラーメッセージ

```
UX:MpPmonC: ERROR: 106: 'Systemwalker Centric Manager'のプロセス
  ('drmsdemon')が正常に動作しているか確認してください。
```

対象バージョンレベル

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

システム起動時に資源配付(drmsdaemon)の起動を無効化する設定にしていませんか。

- Solaris版の場合

  資源配付の起動スクリプトの名前を変更していませんか。

  /etc/rc2.d/S76drmsiapl

  /etc/rc2.d/Sb0strdrms

  例）起動スクリプトの先頭の“S”を“s”に変更し、起動を無効化していた。

```
/etc/rc2.d/sb0strdrms
```

- Linux版の場合

  - Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合/
    Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.2.0以前の場合

    資源配付の起動スクリプトの名前を変更していませんか。

    /etc/rc2.d/S99mpsdl

    /etc/rc3.d/S99mpsdl

    /etc/rc5.d/S99mpsdl

    例）起動スクリプトの先頭の“S”を“s”に変更し、起動を無効化していた。

```
/etc/rc2.d/s99mpsdl
```

  - Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.3.0以降の場合/
    Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合

    systemdから資源配付の自動起動を無効化していませんか。以下に示すコマンドを実行して、自動起動の状態を確認します。

```
systemctl is-enabled mpsdl
```

    “enabled”と表示されれば、自動起動は有効です。

原因

システム起動時の資源配付(drmsdaemon)の起動を無効化しているにもかかわらず、資源配付がプロセス監視の監視対象になっています。

対処方法

- 資源配付機能を使用しない場合

  1. 以下の設定変更により、資源配付をプロセス監視の監視対象から外してください。

     1. /etc/opt/FJSVftlc/pmon/mppmon.usrを以下のように修正して下さい。

        [FD] drmsd=2

        ↓

        [FD] drmsd=0

     2. 以下のコマンドを実行して、プロセス監視機能を再起動してください。

        /opt/FJSVftlc/pmon/bin/stpmppmon.sh

/opt/FJSVftlc/pmon/bin/strmppmon.sh

2. デーモン起動・停止制御ファイルで資源配付の起動を抑止してください。

   デーモン起動・停止制御ファイル上は、資源配付は運用停止の可否が“×”(停止できません)となっていますが、以下の変更例のようにコメントアウトすることでscentricmgrコマンドでの起動を抑止できます。

```
======
ファイル名：/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini　(注)
======
@　機能名: 資源配付
@　運用停止の可否: 運用管理サーバ　×
@　　部門管理サーバ　×
@　　業務サーバ　　×
DAEMON30(C8)=”/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s”
======
```

   変更例)

   DAEMONXX="/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s"

   ↓

   #DAEMONXX="/opt/FJSVmpsdl/sys/drmsd -s"

   XXは、ご利用の版またはインストール種別により異なります。

   注)

   バージョンレベルによりファイル名が異なります。

   V13.1.0以降の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini
```

   5.2.1以前および10.1からV13.0.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
```

   10.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_drms.ini
```

- 資源配付機能を使用する場合
  - Solaris版の場合

    起動スクリプトを正しい名前に変更してください。

    /etc/rc2.d/S76drmsiapl

    /etc/rc2.d/Sb0strdrms
  - Linux版の場合
    - Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合/
      Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.2.0以前の場合

      起動スクリプトを正しい名前に変更してください。

      /etc/rc2.d/S99mpsdl

      /etc/rc3.d/S99mpsdl

      /etc/rc5.d/S99mpsdl

- Red Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.3.0以降の場合/
  Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合

  以下のコマンドを使用して、systemdからの自動起動を有効にします。

```
systemctl enable mpsdl
```

注意

OSがRed Hat Enterprise Linux 7、かつ、V15.3.0以降の場合/
OSがRed Hat Enterprise Linux 8以降の場合

資源配付デーモンに対して実行できるsystemctlコマンドの運用操作は、以下のみとなります。

- systemctl disable
- systemctl enable
- systemctl is-enabled

上記以外の運用操作は、Systemwalker Centric Managerが提供しているコマンドを利用してください。

10.8.11 時間の経過とともに運用管理サーバの資源配付の操作で遅延が発生するようになるが、資源配付を再起動することで解消する

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V13.2.0
- Solaris版:5.0～V13.2.0
- Linux版:V10.0L20～V13.2.0

確認ポイント

- 論理構成でクライアントを管理しており、かつ、接続先サーバがダウンしたときに切り替える運用を行っていませんか。
- 現象発生時、運用管理サーバで配下サーバの台数を越える数のdrmsscプロセスが多重に動作していませんか。

原因

接続先サーバのダウン時にクライアントの接続先を切り替えた際、変更先のサーバで運用管理サーバへ適用結果通知で通知する情報が肥大化し、運用管理サーバでのDRMS管理ファイルへの反映処理がサーバ間通信の無通信監視時間(stimerオプション：デフォルト60分)内に完了せず、適用結果通知を繰り返す状況が発生しています。

そのためDRMS管理ファイルへの反映処理が多重で処理され、資源配付の操作で遅延が発生しています。

対処方法

クライアントの全接続先サーバについて、以下の手順で適用結果通知を完了させてください。

以下は、運用管理サーバ－業務サーバ（クライアントの接続先サーバ）－クライアントの3階層のWindowsシステムの構成を例として説明しています。

適用結果通知を繰り返す状態が発生している接続先サーバが判明している場合は、3.の作業はそのサーバに対して実施してください

1. 全業務サーバが適用結果通知を行わないように設定を変更します。かつ、無通信監視時間を最大値に変更します。

   以下のa.～c.を全業務サーバに対して実施してください。

   a. 業務サーバの資源配付サービスを停止します。

```
drms -p
```

b. 業務サーバのDRMS編集ファイル(%drmsroot%¥etc¥drms.dat)を以下のとおり修正します。

[変更]

```
schedule = スケジュール情報ファイルのファイルパス
          ↓
#schedule = スケジュール情報ファイルのファイルパス
```

```
notify_allowance = nn
          ↓
#notify_allowance = nn
```

notify_allowanceの変更は設定している場合のみ必要です。

[追加または変更]

```
stimer = 600
```

stimerの指定値を変更する場合は、元に戻す場合を考慮して、変更前の指定行をコメント行とするか、変更前の値を覚えておく必要があります。

c. 業務サーバの資源配付サービスを起動します。

```
drms -s
```

2. 運用管理サーバの資源配付を再起動します。

再起動することで、処理中の適用結果通知のDRMS管理ファイルへの反映処理（drmsscプロセス）をキャンセルします。

a. 運用管理サーバの資源配付サービスを停止します。

```
drms -p
```

b. 運用管理サーバの資源配付サービスを起動します。

```
drms -s
```

3. 業務サーバを１台ずつ、適用結果通知を完了させます。

以下のa.～e.の手順を、業務サーバ１台ずつに対して実施してください。

a. 業務サーバの資源配付サービスを停止します。

```
drms -p
```

b. 業務サーバのスケジュール情報ファイルを修正し、適用結果通知が１回だけ実行されるように変更します。

[変更例]

```
func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(10.20.30.40),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/
ip),interval_time(10)"
          ↓
#func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(10.20.30.40),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/
ip),interval_time(10)"
func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(10.20.30.40),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/ip)"
```

既存の設定をコメントに変更し、起動時に１回だけ通知する設定に置き換えています。

c. 業務サーバのDRMS編集ファイル（%drmsroot%¥etc¥drms.dat）を以下のとおり変更します。

[変更]

```
#schedule = スケジュールファイルのファイルパス
          ↓
schedule = スケジュールファイルのファイルパス
```

d. 業務サーバの資源配付サービスを起動します。

```
drms -s
```

e. 運用管理サーバおよび業務サーバでタスクマネージャを起動し、それぞれ以下のプロセスが存在しなくなるまで監視します。

- 運用管理サーバ：drmssc.exe
- 業務サーバ　：drmsccp2.exe

4. 1.で全業務サーバに実施した設定変更を元に戻します。

以下のa.～d.を全業務サーバに対して実施してください。

a. 業務サーバの資源配付サービスを停止します。

```
drms -p
```

b. 業務サーバのDRMS編集ファイル（%drmsroot%¥etc¥drms.dat）を以下のとおり変更し、元の設定に戻します。

[変更例]

```
#notify_allowance = nn
          ↓
notify_allowance = nn
```

```
stimer = 600
    ↓
#stimer = 600
```

c. 業務サーバのスケジュール情報ファイルを元の設定に戻します。

[変更例]

```
#func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(192.168.216.1),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/
ip),interval_time(10)"
func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(192.168.216.1),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/ip)"
          ↓
func=complete(apply),type=ipl,option="sysname(192.168.216.1),rsc(all),sts(all),protocol(tcp/
ip),interval_time(10)"
```

d. 業務サーバの資源配付サービスを起動します。

```
drms -s
```

10.8.12　メンテナンス版数を削除した場合に「SYSLEVEL」資源グループが残る

対象バージョンレベル

- Windows版: V5.0L10以降
- Solaris版: 5.0以降
- Linux版: V10.0L20以降

確認ポイント

- メンテナンス版数を世代名指定をせずに削除していませんか。
- メンテナンス版数に登録されていない世代が、「SYSLEVEL」資源グループの世代に存在していませんか（例：メンテナンス版数（RMSLEVEL）の世代はRMS00001で、「SYSLEVEL」資源グループの世代はRMS00000とRMS00001のように、「SYSLEVEL」資源グループのみにRMS00000という世代が存在している状態）。

原因

「SYSLEVEL」資源グループは、メンテナンス版数を適用時に自動作成しますが、確認ポイントに示すような場合は、メンテナンス版数の削除時に自動的に削除されません。

対処方法

該当「SYSLEVEL」資源グループの世代を“drmsdlt -a rsc”コマンドにて削除してください。

10.8.13 クラスタ環境で保守情報を収集しようとすると、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
アプリケーション エラー : アプリケーションを正しく初期化できませんでした (0xc0000142)。
[OK] をクリックしてアプリケーションを終了してください。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
  - Windows版

確認ポイント

- 資源配付をクラスタサービスとして運用されていませんか。
- クラスタの待機系で、資源配付を含む保守情報を採取しようとしていませんか。
- 共有ディスクがマウントされていないのではありませんか。

原因

共有ディスクがマウントされていないことが原因です。

保守情報収集ツールによる資源配付の資料採取時に内部実行されるdrmslookコマンドは、共有ディスク上の資源配付の設定ファイル（%drmsroot%¥etc配下のファイル）を参照します。

共有ディスクがマウントされていない状態でdrmslookコマンドが実行されると、設定ファイルへのアクセスに失敗し、上記エラーメッセージが出力されます。

対処方法

- クラスタの待機系で資源配付の資料を採取する必要はありません。保守情報収取ツールの「機能選択」で“資源配付”のチェックを外して、採取対象外としてください。
- 資源配付の資料を採取したい場合は、共有ディスクをマウントしてから保守情報収集ツールによる資料採取を行ってください。

なお、本現象が発生した場合でも、資源配付を除くSystemwalker Centric Managerの機能（コンポーネント）については資料採取できています。出力された資料を採取してください。

第11章　そのほかのクライアントに関するトラブルシューティング

11.1　サービス起動に関するトラブル

11.1.1　ダウンロード機能をサービスから実施しようとした場合に、ダウンロード処理は終了しているのに、サービスが停止しない

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

サービス起動処理の延長で動作するバッチファイル（nstart.bat、astart.bat）が終了していない可能性があります。当バッチファイル内で任意のコマンドを実行している場合には、そのコマンドから復帰していないと考えられます。

確認ポイント

nstart.bat、astart.batより呼び出したコマンドは終了していますか。

対処方法

バッチファイル内から呼び出すコマンドは、バッチファイル復帰するコマンドとしてください。または、バッチファイルに復帰しないコマンドを呼び出す場合には“start コマンド名”と指定して、コマンドの完了を待ち合わせないようにしてください。

11.1.2　アイコンクリックによるダウンロードは正常終了するのに、サービスからのダウンロード処理を実行すると適用エラーが発生する

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

適用対象のファイルのアクセス権限はありますか。

対処方法

クライアントで、ダウンロード機能をサービスから実行した場合、ダウンロード処理は、以下のサービスの動作権限（ログオンアカウント）で動作します。

```
Systemwalker MpDrmscl
```

このため、ファイルにアクセス権限が設定されている場合など、動作権限の違いによりファイルアクセスやコマンド実行に失敗する可能性があります。

サービスのアカウントをダウンロード処理のできるユーザアカウントに変更して実行してください。

11.1.3　ログインするアカウントに対してセキュリティをかけている場合に、サービス起動を設定し、ログインした後エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
KZBY519 ファイル属性の設定に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

サービス起動使用時の定義情報の誤りが考えられます。

確認ポイント

資源配付クライアント セットアップ機能の実行環境を[システム起動時のダウンロード]を[起動する]と指定していませんか

対処方法

資源配付クライアント セットアップ機能の実行環境[システム起動時のダウンロード]を[起動しない]を指定してください。

11.1.4 サーバ側で「TCPセション切れ」、クライアントで同一時刻に「受信中断」エラーが発生した

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

ユーザが意図してダウンロード処理を中断したとき、資源配付クライアントダウンロード機能（dwldrms.exe）は、復帰コード0で正常扱いとし、nstart.batが起動されます。
mainte.logの文字列「警告:受信を中断しました」がユーザが中断したことを示しており、サーバ側のエラーイベントは、通信中に相手（クライアント）側からTCP/IPコネクションがリセットされていることを示しています。

確認ポイント

クライアントで、ダウンロードの[中断]ボタンをクリックしていませんか。
クライアントのDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）にあるmainte.logファイルに、以下の情報があれば中断されています。

```
警告:受信を中断しました
```

対処方法

再度ダウンロード処理を実行してください。

11.1.5 Windows XPの制限付きアカウントでログインした場合、資源配付ダウンロード機能が使えない

エラーメッセージ

```
KZBY152 wsagent.iniの処理で異常が発生しました。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

- 5.0以降

原因

資源配付クライアント機能を実行直後にエラーが発生しています。
DRMS管理ファイルディレクトリ、%drmsc%または%tmp%のどれかにアクセス権限がないことが考えられます。

対処方法

ダウンロード機能を使用するユーザが、DRMS管理ファイルディレクトリ、%drmsc%および%tmp%のいずれにもアクセス可能かどうかを確認します。
アクセスできない場合は、アクセス可能な状態にしてください。

11.1.6 ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップを行ったところ、ダウンロード、適用および適用結果通知は正常終了しているにもかかわらず、必ずastart.batが実行される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

McAfeeのVirusScanは、V4.5からV4.5.1 SP1以降にするとVirusScanの処理に変更が入り、スキャン対象のファイルの最終更新日時(LastAccessTime)を一時的に更新する処理が入っています。そのため、資源配付クライアント側の処理が誤認識させられ、本事象が発生します。

確認ポイント

- ウィルス対策ソフトウェアのサービスを停止すると本事象は発生しなくなりませんか
- ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップ前は発生しないのではありませんか
- ウィルス対策ソフトウェアは、McAfeeのVirusScan V4.5.1 SP1ではありませんか
- DRMS管理ファイルをウィルス対策ソフトウェアの検索対象にしていませんか

対処方法

以下のどちらかの対処により、問題回避してください。

- ウィルス対策ソフトウェアのサービスは、資源配付クライアントのダウンロード処理完了後に実施する。
- DRMS管理ファイルをウィルス対策ソフトウェアの検索対象外とする。

備考

本件の類似事象として、スタートアップ拡張機能のダウンロードを採用されている場合に、正常にダウンロード処理が終了しているにもかかわらず、異常スタートアップが実行されるという問題が発生します。

11.1.7 資源配付クライアントのダウンロードの設定で、[システム起動時のダウンロード]にチェックしたが、サービス起動によるダウンロードが実行されない

資源配付クライアントのダウンロードの設定で、[システム起動時のダウンロード]にチェックしたが、サービス起動によるダウンロードが実行されず、Windowsにログオンしたタイミングでダウンロード処理が実行されます。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

サービス起動時の定義が誤っています。[システム起動時のダウンロード]のチェックボックスはチェックせずに、システムの以下のサービスの設定を“自動”に変更する必要があります。

- Systemwalker MpDrmscl

対処方法

[システム起動時のダウンロード]のチェックを外して、以下のサービスの設定を“自動”に変更してください。

- Systemwalker MpDrmscl

備考

[システム起動時のダウンロード]のチェックボックスにチェックすると、スタートアップ拡張機能によるダウンロードが行われます。この場合、Windowsにログオンしたタイミングでダウンロードが実行されます。

11.1.8 Windows 2000の環境で、クライアントのダウンロード中にCtrlキー、AltキーおよびDelキーを同時に押すと、ログインもシャットダウンもできなくなることがある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

原因

本現象はWindows 2000の障害です。

確認ポイント

- ダウンロードはサービス起動ですか
- クライアントのOSはWindows 2000ですか

対処方法

コンピュータを再起動して、以下のメッセージが表示されるまで待ってください。

「Ctrl＋Alt＋Delキーを押して開始してください」

11.1.9 「Systemwalker MpDTPDmiClient」サービスのスタートアップの種類が「自動」であるにも関わらずサービスが起動していない

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10～V10.0L21

原因

デスクトップ管理クライアント動作環境設定で、DMI機能が“有効”と設定してある場合だけサービスが開始されます。DMI機能はインストール直後は“無効”となっており、サービスは停止しています。

確認ポイント

デスクトップ管理クライアント動作環境設定でDMI機能が“有効”となっていない場合は、サービスは停止することに注意してください。

対処方法

DMI機能を使用しない場合には、「Systemwalker MpDTPDmiClient」サービスが停止していてもシステムに影響はありません。
「Systemwalker MpDTPDmiClient」サービスを起動させる場合は、デスクトップ管理クライアント動作環境設定でDMI機能を有効にしてください。
詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編”を参照してください。

備考

「Systemwalker MpDTPDmiClient」サービスは、デスクトップ管理クライアント動作環境設定で、DMI機能が“有効”と設定してある場合だけサービスが開始します。
DMI機能を“有効”と設定していない場合は、サービスは停止します（DMI機能はインストール直後は“無効”となっています）。

11.2 スタートアップ拡張機能に関するトラブル

11.2.1 スタートアップ拡張に登録したバッチファイルが二重起動される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

バッチファイルを直接登録していませんか。
Windows 95/98の場合、バッチファイルをスタートアップ拡張（正常/異常スタートアップ）に直接登録すると、最初の実行時にショートカットが自動作成されます。このため、以降システム起動時にバッチファイルとそのショートカットの両方が起動されます。

対処方法

バッチファイルは、スタートアップ拡張（正常/異常スタートアップ）に直接登録しないで別フォルダに格納し、そのショートカットを登録するようにしてください。

11.2.2 「不正な処理を行っている」というポップアップメッセージが出力される

エラーメッセージ

不正な処理を行っている

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

資源配付の正常・異常スタートアップグループ内に登録しているアイコンのプロパティ情報を確認してください。不当なアプリケーションを起動するショートカットが登録されていませんか

対処方法

資源配付の正常・異常スタートアップには、正しいアプリケーションの起動コマンドを記述してください。

事例

Windows 95で、資源配付の用意している正常・異常スタートアップに登録されているアプリケーションの作業フォルダに空白を含むパス名であった場合本現象が発生します。
対処として、通常空白を含むパスを”” で括ることで問題は解消されました。

11.2.3 ダウンロードを実行すると警告メッセージボックスが表示される

エラーメッセージ

スタートアップ拡張 Information ! そのほかのエラーが発生しました。

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

以下のような状況ではありませんか。

- Administrator権限のユーザーでは問題なくダウンロードできる。
- Administrator権限以外のユーザーでダウンロードすると本現象となる。
- 再インストールしても現象は変わらない。

該当コンピュータで、正常/異常スタートアップグループに登録しているアプリケーション、またはアプリケーションのショートカットのリンク先のアプリケーションのアクセス権を確認してください。

対処方法

スタートアップグループのアプリケーションに対して、ログオンユーザアカウントが実行可能なアクセス権を付加してください。

11.2.4 システム起動時のダウンロードを行っているが、スタートアップ拡張からダウンロード処理が実行されなくなってしまった

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

クライアントのDRMS管理ファイルディレクトリ直下に“STUNTF.drm”ファイルがありませんか。

対処方法

“STUNTF.drm”ファイルを削除してください。
DRMS管理ファイル配下に任意のファイルを作成する事は不可ですので、削除してください。

備考

資源配付クライアントは、スタートアップ拡張からダウンロード処理を実行する場合、DRMS管理ファイル直下にSTUNTF.drmディレクトリを作成します。このディレクトリと、既にある“STUNTF.drm”ファイル（資源配付クライアントが作成したファイルではありません）が競合し、ダウンロード処理が実行されなくなっています。

11.2.5 Systemwalkerの資源配付クライアント機能をインストールすると、スタートメニューに「DRMS正常スタートアップ」と「DRMS異常スター

トアップ」が登録されているが、他の同バージョンの資源配付クライアントでは「資源配付正常スタートアップ」と「資源配付異常スタートアップ」の表現になっている場合がある

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

MpWalker/DM V2.0では“DRMS～”と言う名前で登録されており、MpWalker/DMV3.0L10以降で“資源配付～”に変更しています。

“DRMS～”が既に存在する場合は、“資源配付～”は作らない製品仕様です。
“DRMS～”を意識した運用の場合を想定して、“資源配付～”に変更しないようになっています。

確認ポイント

MpWalker/DM V2(DRMSplus,DRMS)からのアップグレードインストールを実行されていませんか。

対処方法

対処は特に必要ありません。
“DRMS～”を他の資源配付クライアント同様“資源配付～”に名前を変更したい場合、手動で変更も可能です。グループには共通グループと個人グループがありますが、変更してグループ内のアプリが正常動作するようになっていれば問題ありません。

11.2.6 ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップを行ったところ、ダウンロード、適用および適用結果通知は正常終了しているにもかかわらず、必ず異常スタートアップが起動される

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

McAfeeのVirusScanは、V4.5からV4.5.1 SP1以降にするとVirusScanの処理に変更が入り、スキャン対象のファイルの最終更新日時(LastAccessTime)を一時的に更新する処理が入っています。そのため、資源配付クライアント側の処理が誤認識させられ、本事象が発生します。

確認ポイント

- ウィルス対策ソフトウェアのサービスを停止すると本事象は発生しなくなりませんか
- ウィルス対策ソフトウェアのバージョンアップ前は発生しないのではありませんか
- ウィルス対策ソフトウェアは、McAfeeのVirusScan V4.5.1 SP1ではありませんか
- DRMS管理ファイルをウィルス対策ソフトウェアの検索対象にしていませんか

対処方法

以下のどちらかの対処により、問題回避してください。

- ウィルス対策ソフトウェアのサービスは、資源配付クライアントのダウンロード処理完了後に実施する。
- DRMS管理ファイルをウィルス対策ソフトウェアの検索対象外とする。

備考

本件の類似事象として、サービス起動のダウンロードを採用されている場合に、正常にダウンロード処理が終了しているにもかかわらず、astart.batファイルが実行されるという問題が発生します。

11.2.7 「APEX.EXEを終了します。」というポップアップメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
APEX.EXEを終了します。
```

対象バージョンレベル

- Windows版: V5.0L10以降
- Solaris版: 5.0以降
- Linux版: V10.0L20以降

確認ポイント

- 資源配付の正常・異常スタートアップグループ内に、フォルダを登録していませんか。
- 拡張子が存在しないアプリケーションまたはショートカットファイルを登録していませんか。

原因

資源配付の正常・異常スタートアップグループ内にフォルダまたは、拡張子が存在しないファイルは登録できません。

対処方法

資源配付の正常・異常スタートアップグループ内にフォルダを登録している場合は削除してください。拡張子が存在しないアプリケーションまたはショートカットファイルを登録している場合は、拡張子を付けたファイル名に変更してください。

11.3 強制配付機能のトラブル

11.3.1 アイコンクリックによるダウンロードは正常終了するのに、サービスからのダウンロード処理を実行すると適用エラーが発生する

対象バージョンレベル

- V10.0L10以降
- 10.0以降

対処方法

“そのほかのクライアントに関するトラブルシューティング”の“サービス起動に関するトラブル”-“アイコンクリックによるダウンロードは正常終了するのに、サービスからのダウンロード処理を実行すると適用エラーが発生する”を参照し、対処してください。

11.3.2 MpdrmsclFsdサービスが起動しない

エラーメッセージ

```
Service Control Manager：エラー：7023：Systemwalker MpdrmsclFsdサービスは、次のエラーの為終了しました。誤ったファンクションです。
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

原因

強制配付のポート番号がWindowsシステムディレクトリ¥SYSTEM32¥drivers¥etc¥servicesファイルに未定義であるためと考えます。クライアント側のservicesファイルが何らかの理由で変更されたか、元々インストール時の設定ミスが考えられます。

対処方法

- 強制配付機能を使用しない場合

  このサービスが起動している必要はありません。エラーの対処は不要です。

- 強制配付機能を使用する場合

  drmsfsdの以下のポート番号をservicesファイル内に定義してください。

```
drmsfsd  4098/tcp
```

11.3.3 サーバ配下のクライアントに対する強制配付に失敗しました

原因

該当のクライアント側でシステム環境変数「TMP」に定義されているフォルダ（C:¥WINNT¥TEMP）の実体が存在していなかった可能性があります。
ダウンロード対象資源は、[資源配付クライアント]設定画面-[実行環境]タブ内のDRMS管理ファイル格納ディレクトリに指定したフォルダ（デフォルトは C:¥drms）で受信後、適用先に配置されます。

資源配付は、システム環境変数「TMP」に定義されたフォルダ（例：C:¥WINNT¥TEMP）を、一時作業域として以下の「1」「2」の処理で使用します。

1. 圧縮ファイルの解凍処理
2. 管理ファイルの更新処理

そのため、DRMS管理サーバ上で資源登録時に圧縮しなかった場合には、クライアントでは、上記の「2」の用途でのみ使用されます。「1」「2」の処理とも完了した後は、フォルダ内の一時ファイルを自動的に削除します。

なお、システム環境変数"TMP"の定義がない場合には、資源配付クライアントのインストールディレクトリ配下（例～D:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpdrmscl）が、一時作業域として利用されます。

確認ポイント

システム環境変数"TMP"に定義されているフォルダは、実在しますか。

対処方法

システム環境変数"TMP"に定義されているフォルダを作成し、強制配付を実施してください。

11.4 そのほかのトラブル

11.4.1 一般ユーザが資源配付クライアントを操作すると時間がかかる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

確認ポイント

- 資源配付クライアントがアクセスする以下のフォルダに対して、アクセス権がありますか
  - 管理ファイル配下
  - %drmsc%配下
  - %TMP%配下
  - %windir%配下
  - セットアップ機能、および%drmsparm%¥drmsparmファイルでパス設定している箇所
- 他製品（Systemwalker SelfHealing）がインストールされていないですか
- %windir%¥Systemwalker¥mpslfmnt¥norepain¥mpdrms.txtファイルへのアクセス権が“読み込みと実行”になっていませんか

対処方法

Administrator権限を付加したIDで資源配付クライアントを操作してください。
または、確認ポイントで示したファイル/ディレクトリおよびフォルダに対して、アクセス権をEveryoneフルコントロールにして下さい。

事例

- 資源配付クライアントのセットアップ機能の[実行環境]タブからその他のタブへ切替えるのに30秒ほどかかる。[実行環境]タブ以外からの移動に関しては正常に動く。
- ダウンロード機能を実行するとダウンロード処理画面が起動するのに時間がかかる。

なお、Administratorが操作すると、問題なく動作する

11.4.2 Windows 98クライアントに資源配付をインストールすると、システムのシャットダウンができなくなる

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

マイクロソフト社のホームページ、サポート技術情報（文書番号：J042606）に事例があります。本情報を参照して対処してください。

11.4.3 クライアント動作時にエラーメッセージ「KZBY905」が表示される

エラーメッセージ

KZBY905 環境変数DRMSCが設定されていません

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処1

確認ポイント

システムの設定で、環境変数DRMSCが設定されていますか。

対処方法

環境変数DRMSCを設定してください。

対処2

確認ポイント

Windows 9x系の場合、autoexec.batファイルの記述が誤っている可能性があります。autoexec.batファイルから他のバッチファイルを呼び出していませんか。

対処方法

Windows 9 x系の場合、autoexec.batファイルから他のバッチファイルを呼び出す時は、callコマンドを使用してください。callコマンドを使用しないで他のバッチファイルを呼び出すと、autoexec.batファイルに処理が戻ってこないため、呼び出し以降の処理や設定が動作しません。詳細は、callコマンドのヘルプを参照してください。

11.4.4 クライアントのmainte.logファイルに「シャットダウン関数を実行します」と出力される

エラーメッセージ

```
シャットダウン関数を実行します。
```

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.0L20以降

原因

このメッセージは、以下の条件の場合にmainte.logファイルに出力されます。

- 資源配付クライアント機能をサービス起動で実行している。かつ
- 適用する資源が存在する。かつ
- ダウンロードから適用結果通知まで正常終了している。

対処方法

このメッセージがmainte.logに出力されていても対処は特に必要ありません。

備考

このメッセージに続いて以下のメッセージがmainte.logファイルに出力されている場合は、シャットダウン関数の発行に失敗したため、リトライ処理が行われています。リトライ処理は、最大5回まで繰り返し行われます。

【リトライ発生時にmainte.logファイルに出力されるメッセージ】

```
シャットダウン処理で異常が発生しました。 inf=InitiateSystemShutdown [エラーコード]
シャットダウン処理を再度実行します。
```

※エラーコードはWin32APIのエラーコードで、通常"21"が出力されます。

エラーコード"21"の意味は以下のとおりです。

ERROR_NOT_READY：The device is not ready.(デバイスの準備ができていない)

【最大5回のリトライでもシャットダウン処理が失敗する場合の対処方法】

リトライ回数を増やしてください。最大10回までリトライします。リトライ回数は、<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MpWalker.DM¥MpDrmscl配下にあるDRMSPARMファイルをテキストエディタで開き、以下のパラメタを設定してください。

```
SREBOOT_RETRY_CNT=10
```

11.4.5 サーバ側のサービスのスタートアップアカウントを変更したが、クライアントのセション開設設定のパスワードを変更していないにもかかわらず、ダウンロードが正常終了する

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V13.2.0

確認ポイント

サーバ側のDRMS編集ファイルでclientcheckオプションにYESが設定されていますか。

clientcheckオプションにYESが設定されている場合、サーバにログインするためのユーザIDとパスワードで認証を行います。clientcheckオプションにNOが設定されている場合(またはデフォルトの場合)、クライアントの認証は行いません。この場合、パスワードとは関係なくダウンロードができます。

DRMS編集ファイルは以下の格納場所にあります。

Windows版：

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat

UNIX版：

/opt/FJSVmpsdl/etc/drmsrc

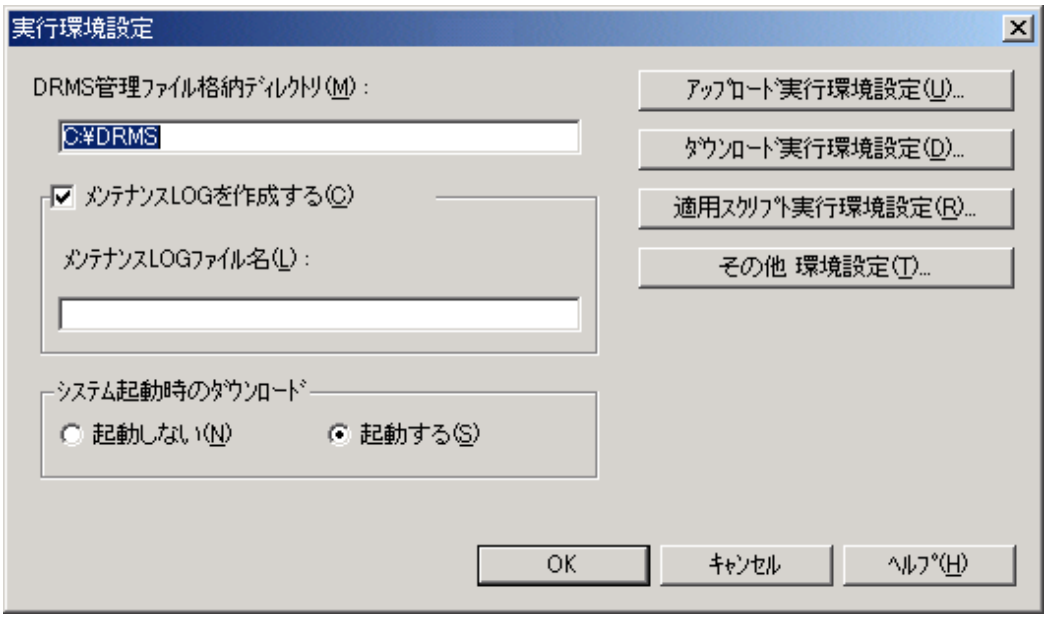
対処方法

以下の手順で操作してください。

1. 接続先のサーバで、DRMS編集ファイルのclientcheckオプションにYESを指定します。
2. 資源配付サービスを再起動します。

11.4.6 セットアップ機能を初回に起動すると、[実行環境設定]画面しか表示されない

セットアップ機能を起動すると、以下のような[実行環境設定]画面が表示されます。



対象バージョンレベル

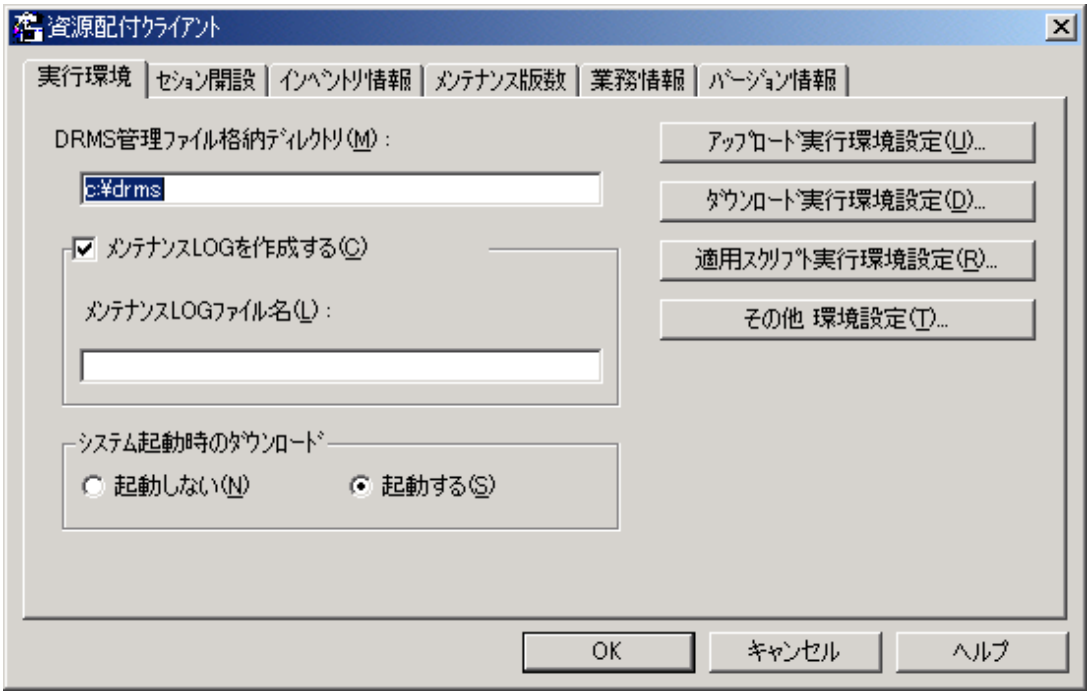
- V5.0L10以降

確認ポイント

クライアントをインストールした後、初めてセットアップ機能を起動したのではありませんか。
セットアップ機能を初回に起動した場合は、[実行環境設定]画面しか表示されません。

対処方法

[OK]ボタンを押して、クライアントのセットアップを完了してください。
セットアップ完了後は、以下のような[実行環境設定]画面が表示されます。



11.4.7 システム構成によって「資源グループに受信対象世代がありません」の出力方法が異なる

2階層構成のシステムと3階層(以上)構成のシステムでは、「資源グループに受信対象世代がありません」のメッセージの出力方法が異なります。

2階層構成(運用管理サーバークライアント)の場合:

すべての業務に定義されている資源グループについて出力されます。

ただし、クライアントへ配付する個別資源グループが運用管理サーバでメンテナンス作業として定義されている場合は、先頭の業務に定義されている資源グループについてだけ出力されます。

3階層(以上)構成(運用管理サーバー部門管理(業務)サーバークライアント)の場合:

先頭の業務に定義されている資源グループについてだけ出力されます。

本メッセージは、クライアントで個別資源のダウンロードを行い、すべての資源グループの最新世代を保有している場合にmainte.logファイルに出力されます。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.L20以降

原因

製品の仕様です。

対処方法

対処は不要です。

11.4.8 「移入対象資源が存在しません」というエラーメッセージが出力される

資源配付のメンテナンス版数の移出機能を使用して、オフラインで資源の配付・適用をしようとすると、以下のエラーメッセージが出力されることがあります。

エラーメッセージ

```
移入対象資源が存在しません
```

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降

確認ポイント

クライアントに個別メンテナンス版数の定義がされていますか。
個別メンテナンス版数の定義がされていないにもかかわらず、個別メンテナンス版数を移入しようとすると、上記のメッセージが発生する可能性があります。

対処方法

メンテナンス版数運用を行っていないクライアントに個別メンテナンス版数の定義を行うと、すでに存在する業務との整合がとれなくなります。
これまでの運用を継続するため、個別メンテナンス版数の移出・移入ではなく、資源の移出・移入を実施してください。

11.4.9 オフライン配付で移出した資源を、部門管理サーバに移入したが、配下クライアントに対してダウンロードできない

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V10.L20以降

原因

部門管理サーバに移入された資源の適用種別が「後刻適用」かつ適用予定日時が未定であると考えられます。適用種別が「後刻適用」かつ適用予定日時が未定の場合、個別資源グループの当該世代はクライアントに配付されません。

対処方法

部門管理サーバにて、配付対象の個別資源の各世代に対して、drmsmdfyコマンドにより、適用予定日時(実際に配付する日時以前の値)を設定してください。

11.4.10 クライアントのIPアドレス変更後、強制配付に失敗する

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降

原因

強制配付の構成情報に含まれるクライアントのIPアドレスが変更されていなかったため。

対処方法

クライアントの接続先サーバでクライアント定義を更新（IPアドレス変更）後、以下のいずれかの対処を行ってください。

1. [強制配付]画面の操作でシステム構成定義ファイルを再作成する。
    1. [資源配付]ウィンドウの[ツール]メニューで[強制配付]を選択し、[強制配付]画面を起動します。
    2. 「システム構成」画面で“OWN”を選択し、「表示」メニューで“最新の情報に更新”を選択して実行します。
2. 強制配付システム構成情報ファイル（clsys.txt）を直接編集する。
    1. 下記のファイルをエディタで開いてください。

```
%drmsroot%¥bin¥clsys.txt
```

    2. 古いIPアドレスを検索し、新しいIPアドレスに書き換えてください。

```
例）”10.20.30.40”→”11.22.33.44”
```

上記を行った後、[強制配付]画面またはコマンドで強制配付を実施してください。

備考

強制配付システム構成情報ファイル（clsys.txt）上でクライアントを定義している行は、以下のようになっています。

```
”cl”,”クライアントシステム名”,”IPアドレス”
```

11.4.11 [資源配付クライアント設定]を起動するとエラーメッセージ「KZBY152」が表示される

エラーメッセージ

KZBY152 wsagent.iniの処理で異常が発生しました。

対象バージョンレベル

- Windows版:V5.0L10以降

対処方法

ウィスルチェックソフトで以下のディレクトリを対象外に設定してください。

- Drms管理ファイルディレクトリ
- 環境変数%drmsc%に定義されているディレクトリ

第12章　調査資料の採取方法

12.1　資源配付のトラブル調査資料の採取について

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

保守情報収集ツールで、採取可能な必要情報の採取を行い、異常が発生しているサーバ、クライアント、または運用管理クライアントにて、以下の表に示す資料を採取してください。

表12.1 サーバ(Windows版)で採取するトラブル調査資料

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
システムの情報	イベントログ	以下のイベントログ種別を保存したテキストファイル ・アプリケーション ログ ・システム ログ	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[イベントビューア]でファイルに保存します。 保存する際にはtext形式を選択してください。	
	システム情報(MS診断レポート)	すべてのシステム情報(MS診断レポート)を保存したテキストファイル	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[コンピュータの管理]で“システム情報”をテキストファイルに保存します。 Windows NTの場合はWindows NT診断プログラムよりファイルに保存します。	
	Dr.ワトソンログ	Dr.ワトソンの以下のログファイル ・user.dmp ・drwtsn32.log	Dr.ワトソンで設定しておきます。 drwtsn32.exeで設定したディレクトリにuser.dmpおよびdrwtsn32.logが作成されます。	
資源配付機能の情報	共通トレース	共通トレース採取先(システムインストールディレクトリ¥f3cvgtad）配下のMpDrmssv*ファイル	自動的に常時採取されます。	
	drmslookコマンドの標準出力結果	drmslookコマンドの標準出力結果	以下のコマンドを実行してファイルを採取します。 drmslook debug > ファイル名	
	オペレーションログ	drms_op.logファイル	自動的に常時採取されます。 drmslookコマンドを実行すると、コマンド実行時のカレントディレクトリにdrms_op.logファイルが出力されます。	V5.0L30以降
	drmslst情報	以下のコマンドの出力リスト drmslst -a sys -G drmslst -a sys -k cl -Y all drmslst -a conf -C other	それぞれのコマンドの標準出力結果を採取します。	

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
	drmsmngi.logファイル	drmsmngi.logファイル	drmsmngiコマンドを実行します。以下の場所にdrmsmngi.logファイルが出力されます。 ・drmsmngiコマンド実行カレントディレクトリ	
	DRMS管理ファイルディレクトリのツリー情報	DRMS管理ファイルディレクトリに対するtree表示コマンドの標準出力結果	以下のコマンドの標準出力結果を採取します ・dir DRMS管理ファイルディレクトリ /s なお、DRMS管理ファイルディレクトリはDRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定している場所です。	
	etcディレクトリ	%drmsroot%¥etcディレクトリ	特別な設定は不要です。	
	強制配付定義ファイル	・%drmsroot%¥bin¥clsys.txtファイル ・%drmsroot%¥bin¥grpsysファイル	強制配付運用時だけ採取します。 特別な設定は不要です。	
	レコーディング情報	・%drmsroot%¥bin¥f3cqncom.iniファイル ・%drmsroot%¥bin¥recordディレクトリ ・レコーディングに使用したpkgファイル	リモートインストール運用時だけ採取します。 特別な設定は不要です。	
	リモートインストール機能のトレース情報	nwizlog.iniファイルで指定したアウトプットファイル	リモートインストール運用時だけ採取します。 採取方法については、“調査資料の採取方法”の“リモートインストールでトラブルが発生した場合の調査資料の採取方法”を参照してください。	現象の再現時に取得
	アベンドトレース情報(report.drmファイル)	report.drmファイル	特別な設定は不要です。 %drmsroot%¥bin¥report.drmファイルとして自動採取されます。	
	サーバのトレース情報	任意指定ファイル	採取方法については、“調査資料の採取方法”の“資源配付サーバのトレース情報の採取方法”を参照してください。	現象の再現時に取得

備考.

採取場所は資源配付サーバ(Windows版)がインストールされているコンピュータです。

表12.2 サーバ(UNIX版)で採取するトラブル調査資料

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
システ	シスログ	デフォルトでは、以下のファイル群	/etc/syslog.confで指定しているメッセージ出力先ファイルを取得します。	

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
ムの情報		Solaris: /var/adm/messages* Linux: /var/log/messages*		
	coreファイル	coreファイル	設定は不要てす。 coreファイルはプログラム実行カレントに生成されますので、findコマンドで場所を検索します。 # find / -type f -name core -print また、coreファイルが資源配付のものかどうかは以下のコマンドで確認できます。 # file core	
	sysdefコマンドの標準出力結果	sysdefコマンドの標準出力結果	sysdefコマンドの標準出力結果を採取します。	Solarisだけ
	pkginfo -l コマンドの標準出力結果	pkginfo -l コマンドの標準出力結果	pkginfo -l コマンドの標準出力結果を採取します。	Solarisだけ
	showrev -aコマンドの標準出力結果	showrev -aコマンドの標準出力	showrev -aコマンドの標準出力結果を採取します。	Solarisだけ
資源配付機能の情報	共通トレース	/var/opt/FJSVftlc/trc配下のMpDrmssv*ファイル	自動的に常時採取されます。	
	drmslookコマンドの標準出力結果	drmslookコマンドの標準出力結果	以下のコマンドを実行してファイルを採取します。 drmslook debug > ファイル名	
	オペレーションログ	drms_op.logファイル	自動的に常時採取されます。 drmslookコマンドを実行すると、コマンド実行時のカレントディレクトリにdrms_op.logファイルが出力されます。	5.2以降
	drmslst情報	以下のコマンドの出力リスト drmslst -a sys -G drmslst -a sys -k cl -Y all drmslst -a conf -C other	それぞれのコマンドの標準出力結果を採取します。	
	drmsmngi.logファイル	drmsmngi.logファイル	drmsmngiコマンドを実行します。以下の場所にdrmsmngi.logファイルが出力されます。 ・/tmp	
	DRMS管理ファイルディレクトリのツリー情報	DRMS管理ファイルディレクトリに対するtree表示コマンドの標準出力結果	以下のコマンドの標準出力結果を採取します ・ls -lR DRMS管理ファイルディレクトリ なお、DRMS管理ファイルディレクトリはDRMS編集ファイルのdrmspathオプションで指定している場所です。	

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
	etcディレクトリ	資源配付インストールディレクトリ/etcディレクトリ	特別な設定は不要です。	
	500メッセージ発生時情報(drms_logディレクトリ)	drms_logディレクトリ	特別な設定は不要です。 DRMS編集ファイルのwork_dirオプションで設定したディレクトリ配下のdrms_logディレクトリを採取します。	
	サーバのトレース情報	任意指定ファイル	採取方法については、“調査資料の採取方法”の“資源配付サーバのトレース情報の採取方法”を参照してください。	現象の再現時に取得

備考.

採取場所は資源配付サーバ(UNIX版)がインストールされているコンピュータです。

表12.3 運用管理クライアントで採取するトラブル調査資料

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
システムの情報	イベントログ	以下のイベントログ種別を保存したテキストファイル ・アプリケーション ログ ・システム ログ	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[イベントビューア]でファイルに保存します。 保存する際にはtext形式を選択してください。	
	システム情報(MS診断レポート)	すべてのシステム情報(MS診断レポート)を保存したテキストファイル	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[コンピュータの管理]で“システム情報”をテキストファイルに保存します。 Windows NTの場合はWindows NT診断プログラムよりファイルに保存します。	
	Dr.ワトソンログ	Dr.ワトソンの以下のログファイル ・user.dmp ・drwtsn32.log	Dr.ワトソンで設定しておきます。 drwtsn32.exeで設定したディレクトリにuser.dmpおよびdrwtsn32.logが作成されます。	
資源配付機能の情報	drmslookコマンドの標準出力結果	drmslookコマンドの標準出力結果	以下のコマンドを実行してファイルを採取します。 %drmsroot%¥bin¥drmslook debug > ファイル名	
	etcディレクトリ	%drmsroot%¥etcディレクトリ	特別な設定は不要です。	
	レコーディング情報	・%drmsroot%¥bin¥f3cqncom.iniファイル ・%drmsroot%¥bin¥recordディレクトリ ・レコーディングに使用したpkgファイル	UNIX版のリモートインストール運用時だけ採取します。 特別な設定は不要です。	UNIX版のみ
	アベンドトレース情報	report.drmファイル	特別な設定は不要です。 %drmsroot%¥bin	

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
	(report.drm ファイル)		¥report.drmファイルとして自動採取されます。	

備考.

採取場所は運用管理クライアントがインストールされているコンピュータです。

表12.4 クライアントで採取するトラブル調査資料

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
システムの情報	イベントログ	以下のイベントログ種別を保存したテキストファイル ・アプリケーション ログ ・システム ログ	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[イベントビューア]でファイルに保存します。 保存する際にはtext形式を選択してください。	Windows 9x系は採取不可
	システム情報(MS診断レポート)	すべてのシステム情報(MS診断レポート)を保存したテキストファイル	[コントロールパネル]の[管理ツール]の[コンピュータの管理]で“システム情報”をテキストファイルに保存します。 Windows NTの場合はWindows NT診断プログラムよりファイルに保存します。	Windows 9x系は採取不可
	Dr.ワトソンログ	Dr.ワトソンの以下のログファイル ・user.dmp ・drwtsn32.log	Dr.ワトソンで設定しておきます。 drwtsn32.exeで設定したディレクトリにuser.dmpおよびdrwtsn32.logが作成されます。	
資源配付機能の情報	リモートインストール機能のトレース情報	nwizlog.iniファイルで指定したアウトプットファイル	リモートインストール運用時だけ採取します。 採取方法については、“調査資料の採取方法”の“リモートインストールでトラブルが発生した場合の調査資料の採取方法”を参照してください。	現象の再現時に取得
	メンテナンスログファイル	・mainte.logファイル ・mainte.bakファイル	セットアップ機能の[実行環境]タブで[メンテナンスLOGを作成する]チェックボックスを有効にします。 指定場所に作成されているmainte.logおよびmainte.bakの2つのファイルを採取します。 なお、現象発生後に再起動を行った場合は、本情報を取得できません。	V5.0L20a以前
	drmsparmファイル	資源配付クライアントインストールディレクトリ¥drmsparmファイル	資源配付クライアントインストールディレクトリ配下にファイルが存在しているので、それを採取します。	V5.0L20a以前
	DRMS管理ファイル	DRMS管理ファイルとして設定したディレクトリ配下のファイル一式	セットアップ機能でDRMS管理ファイル格納ディレクトリとして設定した場所	V5.0L20a以前

分類	取得情報	取得ファイル	取得方法	備考
	インストールディレクトリのツリー情報	資源配付クライアントのインストールディレクトリに対するtree表示コマンドの標準出力結果	コマンドの標準出力結果を採取します dir %drmsc% /s	V5.0L20a以前
	クライアントのdrmslookコマンド出力情報	drmslookコマンド投入時に指定したディレクトリ配下のdrms.rptディレクトリ	以下のコマンド投入により採取されます。 %drmsc%¥drmslook /b 出力ディレクトリ	V5.0L30以降
	クライアントのトレース情報	任意指定ファイル 省略時は管理ファイル配下に固定名で作成されます。	採取方法については、“調査資料の採取方法”の“資源配付クライアントのトレース情報の採取方法”を参照してください。	現象の再現時に取得

備考.

採取場所は資源配付クライアントがインストールされているコンピュータです。

12.2 資源配付サーバのトレース情報の採取方法

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

資源配付サーバ側のトレース情報の採取方法を以下に示します。

サーバトレース

- 特徴

  サーバ処理全般のトレース情報が採取できます。特に通信系の異常やアプリケーションエラー発生時に有効となるトレース情報が採取できます。

- 採取方法

  DRMS編集ファイルに以下のオプションをエディタを使用して追加後、資源配付サーバを再起動する必要があります。

```
dbg_trace = DEBUG（英大文字）
dbg_trace_path = トレースファイル出力先ディレクトリ
```

“サーバトレース”は、トレース採取量を1プロセス5MBまででサイクリックに採取しています。情報量不足時に対応するためトレースサイズを拡張したい場合は、DRMS編集ファイルに以下のオプションを指定してください。ただし、空きディスク容量は十分用意してください。

```
memory_trace_size = 5120000
```

12.3 資源配付クライアントのトレース情報の採取方法

対象バージョンレベル

- V5.0L10以降
- 5.0以降

対処方法

資源配付クライアント側のトレース情報の採取方法を以下に示します。

クライアントトレース

- 特徴

  ダウンロード処理またはインベントリ情報のサーバへの通知で、通信系の異常やアプリケーションエラー発生時に有効となるトレース情報が採取できます。

- 採取方法

  資源配付クライアントのインストールディレクトリにあるdrmsparmファイルに以下のオプションを追加します。

```
TRACE=トレースファイル出力先ディレクトリ
```

  （省略時は、DRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）内に採取）

  なお、ダウンロード処理とインベントリ処理で、トレースファイルが異なるため、注意してください。

  ー ダウンロード処理

```
*.trc
```

  ー インベントリ処理

```
DRMS管理ファイル¥pkg¥trans.rst
```

  なお、以下の指定を追加することにより、モジュールの遷移だけを出力することも可能です。

```
TRACEFLG=1
```

クライアントトレース（サービス起動時のログ）

- 特徴

  サービス起動によるダウンロードを使用されている場合は、“クライアントトレース”に加えて、本トレースを採取する必要があります。これによりサービス起動のトレースが採取できます。

- 採取方法

  資源配付クライアントのインストールディレクトリにあるdrmsparmファイルに以下のオプションをエディタを使用して追加する必要があります。

```
SRVTRC=トレースファイル出力先ディレクトリ
```

  （省略時は、drmsparmと同ディレクトリ配下に採取（ファイル名SRVTRC.TXT））

12.4 リモートインストールでトラブルが発生した場合の調査資料の採取方法

対象バージョンレベル

- V5.0L10～V12.0L10/V12.0L11
- 5.0～12.1

対処方法

調査依頼に必要な情報を以下に示します。

- 製品名とV/L
- クライアントのOS種別

- クライアントの適用方法は、次のどちらですか
  - サービス適用
  - ダウンロード機能による適用
- クライアントの異常の状態は、次のどちらですか
  - 適用失敗
  - 適用正常終了後、配付したアプリケーションの動きがおかしい

以下に記載しているケースに従い、状況に応じて必要な情報を採取してください。

- トラブルが発生した場合

  DRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）ディレクトリ¥pkg配下の以下のファイルを参照し、異常のメッセージから原因を究明します。

```
{WSAGENT.LOG,WSAGENT.INI}
```

- 途中で異常終了した場合
  - 異常終了した際の情報（エラーダイアログに出力された情報）
  - 操作内容
  - pkg配下すべて
  - 適用パッケージ情報（DRMSサーバのMNG配下のデータ）またはレコーディング情報（RECORD配下のデータ）
- 再現する場合

  内部トレースを採取するためにNWIZLOG.iniファイルをWindowsディレクトリ配下に作成し、現象を再現し、採取された情報を入手してください、

運用管理サーバで以下の情報を採取

- レコーディング情報として%drmsroot%¥bin配下の以下のもの

  F3CQNCOM.iniファイル,RECORDディレクトリ配下すべて
- レコーディングに使用したpkgファイル

  デフォルト値はOSインストール先のSYSTEM32¥Untitled.pkg

クライアントで以下の情報を採取

正常動作、異常動作の両クライアントのDRMS管理ファイル（[DRMS管理ファイル格納ディレクトリ]で指定したディレクトリ配下のファイル）配下のpkgディレクトリすべて

内部トレースの採取方法

トレース採取モードで再現テストし、出力されたトレースファイルを採取します。

- リモートインストール機能の内部トレースはNWIZLOG.INIを作成し、Windowsインストールディレクトリ直下に設置することで採取することができます。
- NWIZLOG.INIのサンプルファイルを以下に示します。
  - 注）LogおよびLogLevelの指定を省略した場合は、採取されません。
  - Log/LogLevelの指定は、“0=採取しない”、“1=採取する”です。
  - LogFileの指定は、トレース出力先ファイル名（フルパスで）を指定します。

【NWIZLOG.iniファイルのサンプル】

```
[RegScript]
Log=1
LogFile=c:¥regscrpt.log

[ExpandArchive]
```

```
Logfile=c:¥expand.log
Log=1
LogLevel=1

[ImportRg]
Logfile=c:¥importrg.log
Log=1
LogLevel=1

[DeleteKey32]
Logfile=c:¥delkey32.log
LogLevel=1

[DoExport]
Logfile=c:¥doexport.log
LogLevel=1

[WINAGENT]
LogLevel=1
LogFile=c:¥agent.log

[Package]
LogFile=c:¥Package.log
LogLevel=1
```

付録A　本書の表記、登録商標について

A.1　本書の表記について

固有記事の表記について

エディションによる固有記事

Systemwalker Centric Managerのマニュアルでは、標準仕様である“Systemwalker Centric Manager Standard Edition”の記事と区別するため、エディションによる固有記事に対して以下の記号をタイトル、または本文に付けています。

EE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”の固有記事

GEE:

“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

EE/GEE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”、および“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

固有記事の範囲は、タイトル、または本文に付いた場合で以下のように異なります。

タイトルに付いている場合

章/節/項などのタイトルに付いている場合、タイトルの説明部分全体が、固有記事であることを示します。この場合、タイトルに対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

本文に付いている場合

固有記事全体に対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

Windows版とUNIX版の固有記事

本書は、Windows版、UNIX版共通に記事を掲載しています。Windows版のみの記事、UNIX版のみの記事は、以下のように記号を付けて共通の記事と区別しています。

本文中でWindows版とUNIX版の記載が分かれる場合は、“Windows版の場合は～”、“UNIX版の場合は～”のように場合分けして説明しています。

タイトル【Windows版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、Windows版固有の記事です。

タイトル【UNIX版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、UNIX版固有の記事です。

記号について

画面項目名、およびコマンドで使用する記号について説明します。

[ ]記号

Systemwalker Centric Managerで提供している画面名、メニュー名、および画面項目名をこの記号で囲んでいます。

コマンドで使用する記号

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

－ **記述例**

```
[PARA=  {a |b |c |… } ]
```

－ **記号の意味**

記号	意味
[ ]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
_	省略可能記号“[ ]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
|	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

略語表記について

本書では、以下の略称を使用しています。

オペレーティングシステム

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard	Windows Server 2022 Windows Server(R) 2022 Windows Server® 2022
Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard	Windows Server 2019 Windows Server(R) 2019 Windows Server® 2019
Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard	Windows Server 2016 Windows Server(R) 2016 Windows Server® 2016
Nano ServerインストールしたWindows Server 2016	Nano Server
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter (x64)	Windows Server 2012 Windows Server(R) 2012 Windows Server® 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard (x64) Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter (x64)	Windows Server 2012 R2 Windows Server(R) 2012 R2 Windows Server® 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 DTC Windows Server(R) 2008 DTC Windows Server® 2008 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 DTC Windows Server(R) 2008 R2 DTC Windows Server® 2008 R2 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 EE Windows Server(R) 2008 EE Windows Server® 2008 EE

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 EE Windows Server(R) 2008 R2 EE Windows Server® 2008 R2 EE
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 STD Windows Server(R) 2008 STD Windows Server® 2008 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 STD Windows Server(R) 2008 R2 STD Windows Server® 2008 R2 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation	Windows Server 2008 Foundation Windows Server(R) 2008 Foundation Windows Server® 2008 Foundation
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation	Windows Server 2008 R2 Foundation Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Windows Server® 2008 R2 Foundation
Server Coreインストールした以下のOS Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 Server Core Windows Server(R) 2008 Server Core Windows Server® 2008 Server Core
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Windows Server(R) 2008 R2 Windows Server® 2008 R2
Microsoft® Windows Server® 2008 for Itanium-Based Systems	Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems
Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 Windows Server(R) 2008 Windows Server® 2008

正式名称	略称
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition	Windows Server 2003 DTC Windows Server(R) 2003 DTC Windows Server® 2003 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	Windows Server 2003 DTC (x64) Windows Server(R) 2003 DTC (x64) Windows Server® 2003 DTC (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003 EE Windows Server(R) 2003 EE Windows Server® 2003 EE
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 EE (x64) Windows Server(R) 2003 EE (x64) Windows Server® 2003 EE (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	Windows Server 2003 STD Windows Server(R) 2003 STD Windows Server® 2003 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition	Windows Server 2003 STD (x64) Windows Server(R) 2003 STD (x64) Windows Server® 2003 STD (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 Windows Server(R) 2003 Windows Server® 2003

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition	Windows Server 2003 x64 Editions Windows Server(R) 2003 x64 Editions Windows Server® 2003 x64 Editions
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server	Windows 2000 Windows(R) 2000 Windows® 2000
Windows(R) 11 Home Windows(R) 11 Pro Windows(R) 11 Enterprise Windows(R) 11 Education	Windows 11 Windows(R) 11
Windows(R) 10 Home Windows(R) 10 Pro Windows(R) 10 Enterprise Windows(R) 10 Education	Windows 10 Windows(R) 10
Windows(R) 8.1 (x86) Windows(R) 8.1 Pro (x86) Windows(R) 8.1 Enterprise (x86) Windows(R) 8.1 (x64) Windows(R) 8.1 Pro (x64) Windows(R) 8.1 Enterprise (x64) Windows(R) 8 (x86) Windows(R) 8 Pro (x86) Windows(R) 8 Enterprise (x86) Windows(R) 8 (x64) Windows(R) 8 Pro (x64) Windows(R) 8 Enterprise (x64)	Windows 8 Windows(R) 8 Windows® 8
Windows(R) 8.1 (x86) Windows(R) 8.1 Pro (x86) Windows(R) 8.1 Enterprise (x86) Windows(R) 8.1 (x64)	Windows 8.1 Windows(R) 8.1 Windows® 8.1

正式名称	略称
Windows(R) 8.1 Pro (x64) Windows(R) 8.1 Enterprise (x64)	
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7 Windows(R) 7 Windows® 7
Windows Vista(R) Home Basic Windows Vista(R) Home Premium Windows Vista(R) Business Windows Vista(R) Enterprise Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista Windows Vista(R) Windows Vista®
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition	Windows XP Windows(R) XP Windows® XP
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0 Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0 Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51 Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51	Windows NT Windows NT(R) Windows NT®
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0 Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51	Windows NT(R) Server
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0 Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51	Windows NT(R) Workstation
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0 Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0	Windows NT 4.0 Windows NT(R) 4.0 Windows NT® 4.0
Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Edition	Windows 95 Windows(R) 95 Windows® 95
Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Edition	Windows 98 Windows(R) 98 Windows® 98
Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition	Windows Me Windows(R) Me

正式名称	略称
	Windows® Me
上記のオペレーティングシステムすべて	Windows Windows(R) Windows®
Microsoft(R) Azure(R)	Windows Azure Windows Azure(R) Windows Azure®
Solaris 11 Solaris 10 Solaris 9	Solaris(注)
Red Hat Enterprise Linux 9 Red Hat Enterprise Linux 8 Red Hat Enterprise Linux 7 Red Hat Enterprise Linux 6 Red Hat Enterprise Linux 5	Linux
Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	Linux for Intel64
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86) Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	Linux for x86
Itaniumに対応したWindows	Windows for Itanium
Itaniumに対応したLinux	Linux for Itanium

注)
Oracle SolarisはSolaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。

その他の製品

製品名称	略称
Microsoft(R) SQL Server(TM)	SQL Server
Microsoft(R) Visual C++	Visual C++
Microsoft(R) Internet Explorer	Internet Explorer

Systemwalker Centric Managerの表記

Systemwalker Centric Manager	略称
Windows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows版
32bit版のWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows(32bit)版
64bit版のWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows(64bit)版
Solaris上で動作するSystemwalker Centric Manager	Solaris版

Systemwalker Centric Manager	略称
Linux上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux版
Linux for Intel64上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux for Intel64版
Linux for x86上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux for x86版
HP-UXで動作するSystemwalker Centric Manager V13.2.0	HP-UX版
AIXで動作するSystemwalker Centric Manager V13.2.0	AIX版
Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux for Itanium版
Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows for Itanium版

A.2 登録商標について

Amazon Web Services、Amazon Elastic Compute Cloud、Amazon CloudWatchは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

Apache、Tomcatは、Apache Software Foundationの商標または登録商標です。

APC、PowerChuteは、シュナイダー・エレクトリック・アイティー・コーポレーションの登録商標です。

Arcserveのすべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、Arcserve (USA), LLC.またはその子会社の登録商標または商標です。

Ethernetは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国およびその他の国におけるHewlett-Packard Companyの登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporationの商標です。

Intel、Itaniumは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

JP1は、(株)日立製作所の日本における商品名称(商標または登録商標)です。

LANDeskは、米国およびその他の国におけるIvanti Software, Inc.およびその関係会社の商標または登録商標です。

Laplinkは、米国Laplink Software, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。

MC/ServiceGuardは、米国Hewlett Packard Enterprise Development LPの米国およびその他の国における登録商標です。

MetaFrameは、Citrix Systems, Inc. の米国あるいはその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscapeは、AOL Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

Norton AntiVirusは、ノートンLifeLockまたは関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標およびサービスマークです。

OracleとJavaとGlassFishは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

R/3およびSAPは、ドイツおよびその他の国におけるSAP AGの商標または登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。

ServiceNow、ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは、米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、関連する各会社の商標である場合があります。

Trend Virus Control System、InterScan、ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

Veritasは、米国およびその他の国における Veritas Technologies LLC またはその関連会社の登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国法人 McAfee, LLC または米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。

VMware、VMwareロゴは、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。

Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix LLCの商標です。

ショートメール、iモードは、株式会社NTTドコモの登録商標です。

そのほか、本マニュアルに記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。